

Oracle® Fusion Cloud EPM

Account Reconciliation の設定と構成



F28067-22

ORACLE®

Oracle Fusion Cloud EPM Account Reconciliation の設定と構成、

F28067-22

Copyright © 2016, 2024, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて

ドキュメントのフィードバック

1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

第 I 部 照合コンプライアンスの設定

2 照合コンプライアンスでの設定および構成について学ぶ

照合コンプライアンス 構成の概要	2-1
期間の構成	2-5
フォーマットの設定	2-6
プロファイルの作成	2-6
データ・ロードの構成	2-6
期間に固有のタスク	2-7
ユーザーのトレーニング、受入れテストの実行および本番への移行	2-7

3 設定のベスト・プラクティスについて学ぶ

4 照合コンプライアンスの構成

属性の定義	4-1
Account Reconciliation の属性について	4-2
カスタム属性の定義	4-2
カスタム属性について	4-3
計算済属性について	4-4
属性の作成	4-9
計算済属性の作成	4-10

リスト属性のインポート	4-12
グループ属性の定義	4-12
照合コンプライアンスでのグループ属性について	4-13
グループ属性の作成	4-14
グループ属性メンバーの値のエクスポート	4-16
グループ属性のインポート	4-17
グループ属性の編集	4-18
グループ属性の削除	4-18
システム属性の定義	4-19
プロファイル・セグメントの定義	4-20
プロファイル・セグメントの作成	4-22
プロファイル・セグメントのインポート	4-22
「プロセス」システム属性の定義	4-22
「リスク評価」システム属性の定義	4-23
頻度の定義	4-23
頻度の作成	4-23
頻度の削除	4-23
「勘定科目タイプ」システム属性の定義	4-24
経過期間プロファイルの定義	4-24
経過期間プロファイルの作成	4-24
グローバル統合トークンの定義	4-25
通貨の定義	4-26
通貨レートの定義	4-26
通貨レートのインポート	4-26
通貨レートの手動作成	4-27
通貨バケットの定義	4-27
通貨の制御	4-28
カスタム通貨の作成	4-29
レート・タイプの定義	4-29
レート・タイプの作成	4-30
カレンダーの定義	4-30
休日ルール of 定義	4-32
休日日付のインポート	4-32
組織単位の定義	4-33
組織単位のインポート	4-35
組織単位の選択	4-35
システム設定の定義	4-36
コメントの削除を許可	4-36
ユーザーによるバルク更新の許可	4-37

データ・ロード・タイムアウト	4-37
サービス・タイム・ゾーンおよび期限日の設定	4-37
EPM デジタル・アシスタントの設定	4-39
電子メール通知の有効化	4-39
電子メール通知設定のリファレンス	4-40
エンタープライズ仕訳の接続の構成	4-43
勘定科目調整でのガバナー制限の設定	4-43
事前定義済ガバナー制限について	4-44
カスタマイズ可能なガバナー制限の設定	4-44
Oracle Cloud Object Storage を使用した添付の保存	4-45
Oracle Cloud Object Storage を使用した添付の保存について	4-45
OCI オブジェクト・ストレージに格納される内容について	4-46
Account Reconciliation での OCI オブジェクト・ストレージの使用手順	4-46
オブジェクト・ストレージ・バケットのレプリケーションの使用	4-51
ワークフロー・ユーザーによる再割当て要求の実行と承認の許可	4-51
照合の再オープン	4-52
レポートの設定	4-53
レビュー担当者レベルの設定	4-53
システム・メンテナンスの管理	4-54
トランザクション照合の設定	4-55

5 期間の構成

期間の構成の概要	5-1
期間の作成	5-2
ファイルからの複数期間のインポート	5-3
期間リストのフィルタ処理	5-5
期間のステータスの変更	5-6
期間を開く	5-7
期間のクローズおよびロック	5-7
照合欠如の確認	5-8
期間の履歴の表示	5-9
期間の編集	5-9
期間の削除	5-10

6 フォーマットの定義

フォーマットについて学ぶ	6-1
フォーマットの設計について	6-1

照合コンプライアンスのフォーマットについて	6-2
トランザクション照合のフォーマットについて	6-3
フォーマットを使用したファイル・アップロードの防止について	6-4
フォーマットの変更または削除の制限	6-4
標準フォーマットの使用	6-4
フォーマットの作成	6-6
照合コンプライアンスの新規フォーマットの作成	6-6
トランザクション照合での新規フォーマットの作成	6-7
照合コンプライアンス・トランザクションの構成	6-9
フォーマットの削除	6-12
フォーマット・ルールの操作	6-12
自動照合およびルールの優先順位	6-15
ルールの構成のベスト・プラクティス	6-19
フォーマットの指示の指定	6-20
フォーマットの属性の追加	6-21
フォーマットの質問の指定	6-22

7 プロファイルの操作

プロファイルの定義	7-1
プロファイルの作成	7-2
自動照合エラーの理由コード	7-8
差異分析のプロファイルの作成	7-9
プロファイルの指示の作成	7-10
プロファイル・ワークフローの割当て	7-11
プロファイルの通貨の指定	7-13
プロファイルのアクセスの指定	7-14
プロファイル属性の指定	7-14
プロファイル・ルールの操作	7-16
自動照合およびルールの優先順位	7-19
プロファイルの履歴の表示	7-22
勘定科目の追加	7-23
プロファイルでの Excel CSV ファイルの使用	7-23
プロファイルのインポート	7-23
プロファイルのエクスポート	7-25
プロファイルまたは照合の削除	7-27
プロファイルの削除	7-27
照合の削除	7-28
プロファイルの「アクション」パネルの使用	7-29

期間へのプロファイルのコピー	7-29
プロファイルの複製	7-30

8 グループ照合の操作

グループ照合の操作について	8-1
グループ照合の管理者設定タスク	8-2
サブセグメントの定義	8-2
フォーマットの構成	8-3
グループ照合フォーマットをプロファイルに適用します	8-4
データ統合 - ターゲット・アプリケーション・ディメンション・マッピング	8-4
データ統合での統合の作成	8-5
データ統合でのディメンションのマッピング	8-5
データ統合でのメンバーのマッピング	8-6
進行中のタスク - 「勘定科目照合」におけるデータ・ロードの作成と実行	8-6

第 II 部 トランザクション照合の設定

9 トランザクション照合について学ぶ

トランザクション照合の概要	9-1
トランザクション照合について	9-1
トランザクション照合のメリット	9-2
トランザクション照合がシナリオに適しているかどうかをどのようにして判別しますか。	9-2
トランザクション照合のビジネス・ケース	9-2
トランザクション照合のサンプル・アプリケーションについて	9-3
トランザクション照合のワークフロー	9-3
トランザクション照合の用語	9-4
照合タイプ	9-4
トランザクション照合のトランザクション	9-5
データ・ソース	9-5
照合ルール	9-5
トランザクション照合の照合方法	9-6
トランザクション・ステータスについて	9-7
トランザクション照合のタスクの設定	9-8
トランザクション照合エンジンについて	9-8

10 トランザクション照合の設定の概要

トランザクション照合を設定するステップ	10-1
グループ属性の定義	10-2
トランザクション照合でのグループ属性について	10-3
グループ属性の作成	10-4
グループ属性プロパティの指定	10-5
メンバー属性の定義	10-5
グループ・メンバー属性の値の指定	10-6
グループ属性メンバーの値のエクスポート	10-6
グループ属性のインポート	10-6
グループ属性の編集	10-7
グループ属性の削除	10-8
照合タイプの作成	10-9
データ・ソースの照合タイプ・ビューについて	10-10
照合タイプを作成するステップ	10-11
照合タイプのプロパティの定義	10-12
データ・ソースの定義	10-13
データ・ソースの定義について	10-14
データ・ソース属性について	10-15
計算済属性について	10-19
データ・ソースを定義する手順	10-21
トランザクション・タイプの操作	10-24
Account Reconciliation でのトランザクション・タイプについて	10-24
新規調整トランザクション・タイプの作成	10-25
新規サポート・トランザクション・タイプの作成	10-27
ルールの作成による照合プロセスの定義	10-28
1 対多および多対 1 ルールの作成中におけるサブセット・ルールの使用	10-38
多対多ルールの作成中におけるサブセットの使用	10-39
複数のデータ・ソースおよび複数の照合プロセスの使用	10-41
自動照合ルールでのトランザクションのフィルタ処理およびグループ化	10-44
自動照合時に実行する片側調整の設定	10-47
デフォルト調整とサポート値の設定	10-50
自動照合ルールのデフォルトの最大繰返し回数の変更	10-55
照合タイプの編集	10-56
照合タイプの削除	10-57
環境間での照合タイプのエクスポートおよびインポート	10-57
照合タイプのエクスポート	10-58
照合タイプのインポート	10-59

11 調整またはトランザクションの仕訳としてのエクスポート

プロセス・フロー: 調整またはトランザクションの仕訳としてのエクスポート	11-1
単一調整とエクスポート用に作成される仕訳の例	11-2
グローバルな調整属性およびサポート属性の作成	11-3
仕訳列の定義	11-4
属性の仕訳属性へのマッピング	11-4
データ・ソース内のトランザクションへのフィルタの適用	11-6
「仕訳のエクスポート」 ジョブを使用した調整およびトランザクションのエクスポート	11-7
調整の仕訳としてのエクスポート	11-8
トランザクションの仕訳としてのエクスポート	11-9
仕訳の再エクスポートまたは再オープン	11-10

A 付録: 照合リストの列の選択の定義

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。epmdoc_ww@oracle.com に電子メールを送信することもできます。

1

EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

EPM CoE は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジー対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。**EPM CoE** はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

EPM CoE チーム:

- クラウドの導入を確実にし、組織が **Cloud EPM** の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- **EPM** 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに **EPM** を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が **EPM CoE** からメリットを得られます。

使用を開始する方法

クリックして、**EPM CoE** のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: **EPM センター・オブ・エクセレンスの概要**。

さらに学習

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: [Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス\(CoE\)の作成および実行](#)
- ビデオを見る: [概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成](#)。
- [EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行の EPM CoE のビジネス上のメリットおよび価値提案の確認](#)。



第1部

照合コンプライアンスの設定

次も参照:

- [照合コンプライアンスでの設定および構成について学ぶ](#)
- [設定のベスト・プラクティスについて学ぶ](#)
- [照合コンプライアンスの構成](#)
- [期間の構成](#)
プロファイルおよび照合を作成する前に期間を構成します。
- [フォーマットの定義](#)
- [プロファイルの操作](#)
- [グループ照合の操作](#)

2

照合コンプライアンスでの設定および構成について学ぶ

次も参照:

- [照合コンプライアンス 構成の概要](#)
- [期間の構成](#)
- [フォーマットの設定](#)
- [プロフィールの作成](#)
- [データ・ロードの構成](#)
- [期間に固有のタスク](#)
- [ユーザーのトレーニング、受入れテストの実行および本番への移行](#)

照合コンプライアンス構成の概要

照合コンプライアンスの設定の最初のタスクは、**ホーム**から「**アプリケーション**」、「**構成**」の順に選択して使用できる様々な設定を構成することです。

「**構成**」には、次のような様々な機能および設定に簡単にアクセスする方法があります。



- **アラート・タイプ**
- **属性**

- システム属性
- 通貨
- データ・ロード
- フィルタ
- フォーマット
- リスト
- 組織
- 期間
- 設定(システム設定)

アラート・タイプ

アラートでは、照合を閉じる作業中に問題が発生したユーザーと、問題の解決を支援できる他のユーザーの間の通信が可能です。管理者によってアラート・タイプが作成され、特定の問題が発生したときに従う手順が定義されます。アラート・タイプの作成を参照してください

属性

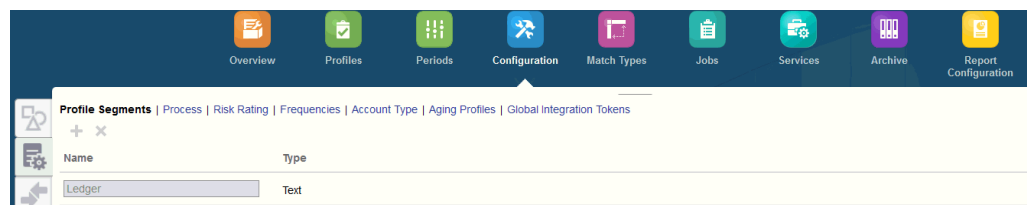
カスタム属性は主に管理者によって定義され、照合、プロファイルおよびフォーマットで使用できるユーザー定義フィールドです。

プロファイルで: 管理者およびパワー・ユーザーは、標準属性でサポートされない情報を取得するために、プロファイルに属性を割り当てることができます。フォーマットで: 管理者は、2つの場所の照合に表示されるフォーマットに属性を割り当てることができます。

このタブは、**Account Reconciliation** の管理の際に頻繁にアクセスされるため、リストの最初にあります。この作成方法の詳細は、属性の作成を参照してください。

システム属性の定義

「システム属性」で、プロファイルおよび照合の次の属性を定義します。

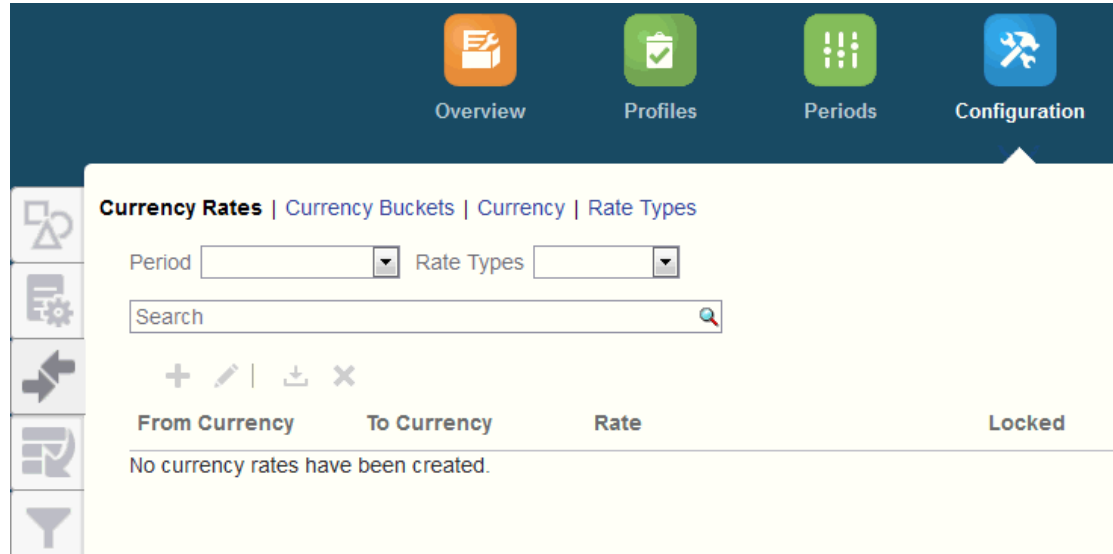


- **プロファイル・セグメント**は、プロファイルおよび照合を一意に識別するために使用される勘定科目 ID のコンポーネントです。たとえば、通常会社・勘定科目レベルで勘定科目を照合する場合、2つのセグメント(1つは会社用、もう1つは勘定科目用)を定義します。プロファイル・セグメント値はラベルです。これによって、照合への残高のマッピングは制御されません。マッピングはデータ・ロード定義に追加されたマッピング・ルール、またはインポートの前の残高の事前マッピングによって行われます。

- **プロセス**では、事前定義された**貸借対照表プロセス**など目的の異なる照合が区別されます。他の語がよい場合はこのオプションを削除できます。
- **リスク評価**は、照合に割り当てられ、レポートおよび分析に役立つ高、中、低などのタグです。
- **頻度**によって、照合を準備する頻度が決まります。「月次」および「四半期ごと」が通常の頻度です。「システム設定」で頻度を定義します。プロファイルおよび期間にも頻度を割り当てる必要があります。照合は、プロファイルに割り当てられた頻度が期間に割り当てられた頻度と一致する場合にのみ作成されます。
- **勘定科目タイプ**は、照合に割り当てられ、レポートおよび分析に役立つ資産、負債、資本などのタグです。
- **経過期間プロファイル** 経過期間プロファイルはレポートで使用され、定義した**経過期間**バケットにトランザクションが分類されます。たとえば、**0-15 日**、**16-30 日**、**30-60 日**、**61-90 日**および**90 日超**のバケットで構成される経過期間バケットを定義するとします。各経過期間バケット内のトランザクションの数または値が表示されたレポートを確認できます。
- **グローバル統合トークン**は、パラメータ化されたレポートが照合からアクセスされる場合に使用されます。たとえば、**BI Publisher** を使用して固定資産ロールフォワード・スケジュールを生成する場合、グローバル統合トークンを使用して勘定科目 ID や期間などのパラメータをレポートに渡し、レポートに正しいデータが表示されるようにすることができます。

通貨の定義

「通貨」セクションでは、通貨バケット、レート・タイプおよび通貨を構成できます。



通貨レート。 通貨レートの定義を参照してください

通貨バケットは、照合で認証される必要のある各バケット、および照合の準備を容易にするための追加バケットに対して定義します。たとえば、機能通貨バケットでの照合が必要とされることが非常に一般的です。自社がこれに該当する場合、機能通貨バケットを有効にします。「入力済」または「転記済」通貨値で値を入力することで策定者の照合の実行が容易になる場合、このバケットも有効にします。レポート通貨バケットは、通常このバケットに対する認証要件がある場合にのみ有効にします。自社の規則に合わせて名前を変更できるようにすべ

てのバケット・ラベルを構成できることに注意してください。ただし、大文字は通貨バケットのラベルを名前変更する場合にのみ使用してください。

「通貨」では、システムでアクティブな通貨コードを制御できます。

照合に入力されたトランザクションの換算が必要な場合、**レート・タイプ**を定義する必要があります。たとえば、策定者が「入力済」通貨バケットでトランザクションを追加すると、インポートされたレートを使用して値が機能通貨バケットに換算されます。

データのロード

データ管理を使用してデータをロードし、同じデータ・ロード・パラメータを保存するために、「**データのロード**」ダイアログを使用して、データ・ロード定義を定義できます。データ・ロード定義の定義を参照してください。

フィルタ

フィルタ済ビューの作成を参照してください

フォーマット

フォーマットについて学ぶを参照してください

リスト

ビューを使った作業を参照してください

アプリケーション内のリスト全体にわたって参照される、データセット・タイプ(プロファイル、照合、残高、トランザクション)のリスト列の定義を表示するには、付録 A: 照合リストの列の選択の定義を参照してください。

組織

「**カレンダー**」は、各期間の日付と頻度を設定するために使用します。各カレンダーでは、同じ期間に対して異なる組織が異なる日付および頻度で作業することが許可されています。

休日ルールは、照合スケジュールが自社休業日や法定休日の影響を受ける場合にのみ定義します。

組織単位では、階層型の組織単位構造をプロファイルおよび照合に割り当てるメカニズムが提供されます。これによって、フィルタやレポートに値が指定され、これを介して休日ルールがプロファイルに適用されます。

期間

次に、照合に関連付ける期間の数を構成します。期間によって照合の基点の日付が決まり、各期間には開始日、終了日、およびクローズ日があります。期間には、頻度も関連付けられます。プロファイルが期間に追加される場合、その期間に関連付けられた頻度と一致する頻度を持つプロファイルのみが照合として期間に追加されます。

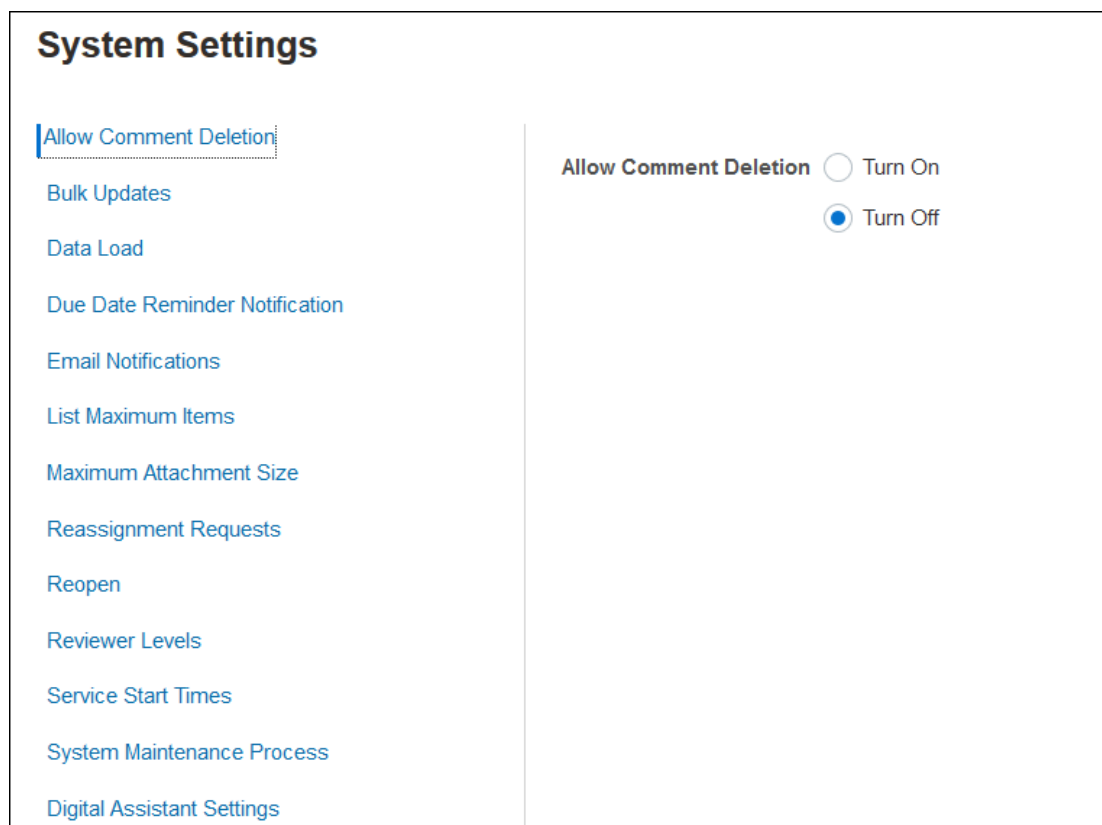
状況により照合を変更する必要がある場合、または管理者が更新された残高をインポートする必要がある場合、管理者は期間を再度開くことができます。

1、2 個の期間から始め、必要に応じて期間を追加することができます。期間ごとに開始日、終了日、および各期間の決算を行う日、および各期間に関連付ける頻度を定義します。

期間の構成を参照してください

設定(システム設定)

「設定(システム設定)」タブには、管理者が照合コンプライアンスの設定時に使用する必要のあるその他の構成設定が含まれます。たとえば、ユーザーにコメントの削除を許可する、リスト内の最大行数を設定する、バルク更新を許可する、データ・ロードのタイムアウトを設定するなどです。



システム設定の定義を参照してください。

概要: 照合コンプライアンスでのシステムの構成のスタート・ガイドのビデオを見る

ビデオを見るには、次のリンクをクリックしてください。



期間の構成

次に、照合に関連付ける期間の数を構成します。期間によって照合の基点の日付が決まり、各期間には開始日、終了日、およびクローズ日があります。期間には、頻度も関連付けられます。プロファイルが期間に追加される場合、その期間に関連付けられた頻度と一致する頻度を持つプロファイルのみが照合として期間に追加されます。

状況により照合を変更する必要がある場合、または管理者が更新された残高をインポートする必要がある場合、管理者は期間を再度開くことができます。

1、2個の期間から始め、必要に応じて期間を追加することができます。期間ごとに開始日、終了日、および各期間の決算を行う日、および各期間に関連付ける頻度を定義します。

フォーマットの設定

照合フォーマットによってどのような照合か、および策定者とレビュー担当者が入力できる情報のタイプが決まります。照合のフォーマットは、フォーマットの管理機能を使用してサービス管理者が選択または設計します。標準フォーマットのライブラリを出発点として使用できますが、フォーマットは完全にカスタマイズ可能です。初期セットから始め、必要に応じてそのセットを修整したり、調整することもできます。すべてのフォーマットは、残高の比較、勘定科目分析または差異分析という3つの照合方法のいずれかに基づきます。

フォーマットには次の情報が含まれています。

- 方法などのプロパティ
- 指示および関連する参照ファイル
- フォーマットの変更の履歴
- 仕訳番号、サプライヤ、ポリシー番号などの属性
- 照合の処理時に選択されたユーザーによって回答される質問
- 照合に適用するよう選択されたルール

プロファイルの作成

プロファイルは照合の前段階であるため、**Account Reconciliation** 内で最も重要なオブジェクトの1つです。プロファイルは、照合される勘定科目の集まりまたはグループに使用される用語です。各プロファイルは異なる照合を表し、多くの異なる下位レベルの勘定科目が含まれる場合があります。

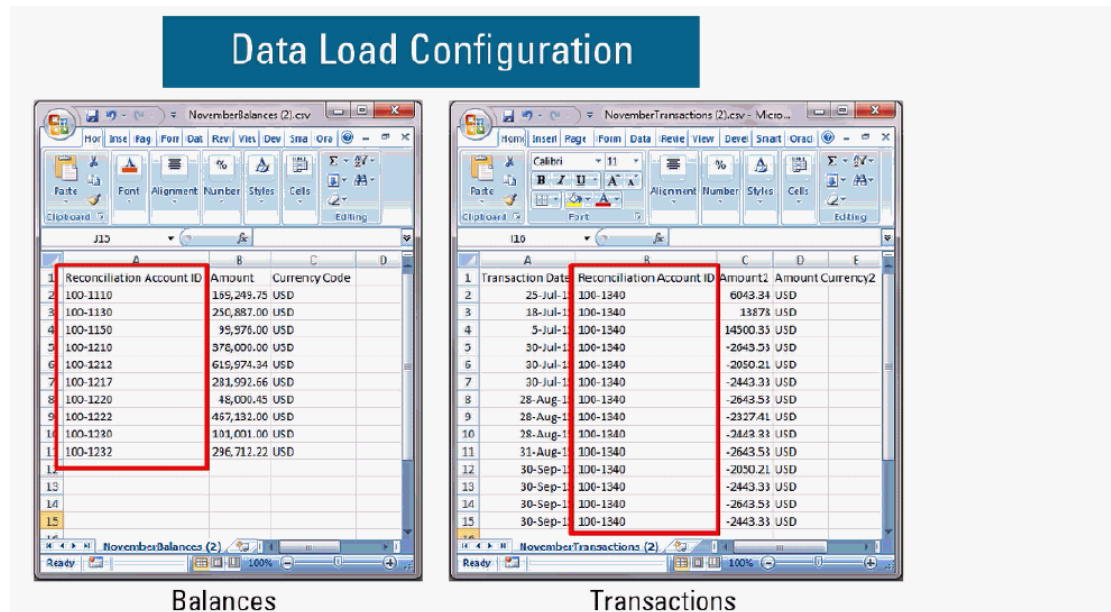
プロファイルは手動で作成することも、スプレッドシートからインポートすることもできます。プロファイルには策定者およびレビュー担当者の割当て、勘定科目の説明、指示、フォーマットの割当て、リスク評価が含まれます。実行される照合ごとに1つのプロファイルが存在します。照合は、月ごとに管理者によってプロファイルから作成されます。プロファイルから照合を作成するプロセスによって、プロファイルのスナップショットが作成され、照合とともに格納されます。プロファイルの構成は、時間の経過とともに変わる場合があります。ただし、照合とともに格納されているプロファイル情報は、そのような変更によって影響されません。

時間の経過とともにビジネスが変わり、プロファイルの構成が変わります。これらの変更によって既存の照合は影響を受けません。既存の照合はそのまま保たれ、作成された日に存在した構成を表します。

データ・ロードの構成

次に、データ・ロード構成を作成する必要があります。事前マップ済データのロード(残高とトランザクションの両方を含む)を使用するか、**データ管理**でデータ・ロードの設定を実行します。

事前マップ済データのインポートの場合、ファイルが指定された構造に準拠し、どの照合にデータを割り当てることがわかるよう各行に勘定科目 ID が割り当てられている必要があります。



事前マップ済データの詳細は、事前マップ済データのインポートを参照してください

データ管理と Oracle Account Reconciliation Cloud を組み合わせた使用については、データ管理を使用したデータのインポートを参照してください

期間に固有のタスク

他に行う必要のある作業は、期間に固有の作業です。

- 通貨レートのインポート(データ・ロード・プロセスを使用してインポートされていない場合)
- 期間に対する照合の作成
- 期間のオープン
- データ・ロードの実行

ユーザーのトレーニング、受入れテストの実行および本番への移行

ユーザーが策定者、レビュー担当者、およびジョブ機能を実行するために照合と対話する必要があるその他の役割として照合プロセスを管理したり、照合の作業を行うには、トレーニングが必要です。ユーザーのトレーニングに使用できるチュートリアルがあります。

ユーザーのトレーニング後、受入れテストを実行し、構成が正しいことを検証する必要があります。

検証する主な項目は次のとおりです。

- 各照合の残高マッピングおよび集約に正しい勘定科目残高が含まれていることの確認
 - すべての策定者およびレビュー担当者が正しいことの確認
 - 各照合に正しいフォーマットが含まれていることの確認
- テストが完了したら、テスト環境から本番環境へ構成を移行します。

3

設定のベスト・プラクティスについて学ぶ

Oracle Account Reconciliation Cloud Service などの勘定科目照合コンプライアンス・ソリューションの実装は、科学というよりはむしろ技法です。1つの正しい方法があるわけではありません。この項では、実装メソッドとフォーマットの設計という2つの難易度の高い実装の問題に対するベスト・プラクティスを提示します。

実装メソッド

実装メソッドは、組織で **Account Reconciliation** をどのように導入するかについてのオプションです。できるだけ短時間で測定可能な成功を収めることにフォーカスすることをお勧めします。ほとんど企業にとって、これは、照合の必要な各勘定科目が実際に照合されるということです。追跡のみの実装を使用することで、ビジネスに大きな支障もなくすぐにこの目標を達成できます。

追跡のみの実装

追跡のみの実装では、照合方法を変更する必要はありません。実行されていることを単に追跡するだけです。主に影響するのはフォーマットの設計です。これらの実装では、初期導入に1つまたは2つのフォーマットのみ準備します。これらの単純なフォーマットは、完了した照合(通常は Excel で実行)を添付するためのものです。製品で提供される標準フォーマットにはサンプルの追跡フォーマットが含まれています。追跡のみの方法を実装すると、照合プロセスのステータスが完全に視覚化され、照合自体に一元的にアクセスできます。

フォーマットの設計

ユーザーがこのプロセスに慣れてきたら、実行される各照合が必ず有効な照合であるようにするなどの2次目標に向けた取組みを始めることができます。これは、効果的なフォーマットの設計によって達成します。照合フォーマットの設計に最適なのは、勘定科目タイプ・レベルです。買掛金、売掛金、固定資産などの補助元帳に対応した勘定科目は、追跡のみのフォーマットからカスタム・フォーマットへの移行が最も簡単な勘定科目です。この種の勘定科目の移行は、補助元帳の残高のロードの自動化と同時にできるようタイミングを合わせると最もよいです。このようにすると、ソースとサブシステムの残高を照合する際自動照合のメリットがユーザーからすぐに認識されます。

前払、経過勘定、引当金、準備金などの補助元帳に対応しておらず、*勘定科目分析方法*を使用して照合を行う必要がある勘定科目は難易度がより高くなります。こういった勘定科目に対するベスト・プラクティスは、必要な分析をユーザーが実行できるようガイドし、質の高い照合が行われるようなフォーマットを設計することです。フォーマットの設計によって、照合アイテムまたは残高の説明が入力される際にどのような情報が含まれる必要があるかを厳密にカスタマイズできます。

データを検証したり、添付を必要とするルールを追加することもできます。たとえば、無形資産の場合、残高を構成する項目の概要を求めるのではなく、項目の質を評価する質問をし、それを勘定科目の残高とするのが適当であることを確認できます。勘定科目タイプ・レベルでカスタム・フォーマットを導入することで、最もリスクの高い勘定科目をターゲットとし、それほど必要性の高くない分野での混乱を最小限にすることができます。

ベスト・プラクティスのビデオを見る

ビデオを見るには、次のリンクをクリックしてください。



4

照合コンプライアンスの構成

次も参照:

- [属性の定義](#)
Account Reconciliation では、カスタム属性および計算済属性を定義できます。
- [システム属性の定義](#)
- [通貨の定義](#)
- [カレンダーの定義](#)
- [休日ルールの定義](#)
- [組織単位の定義](#)
- [システム設定の定義](#)

属性の定義

Account Reconciliation では、カスタム属性および計算済属性を定義できます。

次も参照:

- [Account Reconciliation の属性について](#)
属性はサービス管理者によって一元的に定義され、Account Reconciliation の複数の場所で使用できます。
- [カスタム属性の定義](#)
カスタム属性は、単一のフィールドが含まれるユーザー定義属性です。
- [グループ属性の定義](#)
グループ属性では、単一エンティティに関連する依存属性のセットを簡単に管理するメカニズムが提供されます。
- [照合コンプライアンスでのグループ属性について](#)
グループ属性は、1 つ以上のメンバー属性で構成されるユーザー定義属性です。
- [グループ属性の作成](#)
照合コンプライアンスで、サービス管理者はグループ属性を作成できます。トランザクション照合で、「照合タイプ - 管理」アプリケーション役割を持つユーザーは、グループ属性を作成できます。
- [グループ属性プロパティの指定](#)
グループ属性プロパティには名前およびタイプがあります。
- [メンバー属性の定義](#)
グループ属性の各メンバー属性に、名前およびタイプを指定する必要があります。
- [グループ・メンバー属性の値の指定](#)
グループ属性の各メンバー属性に複数の値を指定できます。
- [グループ属性メンバーの値のエクスポート](#)
グループ属性をエクスポートすると、メンバー属性値を別の環境で再利用できます。

- **グループ属性のインポート**
グループ属性をインポートすると、インポート.csv ファイルに含まれたグループ属性を自分の環境で使用できます。
- **グループ属性の編集**
サービス管理者は、メンバー属性のメンバーおよびグループ属性の値を変更できます。
- **グループ属性の削除**
サービス管理者は、グループ属性、メンバー属性、または特定の条件の対象であるメンバー属性値を削除できます。

Account Reconciliation の属性について

属性はサービス管理者によって一元的に定義され、Account Reconciliation の複数の場所で使用できます。

属性はユーザー定義フィールドであり、次のものがあります：

- カスタム属性([カスタム属性について](#)を参照)
- グループ属性([照合コンプライアンスでのグループ属性について](#)を参照)
- 計算済属性([計算済属性について](#)を参照)

さらに、Account Reconciliation にはいくつかのシステム定義の属性も用意されており、これは編集できません。

属性は次の場所で使用できます：

- プロファイル
管理者およびパワー・ユーザーは、標準属性でサポートされない情報を取得するために、プロフィールに属性を割り当てることができます。
- フォーマット
管理者は、2つの場所の照合に表示されるフォーマットに属性を割り当てることができます。
 - 照合のサマリー・セクション。策定者またはレビュー担当者から照合レベルの情報を取得します(フォーマットの属性)。
 - 調整および残高の説明を含む、照合に関連付けられたトランザクション。これらの属性の値は、策定者によって提供され、残高を正当化するのに十分な情報が照合に含まれることを保証します(トランザクションの属性)。

カスタム属性の定義

カスタム属性は、単一のフィールドが含まれるユーザー定義属性です。

Related Topics

- **カスタム属性について**
カスタム属性は、単一のフィールドで構成されるユーザー定義属性です。
- **計算済属性について**
計算済属性は読み取り専用です。
- **属性の作成**
「**アプリケーション**」、**「構成」** の下の **「属性」** タブからカスタム属性を作成します。

- **計算済属性の作成**
計算済属性は、「構成」の下の「属性」タブを使用して作成されます。
- **リスト属性のインポート**
「リスト」タイプの属性の場合、TXT ファイルからリスト値をインポートできます。

カスタム属性について

カスタム属性は、単一のフィールドで構成されるユーザー定義属性です。

属性のタイプ

Account Reconciliation では、次のタイプの属性がサポートされています：

- 日付
- 日時
- 整数
このタイプを選択する場合、「合計」の値を選択します。使用可能なオプションは、「なし」、「平均」、「数」および「合計」です。
- リスト
質問に対する有効な回答のリストを入力します。属性のリストをインポートするには、[リスト属性のインポート](#)を参照してください。
- 複数行のテキスト
最大長は 4,000 文字です。

「複数行のテキスト」を選択し、3 から 50 行の間の**行数**を入力します。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずに表示できるテキストの行数を決定します。

複数行のテキスト・タイプの場合: 照合アクション・ダイアログ・ボックスに添付用のセクションを作成するためにカスタム属性が必要な場合は、「添付を含める」を選択します。

- 数値
「数値」を選択した場合、「フォーマット」タブで数値のフォーマット・オプションを選択します：
 - 「小数点以下の桁数」には、表示する小数点以下の桁数の値を入力します。
 - 「パーセンテージとして表示」を選択して、パーセント記号を表示します。
 - 数値に 3 桁ごとの区切り文字(たとえば、1,000.00)を表示する場合、「3 桁ごとの区切り文字」オプションを選択します
 - 「通貨記号」リストから、通貨記号を選択します。たとえば、ドル(\$)。
 - 「負数」リストから、負数の表示方法を選択します。たとえば、(123)。
 - 「スケール」リストから、数値のスケール値を選択します。たとえば、1000。

Note:

トランザクション照合でメンバー属性を作成している場合、「フォーマット」タブは表示されません。「数値」属性に使用されるデフォルトの精度は小数点以下 2 桁です。

すべての数値属性に対して、「合計」フィールドに値を入力できます。照合リストにグループ・ビューが表示されます。グループ化方法の値には、次を指定できません。

- なし
- 平均
- 数
- 合計
- テキスト
- 「True」または「False」
- ユーザー
- 「はい」または「いいえ」
- 計算
[計算済属性について](#)を参照してください

計算済属性について

計算済属性は読取り専用です。

管理者は「アクション」ダイアログ・ボックスの属性セクションに計算済属性を追加でき、ワークフロー・ユーザーはその属性をアクション・ダイアログ・ボックスとトランザクションに表示できます。管理者は、アクセス権を「表示しない」に設定することで、特定の役割に対してアクセス権を制限できます。たとえば、管理者が計算済属性 XYZ に対して「参照者: 表示しない」アクセス権を追加すると、XYZ は参照者に表示されません。

どのユーザー役割でも、計算済属性を列としてビューおよびリストに追加できます。「フィルタ・パネル」にフィルタ可能な属性として追加することもできます。

次の表は、「計算」オプションが選択された場合に、属性タイプごとに使用可能な計算タイプを示しています。

Table 4-1 「計算」オプションが選択された場合に、属性タイプごとに使用可能な計算タイプ

属性タイプ	値をリストに割当て	条件	スクリプト	リストを値に割当て
日付			X	
日付/時間			X	
整数	X	X	X	
リスト		X		X
複数行のテキスト	X	X	X	
数値	X	X	X	
テキスト	X	X	X	
True/False		X		
ユーザー				
はい/いいえ		X		

スクリプト関数の例

すべての数値関数について、入力 null 値は結果の計算時に無視されます。

- 月の追加:** 開始日からの指定した月数の日付オフセットを返します。日付は常に指定した月オフセットに該当します。開始日に、オフセット月を越える日の値がある場合は、オフセット月の最後の日を使用されます。たとえば、**EDate (31-Jan-2017, 1)**は**(28-Feb-2017)**を返します。月の場合は、開始日の前または後の月数を入力します。月に対する正の値は将来の日付を生成します。負の値は過去の日付を生成します。

EDate(<Start Date>, <Months>, <Length>)

例: EDate (DATE (2017, 2, 15) 3)

- 過去平均関数:** 過去 X 期間の数量の平均値を算出します。

AVERAGE_PRIOR(<Value>, <Number of Periods>, <To Currency*>, <Rate Type*>, <Rate Period*>)

例: AVERAGE_PRIOR({Source System Balance (Reporting)}, '2', 'EUR', 'REC')

 **Note:**

アスタリスク(*)の付いたパラメータは、「ソース・システム」など、値が残高タイプ属性の場合に必須です。値が通常の数値属性(数値属性など)の場合、*パラメータは省略する必要があります。

 **Note:**

「レート・タイプ」は、システムで有効なレート・タイプであるか、照合に割り当てられたレート・タイプを使用することを意味する値'REC'である必要があります。「レート期間」パラメータは、通貨を換算するときに現在の期間または前の期間のレート・タイプを使用することを意味する'CURRENT'または'PRIOR'である必要があります。

- 日付:** 年、月および日に対して指定された整数値に基づく日付値を返します。たとえば、この関数は日付タイプの値を作成するため、**DATE(2018, 5, 31)**は**May 31st 2018**に変換されます。これを次に「日付差異」関数で使用して、終了日などの日付とこの特定の日付の間の日数の差異を取得できます。

DATE(<Year>, <Month>, <Day>)

計算済データ属性を作成する場合は、PERIOD START、PERIOD END または PERIOD CLOSE の日付を使用することもできます。たとえば、調整トランザクションの「クローズ日」と PERIOD END 日付を比較する場合などです。

- 日付差異:** 2 つの日付の差を日、時間、分または秒で返します。たとえば、Date1 と Date 2 には、それぞれ現在の日付(時間コンポーネントなし)と日時を表す TODAY および NOW の値を使用できます。

有効なタイプは DAYS、HOURS、MINUTES、SECONDS です。

DATE_DIFF(<Date1>, <Date2>, <Type>)

例: DATE_DIFF('TODAY', {Preparer End Date}, 'DAYS')または DATE_DIFF({Preparer End Date}, 'NOW', 'HOURS')

- 日:** 日付の日の値を整数として返します

DAY (<DATE>)

- テキストの抽出:** 値内の指定した位置からの部分文字列を戻します。「テキストの抽出」/「テキストの場所」は、最初の文字に値 1 を使用します。

```
SUBSTRING(<Value>, <Location>, <Length>)
```

例: SUBSTRING({Name} , 5, 10)
- If Then Else:** 条件付きの計算をスクリプト計算に挿入できるようになります。IF_THEN_ELSE 計算式は、ネストして ELSE IF タイプの計算式に対応することもできます。

```
IF_THEN_ELSE(<Condition>, <Value1>, <Value2>)
```

例:

```
IF_THEN_ELSE( {Risk Rating} = 'Low', 'Good',
IF_THEN_ELSE( {Risk Rating} = 'Medium', 'Better',
IF_THEN_ELSE({Risk Rating} = 'High', 'Best', 'Bad')))
```
- Instring:** 値内の部分文字列の索引を戻します。

```
INSTRING(<Value1>, <Value to Search>)
```

例: INSTRING({Name}, 'a')
- 長さ:** テキスト値をパラメータとして取得し、テキスト内の文字数である整数を返します。

LENGTH('Value') では 5 が返され、LENGTH({Name}) ではオブジェクトの名前の文字数が返されます。値が空/null の場合は、計算で 0 が返されます。

SUBSTRING を含む計算を使用して、テキスト値の最後の 4 文字を抽出します。

例: SUBSTRING({MyString}, LENGTH ({MyString}) - 4
- 小文字:** 値を小文字で戻します。

```
LOWERCASE(<Value>)
```

例: LOWERCASE({Description})
- 最大:** 属性リストの最大値を戻します。任意の数のパラメータを含めることができます。

```
MAX(<Value1>, <Value2>,<ValueN>)
```

例: MAX(TRANSLATE({Source System Balance (Entered)}, 'USD', 'Accounting'), TRANSLATE({Source System Balance (Functional)}, 'USD', 'Accounting'), TRANSLATE({Source System Balance (Reporting)}, 'USD', 'Accounting'))
- 過去最大:** 過去 X 期間の最大値を戻します。

```
MAX_PRIOR (<Value>, <Number of Periods>, <To Currency*>, <Rate Type*>, <Rate Period*>)
```

例: MAX_PRIOR({Source System Balance (Functional)}, '6', 'CAD', 'REC', 'CURRENT')

 **Note:**

アスタリスク(*)の付いたパラメータは、「ソース・システム」など、値が残高タイプ属性の場合に必須です。値が通常値(数値属性など)の場合、*パラメータは省略する必要があります。

 **Note:**

「レート・タイプ」は、システムで有効なレート・タイプであるか、照合に割り当てられたレート・タイプを使用することを意味する値'REC'である必要があります。「レート期間」パラメータは、通貨を換算するときに現在の期間または前の期間のレート・タイプを使用することを意味する'CURRENT'または'PRIOR'である必要があります。

- **最小:** 属性リストの最小値を戻します。任意の数のパラメータを含めることができます。

MIN(<Value1>, <Value2>, <ValueN>)

例: MIN(TRANSLATE({Source System Balance (Entered)}, 'CAD', 'REC'),
TRANSLATE({Source System Balance (Functional)}, 'CAD', 'REC'),
TRANSLATE({Source System Balance (Reporting)}, 'CAD', 'REC'))

- **過去最小:** 過去 X 期間の最小値を戻します。

MIN_PRIOR (<Value>, <Number of Periods>, <To Currency*>, <Rate Type*>, <Rate Period*>)

例: MIN_PRIOR({Source System Balance (Functional)}, '6', 'EUR', 'Simplified')

 **Note:**

アスタリスク(*)の付いたパラメータは、「ソース・システム」など、値が残高タイプ属性の場合に必須です。値が通常値(数値属性など)の場合、*パラメータは省略する必要があります。

 **Note:**

「レート・タイプ」は、システムで有効なレート・タイプであるか、照合に割り当てられたレート・タイプを使用することを意味する値'REC'である必要があります。「レート期間」パラメータは、通貨を換算するときに現在の期間または前の期間のレート・タイプを使用することを意味する'CURRENT'または'PRIOR'である必要があります。

- **月:** 日付の月の値を整数(1 から 12)として返します

MONTH (<DATE>)

- **累乗:** 一方の数字を他方の数字の回数掛け合せます。

POWER(x, y) (x=底、y=指数)で、x と y は数値であるかぎり属性または計算にすることができます。

例: `POWER(3,4)=81`

 **Note:**

分数値では、べき根になります。たとえば、`POWER(27, 1/3) = 3` で、立方根です。

 **Note:**

負の値では、指数計算の逆数になります。たとえば、`POWER(2, -2) = 1 / (2^2) = 1 / 4 = .25` です。

- **前:** 指定された前期間の値を戻します。前の期間数が省略されている場合は、値 1 が想定されます。

`PRIOR(<Value>, <Number of Periods Prior*>, <To Currency*>, <Rate Type*>, <Rate Period*>)`

例: `PRIOR({Source System Balance (Entered)}, '1', 'EUR', 'rec', 'prior')`

 **Note:**

アスタリスク(*)の付いたパラメータは、「ソース・システム」など、値が残高タイプ属性の場合に必須です。値が通常の数値属性などの場合、*パラメータは省略する必要があります。

 **Note:**

「レート・タイプ」は、システムで有効なレート・タイプであるか、照合に割り当てられたレート・タイプを使用することを意味する値'**REC**'である必要があります。「レート期間」パラメータは、通貨を換算するときに現在の期間または前の期間のレート・タイプを使用することを意味する'**CURRENT**'または'**PRIOR**'である必要があります。

- **丸め処理:** 指定された小数点以下の桁数で丸めた値を戻します。

`ROUND(<Value>, <Decimal Places>)`

例: `ROUND(({Scripted Translate} /7), 4)`

- **過去の合計:** 過去 X 期間の合計値を戻します。

`SUM_PRIOR(<Value>, <Number of Periods>, <To Currency*>, <Rate Type*>, <Rate Period*>)`

例: `SUM_PRIOR({Source System Balance (Reporting)}, '3', 'EUR', 'REC')`

 **Note:**

アスタリスク(*)の付いたパラメータは、「ソース・システム」など、値が残高タイプ属性の場合に必須です。値が通常値(数値属性など)の場合、*パラメータは省略する必要があります。

 **Note:**

「レート・タイプ」は、システムで有効なレート・タイプであるか、照合に割り当てられたレート・タイプを使用することを意味する値'REC'である必要があります。「レート期間」パラメータは、通貨を換算するときに現在の期間または前の期間のレート・タイプを使用することを意味する'CURRENT'または'PRIOR'である必要があります。

- **テキストの場所:** 値内の部分文字列の索引(1が最初の位置)を戻します。
INSTRING(<Value>, <Value To Search>)
例: INSTRING(UPPERCASE({Name}), 'TAX')
- **換算:** 指定されたレート・タイプを使用して、通貨属性を数値属性に変換します。
TRANSLATE(<Value>, <To Currency>, <Rate Type>)
例: TRANSLATE({Source System Balance (Entered)}, 'EUR', 'Accounting')

 **Note:**

「レート・タイプ」は、システムで有効なレート・タイプであるか、照合に割り当てられたレート・タイプを使用することを意味する値'REC'である必要があります。

- **大文字:** 値を大文字で戻します。
UPPERCASE(<Value>)
例: UPPERCASE({Name})
- **年:** 日付の年の値を整数として返します。
YEAR (<DATE>)

属性の作成

「アプリケーション」、「構成」の下の「属性」タブからカスタム属性を作成します。

エントリに基づいて表示される様々なタブがあり、属性の作成プロセスをガイドします。

- プロパティ - 属性のコア・プロパティが含まれています
- フォーマット - このタブは数値タイプの属性に対してのみ表示されます
- リスト - リスト・タイプ属性に対してのみ表示されます。
- 計算 - このタブの内容は、選択した計算タイプによって異なります。

一部のタブは、特定のタイプの属性を作成した場合にのみ表示されます。たとえば、「プロパティ」タブで「計算」を選択すると、「計算式の定義」タブが表示され、入力内容に基づいて必要なエントリが示されます。

属性を作成するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」の順にクリックし、「属性」タブを選択します。
2. 「新規」(+)をクリックします。「新規カスタム属性」ダイアログが表示されます。
3. 「名前」に、属性名を入力します。
以前に使用し、なんらかの理由で削除した同じ名前を使用して属性を作成できることに注意してください。削除したオブジェクトに以前にリンクしていたオブジェクトは、新しいオブジェクトに関連付けられます。
4. 「タイプ」で、属性のタイプのオプションを選択します
[カスタム属性について](#)を参照してください。
5. 特定のタイプの属性に対して、追加タブまたは追加フィールドが表示されます。
指定する必要がある追加情報の詳細は、[カスタム属性について](#)を参照してください。
6. 「OK」をクリックします。

計算済属性の作成

計算済属性は、「構成」の下の「属性」タブを使用して作成されます。

計算済属性を作成するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」の順にクリックし、「属性」タブを選択します。
2. 「新規」(+)をクリックします。「新規カスタム属性」ダイアログが表示されます。
3. 「名前」に、属性名を入力します。
以前に使用し、なんらかの理由で削除した同じ名前を使用して計算済属性を作成できることに注意してください。削除したオブジェクトに以前にリンクしていたオブジェクトは、新しいオブジェクトに関連付けられます。
4. 「タイプ」で、計算済属性のタイプを選択します。
[カスタム属性について](#)を参照してください。
5. 「計算」を選択します。
新しい「計算」タブが「新規カスタム属性」ダイアログに追加されます。
6. 「計算タイプ」で、計算のタイプを選択します。表示される値リストは、属性タイプによって決まります。
 - **値をリストに割当て** - 値をリスト・タイプの属性に割り当てます
 - **リストを値に割当て** - リストの値を異なる属性の値に割り当てます。タイプ・リストの属性にのみ使用できます
 - **条件** - 条件付き計算(If – Then – Else)
 - **スクリプト** - 自由形式のスクリプト計算。スクリプトは、日付、テキスト、数値または整数タイプの属性に使用できます

各属性タイプで使用可能な計算タイプは、[計算済属性について](#)を参照してください。

7. 「計算タイプ」の「スクリプト」を選択した場合、「属性の追加」および「関数の追加」を使用して、計算済属性の値の計算に使用される自由形式の計算式を入力します。

Edit Custom Attribute [Amount] OK Cancel

Properties Format **Calculation**

Calculation Type: Scripted

Display To User:

Calculation Definition

```
(TRANSLATE({Source System Balance (Functional)}, 'USD', 'Accounting') - TRANSLATE({Variance Period Balance (Functional)}, 'USD', 'Accounting'))/TRANSLATE({Source System Balance (Functional)}, 'USD', 'Accounting')
```

Add Attribute +

Add Function +

- **属性の追加** - 属性を選択して「追加」をクリックすると、「計算式の定義」ボックスのカーソルの位置に属性が挿入されます。カーソルが単語または属性上にある場合は、定義内でその単語/属性が置き換えられます。追加される属性は、スクリプトの形式に従って、名前が大カッコ{}で囲まれます。
- **関数の追加** - 関数を選択して「追加」をクリックすると、「計算式の定義」に関数が追加されます。関数は各パラメータのプレースホルダとともに追加されます。

例:

TRANSLATE 関数を計算式の定義に挿入します。

```
TRANSLATE(<Value>, <To Currency>) - TRANSLATE(<Value>, <To Currency>)<Rate Type*>
```

次に、プレースホルダを属性に置き換えます。

```
TRANSLATE({Source System Balance (Entered)}, 'USD') - TRANSLATE({Subsystem Balance (Entered)}, 'USD')
```

8. 「**ユーザーへの表示**」を選択して、ユーザーがこの計算済属性をリストおよびビューの列として含めて、この属性を使用してデータをフィルタできるようにします。
9. 「**OK**」をクリックします。

リスト属性のインポート

「リスト」タイプの属性の場合、TXT ファイルからリスト値をインポートできます。

「リスト」タイプの属性をインポートするには:

1. 値ごとに異なる行を使用して、リスト・タイプのインポート・ファイルを TXT ファイル形式で作成します。

例:

```
Blue
Yellow
Red
Green
```

インポート・オプションは常に「すべて置換」です。

2. ホーム・ページから「**アプリケーション**」、「**構成**」、「**属性**」の順に選択します。
3. 「リスト」タイプの属性を選択し、「**アクション**」、「**編集**」の順にクリックします。
4. 「**インポート**」をクリックします。
5. TXT インポート・ファイルに移動し、「**ファイル区切り文字**」を指定します。
6. 「**インポート**」をクリックします。

「**リストの値のインポート**」ダイアログに次の値が表示されます: 合計リスト値、「完了」、「エラー」、作成済リスト値および更新済リスト値。

「**ステータス**」に「**正常に完了**」が表示される場合は、「**OK**」をクリックします。

「**ステータス**」に「**エラーありで完了**」が表示される場合は、エラーがリストされます。エラー・リストをエクスポートするには、「**Excel にエクスポート**」をクリックします。

グループ属性の定義

グループ属性では、単一エンティティに関連する依存属性のセットを簡単に管理するメカニズムが提供されます。

Related Topics

- [トランザクション照合でのグループ属性について](#)
グループ属性は、1 つ以上のメンバー属性で構成されるユーザー定義属性です。
- [グループ属性の作成](#)
照合コンプライアンスで、サービス管理者はグループ属性を作成できます。トランザクション照合で、「照合タイプ - 管理」アプリケーション役割を持つユーザーは、グループ属性を作成できます。
- [グループ属性メンバーの値のエクスポート](#)
グループ属性をエクスポートすると、メンバー属性値を別の環境で再利用できます。

- **グループ属性のインポート**
グループ属性をインポートすると、インポート.csv ファイルに含まれたグループ属性を自分の環境で使用できます。
- **グループ属性の編集**
サービス管理者は、メンバー属性のメンバーおよびグループ属性の値を変更できます。
- **グループ属性の削除**
サービス管理者は、グループ属性、メンバー属性、または特定の条件の対象であるメンバー属性値を削除できます。
- **照合コンプライアンスでのグループ属性について**
グループ属性は、1つ以上のメンバー属性で構成されるユーザー定義属性です。

照合コンプライアンスでのグループ属性について

グループ属性は、1つ以上のメンバー属性で構成されるユーザー定義属性です。

グループ属性は、メンバー属性のセットに対して複数の値を格納できます。グループ属性の1つのメンバー属性を、キー・メンバー属性として割り当てる必要があります。

グループ属性の例は、親勘定科目、親の説明および部門のメンバー属性がある親勘定科目です。複数の親勘定科目の詳細は、このグループ属性に格納されます。各メンバー属性のデータは、値として参照されます。グループ属性に格納されているデータは、次の表に表示されているようにすることができます。

Table 4-2 グループ属性の例 - 親勘定科目

親勘定科目	親の説明	部門
P10000	現金総取引	1100
P12000	固定売掛金	1200
P14000	資産勘定科目	1400
P20000	買掛金	2000
P30000	資本	1000

Note:

照合コンプライアンスで定義されたグループ属性は、トランザクション照合で定義されたものとは異なります。トランザクション照合では、照合コンプライアンスのグループ属性を使用できず、その逆も同様です。

グループ属性を使用するメリット

- 一度定義して、複数のオブジェクト内で使用します
- 複数のオブジェクトで使用される属性の値の不一致を阻止します
 - いずれかのメンバーの値に変更がある場合、更新する必要があるのはグループ属性のその値のみです。この変更は、グループ属性のキー値を参照するアプリケーション内のすべてのオブジェクトで表示できます。
 - 照合またはトランザクションでグループ属性のキー・メンバーを選択すると、すべてのメンバー属性の値を自動的に取得します。
- アプリケーションでの複数の関連属性の設定に関係する労力が削減されます

通常、グループ属性メンバーのサブセットは、フォーマット、照合またはトランザクションに含まれます。そのため、照合で店舗 ID、店舗マネージャおよび店舗電子メールを使用し、トランザクションで店舗 ID、店舗の場所および電話番号を使用する場合があります。グループ属性が使用される場合、これらの属性のすべてを個別に設定する必要はありません。かわりに、店舗 ID (キー属性)を選択すると、他の属性メンバーの値は移入されます。

照合コンプライアンス・グループ属性を使用できる場所

オブジェクトで照合コンプライアンス・グループ属性を使用するとき、一部またはすべてのメンバー属性を使用できます。たとえば、照合リストの「**列の選択**」で、店舗名および店舗の場所のメンバー属性のみを含めることができます。

照合コンプライアンスに定義されたグループ属性は、次の場所で使用できます:

- フォーマット
- 「照合」カード
 - 検索
 - 列の選択
 - フィルタ
- 「トランザクション照合」カード
 - 検索
 - 列の選択
 - フィルタ
- ビュー
 - リスト・ビュー - 列の選択
 - ピボット・ビュー - 「レイアウト」タブの属性として
 - チャート・ビュー - 「レイアウト」タブの属性として
- ダッシュボード - 「照合」、「トランザクション」、「アラート」、「詳細残高」および「プロファイル」オブジェクト・タイプ用

グループ属性の作成

照合コンプライアンスで、サービス管理者はグループ属性を作成できます。トランザクション照合で、「照合タイプ - 管理」アプリケーション役割を持つユーザーは、グループ属性を作成できます。

照合コンプライアンスでグループ属性を作成するには:

1. **ホーム**から、「**アプリケーション**」、「**構成**」、「**属性**」の順に選択します。「属性」タブには、照合コンプライアンスで定義されたグループ属性を含むすべてのカスタム属性が表示されます。
2. 「**追加**」をクリックして「新規カスタム属性」ダイアログを表示します。
3. グループ属性プロパティを指定します。[グループ属性プロパティの指定](#)を参照してください。
4. グループ属性メンバーを定義します。[メンバー属性の定義](#)を参照してください。

5. グループ属性メンバーの値を指定します。[グループ・メンバー属性の値の指定](#)を参照してください。
6. 「OK」をクリックしてグループ属性を保存します。

トランザクション照合でグループ属性を作成するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「照合タイプ」の順に選択します。
2. 「グループ属性」タブを選択します。このタブには、トランザクション照合で定義されたすべてのグループ属性が表示されます。
3. 「追加」をクリックして「新規カスタム属性」ダイアログを表示します。
4. グループ属性プロパティを指定します。[グループ属性プロパティの指定](#)を参照してください。
5. グループ属性メンバーを定義します。[メンバー属性の定義](#)を参照してください。
6. グループ属性メンバーの値を指定します。[グループ・メンバー属性の値の指定](#)を参照してください。
7. 「OK」をクリックしてグループ属性を保存します。

グループ属性プロパティの指定

グループ属性プロパティには名前およびタイプがあります。

グループ属性プロパティを指定するには:

1. 「新規カスタム属性」ダイアログの「プロパティ」タブをクリックします。
2. 「名前」に、グループ属性の名前を入力します。名前は、アプリケーション内のすべてのカスタム属性全体で一意である必要があります。
3. 「タイプ」で「グループ」を選択します。

ノート: グループ属性の作成時は、「計算」オプションが無効になっています。

メンバー属性の定義

グループ属性の各メンバー属性に、名前およびタイプを指定する必要があります。

グループ属性のメンバー属性を定義するには:

1. 「新規カスタム属性」ダイアログの「メンバー」タブをクリックします。
2. 次のステップを使用して、1つ以上のメンバー属性を作成します:
 - a. 「追加」をクリックします。「新規属性メンバー」ダイアログが表示されます。
 - b. 「名前」に、メンバー属性の一意的名前を入力します。

名前は、アプリケーション内のすべてのカスタム属性およびシステム属性全体で一意である必要があります。
 - c. 「タイプ」でメンバー属性のタイプを選択します。[カスタム属性について](#)を参照してください。

「リスト」を選択した場合、このメンバー属性の値リストを指定する必要があります。メンバー属性のタイプとして「グループ」は選択できません。

 **Note:**

照合コンプライアンスで、複数行のテキスト属性に添付を追加することはできません。

- d. これが計算属性の場合、「**計算**」を選択します。[計算済属性についておよび計算済属性の作成](#)を参照してください。
計算式の定義の指定時に、このグループ属性のメンバー属性のみを使用できません。

 **Note:**

このオプションは、トランザクション照合で作成されたメンバー属性には無効です。

3. このグループ属性のキーとして使用する必要があるメンバー属性の「**キー**」を選択します。グループ属性には1つのキー属性が必要です。

グループ・メンバー属性の値の指定

グループ属性の各メンバー属性に複数の値を指定できます。

メンバー属性の値を入力するか、.CSV ファイルからインポートできます。[グループ属性のインポート](#)を参照してください。

グループ属性のメンバー属性の値を指定するには:

1. 「新規カスタム属性」ダイアログの「**値**」タブをクリックします。
「メンバー」タブで定義された各メンバー属性に対して、グリッドに1つの列が表示されます。
2. 定義されたメンバー属性に対して、1つ以上の値のセットを作成します。
 - a. 「**追加**」をクリックして、新しい行を表示します。
 - b. 各メンバー属性に値を入力します。

 **Note:**

キー属性の値は、グループ属性全体で一意である必要があります。

グループ属性メンバーの値のエクスポート

グループ属性をエクスポートすると、メンバー属性値を別の環境で再利用できます。

グループ属性をエクスポートするには:

1. 更新する必要があるグループ属性の「カスタム属性の編集」ダイアログを開きます。

- 照合コンプライアンスで、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「構成」、「属性」の順にクリックします。エクスポートする必要があるグループ属性の名前をクリックします。
 - トランザクション照合で、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「照合タイプ」の順にクリックします。「グループ属性」タブを選択し、エクスポートする必要があるグループ属性の名前をクリックします。
2. 「値」タブをクリックし、「エクスポート」を選択します。

メンバー属性値が、メンバー属性名を列とした Members.csv という名前のファイルにエクスポートされます。この名前のファイルがすでに存在する場合、整数の接尾辞が使用され、ファイル名は Members(n).csv になります。

グループ属性のインポート

グループ属性をインポートすると、インポート.csv ファイルに含まれたグループ属性を自分の環境で使用できます。

インポート・ファイルに無効な値(つまり、グループ属性に存在しない値)が含まれている場合、その属性は空白のままになり、後で更新できます。

グループ属性をインポートするには:

1. 「新規カスタム属性」ダイアログまたは「カスタム属性の編集」ダイアログを開きます。[グループ属性の作成](#)または[グループ属性の編集](#)の最初のステップを参照してください。
2. 「値」タブをクリックし、「インポート」をクリックします。
「メンバーの値のインポート」タブが表示されます。
3. 「ファイルの選択」をクリックし、メンバーの値を含む.csv ファイルを選択します。
4. 「インポート・タイプ」で、1つ以上のメンバーに既存の値がある場合に実行する処理を示すオプションを選択します。

次のいずれかのオプションを選択してください:

- **置換:** インポート・ファイルのすべての値が追加されるか、既存の属性値が置換されます。インポート・ファイルにない既存の属性値は変更されません。ただし、特定のキー値のすべての属性データが、ファイルのコンテンツで置換されるか、クリアされます。最新の変更をソース・システムから単に移動している場合、このインポート・タイプを使用します。たとえば、企業買収からの新規店舗データを追加する場合です。
- **すべて置換:** インポート・ファイルのすべての値によって既存の属性値が完全に置換されます。インポート・ファイルにない既存の属性値は削除されません。フル更新でソース・システムからの値をミラーリングしている場合、このインポート・タイプを使用します。たとえば、ERP システムからの店舗データと同期するための週次更新です。
- **更新:** キー属性を使用して比較し、メンバー属性値を、インポートしているファイル内のメンバー属性値で更新します。インポート・ファイルで指定されていないキー属性の値には影響がありません。インポート・ファイルのすべての値が追加されるか、既存の属性値が置換されます。インポート・ファイルにない既存の属性値は変更されません。特定のキー値の属性データのみが、ファイルのコンテンツで置換されます。ファイルにない属性の属性データは変更されません。属性にないキー値がインポート・ファイルにあると、エラーが発生します。

すべての属性値にわたる数個の属性のみを更新する場合、このインポート・タイプを使用します。たとえば、組織変更の後に、店舗マネージャを更新して残りの店舗データには影響を与えない場合です。

5. 「日付フォーマット」で、必要な日付フォーマットを選択します。
6. 「ファイル区切り文字」で、インポート.csv ファイルでファイル区切り文字として使用される文字を選択します。
7. 「インポート」をクリックします。

グループ属性の編集

サービス管理者は、メンバー属性のメンバーおよびグループ属性の値を変更できます。

グループ属性を編集するには:

1. 更新する必要があるグループ属性の「カスタム属性の編集」ダイアログを開きます。
 - 照合コンプライアンスで、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「構成」、「属性」の順にクリックします。更新する必要があるグループ属性の名前をクリックします。
 - トランザクション照合で、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「照合タイプ」の順にクリックします。「グループ属性」タブを選択し、更新する必要があるグループ属性の名前をクリックします。

2. (オプション) 「名前」で、グループ属性の名前を変更します。

3. メンバー属性を編集するには、「メンバー」タブをクリックします。

編集するメンバー属性を選択し、「編集」アイコンをクリックします。メンバー属性名およびリスト属性に指定された値リストを編集できます。新規メンバー属性を追加するには、「追加」アイコンをクリックします。

キー属性は変更できず、メンバー属性のタイプも変更できないことに注意してください。

4. メンバー属性の値を編集するには、「値」タブをクリックします。

必要なセルをクリックし、値を変更します。変更を保存すると、このメンバー属性を使用するすべての照合またはトランザクションが、新しい値を使用するように更新されます。

「追加」アイコンをクリックして、新しい値を追加できます。キー属性の値は変更できないことに注意してください。

グループ属性の削除

サービス管理者は、グループ属性、メンバー属性、または特定の条件の対象であるメンバー属性値を削除できます。

Note:

照合コンプライアンスでグループ属性およびメンバー属性を削除できるのは、ロックされていない期間内にそれらがフォーマット、プロファイルまたは照合で使用されていない場合のみです。

グループ属性またはメンバー属性が削除されると、それらを使用する照合またはトランザクションは削除された情報を引き続き保持します。

グループ属性を削除するには:

1. 既存のグループ属性のリストにアクセスします。
 - 照合コンプライアンスで、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「構成」、「属性」の順にクリックします。
 - トランザクション照合で、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「照合タイプ」の順にクリックします。「グループ属性」タブを選択します。
2. 削除するグループ属性について、「アクション」メニューをクリックし、「削除」を選択します。
3. 「削除の確認」ダイアログで、「はい」をクリックします。

メンバー属性を削除するには:

1. 更新する必要があるグループ属性の「カスタム属性の編集」ダイアログを開きます。
 - 照合コンプライアンスで、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「構成」、「属性」の順にクリックします。メンバー属性を削除する必要があるグループ属性の名前をクリックします。
 - トランザクション照合で、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「照合タイプ」の順にクリックします。「グループ属性」タブを選択し、メンバー属性を削除する必要があるグループ属性の名前をクリックします。
2. 「メンバー」タブをクリックします。
3. 削除するメンバー属性を選択し、「削除」アイコンをクリックします。
4. 「削除の確認」ダイアログで、「はい」をクリックします。

メンバー属性値を削除するには:

1. 更新する必要があるグループ属性の「カスタム属性の編集」ダイアログを開きます。
 - 照合コンプライアンスで、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「構成」、「属性」の順にクリックします。メンバー属性値を削除する必要があるグループ属性の名前をクリックします。
 - トランザクション照合で、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「照合タイプ」の順にクリックします。「グループ属性」タブを選択し、メンバー属性値を削除する必要があるグループ属性の名前をクリックします。
2. 「値」タブをクリックします。
3. 行全体を削除するには、行を選択して「削除」アイコンをクリックします。
4. 特定の値を削除するには、そのセルをクリックして[Delete]キーを押します。
このメンバー属性の値は null になります。削除された値を使用するすべての照合も、このメンバー属性値に対して null を表示します。

システム属性の定義

「システム属性」で、次の値を定義します。

- **プロフィール・セグメント**は、プロフィールおよび照合を一意に識別するために使用される勘定科目 ID のコンポーネントです。たとえば、通常会社-勘定科目レベルで勘定科目を

照合する場合、2つのセグメント(1つは**会社用**、もう1つは**勘定科目用**)を定義します。[プロファイル・セグメントの定義](#)を参照してください。

- **プロセス**では、目的の異なる照合が区別されます。一般的なプロセスには、貸借対照表照合プロセス、連結システム照合プロセスおよびローカル **GAAP** 照合プロセスがあります。他の語がよい場合はこのオプションを削除できます。
- **リスク評価**はプロファイルおよび照合に関連付けられ、リスク・レベルに従ったプロファイルと照合の分類を可能にします。リスク評価を使用して、レポート用の勘定科目を選択することや、策定者、頻度または他の属性を簡単に割り当てることができます。
- **頻度**によって、照合を準備する頻度が決まります。「**月次**」および「**四半期ごと**」が通常の頻度です。[頻度の定義](#)を参照してください。
- **勘定科目タイプ**は、プロファイルおよび照合に関連付けられ、次のものを定義する階層構造に従ったプロファイル、照合、および調整の分類を可能にします。
 - 勘定科目の性質(資産、負債、資本など)
 - 下位分類(流動資産、非流動資産など)
 - 特定の勘定科目タイプ(現金など)

勘定科目タイプを最大限利用するには、財務報告で使用される構造と一致するように構成します。
- **経過期間プロファイル**はレポートで使用され、定義した経過期間バケットにトランザクションが分類されます。たとえば、**0-15 日**、**16-30 日**、**31-60 日**、**61-90 日**および**90 日超**のバケットで構成される経過期間バケットを定義できます。[経過期間プロファイルの定義](#)を参照してください。
- **グローバル統合トークン**は、パラメータ化されたレポートが照合からアクセスされる場合に使用されます。たとえば、プログラムを使用して固定資産のロール・フォワード・スケジュールを生成する場合、グローバル統合トークンを使用して勘定科目 ID や期間などのパラメータをレポートに渡し、レポートに正しいデータが表示されるようにすることができます。[グローバル統合トークンの定義](#)を参照してください。

プロファイル・セグメントの定義

プロファイル・セグメントは、プロファイルおよび照合を一意に識別するために使用される勘定科目 ID のコンポーネントです。たとえば、通常会社-勘定科目レベルで勘定科目を照合する場合、2つのセグメント(1つは**会社用**、もう1つは**勘定科目用**)を定義します。

プロファイル・セグメントを一度作成すると、サブセグメント設定を編集して変更することは次の条件下でのみ可能になるため、慎重に設計してください:

- 1つ以上のサブセグメントが有効になっている間、残高がロードされていません。

ノート:

これが行われた場合、すべての残高を削除する唯一の方法は、期間を削除するか、以前に残高をロードした各期間とカテゴリのそれぞれのデータ管理場所から空のファイルをロードすることです。

- 「グループ照合」チェック・ボックスが有効になっているフォーマットはありません。
- 作成時に「グループ照合」オプションが有効になっていた照合は存在しません。

プロファイル・セグメント値はラベルです。これによって、照合への残高のマッピングは制御されません。マッピングはデータ・ロード定義に追加されたマッピング・ルール、またはインポートの前の残高の事前マッピングによって行われます。

プロファイルを定義する場合、プロファイルの勘定科目 ID は、値のフィルタ処理およびレポートの便宜を図るため、セグメントに格納されます。プロファイル・セグメントの数は、構成可能であり、無制限です。たとえば、勘定科目 ID 100-1200-ABC には、3つのプロファイル・セグメントが含まれます。

ノート:

ベスト・プラクティスとして、照合のプロファイル・セグメントを 20 個に制限することをお勧めします。すべてのセグメント・ラベル(および区切り)の合計は最大 1000 文字ですが、英語以外の文字ではこれより少なくなることがあります。

異なるプロファイル・セグメント・タイプを指定できます。

整数

0 から 9 までの範囲の値。数値セグメントは、数値のみが要求されるセグメントに使用します。

リスト

プロファイル・セグメントに入力される値は、あらかじめ定義され、許可された値セットに制限されます。

テキスト

数値、文字およびほとんどの特殊文字。プロファイル・セグメントを区切るには、ハイフン (-) を使用します。そのため、ハイフンはセグメント値として使用できません。セグメント値が定義リストに制限されず、広範囲の値を含む可能性がある場合は、テキスト・セグメントを使用します。

ノート:

勘定科目照合では、勘定科目 ID の中ほどの NULL セグメント値を 3 つの空白として扱い、末尾の NULL セグメントを切り捨てます。データ・ロードの場合のデータ管理の勘定科目 ID は、勘定科目照合のまったく同じ勘定科目 ID にマップする必要があり、3 つの空白が含まれることがあります。たとえば、5 つのプロファイル・セグメントに 001、NULL、NULL、NULL および 1925 XXX の値を持つプロファイル (NULL は完全に文字がない) の勘定科目照合での勘定科目 ID は、"001 - - - - 1925 XXX" になります。

グループ照合に対するサブセグメントの定義

グループ照合に対するプロファイル・サブセグメントの設定の詳細は、[グループ照合の管理者設定タスク](#)を参照してください。

プロファイル・セグメントの作成

プロファイル・セグメントを作成するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」、「**構成**」の順に選択します。
2. 「**システム属性**」をクリックし、「**プロファイル・セグメント**」タブをクリックします。
3. 「**新規 (+)**」をクリックし、**新規プロファイル・セグメント**を作成します。
4. 新規プロファイル・セグメントの**名前**を入力します。
5. 新規プロファイル・セグメントの**タイプ**を選択します。
リストの場合、リスト値を入力します。マスター・セクションおよび詳細セクションが表示されます。管理者がリスト・セグメントの値を追加します。

プロファイル・セグメントのインポート

値ごとに異なる行を使用して、リスト・タイプのインポート・ファイルを TXT ファイル形式で作成します。

「リスト」タイプのプロファイル・セグメントをインポートするには:

1. ホームから「**アプリケーション**」、「**構成**」、「**プロファイル・セグメント**」の順に選択します。
2. 「**システム属性**」、「**プロファイル・セグメント**」の順にクリックします。
3. 「**プロファイル・セグメント**」を選択し、リスト・タイプのプロファイル・セグメントを選択します。
4. 詳細セクションで、「**アクション**」、「**インポート**」の順に選択します。
5. 「**参照**」をクリックし、インポート・ファイルに移動して、「**開く**」をクリックします。

インポートが完了すると、「リストの値のインポート」に、ステータス、合計リスト値、リスト値の「完了」、「作成済」および「更新済」が表示されます。

6. 「**OK**」をクリックしてインポートを受け入れるか、「**リセット**」をクリックしてインポートを却下し、「**リストの値のインポート**」に戻ります。

「プロセス」システム属性の定義

プロセスでは、目的の異なる照合が区別されます。一般的なプロセスには、貸借対照表照合プロセス、連結システム照合プロセスおよびローカル GAAP 照合プロセスがあります。他の語がよい場合はこのオプションを削除できます。

「プロセス」システム属性を編集するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**システム属性**」タブを選択します。
2. 「**プロセス**」を選択します。
3. 属性を追加するには、「**新規 (+)**」をクリックし、名前(貸借対照表など)を入力します。
4. 「**保存**」をクリックします。

「リスク評価」システム属性の定義

リスク評価はプロファイルおよび照合に関連付けられ、リスク・レベルに従ったプロファイルと照合の分類を可能にします。リスク評価を使用して、レポート用の勘定科目を選択することや、策定者、頻度または他の属性を簡単に割り当てることができます。

「プロセス」システム属性を編集するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**システム属性**」タブを選択します。
2. 評価を追加するには、「**新規 (+)**」をクリックし、名前(中程度など)を入力します
3. 評価を編集するには、値を強調表示し、新しい名前を入力します。
4. 「**保存**」をクリックします。

頻度の定義

頻度によって、照合を準備する頻度が決まります。「**月次**」および「**四半期ごと**」が通常の頻度です。

頻度の名前について特に制限はなく、いつでも変更可能であり、照合の処理にも影響しません。

「システム設定」で頻度を定義します。プロファイルおよび期間にも頻度を割り当てる必要があります。

照合は、プロファイルに割り当てられた頻度が期間に割り当てられた頻度と一致する場合にのみ作成されます。

頻度の作成

頻度を作成するには:

1. ホームから「**構成**」をクリックし、「**システム属性**」タブを選択します。
2. 「**頻度**」を選択します。
3. 「**新規**」を選択します。
4. 頻度の名前を入力します。例: 月次、四半期

頻度の削除

頻度を削除するには:

1. ホームから「**構成**」をクリックし、「**システム属性**」タブを選択します。
2. 「**頻度**」を選択します。
3. 頻度を選択し、「**アクション**」、「**削除 (X)**」の順に選択します。

頻度が他のアイテムによって使用されている場合、「変更するために選択した1つ以上のアイテムが、別のアイテムによって使用されているため、現在変更できません。使用中のアイテムのリストを表示するアイテムを選択してください」というメッセージが表示されます。

「勘定科目タイプ」システム属性の定義

勘定科目タイプはプロファイルおよび照合に関連付けられています。勘定科目タイプは、階層構造に従ったプロファイル、照合、および調整の分類を可能にします。階層構造では、勘定科目の性質(資産、負債、資本など) – 下位分類(流動資産、非流動資産など) – 特定の勘定科目タイプ(現金など)を定義します。勘定科目タイプを最大限利用するには、財務報告で使用される構造と一致するように構成します。

「プロセス」システム属性を編集するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**システム属性**」タブを選択します。
2. 「**勘定科目タイプ**」を選択します。
3. 新規勘定科目タイプを追加するには、「**新規 (+)**」をクリックし、名前(資産など)を入力します。
4. 勘定科目タイプを編集するには、勘定科目タイプを強調表示し、フィールドに新しい値を入力します。
5. 「**保存**」をクリックします。

経過期間プロファイルの定義

経過期間プロファイルはレポートで使用され、定義した経過期間バケットにトランザクションが分類されます。

たとえば、0-15 日、16-30 日、31-60 日、61-90 日および 90 日超のバケットで構成される経過期間バケットを定義できます。

追加の経過期間プロファイルを定義して、経過期間ポリシーをサポートできます。

各経過期間バケット内のトランザクションの数または値が表示されたレポートを確認できます。

経過期間プロファイルの作成

経過期間プロファイルを作成するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**システム属性**」タブを選択します。
2. 「**経過期間プロファイル**」を選択します。
3. 「**新規 (+)**」、「**新規**」の順にクリックします。
4. **経過期間のプロファイル名**を入力します。
5. 経過期間プロファイルの経過期間バケットごとに、次の手順を実行します:
 - a. 「**追加 (+)**」をクリックします。
 - b. 次のフィールドに入力します:
 - **ラベル:** 日の範囲ごとに、0-30 日、31-60 日、61-90 日のようにラベルを入力します。
 - **開始日:** 範囲の最初の日(0 など)を入力します。

- **終了日:** 範囲の最後の日(30 など)を入力します。

グローバル統合トークンの定義

グローバル統合トークンは、URL リンク(通常は指示から)のパラメータを現在の照合の情報(レコード ID など)で置き換える一般的なメカニズムとして設計されています。

これらのトークンは:

- 一意である必要があります
- 変更できません
- 削除しないでください。削除しようとする、次の警告メッセージが表示されます。「グローバル統合トークンを削除すると、それを参照している URL が無効になります。続行してよろしいですか?」

URL の作成時に、パラメータが URL に挿入されます。URL がクリックされると、パラメータは、別のプログラムの値に置き換えられます。

Account Reconciliation では、パラメータは次の項目から構成されます。

- 静的パラメータ
- プロファイル、照合およびフォーマットに割り当てられた「テキスト」および「リスト」タイプの属性
- プロファイル、照合およびフォーマットに割り当てられた「テキスト」および「リスト」タイプのネイティブ・プロファイルまたは照合属性

「指示」セクションの次の場所から URL にアクセスできます。

- 「**プロファイル**」ダイアログ・ボックス(管理者が参照 URL を「指示」セクションのプロファイルに追加した後)。
- 「**フォーマット**」ダイアログ・ボックス(管理者が参照 URL を「指示」セクションのフォーマットに追加した後)。
- 「**アクション**」ダイアログ・ボックス。

グローバル統合トークンの作成

トークンを作成するには:

1. ホームから「**構成**」をクリックし、「**システム属性**」タブを選択します。
2. 「**グローバル統合トークン**」をクリックし、「**追加** (+)」を選択します。
3. 新しい統合トークンを定義するには、次の入力を行います。
 - **名前:** 一意のトークン名を入力します
 - **タイプ:** 照合属性または静的属性
 - **値:**
 - 「タイプ」として「**照合属性**」が選択されている場合は、照合属性および残高属性を選択します。
 - 「タイプ」として「**静的属性**」が選択されている場合は、URL がレンダリングされるときに渡される値を入力します。

通貨の定義

この項では、次の構成を行います。

- [通貨レートの定義](#)
- [通貨バケット](#)
- [通貨](#)
- [レート・タイプ](#)

通貨レートの定義

通貨レートは、初めに既存の CSV ファイルからインポートして設定するか、または手動で作成できます。

インポートについては、[通貨レートのインポート](#)を参照してください。

通貨レートの手動作成については、[通貨レートの作成](#)を参照してください。

ノート:

使用中の通貨は削除できません。

通貨レートのインポート

通貨レートをインポートするには:

1. ホームから「**アプリケーション**」、「**構成**」の順にクリックします。
2. 「**通貨**」タブを選択し、「**通貨レート**」を選択します。
3. 「**期間**」および「**レート・タイプ**」を選択します。
4. 「**新規 (+)**」、「**インポート**」アイコンの順に選択します。
 - ファイル名を入力するか、「**参照**」をクリックして通貨レート・フォルダに移動します。

ノート:

インポート・ファイルの例を次に示します:

```
FromCurrency,ToCurrency,Rate
```

```
USD,CAD,1.3
```

- 「**インポート・タイプ**」で、「**置換**」または「**すべて置換**」をクリックします。
5. インポート・ファイルのファイル区切り文字を選択します(カンマやタブなど)。または、「**その他**」を選択して、任意の 1 文字を区切り文字として指定します。
 6. 「**インポート**」をクリックします。

通貨レートの手動作成

通貨レートを手動で作成するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**通貨**」タブを選択します。
2. 「**通貨レート**」タブをクリックします。
3. **期間**を選択します。
4. **レート・タイプ**を選択します。
5. 「**新規 (+)**」をクリックします。
6. 「新規通貨レート」ダイアログ・ボックスで、次の情報を入力します。
 - **通貨(元)**を選択します
 - **通貨(先)**を選択します
 - 新しい通貨**レート**を入力します

ノート:

レートの作成後にレートに変更が行われた場合、通貨が自動的に再計算されることはありません。

通貨バケットの定義

通貨バケット設定オプションでは、会社で設定される通貨バケットの数を決定します。最大で**3**つの通貨バケットを保持できます(「入力済」、「機能」、「レポート」など)。

通貨バケットは、照合で認証される必要のある各バケット、および照合の準備を容易にするための追加バケットに対して定義します。

たとえば、**FUNCTIONAL** 通貨バケットでの照合が必要とされることが非常に一般的です。自社がこれに該当する場合、機能通貨バケットを有効にします。

ENTERED または「転記済」通貨値で値を入力することで策定者の照合の実行が容易になる場合、このバケットも有効にします。

REPORTING 通貨バケットは、通常このバケットに対する認証要件がある場合にのみ有効にします。自社の規則に合わせて名前を変更できるようにすべてのバケット・ラベルを構成することに注意してください。

ノート:

通貨バケットを無効にする必要がある場合、そのバケットを参照するリスト(保存済リストを含む)を確実に更新して、有効な通貨バケットをかわりに参照するようにします。このとき、新たに有効化されたバケットと同期するために、通貨属性の削除と置換を行う可能性があります。

通貨バケットを定義するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**通貨**」タブを選択します。
2. 「**通貨バケット**」を選択します。
3. 残高およびトランザクションのデータに対して複数の通貨バケットのラベルを選択します。例:
 - **ENTERED** - 残高およびトランザクションを発生時の通貨でレポートします。
 - **FUNCTIONAL** - 残高およびトランザクションを、勘定科目を所有するエンティティに関連付けられた通貨でレポートします。
 - **REPORTING** - 残高およびトランザクションをシステム全体のレポートに使用される通貨でレポートします。
4. アプリケーションに表示する通貨バケットを**有効化**するかどうかを選択します。
5. USドル(USD)などの**デフォルト通貨**を選択します。
6. 「**小数点以下の桁数**」を確認します
7. 「**すべての通貨による調整属性**」を選択し、すべての通貨値を含む残高属性を含めます。残高属性が、列リストおよびフィルタの選択に使用できるようになります。このオプションはすべての通貨バケットに対してデフォルトで選択されています。
8. 必要な通貨バケットに対して、「**デフォルトの通貨による調整属性**」を選択し、照合のデフォルト通貨の残高のみを表示する数値残高属性を含めます。残高属性が、列リスト、フィルタ、および照合とプロファイル、トランザクションの計算での選択に使用できるようになります。

「**すべての通貨による調整属性**」と「**デフォルトの通貨による調整属性**」の両方が選択されている場合、すべての残高属性オプションをフィルタ処理および計算に使用できます。いずれのオプションも選択されていない、または通貨バケットが無効である場合、残高属性はバケットの選択に使用できません。

ノート:

使用可能なすべての残高属性が常に **Account Reconciliation** で作成されます。これらのオプションを使用して、必要な残高属性を選択に使用できるようにします。オプションは選択されていないが属性の一部がすでに使用中である場合、それらはこれまでどおりに機能し続けます。ただし、ユーザーは新しいフィルタや計算にそれらを選択できなくなります。

通貨の制御

「**通貨**」タブでは、システムでアクティブな通貨コードを制御することができます。標準通貨は製品とともにインストールされます。使用可能な通貨リストで使用されていない通貨を非表示にするには、通貨のシステム設定でそれらを非表示にします。

標準通貨を無効にするには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**通貨**」タブを選択します。
2. 「**通貨**」タブを選択します。

3. 通貨を選択し、「**使用可能**」フィールドをクリアします。[カスタム通貨の作成](#)を参照してください。

カスタム通貨の作成

カスタム貨を作成するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックします。
2. 「**通貨**」タブを選択します。
3. 「**通貨**」タブを選択します。
4. 「**新規 (+)**」を選択します。
5. 次の情報を入力します:
 - **通貨コード**を入力します
 - **通貨記号**を入力します
 - 表示する**小数点以下の桁数**を選択します
 - 選択した通貨の**説明**を入力します
 - **使用可能**
通貨を使用可能にすると、通貨リストに表示されます。

ノート:

残高ロード・プロセス中に、ソース残高およびサブシステム残高は、該当する通貨の「**小数点以下の桁数**」に自動的に丸められます。「**小数点以下の桁数**」を変更し、別の「**小数点以下の桁数**」設定を使用してロードされた残高がすでにある期間に対して、後で残高をリロードすることはお薦めしません。そのようにすると、すでに完了している照合が、残高が変更されたために再オープンされる場合があります。

レート・タイプの定義

レート・タイプは、プロファイルまたは調整で使用するために、外国為替レートに関連付けられます。照合に入力されたトランザクションの換算が必要な場合、**レート・タイプ**を定義する必要があります。照合されるソース・システムの期末残高換算に使用されるレート・タイプのみを構成します。

たとえば、策定者が「**入力済**」通貨バケットでトランザクションを追加すると、インポートされたレートを使用して値が機能通貨バケットに換算されます。各レートはレート・タイプに関連付けられます。

外国為替レートは、ソース・システムからインポートされる場合、レート・タイプに関連付けられます。外国為替換算が必要とされるプロファイルおよび照合に、ソース・システムの残高換算に使用されるレート・タイプと一致するレート・タイプを割り当てます。**Account Reconciliation**で照合の外国為替換算の値を計算する場合、照合に割り当てられたレート・タイプに関連付けられたレートが使用されます。

レート・タイプの作成

外国為替レートは、ソース・システムからインポートされる場合、レート・タイプに関連付けられます。外国為替換算が必要とされるプロファイルおよび照合に、ソース・システムの残高換算に使用されるレート・タイプと一致するレート・タイプを割り当てます。Account Reconciliation で照合の外国為替換算の値を計算する場合、照合に割り当てられたレート・タイプに関連付けられたレートが使用されます。

レート・タイプを作成するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」の順に選択します。
2. 「通貨」、「レート・タイプ」の順に選択します。
3. 「追加」(+)を選択します。
4. 次の情報を入力します
 - **レート・タイプ** - レート・タイプの一意的名前を入力します。
 - **ソース・システム** - ソース・システムの名前を入力します。たとえば、ソース・システムとしての Oracle GL から通貨レートをインポートする場合は、「Oracle GL」と入力します。
 - **ソース・システムのレート・タイプ** - ソース・システムのレート・タイプを入力します。たとえば、データ管理から通貨レートをインポートする場合は、Oracle GL Corporate などのレート・タイプを選択します。
 - **データ管理** - データ元がデータ管理である場合は、この列にチェック・マークが表示されます。

カレンダーの定義

「**カレンダー**」は、各期間の日付と頻度を設定するために使用します。各カレンダーでは、同じ期間に対して異なる組織が異なる日付および頻度で作業することが許可されています。

管理者は、期間と組織単位に関連付けられているカレンダーを定義します。1つの期間に複数のカレンダーを用意し、その期間の異なる日付の構成が反映されるようにする場合があります。組織単位には、その組織単位に対して使用される日付を決定する1つのカレンダーが割り当てられます。カレンダーが先に存在する必要があります。「システム設定」で、管理者が期間または組織単位にカレンダーを割り当てます。

カレンダーと休日ルールは両方とも、組織に対して個別に適用できます。最終的に、プロファイルに(組織単位で)関連付けられているカレンダーと休日ルールが、期間に関連付けられているカレンダーと相互に作用して、デプロイされている照合におけるユーザーのワークフローの開始日と終了日を決定します。たとえば、ある会社で北米と欧州の業務を異なる財務日付で照合するとします。この例を使用して、カレンダーと期間の相互作用および異なる組織での休日ルールの動作について説明します。

- カレンダーおよび期間:
 - 北米のカレンダーでは、5月の開始日は5月1日、終了日は5月31日、クローズ日は6月4日であり、頻度は月次、四半期次および年次です
 - 欧州のカレンダーでは、5月の開始日は5月1日、終了日は5月31日、クローズ日は6月10日であり、頻度は月次です

- 北米のカレンダーでは、12月の開始日は12月1日、終了日は12月31日、クローズ日は1月5日であり、頻度は月次です
- 欧州のカレンダーでは、12月の開始日は12月1日、終了日は12月31日、クローズ日は1月10日であり、頻度は月次、四半期次および年次です
- 休日ルール:
 - 米国の休日ルールでは、7月4日は休日です
 - 英国の休日ルールでは、5月27日(春のバンク・ホリデー)は休日です
 - フランスの休日ルールでは、5月1日(レイバー・デー)は休日です
- 組織:
 - 米国の組織は、北米のカレンダーと米国の休日ルールを使用します
 - イングランドの組織は、欧州のカレンダーと英国の休日ルールを使用します
 - フランスの組織は、欧州のカレンダーとフランスの休日ルールを使用します

カレンダーの追加

カレンダーを追加するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**組織**」タブを選択します。
2. 「**カレンダー**」をクリックします。
3. 「**新規 (+)**」をクリックします。
4. 次のフィールドに入力します。
 - **カレンダー ID**
識別子として必須で、一意である必要があります。
 - **名前**
必須。

カレンダーの削除



ノート:

基本カレンダーは削除できません。

カレンダーを削除するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**組織**」タブを選択します。
2. 「**カレンダー**」をクリックします。
3. カレンダーを選択し、「**削除**」を選択します。

休日ルール の 定義

休日ルールは、照合スケジュールが自社休業日や法定休日の影響を受ける場合、または「**トランザクション照合**」で日付許容差を使用し、かつ照合の目的で基本カレンダーのかわりにビジネス・カレンダーを使用する場合にのみ定義します。

休日ルールを作成するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**組織**」タブを選択します。
2. 「**休日ルール**」タブを選択します。
3. 「**新規 (+)**」をクリックします。
4. 次を入力します:
 - **休日ルール ID**
レコードを識別し、必須で、一意であることが必要です。
 - **名前**
必須で、最大 50 文字を指定でき、一意にする必要はありません。
 - **年**
「年」属性はフィルタとして機能します。ユーザーが値を選択する必要はありませんが、選択した場合は、その年に関連する日付が表に表示されます。

休日日付のインポート

日付を既存の休日ルール内にインポートできます。

休日日付をインポートするには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**組織**」タブを選択します。
2. 「**休日ルール**」タブを選択します。
3. 休日ルールを作成または選択します。
4. 「休日ルール」の下部のセクションで、「**新規 (+)**」、「**インポート**」の順に選択します。
 - ファイル名を入力するか、「**参照**」をクリックして CSV インポート・ファイルにナビゲートします。
例:

```
"Date", "Name"  
"Jan 1, 2014", "New Years Day"  
"May 26, 2014", "Memorial Day"
```
 - 「**インポート・タイプ**」で、次のいずれかをクリックします。
 - **置換** - 休日日付を、インポートしているファイル内の休日日付に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていない他の単位には影響しません。

- **すべて置換** - 既存の休日日付を置き換える新しい休日日付のセットをインポートします。このオプションを使用して、あるシステムの単位を別のシステムで更新された定義に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていない休日日付は削除されます。

5. 日付フォーマット

使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、日付フォーマットを選択します。日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットはエクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。

例:

- MM/dd/yyyy
- dd/MM/yyyy
- dd-MMM-yy
- MMM d, yyyy

6. 「**インポート**」をクリックします。

組織単位の定義

組織単位では、階層型の組織単位構造をプロファイルおよび照合に割り当てるメカニズムが提供されます。これによって、フィルタ、レポート、トランザクション照合に値が指定され、これを介して休日ルールがプロファイルに適用されます。組織を追加する手順では、一意の組織を追加し、特定のメタデータ(カレンダー、ビューアなど)に関連付ける方法を説明します。

ノート:

以前に使用して削除した同じ名前を使用して、組織単位を作成できます。削除したオブジェクトに以前にリンクしていたオブジェクトは、新しいオブジェクトに関連付けられます。

組織の追加

組織を追加するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**組織**」タブを選択します。
2. 「**組織単位**」タブを選択します。
3. 子または兄弟の追加先まで階層を展開します。
4. 必要に応じて、「**子の追加**」または「**兄弟の追加**」をクリックします。「**プロパティ**」タブが開きます。
5. 「**プロパティ**」タブで、次の情報を入力します。
 - **名前**
必須で、50文字以内とし、名前を一意にする必要はありません。管理者はいつでも名前を変更できます。
 - **組織単位 ID**

移行目的でトランザクションを識別するために使用される一意の ID。組織単位 ID は必須で、組織単位の設定後は変更できません。

- **カレンダー**

管理者が組織単位を期間カレンダーと関連付けられるようになります。カレンダーの選択はオプションです。選択しない場合、各期間に基本カレンダーが使用されます。

管理者は、組織単位に関連付けられたカレンダーを変更できます。ただし、変更には条件があります。たとえば、カレンダーが変更され、現在の期間が月間ではなくなった場合、その頻度は組織単位に関連付けられているカレンダーの頻度と一致しませんが、既存の月次照合はその期間に残ります。組織単位に割り当てられた ARM カレンダーが変更された結果として期間の開始日、終了日およびクローズ日に変更が発生しても、照合はその影響を受けません。

- **親組織**


管理者が階層を変更できるようになります。

- **説明**

オプション。

- **休日ルール**

オプション。休日のリストが組織単位に適用されるかどうかを決定します。

 **ノート:**

トランザクション照合でトランザクションを照合するために日付許容範囲を操作するときに、基本カレンダーのかわりにビジネス・カレンダーを使用する場合は、休日ルールを設定する必要があります。

- **労働日数**

どの曜日が労働日であるかを決定します。

 **ノート:**

トランザクション照合でトランザクションを照合するために日付許容範囲を操作するときに、基本カレンダーのかわりにビジネス・カレンダーを使用する場合は、組織の労働日の曜日を設定する必要があります。

6. 「アクセス」タブを使用すると、管理者は参照者およびコメント作成者のアクセス権を中央の 1 箇所で割り当てることができ、各タスクまたは照合にアクセス権を割り当てする必要がなくなります。

ユーザーを選択するには:

- a. 「アクション」、「追加」(+)の順に選択します。
- b. 「参照者の選択」で名および姓を入力するか、「ユーザーの検索」アイコンをクリックして「ユーザー」または「チーム」を選択し、名前を入力するか、「検索」をクリックします。
- c. 「検索結果」でユーザーまたはチームを選択し、「作業可能」列に追加します。

- d. 「OK」をクリックします。

組織単位のインポート

インポート・ファイル形式

組織単位のインポートするには、CSV インポート・ファイルを作成します。

使用可能なヘッダーのリストを次に示します:

OrganizationalUnitID, Name, ParentOrganization, Description,
HolidayRule, Calendar, Workdays, Viewer1, Viewer2, Commentator1, Commentator2, Viewer3

この場合:

Workdays は、数値 1 の月曜日から始まる 1 から 7 までの数値を入力して指定します。数値はダッシュで区切られます。

次に示しているのはインポート・ファイルの例で、ここでは**米国の休日**というリストおよび**米国のカレンダー**というカレンダーに休日を設定したものと仮定しています。

A	B	C	D	E	F	G
OrganizationalUnitID	Name	ParentOrganization	Description	HolidayRule	Calendar	Workdays
"US"	"United States"	""	"US Description"	"US Holidays"	"US Calendar"	"1-2-3-4-5"

組織単位のインポートするには

組織単位のインポートするには:

- ホームから「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックして「組織」タブを選択します。
- 「組織単位」タブを選択します。
- 「インポート」をクリックします。
 - ファイル名を入力するか、「参照」をクリックして CSV インポート・ファイルにナビゲートします。
 - 「インポート・タイプ」で、次のいずれかをクリックします。
 - 置換** - 組織単位の詳細を、インポートしているファイル内にある組織単位で置き換えます。インポート・ファイルに指定されていない他の単位には影響しません。
 - すべて置換** - 既存の単位を置き換える組織単位のセットをインポートします。このオプションを使用して、あるシステムの単位を別のシステムで更新された定義に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていない組織単位は削除されます。
 - インポート・ファイルのファイル区切り文字を選択します(カンマやタブなど)。または、「その他」を選択して、任意の 1 文字を区切り文字として指定します。
- 「インポート」をクリックします。

組織単位の選択

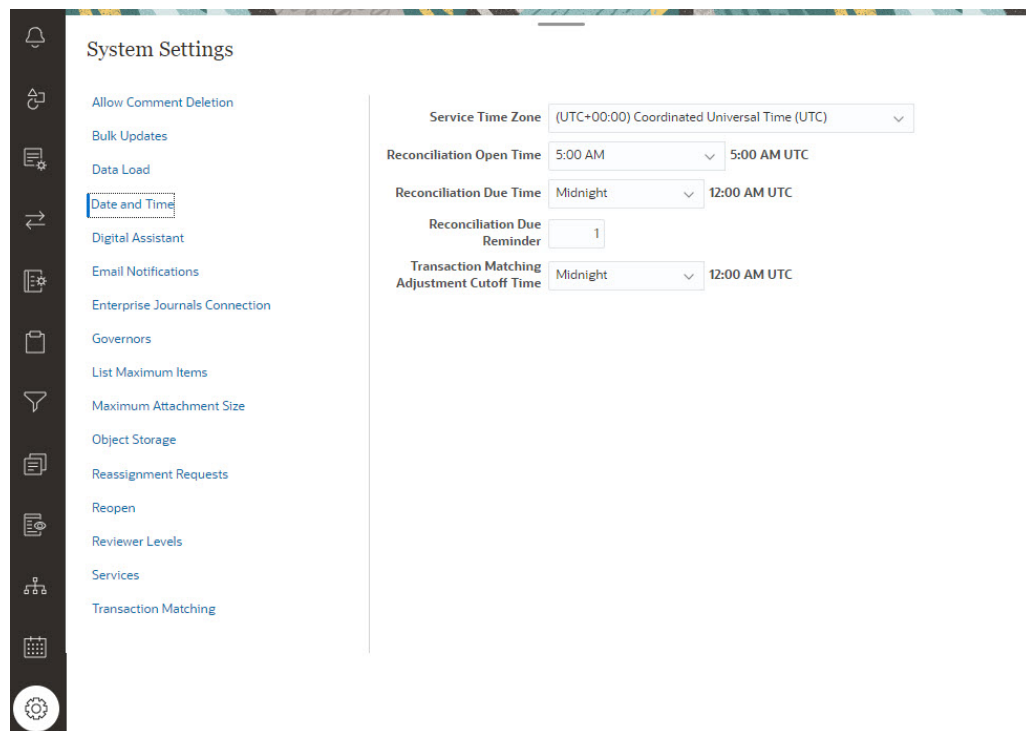
管理者は組織単位のシステム設定で定義します。組織リストが機能ダイアログに表示されます。

組織を選択するには:

1. ホームから「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックして「組織」タブを選択します。
2. 「組織単位」タブを選択します。
3. 組織を選択します。矢印は子組織が存在することを示します。子組織を選択するには親を展開します。
4. 「OK」をクリックします。

システム設定の定義

「システム設定」には、ユーザーによるコメント削除またはバルク更新の許可、データ・ロードがタイムアウトするまでに許される時間の長さの設定、デジタル・アシスタント設定、期限日の電子メール・リマインダのタイミング、電子メール通知がアクティブかどうか、リスト・ビューに表示される行数、ファイル添付の最大サイズ、ユーザーによる照合の直接再割当ての許可、照合の再オープンの許可、システムで許可されるレビュー担当者レベルの数、オープン照合サービス開始時間およびシステム・メンテナンス・プロセスの次の実行のスキップなど、システムの動作に影響を与えるその他の技術的な設定が含まれています。



コメントの削除を許可

サービス管理者は、「コメントの削除を許可」構成設定オプションを使用して、照合コンプライアンスでコメントの削除を許可することを決定できます。デフォルトでは、このオプションは「オフ」です。

監査の目的で、コメントが作成されたら、このオプションをオンにしないと削除できません。照合に対するワークフローの役割が同じユーザーは、互いのコメントを削除

できます。たとえば、照合の策定者は、他の策定者が作成したコメントを削除できます。ただし、策定者は、レビュー担当者が追加したコメントは削除できません。コメント作成者は、自分が追加したコメントを削除できます。管理者の役割を持つユーザーは、任意のコメントを削除できます。

ユーザーにコメントの削除を許可するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**設定**」タブを選択します。
2. 「**システム設定**」で、「**コメントの削除を許可**」を選択します。
3. 「**オンにする**」を選択して削除を有効にします。

ユーザーによるバルク更新の許可

サービス管理者は、照合コンプライアンスの構成設定を使用して、ユーザーが複数の照合を一度に送信、承認、却下、請求またはリリースできるようにすることが可能です。

バルク更新を許可するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**設定**」タブを選択します。
2. 「**システム設定**」で、「**バルク更新**」を選択します。
3. ユーザーが複数の照合に対して一度に次の操作の一部またはすべてを実行することを許可するかどうかを決定します。
 - **送信**
 - **承認**
 - **却下**
 - **請求**
 - **リリース**
4. 「**保存**」をクリックします

データ・ロード・タイムアウト

データ・ロード・タイムアウトを有効にするには:

1. 「ホーム」から、「**アプリケーション**」、「**構成**」の順にクリックし、「**システム設定**」タブを選択します。
2. 「**データ・ロード**」を選択します。
3. 「**Data Management データ・ロード・ルールが終了するまでの待機時間数**」で、時間数を入力します。

サービス・タイム・ゾーンおよび期限日の設定

「**日時**」構成設定を使用して、サービスのグローバル・タイム・ゾーン、トランザクション照合のカットオフ時間および照合に関するその他の時間設定を設定します。

次の条件において、電子メールによる期限日リマインダ通知が策定者およびレビュー担当者へ送信されます。

1. 照合の責任が策定者またはレビュー担当者に変更された場合。
2. 期限を過ぎた場合。
3. 照合の期限が近づいています。(期限までの日数を構成する必要があります。次の手順を参照してください。)

 ノート:

夏時間に従うタイムゾーンを選択した場合、夏時間中に設定された時間を超える追加の 1 時間がシステムによって含められます。この追加時間が不要な場合は、サービス管理者が夏時間中の照合期限またはトランザクション照合調整カットオフ時間(あるいはその両方)を 1 時間早く設定できます。

条件 1 および 2 に関する通知には追加の構成は必要なく、照合内に含まれる情報に基づいて送信されます。

日時設定を定義するには:

1. 「ホーム」から、「アプリケーション」、「構成」、「設定」の順にクリックします。
2. 「システム設定」で、「日時」を選択します。
3. 「サービス・タイム・ゾーン」で、サービスのタイム・ゾーンを選択します。このグローバル設定は、照合オープン時間、照合期限、トランザクション照合調整カットオフ時間などの設定に使用されるタイム・ゾーンを決定します。たとえば、「サービス・タイム・ゾーン」を(UTC-8:00)ロサンゼルス – 太平洋標準時(PT)に設定し、「照合期限」を午後 8 時に設定すると、照合は、照合の期限日の太平洋標準時午後 8 時までの期限となります。

ノート: 自動メンテナンス・ウィンドウは、「サービス・タイム・ゾーン」の影響を受けません。「ツール」→「日次メンテナンス」の独自のタイム・ゾーン設定が使用されます。

4. 「照合オープン時間」で、日次タスクであるオープン照合が実行される時間を選択します。

選択した時間は、「サービス・タイム・ゾーン」で設定されたタイム・ゾーンでの時間です。開始時間を「深夜」に設定すると、照合は設定された日の 12 AM (正午)に開始されます。ユーザーのタイム・ゾーンがサービス・タイム・ゾーンと異なる場合は、ユーザーのタイム・ゾーンでの対応する時間が、このフィールドの右側に表示されます。

5. 「照合期限」で、遅延した照合のその日の終わりを選択します。選択した時間は、「サービス・タイム・ゾーン」で設定されたタイム・ゾーンでの時間です。たとえば、サービス・タイム・ゾーンを太平洋標準時に設定し、照合期限を午後 6 時に設定すると、期限日が 6 月 16 日の照合は、6 月 16 日の太平洋標準時午後 6 時が期限となります。期限を「深夜」に設定すると、期限日はその日の午後 11:59:59 です。

ユーザーのタイム・ゾーンがサービス・タイム・ゾーンと異なる場合は、ユーザーのタイム・ゾーンでの対応する時間が、このフィールドの右側に表示されます。

6. 「照合期限のリマインダ」で、期限日の何日前にリマインダ通知を送信するかを入力します。

ユーザーのタイム・ゾーンがサービス・タイム・ゾーンと異なる場合は、ユーザーのタイム・ゾーンでの対応する時間が、このフィールドの右側に表示されます。

7. 「**トランザクション照合調整カットオフ時間**」で、調整会計日が現在の日付に設定されるように、トランザクション照合調整を作成する必要がある時間を選択します。カットオフ時間後に作成された調整は、調整会計日が翌日に設定されて作成されます。これは、手動で作成された調整と自動的に作成された調整の両方に適用されます。

この設定は、「**サービス・タイム・ゾーン**」と連動して機能します。

たとえば、「**サービス・タイム・ゾーン**」が東部標準時に設定され、「**トランザクション照合調整カットオフ時間**」が午後 8 時に設定されている場合、ある日の東部標準時午後 8 時より前に作成された調整は、調整会計日が現在の日付に設定されます。ある日の東部標準時午後 8 時以降に作成された調整は、調整会計日が翌日に設定されます。

EPM デジタル・アシスタントの設定

「**Account Reconciliation**」で使用する **EPM デジタル・アシスタント**の構成の一部として必要な設定があります。これらの設定は、「**Account Reconciliation**」で、「**アプリケーション**」、「**構成**」、「**デジタル・アシスタント設定**」を順にクリックして使用できます。

1. 「**ホーム**」から、「**アプリケーション**」、「**構成**」、「**システム設定**」の順に選択します。
2. 「**システム設定**」で、「**デジタル・アシスタント設定**」を選択します。
3. 「**サービス URI**」(Uniform Resource Identifier)で、サービスにログオンしたときに表示される Oracle Digital Assistant サービス URL である「**デジタル・アシスタント URL**」を入力します。http://または https://を前に付けずに URI を入力する必要があります。
4. 「**チャンネル ID**」で、Oracle Web チャンネルを作成したときにメモしたチャンネル ID を入力します。
5. これで **Account Reconciliation アシスタント**を使用する準備が完了し、「**ホーム**」にアイコンが表示されます。



「**Account Reconciliation**」で使用する **EPM デジタル・アシスタント**の構成の詳細は、[Oracle Cloud Enterprise Performance Management デジタル・アシスタント・スタート・ガイド](#)を参照してください。

電子メール通知の有効化

「**電子メール通知**」構成設定を使用して、電子メール通知のオン/オフを切り替えたり、電子メール通知プリファレンスの設定を定義します。

ノート:

デフォルトでは「**オフにする**」が選択されます。

電子メール通知を有効にするには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」の順に選択します。
2. 「システム設定」タブで、「電子メール通知」を選択します。
3. 「電子メール通知」に対して「オンにする」または「オフにする」を選択します。
この設定は、すべてのユーザーに対するすべての通知のマスター・オン/オフ・スイッチの役割を果たします。「オンにする」を選択した場合、バッチ通知が生成されます。
4. 「送信元アドレス」を編集できる場合は、電子メール ID を入力します。それ以外の場合、デフォルトの `no.reply@oraclecloud.com` が表示され、編集できません。
5. サービス管理者は、「ユーザー指定」を選択して、ユーザーによる個人の電子メール通知設定をカスタマイズ可能にできます。ユーザーによる電子メール通知設定のカスタマイズを防止するには、サービス管理者が「ユーザー指定」の選択を解除します。この場合、ユーザーは、サービス管理者によって定義されたデフォルト設定を継承します。
6. 「電子メール開始時間」と「電子メール終了時間」を使用して、スケジュールされた電子メールが送信される 1 日の期間を指定します。この設定は、各ユーザーの個々のタイム・ゾーンで有効になります。
7. 「通知する」で様々な通知タイプの通知設定を行います。これには、遅延通知、ステータス変更通知、期限日リマインダ通知が含まれます。通知設定の詳細は、[電子メール通知設定のリファレンス](#)を参照してください。

電子メール通知設定のリファレンス

サービス管理者は、すべての電子メール通知とすべてのユーザーのデフォルト設定を定義できます。通知のタイプには、遅延通知、ステータス変更通知、期限日リマインダ通知があります。サービス管理者がユーザーに電子メール通知設定のカスタマイズを許可している場合、ユーザーは独自の通知設定を定義できます。

Table 4-3 遅延通知の設定

通知	有効な値
あなたは照合策定者です。策定が遅延しています	<ul style="list-style-type: none"> • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたは照合レビュー担当者です。レビューが遅延しています	<ul style="list-style-type: none"> • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回

Table 4-4 ステータス変更通知の設定

通知	有効な値
あなたはバックアップ策定者です。プライマリ策定者が作業できません	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回
あなたはバックアップ・レビュー担当者です。プライマリ・レビュー担当者が作業できません	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回
あなたは照合策定者です。ステータスがオープン(策定者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回
あなたは照合レビュー担当者です。ステータスがオープン(レビュー担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回
あなたはアラート承認者です。アラート・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回
あなたはアラート担当者です。アラート・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回
あなたはアラート所有者です。アラート・ステータスがオープン(所有者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回

Table 4-4 (Cont.) ステータス変更通知の設定

通知	有効な値
あなたはアラート所有者です。アラート・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回
あなたはアラート所有者です。アラート・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回
あなたはアラート所有者です。アラート・ステータスが完了に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回
あなたはアラート参照者です。アラート・ステータスがオープン(所有者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回
あなたはアラート参照者です。アラート・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回
あなたはアラート参照者です。アラート・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回

Table 4-4 (Cont.) ステータス変更通知の設定

通知	有効な値
あなたはアラート参照者です。アラート・ステータスが完了に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回

Table 4-5 期限日リマインダ通知の設定

通知	有効な値
あなたは照合策定者です。策定者の期限日が1日以内に到来します	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回
あなたは照合レビュー担当者です。レビュー担当者の期限日が1日以内に到来します	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2時間ごと • 3時間ごと • 4時間ごと • 6時間ごと • 1日に1回

エンタープライズ仕訳の接続の構成

Account Reconciliation をエンタープライズ仕訳にリンクするには:

1. 「ホーム」から、「アプリケーション」、「構成」、「システム設定」の順に選択し、「エンタープライズ仕訳接続」を選択します。
2. Financial Consolidation and Close のエンタープライズ仕訳への URL を入力します。
3. Financial Consolidation and Close のエンタープライズ仕訳用のユーザー名とパスワードを入力します。ユーザーには仕訳を設計する権限が必要です。
4. 「検証」および「保存」をクリックします。

「リセット」をクリックして、前回保存した接続情報に戻ります。これが初めての接続情報の入力で、保存済の接続情報がない場合は、「リセット」によって入力した詳細がクリアされます。

勘定科目調整でのガバナー制限の設定

勘定科目調整では、事前定義済およびカスタマイズ可能なガバナー制限が提供されます。

Related Topics

- [事前定義済ガバナー制限について](#)
 勘定科目調整では、特定のシステム設定に対して事前定義済ガバナー制限が設定されます。
- [カスタマイズ可能なガバナー制限の設定](#)
 様々なシステム設定に対してデフォルトのガバナー制限が設定されます。サービス管理者は、ビジネス要件に基づいてこれらのデフォルト値を変更できます。

事前定義済ガバナー制限について

勘定科目調整では、特定のシステム設定に対して事前定義済ガバナー制限が設定されます。

事前定義済のガバナー制限は、*Oracle® Fusion Cloud EPM Oracle Enterprise Performance Management Cloud* オペレーション・ガイドの [Account Reconciliation のガバナー制限の引上げのリクエスト](#) で説明されているプロセスを使用して増やすことができます。

照合コンプライアンスでの事前定義済ガバナー制限について

事前マップ済トランザクション・ロード・プロセスには、ファイルごとの最大トランザクション数を 500,000 に制限するガバナーがあります。

トランザクション照合での事前定義済ガバナー制限について

特定のトランザクション照合設定に対して、ガバナー制限が設定されます。

Table 4-6 トランザクション照合の事前定義済ガバナー制限

ガバナー	最大許可数
アプリケーションでの照合タイプの数	300
照合タイプ内のデータ・ソースの数	20
アプリケーションでのデータ・ソースの数	750
データ・ソースの属性の数	200
照合タイプ内の照合プロセスの数	20
照合プロセスのルールの数	500

カスタマイズ可能なガバナー制限の設定

様々なシステム設定に対してデフォルトのガバナー制限が設定されます。サービス管理者は、ビジネス要件に基づいてこれらのデフォルト値を変更できます。

更新可能なガバナー制限には次のものがあります:

- 照合、トランザクション、プロファイル、照合リスト、照合アクション・ダイアログに表示する行の最大数、およびエクスポートできる監査レコードの最大数
- ファイルをアップロードする際の個々のファイルの最大サイズ

Account Reconciliation のガバナーを設定するには:

- 「ホーム」から、「アプリケーション」、「構成」、「設定」の順にクリックします。
- 「システム設定」で、「ガバナー」をクリックします。

3. 「リストに表示するアイテムの最大数」で、ドロップダウンを使用して、照合、トランザクション、プロファイル、照合リスト、照合アクション・ダイアログに表示する行の最大数の値、およびエクスポートできる監査レコードの最大数を設定します。デフォルト値は10000です。
4. 「最大ファイル・アップロード・サイズを選択してください」で、ユーザーがアップロードできる個々のファイルの最大サイズの値を選択します。デフォルトは5MBです。個々のファイルの最大サイズは20MBです。保存できるファイルの最大数はありません。

 **Note:**

個々のファイルの最大サイズが20MBであるデフォルトのダイレクト・データベース・ストレージのかわりに、添付の**オブジェクト・ストレージ**を使用すると、100MBに増加できます。[Oracle Cloud Object Storage](#)を使用した添付の保存を参照してください

5. 「レポート」セクションで、次のように設定します:
 - 「別のプロセスとしてレポートを生成」で、「オンにする」または「オフにする」を選択します。
 - 「並列で実行可能なレポートの数」で、ドロップダウンを使用して、並列で実行可能なレポートの数を選択します。

 **Note:**

Oracle サポートが推奨しないかぎり、「レポート」セクションのデフォルトのガバナンス制限は更新しないでください。

Oracle Cloud Object Storage を使用した添付の保存

次も参照:

- [Oracle Cloud Object Storage を使用した添付の保存について](#)
- [OCI オブジェクト・ストレージに格納される内容について](#)
Account Reconciliation では、OCI オブジェクト・ストレージとのファイルの移動が自動処理されるため、ユーザーは添付をシームレスにアップロードおよび表示できます。
- [Account Reconciliation での OCI オブジェクト・ストレージの使用手順](#)
- [オブジェクト・ストレージ・バケットのレプリケーションの使用](#)

Oracle Cloud Object Storage を使用した添付の保存について

アップロードされる添付の数が主な要因で大規模な Account Reconciliation データベースを使用している場合は、**Oracle Cloud Infrastructure (OCI)オブジェクト・ストレージ**を使用して添付を格納してください。別のストレージ・オプションを使用すると、LCM スナップショットのサイズを大幅に削減できるため、バックアップ、ダウンロードおよび復元ステップがより合理化されます(たとえば、スナップショットをテストから本番に復元する場合、またはオフライン・ストレージのスナップショットをダウンロードする場合)。もう一つの利点として、OCI オブジェクト・ストレージの使用により、最大添付サイズを 20 MB から 100 MB に

増加できます。ベスト・プラクティスとして OCI オブジェクト・ストレージを使用することをお勧めします。

OCI オブジェクト・ストレージには独自のサブスクリプションおよび構成が必要であるため、この機能はオプションです。OCI オブジェクト・ストレージを設定するように選択した場合、今後の添付はこのストレージに保存され、既存の添付は構成後に OCI オブジェクト・ストレージに移動されます。

 **Note:**

OCI オブジェクト・ストレージの使用開始後は、これらの添付に対して Account Reconciliation データベースを再度使用することはできません。

OCI オブジェクト・ストレージに格納される内容について

Account Reconciliation では、OCI オブジェクト・ストレージとのファイルの移動が自動処理されるため、ユーザーは添付をシームレスにアップロードおよび表示できます。

Account Reconciliation によって OCI オブジェクト・ストレージに格納される内容の例には、照合、トランザクションおよびアラートの添付があります。

Account Reconciliation で作成された各添付に対して一意の ID が生成されます。この ID は、添付が OCI オブジェクト・ストレージに格納されるときにファイル名として使用されます。添付ファイルの実際の名前は、オブジェクト・ストレージ・ファイルのプロパティとして格納されます。たとえば、fx_translations.xlsx というファイル名の添付を照合に追加するとします。この添付に対して、fpbh-2765 などの一意の ID が生成されます。この添付は fpbh-2765 という名前で OCI オブジェクト・ストレージに格納され、添付ファイルの実際の名前 fx_translations.xlsx は、OCI オブジェクト・ストレージに fpbh-2765 のプロパティとして格納されます。添付ファイルの実際の名前を特定するには、OCI オブジェクト・ストレージでファイルの「**詳細の表示**」を使用します。

 **Note:**

Account Reconciliation では、OCI オブジェクト・ストレージからファイルが削除されることはありません。かわりに、OCI オブジェクト・ストレージの添付は、OCI オブジェクト・ストレージで設定された保持ポリシーに基づいて削除されます。[保持ルールを使用したデータの保持](#)を参照してください。

Account Reconciliation での OCI オブジェクト・ストレージの使用手順

Account Reconciliation で OCI オブジェクト・ストレージを使用するための大まかな手順は、次のとおりです。

1. OCI オブジェクト・ストレージをサブスクライブします。[Oracle Cloud Infrastructure - クラウド・ストレージ](#)を参照してください。

OCI オブジェクト・ストレージのユーザー支援を確認するには、[オブジェクト・ストレージの概要](#)を参照してください。

2. 添付の保存に必要な環境を OCI オブジェクト・ストレージに作成します。これには、添付を保存するバケット(OCI オブジェクト・ストレージ内の論理ストレージの場所)の設定を含みます。

[OCI オブジェクト・ストレージの設定](#)を参照してください。

3. 添付を OCI オブジェクト・ストレージに格納するように、Account Reconciliation を構成します。

[Account Reconciliation](#) における [OCI オブジェクト・ストレージの設定](#)を参照してください。

OCI オブジェクト・ストレージの設定

この機能を使用するには、**OCI オブジェクト・ストレージ**のサブスクリプションが別途必要です。バケットは、オブジェクトを格納するための **OCI オブジェクト・ストレージ**内の論理コンテナであることに注意してください。**Account Reconciliation** のコンテキストでは、添付はオブジェクトと見なされます。

OCI オブジェクト・ストレージの概要レベルのステップを次にリストしています:

1. **OCI オブジェクト・ストレージ**で、**Account Reconciliation** の添付を保存するためのバケットを作成します。手順は、[バケットの作成](#)を参照してください。

Note:

既存のコンパートメントにバケットを作成することも、**Account Reconciliation** の添付に対して新しいコンパートメントを作成することもできます。

バケットの設定の例を次に示します。

The screenshot shows the configuration page for a bucket named 'ArcsAttachments'. On the left is a green bucket icon with a white 'B'. At the top, there are action buttons: 'Edit Visibility', 'Move Resource', 'Re-encrypt', 'Add Tags', and 'Delete'. Below this, there are two tabs: 'Bucket Information' (selected) and 'Tags'. The 'Bucket Information' tab displays the following details:

- Visibility: Private
- Namespace: epmccloud
- Default Storage Tier: Standard
- Auto-Tiering: Disabled (with an edit icon)
- Approximate Count: 3 objects (with a refresh icon)
- ETag: 9d12a634-30e7-470f-816d-cf3d1132773a
- OCID: H5ypr3a Show Copy
- Encryption Key: Oracle managed key (ssg2)
- Created: Thu, May 13, 2021, 17:09:51 UTC
- Compartment: epmccloud
- Approximate Size: 4.22 KB (with a refresh icon)
- Emit Object Events: Disabled (with an edit icon)
- Object Versioning: Disabled (with an edit icon)

Note:

バケットの自動階層制御が無効になっていることを確認してください。

2. **OCI オブジェクト・ストレージ**で**ライフサイクル・ポリシー・ルール**をそのまま保持する必要があります。これは変更しないでください。
3. オプション: **OCI オブジェクト・ストレージ**の**保持ルール**は、会社の監査要件(5-7 年など)に従います。

4. **Oracle Cloud Infrastructure (OCI)**では、**Account Reconciliation** のユーザーを作成し、少なくとも **READ** および **WRITE** アクセス権をそのユーザーに付与する必要がありますが、**DELETE** アクセス権は付与しないでください。ユーザーは、**Identity and Access Management (IAM)**ユーザーまたはフェデレーテッド・ユーザーにできます。
Account Reconciliation のオブジェクト・ストレージにアクセスするために、個別のユーザーを作成することをお勧めします。このユーザーには、添付ストレージ・バケットにアクセスする権限およびバケットのオブジェクトを管理する権限を付与する必要があります。
5. ポリシーを割り当てるには、グループを作成する必要があります。
オブジェクト・ストレージへのアクセスは、**Identity and Access Management (IAM)**ポリシーによって管理されます。一般的なオブジェクト・ストレージ・ポリシーは、<https://docs.oracle.com/en-us/iaas/Content/Identity/Concepts/commonpolicies.htm#write-objects-to-buckets> に記載されています
IAM ポリシーを作成するには、このガイド <https://docs.oracle.com/en-us/iaas/Content/Identity/Concepts/policygetstarted.htm> を参照してください
次に、必要なポリシーの例を示します。
 - Allow group ArcsAttachmentWriters to read buckets in compartment ABC
 - Allow group ArcsAttachmentWriters to manage objects in compartment ABC where all {target.bucket.name='ArcsAttachments', any {request.permission='OBJECT_CREATE', request.permission='OBJECT_INSPECT', request.permission='OBJECT_READ'}}
6. ユーザーの認証トークンを作成しておく必要があります。詳細は、<https://docs.oracle.com/en-us/iaas/Content/Identity/Tasks/managingcredentials.htm#Working> を参照してください

 **Note:**

認証トークンは構成プロセスの後半で使用しますが、作成した後は表示されないため、トークンをノートにとります。

7. バケットを作成してユーザーを作成したら、**バケット URL**、「**ユーザー名**」および「**パスワード**」を使用して接続が行われるように、**Account Reconciliation** で **OCI オブジェクト・ストレージ**を設定する必要があります。[Account Reconciliation](#) における **OCI オブジェクト・ストレージの設定**を参照してください。

Account Reconciliation における OCI オブジェクト・ストレージの設定

Account Reconciliation で **OCI オブジェクト・ストレージ**を設定するには:

1. 「**ホーム**」から「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして「**設定**」タブを選択します。
2. 「**システム設定**」で、「**オブジェクト・ストレージ**」を選択します。
3. **OCI オブジェクト・ストレージ**の設定から**バケット URL**を入力します。「**バケット URL**」は、Oracle Object Storage Cloud バケットの URL です。URL の形式を次に示します:

`https://swiftobjectstorage.region_identifier.oraclecloud.com/v1/namespace/
bucket_name`。この場合:

- `region_identifier` は、ホストしている **Oracle Cloud Infrastructure (OCI)** です
- `region.namespace` は、すべてのバケットとオブジェクトの最上位のコンテナです。各 **Oracle Cloud Infrastructure** テナントには、アカウントの作成時に、システムによって生成された一意の **Object Storage** 名前空間名が割り当てられます。テナントの名前空間名(`axaxnpcrorw5` など)は、すべてのリージョンで有効です
- `bucket_name` は、データとファイルを保存する論理コンテナの名前です。バケットはコンパートメントの下に整理され、維持されます。

URL の例: `https://swiftobjectstorage.us-ashburn-1.oraclecloud.com/v1/
epmcloud/arcsAttachments`

4. **Oracle Cloud Infrastructure** で **Account Reconciliation** 用に作成した「**ユーザー名**」および「**パスワード**」を入力します。

 **Note:**

ユーザーがフェデレーテッド・アイデンティティ・プロバイダで作成された場合は、ユーザー名の前にフェデレーテッド・アイデンティティ・プロバイダ名を付ける必要があります。例: `oracleidentitycloudservice/username`。パスワードについては、ログイン・パスワードではなく、認証トークンをパスワードとして使用する必要があります。

5. 「**検証および保存**」をクリックします。接続が適切に機能していることを確認するために検証され、テスト・ファイルの作成および読取りが行われます。
6. **Account Reconciliation** の既存の顧客であるか、**OCI オブジェクト・ストレージ** および **Account Reconciliation** を初めて設定する新規顧客であるかに応じて、統計が次のように表示されます:

Object Storage Migration Statistics

Number of migrated attachments 5

Size of migrated attachments (MB) 0.07

Number of pending attachments 0

Size of pending attachments (MB) 0

Number of all the attachments 5

Size of all the attachments (MB) 0.07

Last job status Success

Current job status Not Running

- 移行済添付の数 - 移行済添付の数。
- 移行済添付のサイズ(MB) - 移行済添付のサイズ。
- 保留中添付の数 - 移行が引き続き保留されている添付の数。
- 保留中添付のサイズ(MB) - 移行が保留されている添付のサイズ。
- すべての添付の数 - システム内の添付の合計数(移行済添付、移行保留中添付および新規に追加された添付を含む)。
- すべての添付のサイズ(MB) - システム内のすべての添付のサイズ
- **Account Reconciliation** の既存の顧客である場合、**Account Reconciliation** データベースから **OCI オブジェクト・ストレージ** への添付の移行に関する統計が表示されます。添付の移動に合わせて統計が増分されます。**Account Reconciliation** では、データベースから添付が取得され、**OCI オブジェクト・ストレージ** の設定したバケット内にファイルが移動されます。これは、**バケット URL** と、**Oracle Cloud Infrastructure** で **Account Reconciliation** 用に作成したユーザー名およびパスワードに基づいて実行されます。添付はデータベースから **OCI オブジェクト・ストレージ** に移動された後、データベースから削除されます。
初回移行の後、添付のアップロードおよびダウンロードは **OCI オブジェクト・ストレージ** に対して格納および取得されます。
- **Account Reconciliation** を初めて使用する顧客である場合、既存の添付を **OCI オブジェクト・ストレージ** に移動していないため、表示される統計の多くはゼロと表示されます。

構成の問題のトラブルシューティング

OCI オブジェクト・ストレージ の設定時に次のエラーが表示される場合は、バケット URL または資格証明に問題がある可能性があります:

エラー: 指定された URL および資格証明を使用してオブジェクト・ストレージ・サービスに接続できません。

cURL または Postman などの任意の REST クライアントを使用して、バケット URL および資格証明をテストします。

cURL コマンドの書式は次のとおりです: `curl <bucket URL> -u "<username>:<password>"`

次に、URL および資格証明をテストする cURL コマンドの例を示します:

```
curl https://swiftobjectstorage.us-ashburn-1.oraclecloud.com/v1/epmcloud/
arcsAttachments -u "username:password"
```

オブジェクト・ストレージ・バケットのレプリケーションの使用

構成されたバケットに一時的にアクセスできない場合は、複製されたバケットに添付を格納できます。ただし、複製されたバケットは読取り専用です。したがって、新規バケットを作成し、複製されたバケットから新規バケットにデータをコピーし、新規バケットを使用するように Account Reconciliation を構成する必要があります。

詳細は、[複製の使用](#)および[オブジェクトのコピー](#)を参照してください。

ワークフロー・ユーザーによる再割当て要求の実行と承認の許可

管理者は、承認のために管理者またはパワー・ユーザーに要求を送信するかわりに、ワークフロー・ユーザーが照合の再割当てを直接実行および承認できるようにする機能をオンにできます。管理者は、「構成」の「システム設定」の「再割当て要求」でワークフロー・ユーザーにこの権限を許可します。

ユーザーが再割当てを実行できるようになると、ワークフロー・ユーザーに対して「アプリケーション」の下に「プロファイル」カードが表示され、そこで自身への「プロファイル」の割当てを要求できます。ユーザーは「ワークリスト」で再割当て要求を承認できます。

再割当ての実行をワークフロー・ユーザーに許可するには:

1. ホームで、「アプリケーション」、「構成」の順に選択します。
2. 「システム設定」タブで「再割当て要求」を選択します。
3. 「ワークフロー・ユーザーに照合プロファイルの再割当てを許可」で「オンにする」を選択します。

ノート:

デフォルト設定は「オフにする」です。

4. 「次の実行者による再割当て要求の承認を許可」の下で「ユーザー」チェック・ボックスを選択します。

 ノート:

デフォルト設定では、「管理者」と「パワー・ユーザー」による再割当ての実行が許可されます。

ユーザーによる再割当ての実行方法の詳細は、*Oracle Account Reconciliation Cloud* を使用した勘定科目の照合の再割当ての要求を参照してください。

照合の再オープン

組織で、ユーザーがビジネス・サイクル上、照合を再オープンしたり、認定を取り消す必要がある場合があります。管理者は、「システム設定」で操作し、これを許可できます。

照合の再オープンを許可するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」の順にクリックします
2. 「システム設定」タブで、「再オープン」を選択します

Reopen Reconciliation Options

Reconciliation is Open Not Allowed
 Allowed for all reviewers
 Allowed for all preparers and reviewers

Reconciliation is Closed Not Allowed
 Allowed for final reviewer
 Allowed for all reviewers
 Allowed for all preparers and reviewers

3. オープンしている照合の再オープンを許可する条件を設定します。
 - **許可しない** - これがデフォルト・オプションで、策定者およびレビュー担当者は、送信または承認後は、オープンしている照合のワークフローを変更できません。
 - **すべてのレビュー担当者に許可** - 照合を承認したレビュー担当者がワークフローを自分に戻すことを許可します。策定者はこれを行えません。

- **すべての策定者およびレビュー担当者に許可** - 照合を送信した策定者または照合を承認したレビュー担当者がワークフローを自分に戻すことを許可します。
4. クローズしている照合の再オープンを許可する条件を設定します。
- **許可しない** - これがデフォルト・オプションで、策定者およびレビュー担当者は、クローズしている照合を再オープンできません。
 - **最後のレビュー担当者に許可** - 最終レビュー担当者にのみ再オープンし、ワークフローを自分に戻すことを許可します。レビュー担当者が 1 人のみの場合、そのユーザーがデフォルトで最終レビュー担当者です。
 - **すべてのレビュー担当者に許可** - 照合に関連付けられているレビュー担当者に再オープンし、ワークフローを自分に戻すことを許可します
 - **すべての策定者およびレビュー担当者に許可** - 照合の策定者またはレビュー担当者に再オープンし、ワークフローを自分に戻すことを許可します。

レポートの設定

管理者は、レポートの生成およびフォーマットを制御する設定を構成できます。

複数の行にまたがる行の処理

23.05 月次更新の後、Microsoft Excel 形式でレポートを生成すると、複数行にわたる行が、データを含む行とその後に表示される複数の空行になることがあります。行値に基づいて計算を実行するスクリプトがある場合、これによって問題が発生する可能性があります。Account Reconciliation には、このような余分な行の表示を制御する設定が用意されています。

この問題を解消するには、次のように実行してレポートのテンプレート・ファイルを変更する必要があります:

- 表の行から空行を削除します
- その行の高さを 0 に変更します

また、Account Reconciliation には、このような余分な行の表示を制御する設定が用意されています。この設定はすべてのレポートに適用されます。

レポートの設定の指定

1. ホームから、「アプリケーション」、「構成」の順にクリックし、「システム設定」タブを選択します。
2. 「レポート」を選択します。
3. 「行分割の有効化」の選択を解除し、Microsoft Excel の各データ行に対して複数の行が表示されないようにします。
4. **Excel エクスポート・フォーマット**で、Account Reconciliation データのエクスポート時に使用する Excel フォーマットを選択します。オプションは次のとおりです:
 - **Excel 97 - 2003 (.xls)**: .xls フォーマットのファイルを作成します。
 - **Excel (.xlsx)**: .xlsx フォーマットのファイルを作成します。

レビュー担当者レベルの設定

レビュー担当者レベルによって、照合がレビューされる場合のレベル数が決定されます。

レビュー担当者レベルを変更するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」の順にクリックします。
2. 「システム設定」タブで、「レビュー担当者レベル」を選択します。
3. 「レビュー担当者レベル」で1から10までの値を選択します。

システム・メンテナンスの管理

「システム設定」の「サービス」構成設定では、システム・メンテナンス設定を管理できます。

次のシステム・メンテナンス・プロセス実行のスキップ

「システム・メンテナンス・プロセス」は、ユーザー同期プロセスなど、Account Reconciliation 内で定期的に行われるアクションを指し、「日次メンテナンス」と呼ばれるクラウド・レベルで行われるアクションとは異なります。

システム・メンテナンス・プロセスは、毎日実行するよう初期化されており、オフにできません。ただし、次のシステム・メンテナンス・プロセスの実行はスキップできます。

1. ホームで、「アプリケーション」、「構成」の順に選択します。
2. 「システム設定」タブで、「サービス」を選択します。
3. 「システム・メンテナンス・プロセス」の横にある「次の実行のスキップ」を選択して、次のシステム・メンテナンス・プロセスの実行をスキップします。

ノート:

「日次メンテナンス」は、テストまたは本番環境のクラウドでの運用メンテナンスやバックアップ・スナップショットなどのアクションを指し、「ツール」、「日次メンテナンス」の順にクリックすることで使用できます。日次メンテナンスの詳細は、*Oracle Enterprise Management System 管理者のためのスタート・ガイド*の日次メンテナンスの設定を参照してください。

属性キャッシュの同期

ノート:

属性キャッシュのリフレッシュは、このアクションを実行することを Oracle サポートが推奨した場合にのみ行います。

データを迅速かつ効率的に表示するために、Account Reconciliation では属性値などのランタイム・データを含んだキャッシュが保持されます。キャッシュされたデータが実際のデータと同期しなくなると、照合リストに表示される属性値と照合アクションの属性値に不整合が発生する場合があります。「システム・メンテナンス・プロセス」の横にある「属性キャッシュのリフレッシュの次回実行」を選択して、キャッシュをリフレッシュして実際の照合データと同期させます。リフレッシュは、次の自動メンテナンス・ウィンドウの実行中に実行されます。

調整の属性値のリフレッシュ

実際の調整データと TM_ADJ_ATTRIBUTE_VAL_COL 表に格納されているデータの間で不整合が発生する場合があります。「システム・メンテナンス・プロセス」の横にある「**トランザクション照合属性表のリフレッシュの次回実行**」を選択して、TM_ADJ_ATTRIBUTE_VAL_COL 表の属性値をリフレッシュします。リフレッシュは、次の自動メンテナンス・ウィンドウの実行中に実行されます。

アプリケーションの管理モードの有効化

特定の管理タスクを実行している間、サービス管理者は、他のユーザーがアプリケーションにアクセスしないようにする必要がある場合があります。「**アプリケーションを使用可能にする対象**」を「**管理者**」に設定すると、アプリケーションへのアクセスがサービス管理者のみに制限されます。すべてのユーザーがアプリケーションにアクセスできるようにするには、「**アプリケーションを使用可能にする対象**」を「**すべてのユーザー**」に設定します。

トランザクション照合の設定

管理者は、パフォーマンスを向上させ、トランザクション照合を使いやすくする設定を構成できます。

構成可能な設定には、検索モード、未照合のトランザクションのインライン編集の有効化/無効化、およびトランザクションのページのバッチ・サイズが含まれます。

トランザクション照合の設定を構成するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」、「**構成**」の順にクリックします。
2. 「**システム設定**」タブで、「**トランザクション照合**」を選択します。
3. トランザクション照合のパフォーマンスを調整するために、「**検索モード**」を設定します。次のいずれかのオプションを選択してください。
 - **標準:** これはデフォルト設定です。
 - **並列モード:** 通常の検索が1つの照合タイプ内のすべての勘定科目を対象としている場合、このモードを使用します。
 - **完全スキャン・モード:** 通常の検索で単一勘定科目の選択が必要である場合、このモードを使用します。
4. 「未照合のトランザクション」ダイアログで編集可能な属性の値のインライン編集を可能にするには、「**インライン編集を可能にする**」を選択します。これは、すべての編集可能な属性およびすべての未照合トランザクションに対するマスター・オン/オフ・スイッチとして機能します。新規アプリケーションの場合、「**インライン編集を可能にする**」のデフォルト設定は ON です。既存のアプリケーションの場合、この設定が構成されていないときは、デフォルトは OFF のままです。
5. 「**トランザクションのページ**」セクションの「**バッチ・サイズ**」で、トランザクションのページ時に使用する必要があるバッチ・サイズを指定します。デフォルトは 200000 です。最小値は 1000 で、最大値は 200000 です。
6. 「**トランザクションのアーカイブ**」セクションの「**バッチ・サイズ**」で、アーカイブ内の1つの.csv ファイルに格納する必要がある照合済トランザクションの数を入力します。デフォルトは、500000 です。最小値は 10000 で、最大値は 1000000 です。
7. 「**トランザクションのインポート**」で、「**無効な勘定科目の無視**」を選択して、無効または未照合の勘定科目 ID を持つトランザクションがデータ・ロード中に無視されるようにし

ます。データ・ロードは成功し、インポート・ログ・ファイルにはロードされなかったトランザクションに関する警告が含まれます。

この設定を選択しない場合、無効な勘定科目 ID またはマップされていない勘定科目を持つトランザクションがロード・ファイルに含まれていると、インポートは失敗します。

8. 「スレッド・プール・サイズ」(「自動照合」の下)で、すべての自動照合プロセスにわたってシステムが並行して実行する必要がある勘定科目の数を指定します。

設定のデフォルト値は **10** です。最小値は **1** で、最大値は **32** です。デフォルト設定は、ほとんどのシナリオに適しています。Oracle サポートから勧められた場合にのみ、デフォルト値を変更してください。この値が更新された場合、変更はサービスの再起動時に有効になります。

9. 「残高のサマリー」セクションで:

- **スレッド・プール・サイズ:** 残高のサマリー再計算に対して並列で実行可能なタスク数を指定します。最小値は **2** で、最大値は **32** です。デフォルト値の **2** は、ほとんどのシナリオに適しています。Oracle サポートから勧められた場合にのみ、デフォルト設定を変更してください。この値が更新された場合、変更はサービスの再起動時に有効になります。
- **キュー最適化:** 残高のサマリー再計算タスクの送信を最適化します。このオプションはデフォルトで無効化されています。Oracle サポートから勧められた場合にのみ、デフォルト設定を変更してください。この値が更新された場合、変更はサービスの再起動時に有効になります。

5

期間の構成

プロファイルおよび照合を作成する前に期間を構成します。

次も参照:

- [期間の構成の概要](#)
期間は、照合に関連付けられ、照合の現日付を決定します。
- [期間の作成](#)
期間を手動で作成するか、インポート・ファイルを使用して複数の期間を作成できます。
- [期間のステータスの変更](#)
1つ以上の期間のステータスを同時に変更できます。
- [期間の履歴の表示](#)
期間の履歴は、この期間に実行されたアクションのサマリーを提供します。
- [期間の編集](#)
カレンダー行が選択されていて、期間が保留中またはオープンの場合は、その期間を編集できます。
- [期間の削除](#)
基本カレンダー以外のカレンダー行が選択されていて、期間が保留中またはオープンの場合、その期間は削除できます。

期間の構成の概要

期間は、照合に関連付けられ、照合の現日付を決定します。

すべての期間に、開始日、終了日およびクローズ日があります。期間には、頻度も関連付けられます。プロファイルが期間に追加される場合、その期間に関連付けられた頻度と一致する頻度を持つプロファイルのみが照合として期間に追加されます。

状況により照合を変更する必要がある場合、または管理者が更新された残高をインポートする必要がある場合、管理者は期間を再度開くことができます。

期間は、複数のカレンダー(1つの基本カレンダーと1つ以上のカスタム・カレンダー)に関連付けできます。1つの期間に対して複数のカレンダーが構成されている場合、特定のカレンダー内の期間の開始日と終了日は重複できません。ただし、カレンダー間では開始日と終了日は重複できます。

期間の定義方法

期間を定義するには、次のいずれかの方法を使用します:

- 期間を手動で構成します([期間の作成](#)を参照)
- ファイルを使用して期間を一括インポートします([ファイルからの複数期間のインポート](#)を参照)。この方法は、日次期間など、多数の期間を定義する場合に役立ちます。

期間または日次期間の大きなリストの操作

Account Reconciliation で、期間または日次期間の大きなリストを作成および管理する必要がある場合があります。次のようにすると、Account Reconciliation で複数の期間を簡単に操作できます:

- 期間の大きなリスト(たとえば、5年または10年用)を作成し、期間フィルタ機能を使用して日付、ステータスまたは頻度によってフィルタ処理します
- 日次期間の簡単な作成を許可して、日次照合をサポートします
- 手動構成を必要とするのではなく、期間の一括アップロードを許可します

期間の作成

期間を手動で作成するか、インポート・ファイルを使用して複数の期間を作成できます。

[ファイルからの複数期間のインポート](#)を参照してください

期間および組織単位にはカレンダーが割り当てられます。各期間にはデフォルトで基本カレンダーがありますが、開始日、オープン日、クローズ日および頻度の様々な構成に対応したカレンダーを管理者が追加できます。

期間を作成するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」、「期間」タブの順にクリックします。
2. 「新規」(+)をクリックし、「新規期間」ダイアログ・ボックスを開きます。
3. 「プロパティ」タブで、次の情報を入力します。

- **期間名**
- **前期間**

前期間として使用される期間を指定します。

ノート:

期間がオープンされると、前期間を変更できなくなります。

前の期間に、別の期間で前期間として参照されている期間が含まれている場合、期間を保存することはできません。期間が前期間になれるのは一度のみです。

- **カレンダー**

カレンダーには、開始日、終了日、クローズ日および頻度が含まれます。カレンダーは、「組織単位」ダイアログ・ボックスで組織単位に割り当てられます。

各期間には、デフォルトで表に追加される基本カレンダー行があり、この行の「ロック済」列にロック済アイコンが表示されます。

ロック済アイコンは、行が削除できないことを示しています。

期間は、管理者がカレンダーの開始日、終了日およびクローズ日を選択しないかぎり、保存できません。管理者は頻度を1つ以上選択する必要があります。

ファイルからの複数期間のインポート

長い期間を対象とする期間を作成する、または日次期間を作成するために、手動構成を実行するのではなく、フラット・ファイルから複数の期間をインポートできます。

期間インポート・ファイル・フォーマット

インポート・ファイル・フォーマットは次のとおりです:

- 名前 - 期間の名前。「置換」および「更新」の両方のインポート・モードに必要です。
- 前期間 - (オプション)前期間の名前。
- 開始日 - デフォルトの基本カレンダーの開始日(「置換」インポート・モードに必要)
- 終了日 - デフォルトの基本カレンダーの終了日(「置換」インポート・モードに必要)
- 頻度 - デフォルトの基本カレンダーの頻度。セミコロンで区切って複数の頻度を設定できます(たとえば、月次; 年次(「置換」インポート・モードに必要))
- カレンダー名 1 - 追加カレンダーが追加される場合はカレンダーの名前。(オプション)
- 開始日 1 - カレンダー 1 の開始日(オプション)
- 終了日 1 - カレンダー 1 の終了日(オプション)
- 頻度 1 - カレンダー 1 の頻度。セミコロンで区切って複数の頻度を設定できます(たとえば、日次; 月次(オプション))

ノート:

インポート・ファイルの作成を開始するために、正しいヘッダーを持つサンプル・ファイルを取得できるように、1つまたは2つの期間のエクスポートを実行できます。それからそのファイルへの追加を行い、それをインポートします。

日次期間のインポート・ファイルの例を次に示します:

```

1 Name, PriorPeriod, StartDate, EndDate, CloseDate, Frequency
2 "January 1 2019", "", "01/01/2019", "01/01/2019", "01/02/2019", "Monthly;Daily"
3 "January 2 2019", "January 1 2019", "01/02/2019", "01/02/2019", "01/02/2019", "Monthly;Daily"
4 "January 3 2019", "January 2 2019", "01/03/2019", "01/03/2019", "01/03/2019", "Monthly;Daily"
5 "January 4 2019", "January 3 2019", "01/04/2019", "01/04/2019", "01/04/2019", "Monthly;Daily"
6 "January 5 2019", "January 4 2019", "01/05/2019", "01/05/2019", "01/05/2019", "Monthly;Daily"
7 "January 6 2019", "January 5 2019", "01/06/2019", "01/06/2019", "01/06/2019", "Monthly;Daily"
8 "January 7 2019", "January 6 2019", "01/07/2019", "01/07/2019", "01/07/2019", "Monthly;Daily"
9 "January 8 2019", "January 7 2019", "01/08/2019", "01/08/2019", "01/08/2019", "Monthly;Daily"
10 "January 9 2019", "January 8 2019", "01/09/2019", "01/09/2019", "01/09/2019", "Monthly;Daily"
11 "January 10 2019", "January 9 2019", "01/10/2019", "01/10/2019", "01/10/2019", "Monthly;Daily"
12 "January 11 2019", "January 10 2019", "01/11/2019", "01/11/2019", "01/11/2019", "Monthly;Daily"
13 "January 12 2019", "January 11 2019", "01/12/2019", "01/12/2019", "01/12/2019", "Monthly;Daily"
14 "January 13 2019", "January 12 2019", "01/13/2019", "01/13/2019", "01/13/2019", "Monthly;Daily"
15 "January 14 2019", "January 13 2019", "01/14/2019", "01/14/2019", "01/14/2019", "Monthly;Daily"
16 "January 15 2019", "January 14 2019", "01/15/2019", "01/15/2019", "01/15/2019", "Monthly;Daily"
17 "January 16 2019", "January 15 2019", "01/16/2019", "01/16/2019", "01/16/2019", "Monthly;Daily"
18 "January 17 2019", "January 16 2019", "01/17/2019", "01/17/2019", "01/17/2019", "Monthly;Daily"
19 "January 18 2019", "January 17 2019", "01/18/2019", "01/18/2019", "01/18/2019", "Monthly;Daily"
20 "January 19 2019", "January 18 2019", "01/19/2019", "01/19/2019", "01/19/2019", "Monthly;Daily"
21 "January 20 2019", "January 19 2019", "01/20/2019", "01/20/2019", "01/20/2019", "Monthly;Daily"
22 "January 21 2019", "January 20 2019", "01/21/2019", "01/21/2019", "01/21/2019", "Monthly;Daily"
23 "January 22 2019", "January 21 2019", "01/22/2019", "01/22/2019", "01/22/2019", "Monthly;Daily"
24 "January 23 2019", "January 22 2019", "01/23/2019", "01/23/2019", "01/23/2019", "Monthly;Daily"
25 "January 24 2019", "January 23 2019", "01/24/2019", "01/24/2019", "01/24/2019", "Monthly;Daily"
26 "January 25 2019", "January 24 2019", "01/25/2019", "01/25/2019", "01/25/2019", "Monthly;Daily"
27 "January 26 2019", "January 25 2019", "01/26/2019", "01/26/2019", "01/26/2019", "Monthly;Daily"
28 "January 27 2019", "January 26 2019", "01/27/2019", "01/27/2019", "01/27/2019", "Monthly;Daily"
29 "January 28 2019", "January 27 2019", "01/28/2019", "01/28/2019", "01/28/2019", "Monthly;Daily"
30 "January 29 2019", "January 28 2019", "01/29/2019", "01/29/2019", "01/29/2019", "Monthly;Daily"
31 "January 30 2019", "January 29 2019", "01/30/2019", "01/30/2019", "01/30/2019", "Monthly;Daily"
32 "January 31 2019", "January 30 2019", "01/31/2019", "01/31/2019", "01/31/2019", "Monthly;Daily"
33 "February 1 2019", "January 31 2019", "02/01/2019", "02/01/2019", "02/01/2019", "Monthly;Daily"
34 "February 2 2019", "February 1 2019", "02/02/2019", "02/2/2019", "02/02/2019", "Monthly;Daily"
35 "February 3 2019", "February 2 2019", "02/03/2019", "02/3/2019", "02/03/2019", "Monthly;Daily"
36 "February 4 2019", "February 3 2019", "02/04/2019", "02/4/2019", "02/04/2019", "Monthly;Daily"
37 "February 5 2019", "February 4 2019", "02/05/2019", "02/5/2019", "02/05/2019", "Monthly;Daily"
38 "February 6 2019", "February 5 2019", "02/06/2019", "02/6/2019", "02/06/2019", "Monthly;Daily"
39 "February 7 2019", "February 6 2019", "02/07/2019", "02/7/2019", "02/07/2019", "Monthly;Daily"
40 "February 8 2019", "February 7 2019", "02/08/2019", "02/8/2019", "02/08/2019", "Monthly;Daily"

```

異なるカレンダーの期間インポート・ファイルの別の例を次に示します。

```

1 Name, PriorPeriod, StartDate, EndDate, CloseDate, Frequency, CalendarName1, StartDate1, EndDate1, CloseDate1, Frequency1
2 January 1 2023, December 31 2022, 01/01/2022, 01/01/2022, Quarterly;Monthly;Daily, APAC, 01/01/2022, 01/01/2022, Quarterly;Monthly;Daily
3 BadFreq, January 1 2023, 01/02/2022, 01/02/2022, 01/02/2022, Quarterly;Monthly;BadFreq, APAC, 01/02/2022, 01/02/2022, Quarterly;Monthly;Daily
4 January 3 2023, BadFreq, 01/03/2022, 01/03/2022, 01/03/2022, Quarterly;Monthly;Daily, APAC, 01/03/2022, 01/03/2022, 01/03/2022, Quarterly;Monthly;Daily
5 BadEndDate, January 3 2023, 01/04/2022, 01/03/2022, 01/04/2022, Quarterly;Monthly;Daily, APAC, 01/03/2022, 01/03/2022, 01/03/2022, Quarterly;Monthly;Daily
6 BadCloseDate, January 3 2023, 01/04/2022, 01/04/2022, 01/03/2022, Quarterly;Monthly;Daily, APAC, 01/03/2022, 01/03/2022, 01/03/2022, Quarterly;Monthly;Daily
7 Overlapping, January 3 2023, 01/02/2022, 01/03/2022, 01/03/2022, Quarterly;Monthly;Daily, APAC, 01/03/2022, 01/03/2022, 01/03/2022, Quarterly;Monthly;Daily
8 MissingFreq, January 3 2023, 01/02/2022, 01/03/2022, 01/03/2022, APAC, 01/03/2022, 01/03/2022, 01/03/2022, Quarterly;Monthly;Daily
9 BadCalendar, 02/01/2023, 02/01/2023, 01/01/2023, Quarterly;Monthly;Daily, BadCalendar, 02/01/2023, 02/01/2023, 01/01/2023, Quarterly;Monthly;Daily
10 BadCloseDate Cal2, 01/05/2023, 01/05/2023, 01/05/2023, Quarterly;Monthly;Daily, APAC, 01/05/2022, 01/05/2022, 01/04/2022, Quarterly;Monthly;Daily
11 February 31 2022, February 31 2022, 02/31/2022, 02/31/2022, Quarterly;Monthly;Daily, APAC, 01/01/2022, 01/01/2022, 01/01/2022, Quarterly;Monthly;Daily

```

ファイルからの期間のインポート

ファイルから期間をインポートするには:

1. 「ホーム」から、「アプリケーション」、「期間」の順にクリックします。「期間」ダイアログが表示されます。

2. 「インポート」



をクリックして「期間のインポート」ダイアログを表示します。

3. 「ファイル」で、インポート・ファイルに移動して選択します。

4. 次の「インポート・タイプ」のオプションのいずれかを選択します:

- 「置換」 - 新規期間を作成するか、既存の期間を更新します。次の必須列を指定する必要があります: 「名前」、「開始日」、「終了日」および「頻度」。
- 「更新」 - 更新する必要がある列のみを入力します。既存の期間の場合は、「名前」のみが必要です。更新を使用して新規期間を含める場合は、必須列を指定する必要があります(「名前」、「開始日」、「終了日」および「頻度」)。

ノート:

「期間名」と一致する既存の期間が変更されます。

5. ドロップ・ダウン・リストから「日付フォーマット」を選択します。
6. インポート・ファイルのファイル区切り文字を選択します(カンマやタブなど)。または、「その他」を選択して、任意の1文字を区切り文字として指定します。
7. 「インポート」をクリックします。エラーが発生した場合は通知されます。
8. 「OK」をクリックすると、期間および前期間構造が生成される間、進捗ダイアログが表示されます。期間の生成中はブラウザを閉じないでください。これは、期間が生成された後の期間のリストの例です。

Periods						
Search						
Start Date	End Date	Close Date	Status	Add a Filter		
No Condition	No Condition	No Condition	None Selected			
+ / - / X / Download / Upload / View						
Name	Status	Prior Period	Start Date (Base)	End Date (Base)	Close Date (Base)	
December 31 2022	⊕	December 30 2022	Dec 31, 2022	Dec 31, 2022	Dec 31, 2022	
December 30 2022	⊕	December 29 2022	Dec 30, 2022	Dec 30, 2022	Dec 30, 2022	
December 29 2022	⊕	December 28 2022	Dec 29, 2022	Dec 29, 2022	Dec 29, 2022	
December 28 2022	⊕	December 27 2022	Dec 28, 2022	Dec 28, 2022	Dec 28, 2022	
December 27 2022	⊕	December 26 2022	Dec 27, 2022	Dec 27, 2022	Dec 27, 2022	
December 26 2022	⊕	December 25 2022	Dec 26, 2022	Dec 26, 2022	Dec 26, 2022	

エクスポートを使用した複数期間の更新の実行

「エクスポート」機能を使用して、すべての期間または選択した期間をエクスポートすることもできます。Excel で開いたり保存することができる CSV ファイルが作成されます。これにより、期間を更新してから再インポートできます。

すべての期間または選択した期間をエクスポートするには:

1. 「ホーム」から「アプリケーション」、「構成」、「期間」の順に選択します。
2. 「エクスポート」をクリックします



「エクスポート」ダイアログが表示されます。

Export Export Cancel

Rows All Periods (1,461)

Selected Periods (1)



3. 「すべての期間」を選択するか、**選択した期間**を選択してエクスポートする期間を選択します。
4. 「エクスポート」をクリックします。

.csv ファイルを開くか保存するかを確認するメッセージが表示されます。

期間リストのフィルタ処理

「期間」ダイアログのフィルタを使用すると、作業する期間のみを表示できるように期間リストを絞り込むことができます。

これは、数年にわたる多数の期間を操作する場合、または日次期間を操作する場合に特に有用です。

Periods			
Search <input type="text"/>  			
Start Date	End Date	Close Date	Status
No Condition	No Condition	No Condition	All

使用可能なフィルタは次のとおりです:

- 開始日(基本カレンダーにデフォルト設定されます)
- 終了日(基本カレンダーにデフォルト設定されます)
- クローズ日(基本カレンダーにデフォルト設定されます)
- ステータス
- 最終更新日
- 最終更新者
- 作成日
- 作成者
- 前期間
- 頻度
- 名前

期間のステータスの変更

1 つ以上の期間のステータスを同時に変更できます。

期間のステータスは、照合プロセス全体を通じて変わっていきます:

- 期間は、最初は「保留中」ステータスに設定され、照合に対する作業は許可されません。
- 管理者は、ステータスを「オープン」に変更して、照合開始日に到達した後に照合に対する作業を開始できるようにする必要があります。
- 期間が終了したら、管理者は、期間を「クローズ済」に変更して、新しい照合が期間に追加されることを禁止します。ただし、照合に対する作業は継続でき、更新された残高をインポートできます。「クローズ済」ステータスは、単にどれが現在の期間かをユーザーが知るために役立ちますが、アクションを実行できなくなるわけではありません。
- 作業が完了したら、期間をロックして、照合に対する変更を禁止できます。ユーザーは、期間に照合を追加できず、照合は変更できません。また、残高をインポートできません。

1 つ以上の期間のステータスを変更するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「期間」の順に選択します。
2. 1 つ以上の期間を選択します。

3. 「ステータスの設定」ドロップ・ダウン・リストを使用し、「オープン」、「クローズ済」または「ロック済」を選択します。

期間のステータス変更のビデオを見る

ビデオを見るには、次のリンクをクリックしてください。



期間を開く

期間リストから1つ以上の期間を開くことができます。

ある期間の照合は、その期間のステータスが「オープン」になるまで「保留中」です。管理者がステータスを「オープン」に変更すると、開始日に一致する自動照合が実行されます。

照合に対して残高がロードされていないか、照合にトランザクションが含まれる場合、その照合では自動照合がスキップされ、照合ステータスは「オープン(策定者)」に変わり、策定者に通知が送信されます。

照合に対する自動照合が失敗した場合(たとえば、ゼロの残高の自動照合に対して許可された勘定科目の残高がゼロではない場合)、照合ステータスは「オープン(策定者)」に変わり、策定者に通知が送信されます。

開始日に一致する手動照合の場合、ステータスは「オープン(策定者)」になり、策定者に通知が送信されます。

1つ以上の期間を開くには:

1. 「ホーム」から「アプリケーション」、「構成」、「期間」の順に選択します。
2. 1つ以上の期間を選択します。

ノート:

期間の大きなリストで作業している場合、フィルタ・バーを使用して期間のリストを絞り込むことができます。[期間リストのフィルタ処理](#)を参照してください

3. 「ステータスの設定」ドロップ・ダウン・リストを使用し、「オープン」を選択します。

期間のクローズおよびロック

1つ以上の期間を同時にクローズまたはロックできます。

期間を閉じると、新しい照合を開始することはできませんが、処理中の照合を完了することは可能であり、データのロードロードを含め、照合に対してアクションを実行できます。

期間をロックすると、その期間の照合を変更することはできなくなります。期間をクローズすると通知は引き続き実行されますが、ロックした場合は実行されず、会計日付がロック済期間の終了日以前である「トランザクション照合」トランザクションをロードすることもできません。

 ノート:

期間の大きなリストで作業している場合、フィルタ・バーを使用して期間のリストを絞り込むことができます。

期間を閉じる

1つ以上の期間をクローズするには:

1. ホームから「アプリケーション」、「期間」の順に選択します。
2. 1つ以上の期間を選択します。
3. 「ステータスの設定」ドロップ・ダウン・リストを使用し、「クローズ済」を選択します。

期間のロック

1つ以上の期間をロックするには:

1. 「ホーム」から「アプリケーション」、「期間」の順に選択します。
2. 1つ以上の期間を選択します。
3. 「ステータスの設定」ドロップ・ダウン・リストを使用し、「ロック済」を選択します。

詳細は、トランザクション照合のロック期限とは何ですか。、ロック期限を使用する場合のその他の考慮事項およびトランザクション照合が照合を再オープンするのはなぜですか。を参照してください。

照合欠如の確認

完璧を期すために照合欠如がないか確認することは重要です。このアクションでは、特定の期間に照合があるべきすべてのプロファイルについて、照合が存在していることがダブルチェックされます。

照合欠如の原因は様々です。

- 新しいプロファイル - たとえば、特定の期間の照合が作成された後でプロファイルが作成された場合
- 必要な情報がない - たとえば、プロファイルにワークフローや通貨の情報がない場合
- 削除 - たとえば、期間からプロファイルが削除された場合
- 非アクティブ - たとえば、プロファイルに非アクティブのフラグが設定された場合。

照合欠如を確認する際、非アクティブのプロファイルは対象になりません。たとえば、株主資本を四半期ごとに照合する場合、この勘定科目は1月および2月は照合欠如として認識されませんが、3月には照合欠如とみなされます(3月が四半期の期末の場合)。

照合欠如は、プロファイルに対して照合の作成を忘れた場合に発生します。これは、期間の後半に照合が作成された後でプロファイルが追加された場合、または照合が作成されてその後削除された場合に起こります。

照合欠如を確認するには:

1. 「ホーム」から、「アプリケーション」、「期間」の順に選択し、期間を選択します。
2. 「アクション」で、「照合欠如の確認」を選択します。
3. 照合欠如を Excel で確認するには、「Excel にエクスポート」アイコンをクリックします。
4. Excel ファイルのディレクトリを選択し、「保存」、「閉じる」の順にクリックします。

照合欠如の確認に関するビデオを見るには、次のリンクをクリックしてください:



期間の履歴の表示

期間の履歴は、この期間に実行されたアクションのサマリーを提供します。

期間の履歴を表示するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」、「期間」の順に選択します。
2. 編集する期間を選択します。
3. 「編集」(鉛筆)をクリックするか、「アクション」から「編集」を選択します。
4. 「期間の編集」ダイアログの「履歴」を選択します。
5. 期間をダブルクリックして「プロファイルの編集」を開きます。
6. 「プロファイルの編集」で「履歴」タブを選択します。「履歴」タブには、選択した期間で実行されたすべてのアクションが、日付や新旧の値も含めて表示されます。

期間の編集

カレンダー行が選択されていて、期間が保留中またはオープンの場合は、その期間を編集できます。

期間を編集するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」、「期間」の順に選択します。
2. 期間を選択し、「編集」(鉛筆)をクリックするか、「アクション」メニューから「編集」をクリックします。

ノート:

多数の期間がある場合、フィルタ・バーを使用してリストを絞り込むことができます。[期間リストのフィルタ処理](#)を参照してください

「カレンダー」、「開始日」、「オープン日」、「クローズ日」および「頻度」の各チェック・ボックスが編集可能です。ただし、基本カレンダーの「カレンダー」の値は編集できません。

3. 編集します。

期間の削除

基本カレンダー以外のカレンダー行が選択されていて、期間が保留中またはオープンの場合、その期間は削除できます。

組織単位に割り当てられているカレンダーを削除しようとする、検証エラー・メッセージが表示されます。

1つ以上の期間を削除するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」、「**構成**」、「**期間**」の順に選択します。
2. 1つ以上の期間を選択し、「**削除**」(x)をクリックするか、「**アクション**」メニューの「**削除**」をクリックします。
3. 「**はい**」をクリックして、選択した期間を削除します。

6

フォーマットの定義

次も参照:

- [フォーマットについて学ぶ](#)
- [標準フォーマットの使用](#)
- [フォーマットの作成](#)
フォーマットは、照合コンプライアンスとトランザクション照合の両方に対して作成します。
- [フォーマットの削除](#)
- [フォーマット・ルールの操作](#)
- [フォーマットの指示の指定](#)
- [フォーマットの属性の追加](#)
- [フォーマットの質問の指定](#)

フォーマットについて学ぶ

照合フォーマットによってどのような照合か、および策定者とレビュー担当者が入力できる情報のタイプが決まります。照合のフォーマットは、サービス管理者が選択または設計します。

フォーマットは完全にカスタマイズ可能です。標準フォーマットのライブラリを使用できます。また管理者がカスタム・フォーマットを一から作成することもできます。

グループ照合のフォーマット

グループ照合に対するフォーマットの定義の詳細は、[グループ照合の管理者設定タスク](#)を参照してください。

フォーマットについて学習ビデオを見る

ビデオを見るには、次のリンクをクリックしてください。



フォーマットの設計について

フォーマットの設計は、そのフォーマットに基づく照合に影響します。

フォーマットの設計で次の領域の定義により照合が影響を受けます。

- 「残高のサマリー」セクションに示される情報
- 照合内に存在するトランザクションのタイプ、これらのトランザクションに関連付けられている属性、およびこれらの属性の値を編集できるユーザーを決定するルール

- 照合が完全でポリシーに準拠していることが確実にできるように設計された自動照合ルーチンおよび予防的制御などの照合に影響を与えるビジネス・ルール

フォーマットは進化するよう設計されています。1 セットのフォーマットから始め、時間の経過とともにビジネスが変化したり、新しいリスクまたは別のリスクに気付いたときにフォーマットを変更することができます。毎月勘定科目プロファイルから照合が作成される時、既存のフォーマットのスナップショットが作成されます。スナップショットのコピーでは、照合とともに履歴フォーマットが保持されます。フォーマットの設計を変更した場合、過去の照合は作成時とまったく同様に表示されます。

照合コンプライアンスのフォーマットについて

照合コンプライアンスのすべてのフォーマットは、「勘定科目分析」、「残高の比較」または「差異分析」という3つの方法のいずれかに基づいています。

照合コンプライアンスのフォーマット

- 「**勘定科目分析**」方法は、比較対象の残高がない勘定科目に使用します。策定者が前払費用、経過勘定、準備金、無形資産などの期末残高を構成する項目のリストを照合に入力することで、勘定科目残高を正当化します。このトランザクションのリストを「**説明付き残高**」と呼びます。**説明なし差異**が存在する場合、策定者は、「**説明付き残高**」タブと「**調整**」タブを使用して、説明なし差異をゼロにするために調整を記録します。
- 「**残高の比較**」方法では、残高を補助元帳、銀行残高証明書、レポートやその他の外部システムなどの別のソースの残高と比較し、残高が正当に照合されているとします。策定者がこのフォーマットを使用して勘定科目を照合する場合、**ソース・システムの残高**、**サブシステムの残高**およびその2つの残高の**差異**が表示されます。差異が存在する場合、策定者は、「**システムの調整**」タブまたは「**サブシステムの調整**」タブで調整を記録する必要があります。システムで、**ソース・システムに対する調整**および**調整済のソース・システム残高**が計算され、一方を他方から差し引いて説明なし差異が計算されます。
- 「**差異分析**」方法は、特定のしきい値を超えた場合に残高変動がモニタリングおよび説明されるようにします。「差異分析」は、前月比や前四半期比など、複数期間の残高を比較します。策定者は、このフォーマットを使用して勘定科目を照合する場合に、差異金額の説明を提供し、レビュー用に送信します。上位レベルでは、パワー・ユーザーまたは管理者はこの情報をロールアップするサマリー照合を参照できます。

Note:

差異分析では、「説明なし差異」は「現在の期間残高」から「差異の期間残高」および「差異の説明」を引くことで計算されます。

方法	フォーマット名
勘定科目分析	<ul style="list-style-type: none"> • 経過勘定 • 流動資産 • 流動負債 • 資本 • 無形資産 • 投資 • 非流動資産 • 非流動負債 • 前払費用 • ゼロ残高口座
残高の比較 * サンプル・アプリケーションの使用によってのみ 使用可能	<ul style="list-style-type: none"> • 買掛金 • 売掛金 • 資産 - その他* • 銀行勘定突合 • 建物と土地 • 減価償却 • 固定資産 • 在庫 • TM 会社間* • 追跡専用 • 照合アイテムによる追跡
差異分析 * サンプル・アプリケーションの使用によってのみ 使用可能	<ul style="list-style-type: none"> • 月次差異分析 • 四半期差異分析*

トランザクション照合のフォーマットについて

トランザクション照合のすべてのフォーマットは、「**勘定科目分析(トランザクション照合あり)**」、「**残高の比較(トランザクション照合あり)**」または「**トランザクション照合のみ**」という3つの方法のいずれかに基づいています。

トランザクション照合のフォーマット

- 「**勘定科目分析(トランザクション照合あり)**」方法は、たとえば借方と貸方の照合など、1つのデータ・ソース内のトランザクションを照合するために使用されます。
- 「**残高の比較(トランザクション照合あり)**」方法は、ソース・システムとサブ・システム間でトランザクションを照合します。
- 「**トランザクション照合のみ**」方法が使用されるのは、トランザクション照合のみを使用し、期末の照合を使用しない場合です。

フォーマットの詳細は、[フォーマットの作成](#)および[標準フォーマットの使用](#)を参照してください。

フォーマットを使用したファイル・アップロードの防止について

サービス管理者は、フォーマットレベルの設定を使用して、フォーマットに関連付けられている照合にファイルをアップロードできるかどうかを制御できます。

フォーマットに関連付けられた照合へのファイル・アップロードを防止するには、フォーマットの作成または編集時に、「**ファイル・アップロードの防止**」を選択します。

関連するフォーマットでファイル・アップロードが防止されていても、ユーザーは、次のシナリオではファイルを照合にアップロードできます：

- 現在の期間の照合にファイル添付、ファイル添付付きのコメント、およびファイル添付付きのトランザクションが含まれ、次の期間に繰り越されるように設定されています。続いて、それらの照合に関連付けられたフォーマットで、「**ファイル・アップロードの防止**」オプションが選択されます。

この場合、「**ファイル・アップロードの防止**」を選択していても、既存の照合の添付は、照合が次の期間に作成されるときに繰り越されます。

- 「**ファイル・アップロードの防止**」が選択されているフォーマットに基づいて設定されているサマリー照合について考えてみます。一部のサマリー照合の子勘定科目は、同じ方法を使用しているが「**ファイル・アップロードの防止**」オプションは選択されていない別のフォーマットに属しています。この場合、「**ファイル・アップロードの防止**」が選択されていないフォーマットを使用している子勘定科目のトランザクションに、ファイル添付を追加できます。その後、サマリー照合で生成が実行されると、ファイル添付付きのトランザクションはサマリー照合にプルされます。

フォーマットの変更または削除の制限

フォーマットの更新または削除時に、特定の制限が適用されます。

- フォーマットは、既存の照合では変更できません。最初に照合を削除し、プロファイルのフォーマットを変更してから、変更したプロファイルを期間にコピーします。システムで、**ソース・システムに対する調整**および**調整済のソース・システム残高**が計算され、一方を他方から差し引いて説明なし差異が計算されます。**説明なし差異**が存在する場合、策定者は、「**説明付き残高**」タブと「**調整**」タブを使用して、説明なし差異をゼロにするために調整を記録します。
- プロファイルに割り当てられているフォーマットは削除できません。フォーマットをプロファイルから除外し、その後で削除します。照合に割り当てられているフォーマットは削除できます。照合が参照しているのは、フォーマット自体ではなく、フォーマットのスナップショットです。
- フォーマットの「概略」は、必須フィールドであり、依存関係のある照合内にナビゲーション・リンクがあるため、削除できません。必要に応じて名前の変更はできますが、削除はできません。

標準フォーマットの使用

構成の時間を節約できるようサンプル・フォーマットが提供されます。どの標準フォーマットも編集したり、削除できます。

照合コンプライアンスのフォーマット

標準フォーマットは勘定科目タイプ・レベルで作成されており、買掛金、売掛金、経過勘定などの一般的な勘定科目タイプが含まれています。

勘定科目タイプ別のフォーマット以外に、追跡専用のフォーマットも2つあります。これらのフォーマットは、まだ Microsoft Excel ベースで作業が行われており、結果が追跡用にアップロードされる照合に使用できます。

- 追跡専用フォーマットでは、スプレッドシートのアップロードのみ行えます。
- 照合アイテム付き追跡フォーマットでは、スプレッドシートのアップロードおよび照合アイテムの記録がサポートされます。この方法は、照合アイテムのすべての照合にわたる重要性についてレポートする場合に有用です。

「方法」列には、フォーマットで「残高の比較」方法、「勘定科目分析」方法、「差異分析」方法のどれが使用されるかが示されます。

- 「残高の比較」方法は、残高が別の残高と比較して検証される勘定科目に適しています。
- 「勘定科目分析」方法では、策定者が残高について説明するか、正しいとする理由を示す必要があります。
- 「差異分析」方法では、策定者が期間の残高間の差異を説明または正当化する必要があります。

前期間残高およびネット・アクティビティは標準フォーマットでは表示されません。この情報を表示する必要があるポリシーまたはプリファレンスの場合、「非表示」チェック・ボックスをクリアしてこの構成を変更します。

ソース・システム調整、サブシステム調整、説明付き残高などの照合トランザクションの設計は簡略化されています。これらの構成を確認し、必要に応じてポリシーおよびプリファレンスに合うよう変更します。

トランザクション照合のフォーマット

フォーマットは、「トランザクション照合」の「照合タイプ」と関連付けられており、フォーマットを定義し、さらにプロファイルを定義するには、前もって「照合タイプ」を作成しておく必要があります。

「トランザクション照合」で使用できる3つのフォーマット方法があります。

- 「残高の比較(トランザクション照合あり)」方法は、残高が別の残高と比較して検証される勘定科目に適しています。
- 「勘定科目分析(トランザクション照合あり)」方法では、策定者が残高について説明するか、正しいとする理由を示す必要があります。
- 「トランザクション照合のみ」方法が使用されるのは、期末の照合を使用しないが、トランザクションを照合する必要がある場合です。

標準フォーマットの使用のビデオを見る

ビデオを見るには、次のリンクをクリックしてください。



フォーマットの作成

フォーマットは、照合コンプライアンスとトランザクション照合の両方に対して作成します。

次も参照:

- [照合コンプライアンスの新規フォーマットの作成](#)
- [トランザクション照合での新規フォーマットの作成](#)
- [照合コンプライアンス・トランザクションの構成](#)
照合コンプライアンスでのトランザクションの管理方法を設計します。

照合コンプライアンスの新規フォーマットの作成

照合コンプライアンスのカスタマイズ済フォーマットを新規作成するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」、「フォーマット」の順にクリックします。
2. 「新規」(+)をクリックします。
3. 「プロパティ」タブで、次の情報を入力します:
 - 名前
 - 説明
 - 方法

- **勘定科目分析** — 「ソース・システムの期首残高」および「ネット・アクティビティ」により、勘定科目に対し最後に実行された照合からの勘定科目の変更を測定できます。

総勘定元帳の残高は、期末残高を構成するトランザクションのリスト処理を通じて実証できます。トランザクションのリストは、**説明付き残高**と呼ばれ、**総勘定元帳残高**と比較されます。**差異**が存在する場合、策定者は、「説明付き残高」タブと「調整」タブを使用して、説明なし差異をゼロにするために調整を記録します。勘定科目の例には、前払費用、経過勘定、準備金、無形資産などがあります。高品質な勘定科目分析を実行するためのポイントは、説明付き残高トランザクションのリストに、すべてのアイテムを適切に説明する十分な詳細が含まれていることです。

- **残高の比較** - 総勘定元帳の残高を別のソースの残高と比較して実証できます。このソースは、補助元帳、銀行取引明細、システム・レポート、複雑な計算を含むスプレッドシートなどです。

策定者がこのフォーマットを使用して勘定科目を調整する場合、**ソース・システムの残高**、**サブシステムの残高**およびその 2 つの残高の**差異**が表示されます。差異が存在する場合、策定者は、「システムの調整」タブまたは「サブシステムの調整」タブで調整を記録する必要があります。

その後、システムで、**ソース・システムに対する調整**および**調整済のソース・システム残高**が計算され、これら 2 つを差し引いて**説明なし差異**が計算されます。

「ラベル」列で、わかりやすい名前を割り当てます。

照合から行を除外するには、「非表示」を選択します。たとえば、サブシステムの残高に間違いが発生しないことが確実な場合、「プロパティ」タブで、「サブシステムに対する調整」および「調整済のサブシステム残高」を非表示にして、ユーザーがこれらのタイプのトランザクションを追加することを防止します。

- **差異分析** - 特定の期間について、「残高のサマリー」が前の期間の残高と比較され、2つの間の差異には説明が必要です。「説明なし差異」が計算されます

差異分析の場合、説明なし差異 = 現在の期間残高 - 差異の期間残高 - 差異の説明です

策定者がこのフォーマットを使用して勘定科目を照合する場合に、「現在の期間残高」、「差異の期間残高」および2つの間の「差異」が表示されます。差異がある場合、策定者は説明を提供する必要があります。

- 「勘定科目 ID の表示形式」オプションを選択します。

- 連結文字列
- 個々のセグメント

- 説明なし差異がゼロであることが必要

選択した照合方法に応じて、照合では「説明なし差異」が次のように計算されます。

- **勘定科目分析フォーマットの場合:** ソース・システムの残高 - 説明付き残高 - 調整
- **残高比較フォーマットの場合:** ソース・システムの残高 - サブシステムの残高 - ソース・システムに対する調整 - サブシステムに対する調整
- **差異分析フォーマットの場合:** 「現在の期間残高」から「差異の期間残高」と「調整」を引きます。

管理者は、フォーマットで説明なし差異が 0 であることが必要かどうかを指定できません。その場合、策定者は、ソース・システムの残高と説明付き残高(サブシステムの残高)の差異全体に対して調整が作成されるまで、レビュー用に照合を送信できません。

- 「ファイル・アップロードの防止」を選択し、ユーザーがこのフォーマットに関連付けられている照合にファイルをアップロードできないようにします。これには、照合、トランザクションおよびアクション・プランへの、添付またはコメントとしてのファイルのアップロードが含まれます。ファイルをリンクとして添付することは許可されていないことに注意してください。

[フォーマットを使用したファイル・アップロードの防止について](#)を参照してください。

- [照合コンプライアンス・トランザクションの構成](#)の説明に従って、照合コンプライアンス・トランザクションを構成します。

トランザクション照合での新規フォーマットの作成

トランザクション照合の新規カスタマイズ済フォーマットを作成するには

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」、「フォーマット」の順にクリックします。
2. 「新規」(+)をクリックします。
3. 「プロパティ」タブで、次の情報を入力します:
 - 名前
 - 説明

- **方法**
 - **勘定科目分析(トランザクション照合あり)**
 - **残高の比較(トランザクション照合あり)**
 - **トランザクション照合のみ** — 期末の照合を使用しない場合は、この方法を使用します。
- **「勘定科目 ID の表示形式」** オプションを選択します。
 - **連結文字列**
 - **個々のセグメント**
- ドロップ・ダウン・リストから **「照合タイプ」** を選択します。フォーマットは照合タイプとリンクする必要があります。ドロップ・ダウン・リストにはフォーマットの方法に基づいて次の照合タイプが含まれます。
 - **「勘定科目分析(トランザクション照合あり)」** フォーマットでは、「ソース・システム」ソースのみを含む「照合タイプ」がリストされます。
 - **「残高の比較(トランザクション照合あり)」** フォーマットでは、「ソース・システム」ソースと「サブシステム」ソースの両方を含む「照合タイプ」がリストされます。
 - **「トランザクション照合のみ」** フォーマットでは「照合タイプ」がリストされます。
- **説明なし差異がゼロであることが必要**
 選択した照合方法に応じて、照合では **「説明なし差異」** が次のように計算されます。
 - **「勘定科目分析(トランザクション照合あり)」** フォーマットの場合: ソース・システムの残高 - 説明付き残高 - 調整
 - **「残高の比較(トランザクション照合あり)」** フォーマットの場合: ソース・システムの残高 - サブシステムの残高 - ソース・システムに対する調整 - サブシステムに対する調整。

管理者は、フォーマットで説明なし差異が0であることが必要かどうかを指定できます。その場合、策定者は、ソース・システムの残高と説明付き残高(サブシステムの残高)の差異全体に対して調整が作成されるまで、レビュー用に照合を送信できません。

 **Note:**

「説明なし差異がゼロであることが必要」 は「トランザクション照合のみ」のフォーマットでは使用できません。また、設定が適用できるのは、策定者によって照合が手動で送信される場合のみです。自動照合か自動送信、および自動承認ルールに対しては適用されません。

- **「ファイル・アップロードの防止」** を選択し、ユーザーがこのフォーマットに関連付けられている照合にファイルをアップロードできないようにします。これには、照合、トランザクションおよびアクション・プランへの、添付またはコメントとしてのファイルのアップロードが含まれます。ファイルをリンクとして添付することは許可されていないことに注意してください。

[フォーマットを使用したファイル・アップロードの防止について](#)を参照してください。

- (オプション)照合コンプライアンス・トランザクションの構成の説明に従って、このフォーマットに照合コンプライアンス・トランザクションを構成します。

 **Note:**

トランザクション照合方法に基づくフォーマットの場合、「システムの調整」および「サブシステムの調整」タブはデフォルトで非表示になっています。ビジネスでこれらの属性を構成する必要がある場合、「残高のサマリー」タブの「ソース・システムに対する調整(タブ)」列および「サブシステムに対する調整(タブ)」列の「非表示」の選択を解除します。

照合コンプライアンス・トランザクションの構成

照合コンプライアンスでのトランザクションの管理方法を設計します。

トランザクションの構成の一部として、次のことができます：

- 調整および説明に対するカスタム属性の追加
- 属性を表示または編集できるユーザーを含めて、属性がどのように動作する必要があるかの指定
- アクション・プランおよびトランザクションのルールの定義

この構成は照合コンプライアンス・トランザクションで使用されます(トランザクション照合ベースの方法を使用するフォーマットの場合でも)。

フォーマットの作成ダイアログおよび「フォーマットの編集」ダイアログの「プロパティ」タブに、トランザクションを構成するための一連のタブが表示されます。これらのタブの数および名前は、フォーマットで使用される方法によって異なります。「残高のサマリー」タブはすべてのフォーマットに対して表示されます。残りのタブの名前は使用されるフォーマットによって異なりますが、次のセクションが含まれています：トランザクションの詳細、アクション・プランおよびルール。

 **Note:**

トランザクションの構成は、「トランザクション照合のみ」方法を使用するフォーマットには適用されません。

残高のサマリー

「ラベル」列を使用して、残高属性にわかりやすい名前を割り当てます。これらのラベルは、照合の「残高のサマリー」セクションに表示されます。照合から属性を除外するには、「非表示」を選択します。たとえば、サブシステムが銀行の残高を表すとします。銀行の残高を調整することはできないため、「サブシステムに対する調整」を非表示にして、ユーザーがこれらのタイプのトランザクションを追加することを防止できます。

 **Note:**

列を非表示にするために選択するとき、計算が列に含まれているため、サブシステム側の全体を非表示にしないでください。または、勘定科目分析ベースのフォーマットが、かわりに使用される「説明なし差異」である必要があります。

Edit Format [Accounts Payable] Save Save and Close Cancel

Properties | Instructions | Attributes | Questions | Rules | History

Name: Accounts Payable

Description: This format has been customized for Action Plans and Enterprise Journals.

Method: Balance Comparison

Display Account ID As: Concatenated String

Require 0 unexplained difference

Group Reconciliation

Prevent File Upload

Balance Summary | System Adjustments | Subsystem Adjustments

Column	Label	Hide
Source System (Column)	General Ledger Balance	
Subsystem (Column)	AP Subledger Balance	<input type="checkbox"/>
Adjustments to Source System (Tab)	Adjustments to General Ledger	<input type="checkbox"/>
Adjustments to Subsystem (Tab)	Adjustments to AP Subledger	<input type="checkbox"/>
Beginning Balance	Beginning Balance	<input checked="" type="checkbox"/>
Group Detail (Tab)	Group Detail	<input checked="" type="checkbox"/>
Net Activity	Net Activity	<input checked="" type="checkbox"/>
Ending Balance	Ending Balance	<input type="checkbox"/>
Difference	Difference	<input type="checkbox"/>
Adjustments	Adjustments	<input type="checkbox"/>
Adjusted Balance	Adjusted Balance	<input type="checkbox"/>
Unexplained Difference	Unexplained Difference	<input type="checkbox"/>

トランザクションの詳細

システム管理者は、「償却/増価を可能にする」オプションを使用して、ユーザーがトランザクションを償却できるかどうかを制御できます。つまり、ユーザーはかわりに、GL に正しく転記し、翌月に「残高の説明」タブでのみ償却します。このオプションは、「差異分析」方法を使用するフォーマットには使用できません。

デフォルトでは、次の属性が使用可能です: 概略、トランザクション日、クローズ日および長い説明。追加の属性が必要な場合は、「追加」をクリックして属性を作成します。これらの属性は通常、調整に使用され、Oracle ERP Cloud などのターゲット・システムに転記できます。たとえば、Account Reconciliation をエンタープライズ仕訳と

統合して属性をマップする場合、エンタープライズ仕訳はこれらの属性を選択して仕訳を作成し、その仕訳を Oracle ERP Cloud に転記します。

指定したフィルタ条件に基づいて属性へのアクセス権を制限することもできます。属性を選択し、「**編集**」をクリックし、「ルール」タブを使用して役割ベースのアクセス権を指定します。たとえば、「クローズ日」について、「ルール」タブに移動し、レビュー担当者に「**編集を許可**」アクセス権を指定する「**属性アクセスの設定**」ルールを追加します。ルールの作成時にフィルタ条件を追加することもできます。

アクション・プラン

「**アクション・プランの表示**」を選択して、アクション・プランの使用を有効にします。デフォルトのアクション・プランのセットがあり、独自のプランを追加できます。

通常、アクション・プランは調整に対して作成されます。それらを使用して、Oracle ERP Cloud など、他のシステムへの Account Reconciliation 照合データの転記を管理できます。

ルール

ルールを作成して、このタブで作成された調整または説明の動作を管理できます。使用可能なルールは次のとおりです：

- 前の照合からトランザクションをコピー
- トランザクション保存の防止
- トランザクション添付が必要
- トランザクション削除の防止
- 金額編集の防止

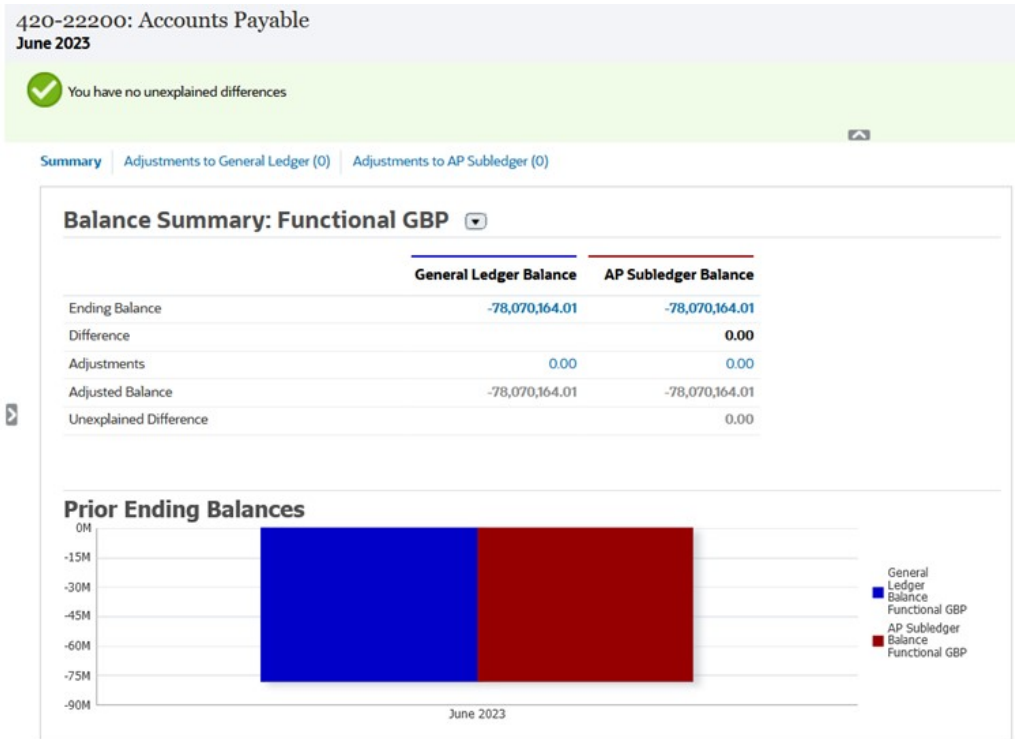
これらのタブを使用して、照合コンプライアンス・トランザクションのルールのみを定義できることに注意してください。これらのルールはフォーマットに表示されます。フォーマットの作成ダイアログまたは「フォーマットの編集」ダイアログの「ルール」タブを使用して作成されたルールは、照合に適用され、ロック記号とともにプロファイルに表示されます。

ルールの詳細は、[自動照合およびルールの優先順位](#)を参照してください。

構成済トランザクションおよび照合のサマリー・ダイアログ

照合コンプライアンス・トランザクションに指定された設計が、このフォーマットを使用する照合の照合のサマリー・ダイアログで使用されます。

「残高のサマリー」タブで指定されたラベルは、照合のサマリー・ダイアログの「サマリー」タブで使用されます。



同様に、フォーマットの調整または説明タブで定義された属性は、照合のサマリー・ダイアログの対応するタブに表示されます。

フォーマットの削除

プロファイルに割り当てられているフォーマットは削除できません。フォーマットをプロファイルから除外し、その後で削除します。照合に割り当てられているフォーマットは削除できます。照合が参照しているのは、フォーマット自体ではなく、フォーマットのスナップショットです。

フォーマットを削除するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」、「フォーマット」の順にクリックします。
2. フォーマットを選択して「削除」をクリックします。
3. 「フォーマット(NAME)を削除しますか。」という質問に対して「はい」をクリックします。

フォーマット・ルールの操作

フォーマット・ルールは、照合ワークフロー、照合添付の要件、またはプロファイル属性/照合属性の値に影響します。ルールはプロファイル・ルールタブに読み取り専用形式で表示されます。

附随する照合がすでに存在する場合にのみ、ルールはトランザクション条件のみを評価します。

使用可能なルール:

自動照合およびルールの優先順位を参照してください。

- **照合の自動承認** - 指定された条件を満たしている場合にのみ、指定された承認が自動的に完了します。

このルールに適用される条件の例:

- 残高が指定の範囲外にある場合。
- 残高が指定された金額または割合を超えて、いくつかの前期間から変動する場合。
- 前の照合に、指定の基準を満たすトランザクションまたはその他の条件がある場合。
- 属性に指定の値がある場合(計算済属性を含む)。

条件を満たすと、指定のレビュー担当者レベルが完了としてマークされ、ワークフローが次のレベルに進むか、他に確認レベルがない場合はワークフローがクローズ済になります。

このルールは再実行できます。

フォーマットまたはプロファイル・ルールによってどの役割が自動的に完成されるかをモニターするには、次のステップを実行します。

1. 「照合」画面から、「アクション」、「列の選択」の順にクリックします
2. ルールが自動的に実行され、照合が送信されたことを示す場合は、「自動送信済」を選択します。
3. その役割を自動的に完成するためにルールが使用されたことを示す場合は、「自動承認済(レベル 1)」を選択します。

たとえば、「説明なし差異」が 0.00 の際は自動承認するようにレビュー担当者 1 役割のルールを設定済の場合、「自動承認済(レベル 1)」と呼ばれる列は、その役割を自動的に完成するためにルールが使用されたことを示します。ただし、自動照合方法を使用して自動的に照合された照合は、照合が自動照合されたかどうか、そしてどの自動照合方法が使用されたかを示す別の列としてそのまま残されます。

- **照合の自動送信** - 指定された条件を満たしている場合にのみ、照合を自動的に送信します。調整ステータスがオープン(レビュー担当者)に変更されたときに実行されます。

このルールに適用される条件の例:

- 残高が指定の範囲外にある場合。
- 残高が指定された金額または割合を超えて、いくつかの前期間から変動する場合。
- 前の照合に、指定の基準を満たすトランザクションまたはその他の条件がある場合。
- 属性に指定の値がある場合(計算済属性を含む)。

条件を満たすと、指定のレビュー担当者レベルが完了としてマークされ、ワークフローが次の確認レベルに進むか、他に確認レベルがない場合はワークフローがクローズ済になります。

このルールは再実行できます。

- **照合承認の防止** - 属性値または他の特性に基づいて、照合が承認されないようにします。
- **照合送信の防止** - 属性値または他の特性に基づいて、照合が送信されないようにします。
- **照合添付が必要** - 照合の主要添付セクションに添付が追加されていない場合に照合が送信されないようにします。属性値、またはどのような場合に添付が必要になるかを指定する他の特性に基づいて、条件が設定されます。

例: 期間の頻度に基づいて策定者期間を設定します。ルール構成でサポートされる値設定のタイミング: プロファイルが期間にコピーされる前。

- **照会却下の防止** - 特定の条件下でレビュー担当者による却下を阻止します。このルールは、レビュー担当者が「**却下**」をクリックすると実行されます。
- **更新時に電子メールを送信** - 特定の条件が満たされて照会が保存されたときに電子メールが送信されます。

 **ノート:**

このルールは、属性の設定など照会に対する操作を行うと実行されるよう設計されます。日付のリセットなどの「**アクション**」ダイアログ以外で行われる照会に対する操作では実行されません。

- **属性値の設定** - ルール定義で指定されている条件に基づいて、属性値を指定の値に設定します。このルールを使用すると、標準属性に対してルールを構成できます。このルールは再実行できます。
- **アラートの作成** — ルール定義の指定に従って、アラートを作成し、割り当てます。

フォーマット・ルールを操作するには:


1. ホームから「**アプリケーション**」、「**構成**」、「**フォーマット**」の順にクリックします。
2. フォーマットをダブルクリックします。
3. フォーマットの編集で「**ルール**」タブを選択します。次の情報を表示できます:
 - **順序** - 優先順位。 [自動照会およびルールの優先順位](#)を参照してください
 - **ルール** - ルールの名前。
 - **条件** - ルールを実行する前に存在している必要がある条件の選択。
4. ルールの作成、編集、複製、削除または並替えを行うには、「ルール」タブで適切なボタンをクリックし、必要に応じて次の項目を更新します。
 - **ルール** - ルールを選択します。
 - **説明**—オプション。ルールを構成した理由と、ルールの使用方法を説明します。
 - **メッセージ**(一部のルールについて):
 - **策定者へのメッセージ** - 照会送信の防止ルールおよび照会添付が必要ルールでの策定者へのオプションのメッセージを定義します。
 - **レビュー担当者へのメッセージ** - 照会承認の防止ルールでの策定者へのオプションのメッセージを定義します。
 - **レビュー担当者レベル** - 「**すべてのレベル**」を選択してすべてのレビュー担当者レベルにルールを適用するか、特定のレビュー担当者レベルを個別に選択します。1つ以上のレビュー担当者レベルを選択する必要があります。
 - 「**フィルタの作成**」を選択して条件セクションに移入するか、「**保存済フィルタの使用**」を選択してからフィルタを選択します。ルールに対して選択および構成するフィルタによって、ルールの適用をトリガーする条件が決まります。
 - **条件** -

- 「**保存済フィルタの使用**」を選択した場合、「条件」セクションに保存済フィルタに関連付けられた条件の読取り専用バージョンが表示されます。
- 「**フィルタの作成**」を選択した場合、「条件」セクションが有効になります。
「組合せ」、「ソース」、「属性」、「演算子」および「値」は、既存の高度なフィルタ機能の場合と同様に動作します。フィルタを作成する際は次の属性を使用できません。
 - * 照合およびトランザクション属性として分類される計上属性を含む、あらゆる照合またはトランザクション属性
 - * 期間頻度

 **ノート:**

ルール定義を変更すると、追加情報が監査ログに追加されます。「履歴」タブと監査レポートの両方に変更を表示できます。

ルールを含むフォーマットの使用に関するビデオを見るには、次のリンクをクリックして

ください: 

自動照合およびルールの優先順位

このトピックでは、自動照合とルールの実行時の優先順位について説明します。処理順序の概要は次のとおりです。

1. 自動照合方法 - **プロファイルの作成**の自動照合方法を参照してください
2. 3つの自動照合方法(アクティビティなし、残高が範囲内、残高が範囲内でアクティビティなし)によってクローズされた照合、前の照合からのトランザクション/コメントのコピー
3. ルールの実行
 - a. トランザクション・ルールのコピー
 - b. 属性ルールの設定(該当する場合)
 - c. ルールの自動送信/承認

優先ルールの順序

Oracle Account Reconciliation でのルールの正常な実行によって、後のルールが呼び出されなくなる可能性があります。たとえば、自動照合ルールを照合に割り当てて、自動照合が成功した場合は、「送信」機能に関連付けられたルール(照合添付の要求など)が呼び出されなくなります。

表 6-1 優先ルールの順序

ルール	ルール・タイプ	実行する条件	優先順位のノート
照合の自動承認	フォーマット/プロファイル・ルール	<p>オープン(レビュー担当者)への照合ステータス変更。</p> <p>データ・ロードの後処理で、データ・ロード・プロセスの結果満たされる可能性のある残高条件にルールに基づいているケースを処理する場合。</p> <p>このルールは、「ルールの実行」メニューの「アクション」を使用して再実行できます。</p> <p>自動承認ルールは、自動送信ルールがあるかどうかに依存します。たとえば、照合が次のような場合に実行されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> データ・ロードの前にクローズされ、新しいデータまたは変更されたデータのために再オープンされ、自動送信ルールによって照合が「承認者」ステータスになった場合 オープンしているが、照合のためのトランザクションが入力またはインポートされておらず、自動送信ルールによって照合が「承認者」ステータスになった場合 	<p>複数の自動承認ルールが構成されている場合、なんらかのルールが成功すると照合が自動的に承認されます。</p>
照合の自動送信	フォーマット/プロファイル・ルール	<p>「保留中」から「オープン(策定者)」への照合ステータス変更</p> <p>データ・ロード後の処理時に、自動送信ルールを実行するための基準は、照合が次のような場合です:</p> <ul style="list-style-type: none"> データ・ロードの前にクローズされ、新規または変更されたデータのために再オープンされた場合 オープンしているが、照合のためにトランザクションが入力またはインポートされていない場合 <p>このルールは、「ルールの実行」メニューの「アクション」を使用して再実行できます。</p>	<p>照合の自動送信ルールが評価される前にトランザクションのコピールールが処理されます。</p>

表 6-1 (続き) 優先ルールの順序

ルール	ルール・タイプ	実行する条件	優先順位のノート
<p>トランザクションのコピー</p> <p>ユーザーによって実行された前の照合からトランザクションをコピーすると、同じプロファイルに対応します。</p> <p>このコピー機能は、「前の照合からトランザクションをコピー」ウィンドウと同じように動作します。コピー対象の前の照合からのトランザクション、トランザクション添付およびトランザクション・コメントは、設定された条件に基づいて選択されます。</p> <p>ノート: 前の照合からのトランザクションのコピーは、サマリー照合には許可されていません。</p>	<p>フォーマット・トランザクション・ルール</p>	<p>このルールは次の場合に実行されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> 照合のステータスが「保留中」から「オープン(策定者)」に変更されます。 ステータスが「保留中」の照合に残高がロードされます。 <p>このルールは、「ルールの実行」メニューの「アクション」を使用して再実行できます。</p>	<p>照合の自動送信ルールが評価される前にトランザクションのコピールールが処理されます。</p>
<p>金額編集の防止</p>	<p>フォーマット・トランザクション・ルール</p>	<p>策定者が「トランザクションの詳細」ダイアログ・ボックスにアクセスする場合。</p>	<p>ルールに関連付けられた条件が満たされている場合、策定者がアプリケーションからトランザクション金額を編集することはできません(金額属性が無効であり、計上金額に対する上書き機能もすべて無効になっています)。また、インポート検証により、インポートを介した金額の編集はできません。</p>
<p>照合承認の防止</p>	<p>フォーマット/プロファイル・ルール</p>	<p>承認者が「承認」をクリックします</p>	<p>承認者が「承認」をクリックするとルールがトリガーされます。任意の順序で評価できます。いずれかのルールが成功した場合は承認機能は使用できません。</p>

表 6-1 (続き) 優先ルールの順序

ルール	ルール・タイプ	実行する条件	優先順位のノート
照合送信の防止	フォーマット/プロファイル・ルール	策定者が「送信」をクリックします。	策定者が「送信」をクリックするとルールがトリガーされます。任意の順序で評価できます(順序は関係ありません)。いずれかのルールが成功した場合は送信機能が防止されます。
照合却下の防止	フォーマット/プロファイル・ルール	レビュー担当者が「却下」をクリックします。	ユーザーが特定のフィールドに入力していないかぎり、ルールによって却下が阻止されます。策定者に修正方法の詳細が提供されます。
トランザクション削除の防止	フォーマット・トランザクション・ルール	策定者はトランザクションの「削除」をクリックします。	策定者が「削除」をクリックするとルールがトリガーされます。任意の順序で評価できます。いずれかのルールが成功した場合は削除機能が防止されます。
トランザクション保存の防止	フォーマット・トランザクション・ルール	策定者がトランザクションの「保存」をクリックします	策定者がトランザクションの「保存」をクリックするとルールがトリガーされます。任意の順序で評価できます(順序は関係ありません)。いずれかのルールが成功した場合は送信機能が防止されます。
トランザクションの添付が必要	フォーマット・トランザクション・ルール	策定者がトランザクションの「保存」をクリックします	策定者がトランザクションの「保存」をクリックするとルールがトリガーされます。任意の順序で評価できます。いずれかのルールが成功した場合は送信機能が防止されます。
照合添付が必要	フォーマット/プロファイル・ルール	策定者が「送信」をクリックします	策定者が「送信」をクリックするとルールがトリガーされます。任意の順序で評価できます。いずれかのルールが成功した場合は送信機能が防止されます。

表 6-1 (続き) 優先ルールの順序

ルール	ルール・タイプ	実行する条件	優先順位のノート
更新時に電子メールを送信	フォーマット/プロファイル・ルール	ユーザーが照合の属性を更新し、あらかじめ存在する条件が満たされます。	ユーザーが「照合」ダイアログで属性値を更新し、このルールに関連付けられている特定の条件が満たされた場合にルールがトリガーされません。
属性値の設定	フォーマット/プロファイル・ルール	<p>「実行時期」 属性の構成に準拠:</p> <p>プロファイル属性: プロファイルが期間にコピーされる前。</p> <p>このルールは、「ルールの実行」メニューの「アクション」を使用して再実行できます。</p> <p>フィルタ条件の期間を参照するルールは、(プロファイルまたは期間から)照合を作成する際に実行されません。そのようなルールは、照合の作成後に、「アクション」の下の「ルールの実行」オプションを使用して実行する必要があります。</p>	

ルールの構成のベスト・プラクティス

ルールを構成する際は、次のガイドラインに従うことをお勧めします。

自分のルールはどこで構成する必要がありますか。

経験則では、フォーマットでルールを構成することをお勧めします。まれな場合にのみ、プロファイルでルールを構成します。

フォーマットでのルールの構成には、次の利点があります:

- 複数のプロファイルで再利用できます
 フォーマットで作成されたルールは、引き続きフォーマットの定義の一部です。複数のプロファイルに同じルールが必要な場合は、フォーマットでルールを作成し、プロファイルが、フォーマットからこのルールを継承するようにします。
- 関連するプロファイルが削除されても削除されません
 サービス管理者は、定期メンテナンスの一環としてプロファイルを削除することがあります。これにより、プロファイルに関連付けられているルールが削除されます。

自分のルールはどのようにしてテストできますか。

ルールを作成するときにフィルタを定義する必要があります。フィルタにより、適用されるルールをトリガーする条件が決まります。フィルタを定義するには 2 つの方法があります:

- 新規フィルタを作成します
- 保存済フィルタを使用します

保存済フィルタを使用することをお勧めします。保存済フィルタの利点は次のとおりです:

- 複数のルールが同じ条件を使用する場合、保存済フィルタを複数のルールで使用できます。
- 保存済フィルタを照合カードに適用してルールをテストできます。

「照合」カードで、ページの右上にある省略記号(⋮)をクリックしてフィルタを選択します。選択したフィルタに一致する照合が表示されます。次に、フィルタ条件に関連する情報を含む列が「照合」リストに表示されていることを確認します。表示されたデータをフィルタ条件と比較することでルールを検証します。

フィルタの使用の詳細は、*Oracle Account Reconciliation の管理*のフィルタでの作業を参照してください。

ルールを構成する際に従うガイドラインは何ですか。

ルールは賢明に構成してください。

- ルールは、**Account Reconciliation** に定義された優先順位に従って機能します。したがって、自動照合方法と非常によく似た条件でルールを構成すると、両方が構成されている場合に優先順位が適用されます。

[自動照合およびルールの優先順位](#)を参照してください。

- 条件は可能なかぎり汎用にしてください。たとえば、特定のアカウント ID、ユーザー ID または期間を指定したルールは構成しないでください。

フォーマットの指示の指定

管理者は、フォーマットの使用に関する指示を提供します。これらの指示には、テキストベースの指示、URL、添付ファイル、またはドキュメント・リポジトリのファイルへのリンクを含めることができます。これらの指示は、プロファイルの指示とマージされ、照合に表示されます。

指示を指定するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」、「**構成**」、「**フォーマット**」の順にクリックします。
2. 「**新しいフォーマット**」または「**フォーマットの編集**」で、「**指示**」タブを選択します。
3. 「**指示**」で、指示のテキストを入力します。

参照を追加するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」、「**構成**」、「**フォーマット**」の順にクリックします。
2. フォーマットを選択し、「**指示**」タブを選択します。
3. 「**参照**」セクションで、「**追加 (+)**」をクリックします。
4. 「**タイプ**」リストで、タイプを選択します。
 - **ローカル・ファイル**

「**参照**」をクリックし、ファイルを選択して添付し、「**名前**」を入力して「**OK**」をクリックします。ファイル・サイズは、「**システム属性**」で指定します。
 - **URL**

Oracle、<http://www.oracle.com> など、URL に名前を付けて入力し、「OK」をクリックします。

 **ヒント:**

参照を削除するには、その参照を選択して「削除」をクリックします。

フォーマットの属性の追加

フォーマット属性は、照合全体に影響しており、準備時間やレビュー時間などの追加情報を取得できます。「照合」ダイアログにある「サマリー」タブの追加属性にフォーマット属性が表示されます。

属性の割当てを追加するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」、「フォーマット」の順にクリックします
2. 「新しいフォーマット」または「フォーマットの編集」で、「属性」タブを選択します。
3. 「追加」を選択します。
4. 「属性の割当ての追加」ダイアログ・ボックスで、次を入力します。

- **属性:**

いずれかを選択します。[属性の作成](#)を参照してください。

- **タイプ:**

これは、編集不可のフィールドであり、属性の内容によってデータが移入されます。

- **値:**

属性のタイプに関連付けられた値(フォーマット済数値属性の数値、「リスト」属性のリスト、「ユーザー」属性の個人の名前、「はいいいえ」属性の「はい」または「いいえ」など)を選択します。

- **アクセス**

次の表に指定されていないかぎり、すべての役割に表示アクセス権があります。

アクセス権を追加するには、それぞれの「テキスト・ボックス」タブおよび「添付」タブで:

- a. 「追加」をクリックします。
- b. 役割を選択します。
- c. 役割アクセス・タイプのいずれかを選択します:

- **テキスト・ボックス:**

- * **表示しない** - この属性は「照合」リスト、あるいはダッシュボード、リスト・ビューまたはレポートのいずれにも表示されません。
- * **編集を許可** - 属性の値を追加、変更および削除する権限がありますが、編集ルールの対象です。

- * **必須** - 属性に値が必要です。策定者とレビュー担当者には、「必須」オプションがあります。値が指定されるまで、策定者は送信できず、承認者は承認できません。
 - 「**複数行のテキスト**」ボックスには、アクセス・タブが 2 つあります:
 - * 「**テキスト・ボックス**」タブ:
 - * **表示しない** - この属性は「照合」リスト、あるいはダッシュボード、リスト・ビューまたはレポートのいずれにも表示されません。
 - * **編集を許可** - 属性の値を追加、変更および削除する権限がありますが、編集ルールの対象です。
 - * **必須** - 属性に値が必要です。策定者とレビュー担当者には、「必須」オプションがあります。値が指定されるまで、策定者は送信できず、承認者は承認できません。
 - * 「**添付**」タブ:
 - * **表示しない** - この属性は「照合」、あるいはダッシュボード、リスト・ビューまたはレポートのいずれにも表示されません。
 - * **追加および削除** - ファイルの追加や、自分が追加したファイルの削除が可能ですが、編集ルールの対象です。
 - * **必須** - 策定者またはレビュー担当者が少なくとも 1 つのファイルを添付することが必要です。策定者とレビュー担当者へのみ、「必須」オプションがあります。ファイルが添付されるまで、策定者は送信できず、承認者は承認できません。
 - * **すべてを追加および削除** - 自分のファイルの追加や削除、別の役割によって追加されたファイルの削除も可能です。
- d. 「OK」をクリックします。

5. 「ルール」タブは、割当て中の属性のルールを定義します。

フォーマット属性ルールは、指定された条件が一致したときに実行されます。

表 6-2 フォーマット・ルール

ルール	実行する条件	ルール・タイプ	優先順位のノート
属性アクセスの設定 「フォーマット」ダイアログのトランザクション属性セクションに割り当てられた属性の値を設定します。	このルールは、ルールに関連付けられた属性が(ユーザー編集またはインポートを介して)更新される可能性があるたびに評価されません(実行されません)	フォーマット/プロファイル属性ルール	異なるアクセス・レベルをトリガーするルールを構成できます。この状況が発生した場合、アクセスは次のようになります: <ul style="list-style-type: none"> • 非表示 • 必須 • 編集 • 読取り専用

フォーマットの質問の指定

管理者は、策定者がレビュー用に照合を送信する前に回答する必要がある認証の質問を構成できます。たとえば、ポリシーによって 60 日以内に調整をクリアすることが要

求される場合、「60 日超の古さのすべての調整をクリアしましたか? - Yes または No」という認証の質問を追加します。管理者は、認証の質問をフォーマットごとに必要な数だけ無制限に追加できます。

質問を指定するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」、「フォーマット」の順にクリックします
2. 「新しいフォーマット」で、「質問」タブを選択します。
3. 「新規」をクリックします。
4. 「新規質問」で「質問」に質問のテキストを入力します。
5. 「タイプ」で、質問のタイプを選択します。

- 日付
- 日付/時間
- 整数
- リスト

質問に対する有効な回答のリストを入力します。

- 複数行のテキスト

質問の最大長は 1,000 文字未満です。

「複数行のテキスト」を選択し、3 から 50 行の間の行数を入力します。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずに表示できるテキストの行数を決定します。

複数行のテキスト・タイプの場合: 照合アクション・ダイアログ・ボックスに添付用のセクションを作成するためにカスタム属性が必要な場合は、「添付を含める」を選択します。

- 数値

「数値」を選択した場合、数値のフォーマット・オプションを選択します。

- 「小数点以下の桁数」には、表示する小数点以下の桁数の値を入力します。
- 数値に 3 桁ごとの区切り文字(たとえば、1,000.00)を表示する場合、「3 桁ごとの区切り文字」オプションを選択します
- 「通貨記号」リストから、通貨記号を選択します。たとえば、ドル(\$)。
- 「負数」リストから、負数の表示方法を選択します。たとえば、(123)。
- 「スケール」リストから、数値のスケール値を選択します。たとえば、1000。

- True/False

- テキスト

- ユーザー

- はい/いいえ

6. 役割を割り当てます。役割は、質問に回答できる役割を決めるために割り当てます。


- 管理者
- コメント作成者
- パワー・ユーザー

- 策定者
- レビュー担当者(アプリケーションで現在使用されているレビュー担当者のレベルごとに異なる役割を指定)
- 参照者

 **ノート:**


質問の順序は、役割の中でのみ変更できます。

7. 策定者またはレビュー担当者で「**必須**」チェック・ボックスが選択されている場合、ユーザーは質問に回答せずに照合をクローズできますが、送信や承認はできません。

 **ノート:**

「**必須**」チェック・ボックスは、策定者およびレビュー担当者の質問に割り当てられた質問で有効になっています。

8. 「**OK**」をクリックします。
9. **オプション:** 質問の順序を変更するには、質問を選択し、「**アクション**」を選択して、「**一番上へ移動**」、「**上へ移動**」、「**下へ移動**」または「**一番下へ移動**」を選択します。

 **ヒント:**

質問を編集するには、その質問を選択して「**編集**」をクリックします。
質問を削除するには、その質問を選択して「**削除**」をクリックします。

7

プロファイルの操作

次も参照:

- [プロファイルの定義](#)
- [プロファイルの作成](#)
- [差異分析のプロファイルの作成](#)
- [プロファイルの指示の作成](#)
- [プロファイル・ワークフローの割当て](#)
- [プロファイルの通貨の指定](#)
- [プロファイルのアクセスの指定](#)
- [プロファイル属性の指定](#)
- [プロファイル・ルールの操作](#)
- [プロファイルの履歴の表示](#)
- [勘定科目の追加](#)
- [プロファイルでの Excel CSV ファイルの使用](#)
- [プロファイルのインポート](#)
- [プロファイルのエクスポート](#)
- [プロファイルまたは照合の削除](#)
Account Reconciliation で 1 つ以上のプロファイルまたは照合を削除できます。複数の削除を実行する場合は、バッチ・ジョブをバックグラウンドで実行することにより、処理中も引き続きタスクを実行できます。ジョブが実行されると、「**ジョブ**」カードを使用して、エラーがあるかどうかを確認できます。
- [プロファイルの「アクション」パネルの使用](#)
- [期間へのプロファイルのコピー](#)
- [プロファイルの複製](#)

プロファイルの定義

プロファイルは、**Account Reconciliation** 内で最も重要なオブジェクトの 1 つであり、「照合コンプライアンス」と「トランザクション照合」の両方で作成されます。

プロファイルは、照合の前段階です。現在の策定者およびレビュー担当者の割当て、勘定科目の説明、指示、フォーマットの割当て、リスク評価などの機能が含まれます。実行される照合ごとに 1 つのプロファイルが存在します。照合は、月ごとに管理者によってプロファイルから作成されます。プロファイルから照合を作成するプロセスによって、プロファイルのスナップショットが作成され、照合とともに格納されます。プロファイルの構成は、時間の経過とともに変わる場合があります。ただし、照合とともに格納されているプロファイル情報は、そのような変更によって影響されません。

「照合コンプライアンス」では、1セットのプロファイルを作成して、「**勘定科目分析**」方法と「**残高の比較**」方法の両方で使用できます。**差異分析**を実行するには、別のプロファイル・セットを作成する必要がありますが、差異分析プロファイルは他の方法を使用しているプロファイルと同じ期間に使用できます。

「トランザクション照合」では、1セットのプロファイルを作成して、「**勘定科目分析(トランザクション照合あり)**」方法と「**残高の比較(トランザクション照合あり)**」方法の両方で使用できます。「**トランザクション照合のみ**」方法を使用するには、別のプロファイルを作成する必要があります。

管理者および許可されたパワー・ユーザーは、プロファイルと照合を更新し、レポートで使用するユーザー割当ておよび属性を変更できます。実行される照合のタイプに影響を与える属性(フォーマットおよび通貨バケットの構成を含む)は、照合で変更できません。変更する必要がある場合、照合を削除し、変更をプロファイルに直接適用する必要があります。その後、プロファイルを期間に再度コピーできます。新しいプロファイル構成のスナップショットである新しい照合が作成されます。

プロファイルは手動で作成することも、スプレッドシートからインポートすることもできます。

「期間へコピー」機能は、「期間」ダイアログ・ボックスおよび「プロファイル・リスト」ビューで実行できます。

プロファイルの作成のビデオを見る

ビデオを見るには、次のリンクをクリックしてください。



プロファイルの作成

勘定科目分析または**残高の比較**方法のプロファイルを作成するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」、「**プロファイル**」の順に選択します。
2. 「**新規**」(+)をクリックし、「**新規プロファイル**」を作成します。
3. 「**プロパティ**」タブで、次の情報を入力します。
 - **勘定科目 ID** - セグメント値の組合せは、プロファイル全体で一意である必要があります。使用可能なセグメントの数は、システム設定で定義されます。
 - **プロファイル名** - プロファイルを特定する2つ目の方法。名前は、一意である必要はありません。ベスト・プラクティスとして、標準勘定科目セグメントに関連付けられた名前と、プロファイルの所有権または責任を識別する他の記述子を使用することをお勧めします。
 - **説明**
 - **アクティブ** - 手動で入力またはインポートされたプロファイルについてデフォルトで選択されています。このプロファイルをある期間にコピーしない場合は、このチェック・ボックスをクリアします。更新された残高が非アクティブ・プロファイルにロードされると、「**アクティブ**」フラグは自動的に非アクティブからアクティブに切り替えられます。残高が変更されない場合、プロファイルは非アクティブのままになります。

- **サマリー・プロファイル** - 選択されている場合、プロファイルはサマリー・プロファイルです。「**自動照合**」の構成セクションは削除され、残高を編集できません。

含まれる勘定科目 - このセクションにより、管理者およびパワー・ユーザーはプロファイルをサマリー・プロファイルに割り当てることができます。非サマリー・プロファイルを、サマリー・プロファイルへの追加用に選択できます。
- **組織単位** - 組織のモデル化に使用できる階層型のエンティティ・タイプ構造を表します。別々にレポートする必要のある各エンティティに対して、あるいは休日、労働日数、参照者の割当てまたはコメント作成者の割当て用に異なる構成が必要なエンティティに対して、別々の組織単位を定義します。組織単位はシステム設定で定義します。
- **フォーマット** - 管理者によって作成されたフォーマットにプロファイルを関連付け、照合の方法と、策定者が提供する必要のある情報を決定します。
- **方法** - プロファイルに割り当てられたフォーマットに関連付けられた方法。
- **プロセス** - プロファイルを特定の照合プロセス(貸借対照表照合プロセスやローカルGAAP 照合プロセス)に関連付けます。プロセスは、システム設定で定義されます。
- **リスク評価** - プロファイルをリスク評価に関連付けます。リスク評価は、「高」、「低」、「中」のように、システム設定で定義されます。
- **勘定科目タイプ** - プロファイルを勘定科目タイプに関連付けます。「リスク評価」および「勘定科目タイプ」は、レポートに役立つ属性です。値は、管理者によって定義され、照合をフィルタ処理するためにダッシュボードとリスト・ビューで使用できます。

選択された値を編集するには、「クリア」アイコンをクリックして現在の設定をクリアした後、「検索」を使用して設定が必要な勘定科目タイプを検索し、選択します。
- **通常の残高** - プロファイルが含むことになる残高(借方残高、貸方残高、または借方残高と貸方残高のいずれか)を識別します。残高が通常の残高と異なる場合、照合に警告が設定されます。
- **「自動照合方法」** で、自動照合方法で構成された照合が、自動照合に合格であるために満たす必要がある条件を説明する方法を選択します。条件が1つでも当てはまらない場合は自動照合が失敗し、策定者が手動で照合を準備できるよう、照合ステータスが「オープン」に設定されます(自動照合の失敗の詳細は、[自動照合エラーの理由コード](#)を参照してください)。
 - 「勘定科目分析」および「勘定科目分析(トランザクション照合あり)」の場合:
 - * **「残高はゼロです」** 必須条件:
 - * 勘定科目分析フォーマットがプロファイルに割り当てられる場合、「勘定科目にゼロの残高があります」自動照合方法に対してプロファイルを有効にできます。
 - * 特定の期間の照合に関連付けられた残高が0の場合、照合はその期間に対して自動的に準備およびレビューされます。
 - * 残高が0ではない場合、照合は手動で準備およびレビューする必要があります。
 - * **「残高はゼロで、アクティビティはありません」** 必須条件:
 - * ソース・システムの残高がゼロです。
 - * ソース・システムの残高が、前の照合ソース・システムの残高と同じです。

 ノート:

この最後の条件は、前の照合ソース・システムの残高が存在する必要があることも意味します。

- * 前の照合が存在しない場合、前の照合ソース・システムの残高はゼロと仮定されます。
 - * 現在の期間のソース・システム残高もゼロの場合、照合は自動照合になります。
 - * 現在の期間のソース・システム残高がゼロ以外の場合、照合は自動照合になりません。

自動照合が成功すると、照合ステータスは「クローズ済」に設定されます。

* 「アクティビティはありません」必須条件:

- * 前の照合が存在する場合は、次の条件を満たしている必要があります。
 - * 前の照合ステータスが「完了」であることが必要です。
 - * 前の照合ソース・システムの残高が、現在の照合ソース・システムの残高と同じであることが必要です。
 - * 前の照合フォーマットは、現在の照合フォーマットと同一であることが必要です

特に:

- a. 現在と前のフォーマット・インスタンスの作成に使用されたフォーマット ID が同一であることが必要です。
 - b. 現在のフォーマット・インスタンスに、前のフォーマット・インスタンスにはない必須属性を含むことはできません。
- * 前の照合が存在しない場合、前の照合ソース・システムの残高はゼロと仮定されます。
 - * 現在の期間のソース・システム残高もゼロの場合、照合は自動照合になります。
 - * 現在の期間のソース・システム残高がゼロ以外の場合、照合は自動照合になりません。

自動照合が成功した場合:

- * 照合ステータスが「クローズ済」に設定されます
- * 説明付き残高とソース・システム調整トランザクションが前の照合から現在の照合にコピーされます。
 - * トランザクションに関連付けられている添付ファイルとコメントがコピーされます
 - * 新しい期間終了日(トランザクションのコピー先の期間)からオープン日を引いて、経過期間が再計算されます
 - * 経過期間が許可された経過期間を超える場合、そのトランザクションには経過期間違反が設定されます

- * 各タイプの1つ以上のトランザクションに経過期間違反がある場合、照合に対して経過期間違反フラグが設定されます
- * 照合レベルで存在するコメントおよび添付がコピーされます
- * **「残高は範囲内です」** 必須条件:
 - * 前の照合が存在し、この照合のステータスが「完了」であることが必要です。
 - * 前の照合フォーマットは、現在の照合フォーマットと同一であることが必要です。具体的には、現在と前の両方のフォーマット・インスタンスが同じフォーマット ID を使用して作成されている必要があり、また現在のフォーマット・インスタンスに前のフォーマット・インスタンスにはない必須属性を含むことはできません。
 - * ソース・システムの残高が**残高範囲(低)**以上であること。
 - * ソース・システムの残高が**残高範囲(高)**以下であること。

自動照合が成功した場合:

- * 照合ステータスが「クローズ済」に設定されます
- * 説明付き残高とソース・システム調整トランザクションが前の照合から現在の照合にコピーされます。
 - * トランザクションに関連付けられている添付ファイルとコメントがコピーされます
 - * 新しい期間終了日(トランザクションのコピー先の期間)からオープン日を引いて、経過期間が再計算されます
 - * 経過期間が許可された経過期間を超える場合、そのトランザクションには経過期間違反が設定されます
 - * 各タイプの1つ以上のトランザクションに経過期間違反がある場合、照合に対して経過期間違反フラグが設定されます
- * 照合レベルで存在するコメントおよび添付がコピーされます
- * **「残高は範囲内で、アクティビティはありません」** 必須条件:
 - * 前の照合が存在し、この照合のステータスが「完了」であることが必要です。
 - * 前の照合フォーマットは、現在の照合フォーマットと同一であることが必要です。具体的には、現在と前の両方のフォーマット・インスタンスが同じフォーマット ID を使用して作成されている必要があり、また現在のフォーマット・インスタンスに前のフォーマット・インスタンスにはない必須属性を含むことはできません。
 - * ソース・システムの残高が**残高範囲(低)**以上であること。
 - * ソース・システムの残高が**残高範囲(高)**以下であること。
 - * ソース・システムの残高 - 前の照合ソース・システムの残高 = 0; 範囲は負数でもかまいません。

 ノート:

この最後の条件は、前の照合ソース・システムの残高が存在する必要があることも意味します。

自動照合が成功した場合:

- * 照合ステータスが「クローズ済」に設定されます
 - * 説明付き残高とソース・システム調整トランザクションが前の照合から現在の照合にコピーされます。
 - * トランザクションに関連付けられている添付ファイルとコメントがコピーされます
 - * 新しい期間終了日(トランザクションのコピー先の期間)からオープン日を引いて、経過期間が再計算されます
 - * 経過期間が許可された経過期間を超える場合、そのトランザクションには経過期間違反が設定されます
 - * 各タイプの1つ以上のトランザクションに経過期間違反がある場合、照合に対して経過期間違反フラグが設定されます
 - * 照合レベルで存在するコメントおよび添付がコピーされます
- 「残高の比較」または「残高の比較(トランザクション照合あり)」の場合:
- * **「残高はゼロです」** 必須条件:
 - * 残高の比較フォーマットがプロファイルに割り当てられる場合、「勘定科目にゼロの残高があります」自動照合方法に対してプロファイルを有効にできます。
 - * 特定の期間の照合に関連付けられたソース・システム残高が0の場合、照合はその期間に対して自動的に準備およびレビューされます。サブシステム残高は考慮されません。
 - * 残高が0ではない場合、照合は手動で準備およびレビューする必要があります。

 ノート:

「残高の比較」が「残高がゼロ」の場合、サブシステム残高は考慮されません。考慮する場合は、カスタム・ルールを使用して、ソースとサブシステムの両方の残高を評価できます。または、残高一致条件の使用を検討することもできます。これにより、ソースとサブシステムの残高が比較され、それらが等しいか、目的のしきい値内にあることが確認されます。

自動照合が成功すると、照合ステータスは「クローズ済」に設定されます。

- * **「残高はゼロで、アクティビティはありません」** 必須条件:

 ノート:

アクティビティなしの残高の比較フォーマットの場合は、カスタム・ルールを使用して適切な結果を取得できます。たとえば、差異(レポート)は0 USD に等しく、かつ期間アクティビティ(レポート)は0 USD に等しいというフィルタ条件で「照合の自動送信」のカスタム・ルールを追加します。

- * 「アクティビティはありません」 必須条件:

 ノート:

アクティビティなしの残高の比較フォーマットの場合は、カスタム・ルールを使用して適切な結果を取得できます。たとえば、フィルタ条件を指定して「照合の自動送信」のカスタム・ルールを追加します。

- * **残高一致(許容差%)**: 残高比較フォーマットがプロファイルに割り当てられる場合、「残高が一致する箇所の残高の比較」(許容差%)の自動照合方法に対してプロファイルを有効にできます。

この方法が有効の場合、しきい値を適用できます。しきい値の割合は、しきい値を計算するためにソース・システムの残高に対して乗じられます。

- * ソース・システムの残高とサブシステムの残高の差異が、ある期間におけるしきい値未満である場合、照合はその期間に対して自動的に準備およびレビューされます。
- * 差異がしきい値を超える場合、照合は手動で準備およびレビューする必要があります。

「**残高一致のしきい値(パーセント)**」に1から100の間の整数を入力します。

自動照合が成功すると、照合ステータスは「クローズ済」に設定されます。

- * **残高一致(許容差数)**: ソース・システムの残高とサブシステムの残高の差は、許容差の値以下です; 許容値は、プロファイルで指定されます。 **残高一致のしきい値(数)**許容金額を入力します。

自動照合が成功すると、照合ステータスは「クローズ済」に設定されます。

- **最大経過期間制限** - 照合トランザクションの最大経過期間の日数を入力します:
 - 照合調整(勘定科目分析方法と残高比較方法に適用)
 - 残高の説明(勘定科目分析方法に適用)

 ノート:

経過期間違反: 値が指定され、アイテムの経過期間(期間終了日からトランザクション・オープン日を引いて計算)がその指定値を超えるトランザクションが照合に含まれる場合、トランザクションには経過期間違反のフラグが設定され、照合に経過期間違反の警告が設定されます。

- **残高の手動入力** - ソース・システムまたはサブシステムの残高を照合の策定者が手動で入力できるようにするかどうかを決定します。次のボックスは、残高をプロファイルに対してインポートしない場合にのみ選択します。次の一方または両方を選択します:
 - **ソース・システム残高の手動入力**(「勘定科目分析」方法と「残高比較」方法に適用)
 - **サブシステム残高の手動入力**(「残高比較」方法に適用)

自動照合エラーの理由コード

次の表は、特定の勘定科目が自動照合されなかった理由をまとめたものです:

表 7-1 特定の勘定科目が自動照合されなかった理由

理由コード	説明	適用対象
アクティビティがゼロではありません	使用可能な通貨バケットの照合のアクティビティがゼロではありません	次の自動照合方法で構成された照合に適用されます: <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティはありません • 残高はゼロで、アクティビティはありません
残高がゼロではありません	使用可能な通貨バケットの照合の残高がゼロではありません	次の自動照合方法で構成された照合に適用されます: <ul style="list-style-type: none"> • 残高はゼロです • 残高はゼロで、アクティビティはありません
残高が範囲内ではない	使用可能な通貨バケットの勘定科目の残高が許可された範囲内ではありません	次の自動照合方法で構成された照合に適用されます <ul style="list-style-type: none"> • 残高は範囲内です • 残高は範囲内で、アクティビティはありません
照合許容差を超過	ソースとサブシステムの残高の差異が、使用可能な通貨バケットに対して許可された許容差レベルを超えています	次の自動照合方法で構成された照合に適用されます: <ul style="list-style-type: none"> • 残高一致(許容差%) • 残高一致(許容差数)
前の照合なし	前の照合が存在しません	次の自動照合方法で構成された照合に適用されます: <ul style="list-style-type: none"> • 残高はゼロで、アクティビティはありません • 残高は範囲内で、アクティビティはありません
前の照合がクローズされていない	勘定科目の前の照合が存在しますが、前の照合のステータスがクローズ済ではありません	次の自動照合方法で構成された照合に適用されます: <ul style="list-style-type: none"> • 残高はゼロで、アクティビティはありません • 残高は範囲内で、アクティビティはありません
ソース・システム残高が存在しない	勘定科目/期間のソース・システム残高が存在しません	すべての自動照合方法に適用されます

表 7-1 (続き) 特定の勘定科目が自動照合されなかった理由

理由コード	説明	適用対象
一部の使用可能な通貨バケツトのソース・システム残高が存在しない	照合で使用可能な通貨バケツトの一部にソース・システム残高がありません	すべての自動照合方法に適用されます
サブシステム残高が存在しない	勘定科目/期間のサブシステム残高が存在しません	次の自動照合方法で構成された照合に適用されます: <ul style="list-style-type: none"> 残高一致(許容差%) 残高一致(許容差数)
一部の使用可能な通貨バケツトのサブシステム残高が存在しない	照合で使用可能な通貨バケツトの一部にサブシステム残高がありません	次の自動照合方法で構成された照合に適用されます: <ul style="list-style-type: none"> 残高一致(許容差%) 残高一致(許容差数)
照合に取引が存在する	照合に取引が追加されています	すべての自動照合方法に適用されます
残高の手動入力を選択されています	照合に「ソース・システム残高の手動入力」または「サブシステム残高の手動入力」のいずれかのオプションが選択されている場合、その照合は自動照合の対象になりません。	すべての自動照合方法に適用されます

差異分析のプロファイルの作成

差異分析のプロファイルを作成するには:

- ホームから「アプリケーション」、「プロファイル」の順に選択します。
- 「新規」(+をクリックし、**新規プロファイル**を作成します。
- 「プロパティ」タブで、次の情報を入力します。
 - 勘定科目 ID** - セグメント値の組合せは、プロファイル全体で一意である必要があります。使用可能なセグメントの数は、システム設定で定義されます。
 - 名前** - プロファイルを特定する2つ目の方法。名前は、一意である必要はありません。ベスト・プラクティスとして、標準勘定科目セグメントに関連付けられた名前と、プロファイルの所有権または責任を識別する他の記述子を使用することをお勧めします。
 - 説明**
 - アクティブ** - 手動で入力またはインポートされたプロファイルについてデフォルトで選択されています。このプロファイルをある期間にコピーしない場合は、このチェック・ボックスをクリアします。
 - サマリー・プロファイル** - 選択されている場合、プロファイルはサマリー・プロファイルです。
 - 組織単位** - 組織のモデル化に使用できる階層型のエンティティ・タイプ構造を表します。別々にレポートする必要のある各エンティティに対して、あるいは休日、労働日数、参照者の割当てまたはコメント作成者の割当て用に異なる構成が必要なエンティティに対して、別々の組織単位を定義します。組織単位はシステム設定で定義します。

- **フォーマット** - 管理者によって作成されたフォーマットにプロファイルを関連付け、照合の方法と、策定者が提供する必要のある情報を決定します。
- **方法** - プロファイルに割り当てられたフォーマットに関連付けられた方法。
- **プロセス** - プロファイルを特定の照合プロセス(貸借対照表照合プロセスやローカル GAAP 照合プロセス)に関連付けます。プロセスは、システム設定で定義されます。
- **リスク評価** - プロファイルをリスク評価に関連付けます。リスク評価は、「高」、「低」、「中」のように、システム設定で定義されます。
- **勘定科目タイプ** - プロファイルを勘定科目タイプに関連付けます。「リスク評価」および「勘定科目タイプ」は、レポートに役立つ属性です。値は、管理者によって定義され、照合をフィルタ処理するためにダッシュボードとリスト・ビューで使用できます。
- **通常の残高** - プロファイルが含むことになる残高(借方残高、貸方残高、または借方残高と貸方残高のいずれか)を識別します。残高が通常の残高と異なる場合、照合に警告が設定されます。
- **残高の手動入力** - 策定者が現在の期間残高、差異の期間残高、あるいはその両方のどれを入力するかを決定します。次のボックスは、残高をプロファイルに対してインポートしない場合にのみ選択します。次の一方または両方を選択します:
 - 現在の期間残高の入力
 - 差異の期間残高の入力

プロファイルの指示の作成

「指示」タブでは、プロファイルに割り当てられたフォーマットに構成された指示を継承することで、プロファイルごとに指示を指定する必要がなくなります。ただし、一部のプロファイルには特別な指示が必要です。指示は、段落テキスト、添付ファイル、URL、またはドキュメント・リポジトリのファイルへのリンクとして追加します。

プロファイルの指示を指定するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「プロファイル」の順にクリックします。
2. 「新しいフォーマット」または「フォーマットの編集」で、「指示」タブを選択します。
3. 「指示」で、指示(段落テキスト、添付ファイル、URL、またはドキュメント・リポジトリのファイルへのリンク)を入力します。
4. オプション: 「参照」で、「追加」(+)をクリックします。
5. 「参照の追加」ダイアログ・ボックスで、参照の**タイプ**を選択します。
 - **ローカル・ファイル**
「参照」をクリックし、ファイルを選択して添付し、「名前」を入力して「OK」をクリックします。ファイル・サイズは、「システム属性」で指定します。
 - **URL**
URL の名前を入力し、URL を入力して(Oracle、<http://www.oracle.com> など)「OK」をクリックします。

 ヒント:

参照を削除するには、その参照を選択して「削除」をクリックします。

プロファイル・ワークフローの割当て

「ワークフロー」タブには、策定者とレビュー担当者の割当てが含まれます。策定者およびレビュー担当者の役割を許可されたユーザーのみに、プロファイルでこれらの機能を割り当てることができます。システムによって、同じユーザーを同じプロファイルの策定者およびレビュー担当者の役割に割り当てることや、同じユーザーを複数のレビュー担当者の役割に割り当てることは禁止されます。

場合によっては、照合の策定またはレビューで複数のレベルが必要になります。たとえば、承認チームのメンバーすべてが照合を承認する必要があるが、承認する順序は関係ない場合です。ここで、「アクションが必要なユーザー」フィールドの「すべての策定者」または「すべてのレビュー担当者」を使用して、プロファイル・ワークフローをチームのすべてのメンバーに割り当てることができます。

このプロファイルへのコメント作成者または参照者の割当ての詳細は、[プロファイルのアクセスの指定](#)を参照してください。

策定者に関する次の情報を入力します:

- **ユーザー名** - 策定者として選択できるユーザー名は、策定者の役割を許可されたユーザーのみです。
- **バックアップ・ユーザー** - プライマリ策定者のユーザーに割り当てられた場合、策定者として権限があるバックアップ・ユーザーを割り当てることができます。

 ノート:

「照合コンプライアンス」では、バックアップ策定者は、プライマリのステータスが作業不可の場合にのみ、照合を策定できます。「トランザクション照合」では、バックアップ策定者がプライマリ策定者のように行動でき、プライマリ策定者であるかのように「トランザクション照合」タスクへのアクセス権を持ちます。

プロファイル・ワークフローを割り当てるには:

1. ホームから「アプリケーション」、「プロファイル」の順に選択します。
2. 「新規」(+)をクリックして新規プロファイルを作成し、「ワークフロー」タブをクリックします。
3. 「策定者」で、策定者に割り当てるユーザーおよびバックアップ・ユーザーに割り当てるユーザーを選択します。
 - a. 「検索」をクリックして、その役割のユーザーを選択します。「名」および「姓」は移入されています。
 - b. 「詳細」をクリックしてユーザーのステータスを「作業可能」に設定し、「閉じる」をクリックします。

- c. **オプション: 「詳細」** をクリックして、ユーザー ID、電子メール・アドレスやユーザーの説明を入力します。
 - d. **「OK」** をクリックして割り当てた策定者またはバックアップ・ユーザーを保存します。
4. チームを **「策定者」** として割り当てると、**「アクションが必要なユーザー」** フィールドが表示され、デフォルトは **「任意の策定者」** になります。チームのすべてのメンバーが策定に関係する必要がある場合、これを **「すべての策定者」** に変更できます。
5. 期間に関連付けられた頻度と一致する頻度がプロファイルに含まれる場合、**頻度** を選択します。そうすると、管理者が **「期間へコピー」** 機能を使用すると、期間に照合がコピーされます。頻度の例: **「年次」**、**「四半期ごと」**、**「四半期ごと - 米国」**、**「四半期ごと - ヨーロッパ」**、**「月次」**。
6. **開始日オフセット** を選択して、照合の開始日を決定します。この負数または正数によって、照合の開始が許可される期間のクローズ日の前(負数の場合)または後(正数の場合)の日数が決定します。
7. **「スケジュール開始」** を選択して、開始日オフセットを関連付ける日(クローズ日、終了日など)を決定します。
8. **期間** を選択します。これが開始日に加算され、策定者の期限が計算されます。
9. **「レビュー担当者」** で、**「新規 (+)」** をクリックし、レビュー担当者を割り当てます。各レビュー担当者を作成すると、**レベル** が追加されます。無制限のレビューのレベルがサポートされています。
 - a. **「ユーザー名」** で、最も頻度の高いレビュー担当者から始めます。**「レビュー担当者を選択します。」** アイコンをクリックし、レビュー担当者を割り当てます。レビュー担当者として選択できるユーザー名は、レビュー担当者の役割を許可されたユーザーのみです。
 - b. **「バックアップ・ユーザー」** で、バックアップのレビュー担当者またはチームを割り当てるには、**「レビュー担当者を選択します。」** をクリックします。プライマリ・レビュー担当者のユーザーを選択した場合は、バックアップ・レビュー担当者を選択できます。**「バックアップ・ユーザー」** 列で **「バックアップ・ユーザーを選択します。」** をクリックし、バックアップ・ユーザーを選択します。
10. チームを **「レビュー担当者」** として割り当てると、**「アクションが必要なユーザー」** フィールドが表示され、デフォルトは **「任意のレビュー担当者」** になります。チームのすべてのメンバーがレビューしてサイン・オフする必要がある場合、これを **「すべてのレビュー担当者」** に変更できます。
11. **「頻度」** で、照合のレビュー頻度を選択します。照合は、月ごとに準備し、四半期ごとにレビューできます。
12. **「期間」** で、レビュー担当者の期限を設定します。期限は、策定者の開始日 + 策定者の期間 + レビュー担当者の期間として計算されます。レビュー担当者の開始日は、策定者が照合をレビュー用にリリースする時期によって決まるため、レビュー担当者に開始日オフセットはありません。この操作が発生すると同時に、レビュー担当者はレビューを開始できます。
13. **「保存」** をクリックします。

 ノート:

サービス管理者は、策定者チームとレビュー担当者チームに同じユーザーを含めたチームを割り当てることができます。ただし、照合の承認プロセスで、そのユーザーは策定または承認のいずれかを実行できますが、両方は実行できません。

プロファイルの通貨の指定

会社が1つの通貨構成を使用する場合、「通貨」タブは非表示になります。サマリー照合は常に単一通貨で準備されます。単一通貨バケット用の構成を有効にするには、「通貨」タブに変更が必要です。サマリー照合で、「レート・タイプ」を選択してから、単一通貨バケットを選択します。機能通貨バケットがデフォルトです。

照合と、外国為替換算の動作に対して有効にする通貨バケットの数を決定します。次の情報を入力します:

プロファイル通貨を設定するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」、「**プロファイル**」の順に選択します。
2. 「**新規 (+)**」をクリックし、「**新規プロファイル**」を作成します。
3. 「**通貨**」タブをクリックします。
4. ソース・システムの再評価の影響を受けない勘定科目を含むプロファイルに対して「**履歴レート**」を選択します。
 - 「**履歴レート**」が選択されると、策定者は、照合にトランザクションを入力するときに、その照合に対して有効になっているすべての通貨バケットに値を指定する必要があります(残高の説明または調整など)。
 - 「**履歴レート**」がクリアされている場合、策定者は、最下位レベルの通貨バケットに値を入力する必要があります(入力済の通貨バケットなど)。そうすると、保持されている為替レートを使用して、システムによって、他の通貨バケットにおける同等の値が計算されます。
5. 「**レート・タイプ**」を選択します。レート・タイプの選択は、履歴レートがクリアされている場合にのみ可能です。外貨レート(**FX レート**)がロードされると、それらはレート・タイプに関連付けられます。プロファイルでのレート・タイプの設定によって、プロファイルに関連する照合のトランザクションに対して通貨換算を実行するために使用する一連の**FX レート**が決定されます。
6. 「**入力済**」、「**機能**」、「**レポート**」などのバケット・ラベルごとに有効にして、デフォルト通貨を選択します。
通貨バケット表によって、プロファイルに対して有効にする通貨バケットが決定されます。通貨バケットは、システム設定で構成されます。システム・レベルで有効になっているバケットのみを個々のプロファイルに対して有効にできます。通貨バケットが有効になると、そのバケットに対するシステム・レベルのデフォルトを受け入れるか、プロファイル固有のデフォルト値を割り当てることで、プロファイルにデフォルト通貨を割り当てることができます。

プロフィールのアクセスの指定

「アクセス」タブでは、プロフィールに関連する照合のコメント作成者または参照者として許可するユーザーを決定します。コメント作成者は、照合を表示して、照合または照合のトランザクションにコメントを追加できます。参照者は、読取り専用アクセス権を持ちます。

ユーザーまたはチームをコメント作成者またはレビュー担当者として選択するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「プロフィール」の順に選択します。
2. 「新規」(+)をクリックし、「新規プロフィール」を作成します。
3. 「アクセス」タブを選択します。
4. 「追加」(+)をクリックします。
5. 「参照者の選択」または「コメント作成者の選択」で、「ユーザーの検索」をクリックします。
6. 「ユーザー」または「チーム」を選択し、名前を入力するか「検索」をクリックします。
7. 「検索結果」で、コメント作成者または参照者ユーザー、またはチームを選択し、それらを「作業可能」列に追加します。

プロフィール属性の指定

「属性」タブを使用すると、管理者は、プロフィールに属性を割り当てて、その属性に値を指定できます。「照合」にある「サマリー」タブの下の「他の属性」に属性が表示されます。

「ロック済」列には、属性がフォーマットから継承されたことが表示されます。

属性の作成方法の詳細は、[属性の作成](#)を参照してください

プロフィール属性を追加するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「プロフィール」の順に選択します。
2. 「新規」(+)をクリックし、「新規プロフィール」を作成します。
3. 「属性」タブをクリックします。
4. 「追加」(+)をクリックし、「属性の割当ての追加」を表示します。
5. 属性で、定義された属性のリストから属性を選択します。属性の選択に応じてダイアログ・ボックスのオプションが表示されます。

 ノート:

差異分析プロファイルに属性を追加する場合は、「属性の設定」ダイアログで次の点に注意してください。

- 「ソース・システム残高の入力」を使用して、**現在の期間残高の入力**を指定する必要があります
- 「サブシステム残高の入力」を使用して、**可変の期間残高の入力**を指定する必要があります。

6. 「タイプ」の下にあるこの編集不可のフィールドには、属性の選択に応じて値が移入されます。
7. 「値」で、属性のタイプに関連付けられた値を選択します。たとえば、フォーマット済数値属性の場合は数値、「リスト」属性の場合はリスト、「複数行のテキスト」の場合はスクロールせずに表示できる複数行のテキスト、「ユーザー」属性の場合は個人名、「はいいいえ」属性の場合は「はい」または「いいえ」です。
8. 「アクセス」で、選択した属性の役割およびアクセスを選択します。次に指定されていないかぎり、すべての役割に表示アクセス権があります。各テキスト・ボックスおよび「添付」タブのアクセスを追加するには:
 - a. 「追加」をクリックします。
 - b. 役割を選択します。
 - c. 役割アクセス・タイプのいずれかを選択します:
 - **テキスト・ボックス:**
 - **表示しない** - この属性は「照合」リスト、あるいはダッシュボード、リスト・ビューまたはレポートのいずれにも表示されません。
 - **編集を許可** - 属性の値を追加、変更および削除する権限がありますが、編集ルールの対象です。
 - **必須** - 属性に値が必要です。策定者とレビュー担当者には、「必須」オプションがあります。値が指定されるまで、策定者は送信できず、承認者は承認できません。
 - 「複数行のテキスト」ボックスには、アクセス・タブが2つあります。
 - 「テキスト・ボックス」タブ:
 - * **表示しない** - この属性は「照合」リスト、あるいはダッシュボード、リスト・ビューまたはレポートのいずれにも表示されません。
 - * **編集を許可** - 属性の値を追加、変更および削除する権限がありますが、編集ルールの対象です。
 - * **必須** - 属性に値が必要です。策定者とレビュー担当者には、「必須」オプションがあります。値が指定されるまで、策定者は送信できず、承認者は承認できません。
 - 「添付」タブ:
 - * **表示しない** - この属性は「照合」、あるいはダッシュボード、リスト・ビューまたはレポートのいずれにも表示されません。

- * **追加および削除** - ファイルの追加や、自分が追加したファイルの削除が可能です。編集ルールの対象です。
 - * **必須** - 策定者またはレビュー担当者が少なくとも1つのファイルを添付することが必要です。策定者とレビュー担当者にのみ、「必須」オプションがあります。ファイルが添付されるまで、策定者は送信できず、承認者は承認できません。
 - * **すべてを追加および削除** - 自分のファイルの追加や削除、別の役割によって追加されたファイルの削除も可能です。
9. 照合内で属性に行われた更新をプロファイルにプッシュする場合、「**照合の変更をプロファイルにコピー**」を選択します。これにより、照合と合うようにプロファイルが更新され、次の期間に照合を作成したときに同じ値が使用されるようになります。
10. 「OK」をクリックします。

プロファイル・ルール の操作

プロファイル・ルールは照合の動作に影響します。これらのルールを使用すると、プロファイル/照合に直接ルールを割り当てることができます。これらのルールは、ルールが構成された照合に対して適用されます。

附随する照合がすでに存在する場合、ルールはトランザクション条件のみを評価します。

プロファイルのフォーマットに割り当てられたルールは、読取り専用形式で表示されます。

- **照合の自動承認** - 指定された条件を満たしている場合にのみ、指定された承認が自動的に完了します。
このルールに適用される条件の例を次に示します。
 - 残高が指定の範囲外にある場合
 - 残高が指定された金額または割合を超えて、いくつかの前期間から変動する場合
 - 前の照合に、指定の基準を満たすトランザクションまたはその他の条件がある場合
 - 属性に指定の値がある場合(計算済属性を含む)

条件を満たすと、ルールによって指定のレビュー担当者レベルが完了としてマークされ、これによりワークフローが次の確認レベルに進むか、他に確認レベルがない場合は「クローズ済」になります。

このルールは、照合ステータスがオープン(レビュー担当者)に変更されたときに実行されます

このルールは再実行できます。

- **照合の自動送信** - 指定された条件を満たしている場合にのみ、照合を自動的に送信します。
このルールに適用される条件の例:
 - 残高が指定の範囲外にある場合。
 - 残高が指定された金額または割合を超えて、いくつかの前期間から変動する場合。

- 前の照合に、指定の基準を満たすトランザクションまたはその他の条件がある場合。
- 属性に指定の値がある(計算済属性を含む)

条件を満たすと、指定のレビュー担当者レベルが完了としてマークされ、ワークフローが次の確認レベルに進むか、他に確認レベルがない場合はワークフローがクローズ済になります。

ノート:

このルールは、ワークフロー・ステータスが常に「クローズ済」に進む既存の自動照合機能とは異なります。自動送信ルールは、引き続き手動による確認を呼び出しつつ、準備を自動化できるオプションの方法です。

このルールは、照合ステータスが「保留中」から「オープン(策定者)」に変更されたときに実行されます

このルールは再実行できます。

- **照合承認の防止** - このルールでは、属性値または他の特性に基づいて、照合が承認されないようにします。このルールは、承認者が「**承認**」をクリックすると実行されます。
- **照合送信の防止** - このルールでは、属性値または他の特性に基づいて、照合が送信されないようにします。このルールは、策定者が「**送信**」をクリックすると実行されます。
- **照合添付が必要** - このルールは、照合の主要添付セクションに添付が追加されていない場合に照合が送信されないようにします。属性値、またはどのような場合に添付が必要になるかを指定する他の特性に基づいて、条件が設定されます。このルールは、策定者が「**送信**」をクリックすると実行されます。
- **照合却下の防止** - このルールは、特定の条件下でレビュー担当者による却下を阻止します。このルールは、レビュー担当者が「**却下**」をクリックすると実行されます。
- **更新時に電子メールを送信** - このルールでは、特定の条件が満たされて照合が保存されたときに電子メールが送信されます。

ノート:

このルールは、属性の設定など照合に対する操作を行うと実行されるよう設計されます。日付のリセットなどの「**アクション**」ダイアログ以外で行われる照合に対する操作では実行されません。

列:

ロック済

ルールがフォーマットから継承された場合に「ロック済」が表示されます。

順序

ルールの正常な実行によって、後のルールが呼び出されないようになることがあります。たとえば、顧客が自動照合ルールを照合に割り当てて、自動照合が成功した場合は、「送信」機能に関連付けられたルールが呼び出されなくなります。自動照合およびルールの優先順位を参照してください。

属性値の設定

プロファイルが期間にコピーされ、ルール定義で設定される前に、属性値を指定の値に設定します。このルールを使用すると、標準属性に対してルールを構成できます。このルールは再実行できます。

例: 期間の頻度に基づいて策定者期間を設定します。ルール構成でサポートされる値設定のタイミング: プロファイルが期間にコピーされる前。

プロファイル・ルールを操作するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**プロファイル**」をクリックします。
2. 「**プロファイル**」で、プロファイルをダブルクリックします。
3. 「**ルール**」タブを選択します。次の情報を表示できます:
 - 順序 - 優先順位。 [自動照合およびルールの優先順位](#)を参照してください。
 - ルール - ルールの名前
 - 条件 - ルールを実行する前に存在している必要がある条件の選択
4. ルールの作成、編集、複製、削除または並替えを行うには、「ルール」タブで適切なボタンをクリックし、必要に応じて更新します。
 - **ルール** - ルールを選択します。
 - **説明**—オプション。ルールを構成した理由と、ルールの使用方法を説明します。
 - **メッセージ**(合計ルールについて):
 - **策定者へのメッセージ** - 照合送信の防止ルールおよび照合添付が必要ルールで、策定者へのオプションのメッセージを定義します。
 - **レビュー担当者へのメッセージ** - 照合承認の防止ルールで、レビュー担当者へのオプションのメッセージを定義します。
 - **レビュー担当者レベル** - 「**すべてのレベル**」を選択してすべてのレビュー担当者レベルにルールを適用するか、特定のレビュー担当者レベルを個別に選択します。少なくとも1つのレビュー担当者レベルを選択する必要があります。
 - 「**フィルタの作成**」を選択して条件セクションに移入するか、「**保存済フィルタの使用**」を選択してからフィルタを選択します。ルールに対して選択および構成されたフィルタが、適用するルールをトリガーする条件を決定します。
 - 条件 -
 - **保存済フィルタの使用**を選択すると、「条件」セクションには保存済フィルタに関連付けられた条件の読取り専用バージョンが表示されます。
 - 「**フィルタの作成**」を選択すると、「条件」セクションが有効になります。「組合せ」、「ソース」、「属性」、「演算子」および「値」は、既存の高度なフィルタ機能の場合と同様に動作します。フィルタを作成する際は次の属性を使用できます。
 - * 照合およびトランザクション属性として分類される計上属性を含む、あらゆる照合またはトランザクション属性
 - * 期間頻度

自動照合およびルールの優先順位

このトピックでは、自動照合とルールの実行時の優先順位について説明します。処理順序の概要は次のとおりです。

1. 自動照合方法 - **プロファイルの作成**の自動照合方法を参照してください
2. 3つの自動照合方法(アクティビティなし、残高が範囲内、残高が範囲内でアクティビティなし)によってクローズされた照合、前の照合からのトランザクション/コメントのコピー
3. ルールの実行
 - a. トランザクション・ルールのコピー
 - b. 属性ルールの設定(該当する場合)
 - c. ルールの自動送信/承認

優先ルールの順序

Oracle Account Reconciliation でのルールの正常な実行によって、後のルールが呼び出されないようになる可能性があります。たとえば、自動照合ルールを照合に割り当てて、自動照合が成功した場合は、「送信」機能に関連付けられたルール(照合添付の要求など)が呼び出されなくなります。

表 7-2 優先ルールの順序

ルール	ルール・タイプ	実行する条件	優先順位のノート
照合の自動承認	フォーマット/プロファイル・ルール	<p>オープン(レビュー担当者)への照合ステータス変更。</p> <p>データ・ロードの後処理で、データ・ロード・プロセスの結果満たされる可能性のある残高条件にルールが基づいているケースを処理する場合。</p> <p>このルールは、「ルールの実行」メニューの「アクション」を使用して再実行できます。</p> <p>自動承認ルールは、自動送信ルールがあるかどうかに依存します。たとえば、照合が次のような場合に実行されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • データ・ロードの前にクローズされ、新しいデータまたは変更されたデータのために再オープンされ、自動送信ルールによって照合が「承認者」ステータスになった場合 • オープンしているが、照合のためのトランザクションが入力またはインポートされておらず、自動送信ルールによって照合が「承認者」ステータスになった場合 	<p>複数の自動承認ルールが構成されている場合、なんらかのルールが成功すると照合が自動的に承認されます。</p>

表 7-2 (続き) 優先ルールの順序

ルール	ルール・タイプ	実行する条件	優先順位のノート
照合の自動送信	フォーマット/プロファイル・ルール	<p>「保留中」から「オープン(策定者)」への照合ステータス変更</p> <p>データ・ロード後の処理時に、自動送信ルールを実行するための基準は、照合が次のような場合です:</p> <ul style="list-style-type: none"> データ・ロードの前にクローズされ、新規または変更されたデータのために再オープンされた場合 オープンしているが、照合のためにトランザクションが入力またはインポートされていない場合 <p>このルールは、「ルールの実行」メニューの「アクション」を使用して再実行できます。</p>	<p>照合の自動送信ルールが評価される前にトランザクションのコピールールが処理されます。</p>
<p>トランザクションのコピー</p> <p>ユーザーによって実行された前の照合からトランザクションをコピーすると、同じプロファイルに対応します。</p> <p>このコピー機能は、「前の照合からトランザクションをコピー」ウィンドウと同じように動作します。コピー対象の前の照合からのトランザクション、トランザクション添付およびトランザクション・コメントは、設定された条件に基づいて選択されます。</p> <p>ノート: 前の照合からのトランザクションのコピーは、サマリー照合には許可されていません。</p>	フォーマット・トランザクション・ルール	<p>このルールは次の場合に実行されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> 照合のステータスが「保留中」から「オープン(策定者)」に変更されます。 ステータスが「保留中」の照合に残高がロードされます。 <p>このルールは、「ルールの実行」メニューの「アクション」を使用して再実行できます。</p>	<p>照合の自動送信ルールが評価される前にトランザクションのコピールールが処理されます。</p>

表 7-2 (続き) 優先ルールの順序

ルール	ルール・タイプ	実行する条件	優先順位のノート
金額編集の防止	フォーマット・トランザクション・ルール	策定者が「トランザクションの詳細」ダイアログ・ボックスにアクセスする場合。	ルールに関連付けられた条件が満たされている場合、策定者がアプリケーションからトランザクション金額を編集することはできません(金額属性が無効であり、計上金額に対する上書き機能もすべて無効になっています)。また、インポート検証により、インポートを介した金額の編集はできません。
照合承認の防止	フォーマット/プロファイル・ルール	承認者が「承認」をクリックします	承認者が「承認」をクリックするとルールがトリガーされます。任意の順序で評価できます。いずれかのルールが成功した場合は承認機能は使用できません。
照合送信の防止	フォーマット/プロファイル・ルール	策定者が「送信」をクリックします。	策定者が「送信」をクリックするとルールがトリガーされます。任意の順序で評価できます(順序は関係ありません)。いずれかのルールが成功した場合は送信機能が防止されます。
照合却下の防止	フォーマット/プロファイル・ルール	レビュー担当者が「却下」をクリックします。	ユーザーが特定のフィールドに入力していないかぎり、ルールによって却下が阻止されます。策定者に修正方法の詳細が提供されます。
トランザクション削除の防止	フォーマット・トランザクション・ルール	策定者はトランザクションの「削除」をクリックします。	策定者が「削除」をクリックするとルールがトリガーされます。任意の順序で評価できます。いずれかのルールが成功した場合は削除機能が防止されます。

表 7-2 (続き) 優先ルールの順序

ルール	ルール・タイプ	実行する条件	優先順位のノート
トランザクション保存の防止	フォーマット・トランザクション・ルール	策定者がトランザクションの「保存」をクリックします	策定者がトランザクションの「保存」をクリックするとルールがトリガーされます。任意の順序で評価できます(順序は関係ありません)。いずれかのルールが成功した場合は送信機能が防止されます。
トランザクションの添付が必要	フォーマット・トランザクション・ルール	策定者がトランザクションの「保存」をクリックします	策定者がトランザクションの「保存」をクリックするとルールがトリガーされます。任意の順序で評価できます。いずれかのルールが成功した場合は送信機能が防止されます。
照合添付が必要	フォーマット/プロファイル・ルール	策定者が「送信」をクリックします	策定者が「送信」をクリックするとルールがトリガーされます。任意の順序で評価できます。いずれかのルールが成功した場合は送信機能が防止されます。
更新時に電子メールを送信	フォーマット/プロファイル・ルール	ユーザーが照合の属性を更新し、あらかじめ存在する条件が満たされます。	ユーザーが「照合」ダイアログで属性値を更新し、このルールに関連付けられている特定の条件が満たされた場合にルールがトリガーされます。
属性値の設定	フォーマット/プロファイル・ルール	<p>「実行時期」属性の構成に準拠:</p> <p>プロファイル属性: プロファイルが期間にコピーされる前。</p> <p>このルールは、「ルールの実行」メニューの「アクション」を使用して再実行できます。</p> <p>フィルタ条件の期間を参照するルールは、(プロファイルまたは期間から)照合を作成する際に実行されません。そのようなルールは、照合の作成後に、「アクション」の下の「ルールの実行」オプションを使用して実行する必要があります。</p>	

プロファイルの履歴の表示

プロファイルの履歴を表示するには:

1. ホームから「**アプリケーション**」、「**プロファイル**」の順に選択します。
2. **勘定科目 ID** をダブルクリックして「プロファイルの編集」を開き、「**履歴**」タブをクリックします。
3. ワークフロー割当ての変更、フォーマット構成の変更、リスク評価、プロファイル属性など、プロファイルに対する変更が記録される「**履歴**」タブを確認します。

勘定科目の追加

「勘定科目の追加」ダイアログを使用して、勘定科目をサマリー・プロファイルに割り当てることができます。

勘定科目をサマリー・プロファイルに割り当てするには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**プロファイル**」をクリックします。
2. 新規プロファイルを作成して「**サマリー・プロファイル**」を選択するか、サマリー・プロファイルを選択して「**編集**」を選択します。
3. 勘定科目を選択して「**選択済勘定科目**」に追加します。
4. 次のいずれかとして保存します。
 - **フィルタとして保存** - サマリー・プロファイルが期間にコピーされるときにフィルタを評価し、その時点でその勘定科目のリストが保存されて保管されます。
 - **リストとして保存** - 「**使用可能な勘定科目**」で、サマリー・プロファイルの勘定科目を選択して、「**選択済勘定科目**」に追加し、勘定科目を選択します。
5. 終了したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。

プロファイルでの Excel CSV ファイルの使用

管理者およびパワー・ユーザーは、Excel でプロファイルを構成し、それらをインポートできます。

プロファイルをインポートするには:

1. ホームから「**アプリケーション**」をクリックし、「**プロファイル**」をクリックします。
2. プロファイル・リストをエクスポートして、列見出し付きのスプレッドシートを作成するインポート・テンプレートを作成します。
3. これにプロファイル情報をコピーして貼り付けます。
4. ファイルをインポートします。[プロファイルのインポート](#)を参照してください。

プロファイルのインポート

この手順を使用して、プロファイルを「**勘定科目照合**」にインポートします。1つのファイルに一度にインポートできるプロファイルは最大 300,000 です。300,000 を超えるプロファイルをインポートする必要がある場合は、プロファイルを複数のファイル・インポートに分割して、最大数を下回るようにする必要があります。

プロファイルをインポートするには:

1. ホームから「**アプリケーション**」、「**プロファイル**」の順にクリックします。

2. 「プロファイル」で、「アクション」、「インポート」の順に選択します。
3. 「プロファイルのインポート」ダイアログ・ボックスで、次の入力を行います。
 - a. **ファイル**
インポートするファイルの場所を入力するか、「参照」をクリックしてファイルを検索します。
 - b. 「ファイル・タイプ」で、次のいずれかを選択します。
 - プロファイル
 - サマリー照合の子

 **ノート:**

プロファイルのエクスポート・オプションを使用して、インポートを使用する前にまずサマリー照合の子をエクスポートできません。プロファイル属性に変更を加える場合は、最初に**プロファイルのエクスポート・オプション**を使用することもできます。まずファイルをエクスポートして変更を加えてから、「インポート」を使用して、変更したプロファイルを再インポートします。[プロファイルのエクスポート](#)を参照してください。

- c. 次のいずれかを選択します:
- d. **インポート・タイプ**
次のいずれかを選択します:
 - **置換** - プロファイルの定義を、インポート・ファイル内の定義に置き換えます。このオプションでは、プロファイルの詳細を、インポートするファイル内の詳細に置き換えます。
 - **更新** - プロファイルの部分的な情報を更新します。勘定科目セグメント値は必須です。たとえば、インポート・ファイルで、プロファイルの指示を変更した場合や、レビュー担当者を再割当てした場合が考えられます。また、同じ変更を多数のプロファイルに行った(400 プロファイルのうち 100 のプロファイルに新しい属性を追加するなど)場合も考えられます。このオプションは、プロファイルの詳細を完全に置き換えるものではありません。ファイルに指定されている属性の詳細のみが更新されます。たとえば、インポート・ファイルにプロファイルの指示に関する列のみが含まれる場合、策定者、レビュー担当者およびその他の属性は影響を受けません。

 **ノート:**

組織単位を含むプロファイルをインポートする場合、インポート・ファイルで「組織単位 ID」を指定する必要があります。

- e. **日付フォーマット**
使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、**日付フォーマット**を選択します。日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットはエクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。
例:

- MM/dd/yyyy
 - dd/MM/yyyy
 - dd-MMM-yy
 - MMM d, yyyy
- f. インポート・ファイルのファイル区切り文字を選択します(カンマやタブなど)。または、「その他」を選択して、任意の1文字を区切り文字として指定します。
- g. 「インポート」をクリックします。インポートのサマリー・ステータスが表示されます:
- インポートが成功すると、「インポート - 成功」にインポートされたプロファイルの数が表示されます。
 - インポートでエラーが発生した場合、エラーのあるプロファイルはインポートされず、「インポート・エラー」にエラーが表示されます。
4. 「OK」をクリックして「プロファイル・リスト」に戻るか、「リセット」をクリックして別のファイルをロードします。どちらを選択しても、正常にインポートされたプロファイルは保存され、エラーのあるプロファイルは破棄されます。

プロファイルのエクスポート

ファイルへのプロファイルのエクスポート

プロファイルのエクスポートするには:

1. 「ホーム」から「アプリケーション」、「プロファイル」の順にクリックします。
2. 「プロファイル」で、「アクション」、「エクスポート」の順に選択します。
オプション: エクスポートするプロファイルのみを含めるようにプロファイル・リストをフィルタ処理します。
3. **プロファイルのエクスポート**で、次のように選択します。
 - **行**
次のいずれかを選択します:
 - **すべてのプロファイル**では、現在のフィルタ条件に一致するすべてのプロファイルがエクスポートされます。
 - **「選択されたプロファイル」**では、選択されたプロファイルがエクスポートされます

ノート:

「リストに表示するアイテムの最大数」設定を使用して、表示する最大行数を調整できます。手順の詳細は、[勘定科目調整でのガバナー制限の設定](#)を参照してください。

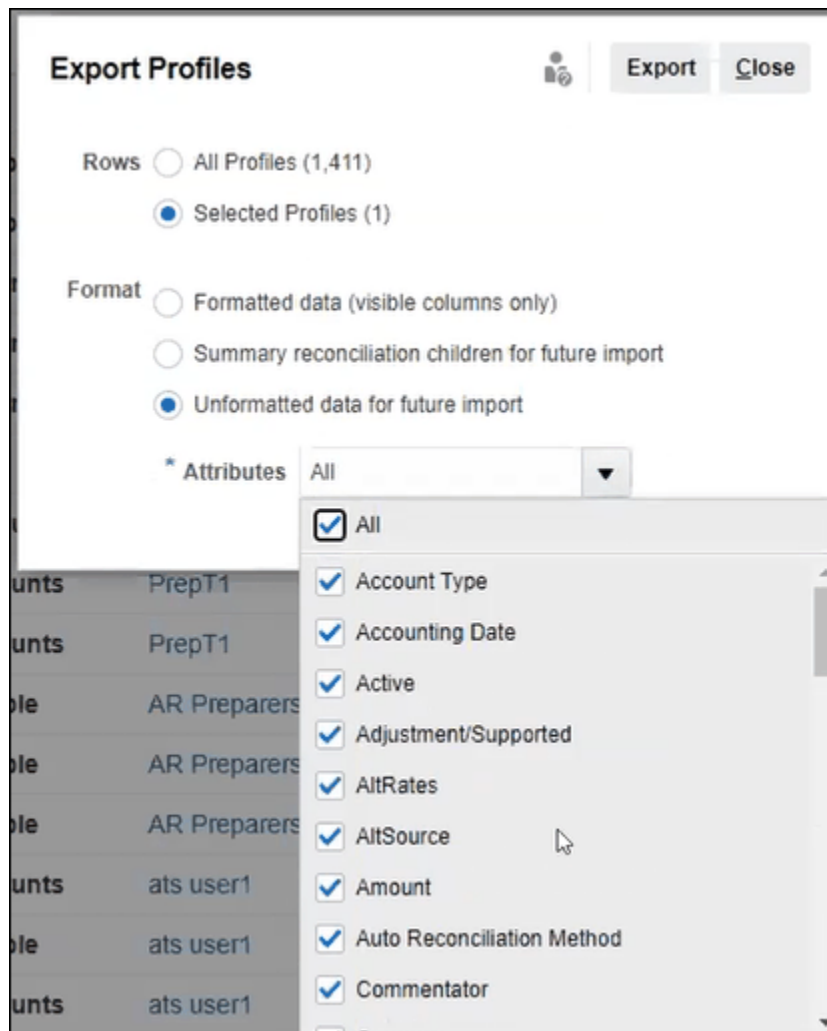
- **フォーマット**

次のいずれかを選択します:

- **「フォーマットされたデータ(表示列のみ)」**では、Excel 互換形式にエクスポートされます

- 今後のインポート用のサマリー照合の子では、将来のインポート用にサマリー情報がエクスポートされます。
- 「今後のインポート用のフォーマットされていないデータ」では、将来のインポート用に CSV 形式にエクスポートされます。

管理者またはパワー・ユーザーは、ファイルに含める属性を選択するか、デフォルトの「すべて」のままにできることに注意してください。



4. 「エクスポート」をクリックします。
5. 「開く」または「保存」をクリックして、ファイルをハード・ドライブに保存します。
6. プロファイルのエクスポートで、「閉じる」をクリックします。

変更されたプロファイル属性の将来のインポートに対するプロファイルのエクスポートの使用

エクスポートしたファイル内で変更を加えてから変更したプロファイルを「勘定科目照合」に再インポートするために、**プロファイルのエクスポート・ダイアログ**を使用してプロファイル属性をエクスポートできます。プロセスは次のとおりです:

- 「**プロフィール**」ダイアログの「**エクスポート**」を使用して、プロフィール属性をエクスポートします。[プロフィールのエクスポート](#)を参照してください
- ダウンロードした csv ファイルに変更を加えます。
- 「**プロフィール**」ダイアログの「**インポート**」を使用して、変更したプロフィールをインポートします。[プロフィールのインポート](#)を参照してください

プロフィールまたは照合の削除

Account Reconciliation で 1 つ以上のプロフィールまたは照合を削除できます。複数の削除を実行する場合は、バッチ・ジョブをバックグラウンドで実行することにより、処理中も引き続きタスクを実行できます。ジョブが実行されると、「**ジョブ**」カードを使用して、エラーがあるかどうかを確認できます。

Related Topics

- [プロフィールの削除](#)
サービス管理者は 1 つ以上のプロフィールを照合リストから削除できます。
- [照合の削除](#)
サービス管理者は 1 つ以上の照合を照合リストから削除できます。

プロフィールの削除

サービス管理者は 1 つ以上のプロフィールを照合リストから削除できます。

Note:

トランザクション照合のフォーマットに関連付けられているプロフィールを削除すると、プロフィールに関連付けられている照合および未照合の「トランザクション照合」トランザクションもすべて削除されます。プロフィールを削除する前に、環境のバックアップを取ることをお勧めします。

プロフィールを削除するには:

1. 「**アプリケーション**」から「**プロフィール**」を選択して、プロフィールのリストを表示します。
2. 目的の照合に簡単にアクセスするには、「**検索**」フィールドを使用します。次のグリッドのソース残高とサブシステム残高、日付およびアイコンベースの列を除いて、任意の属性で検索できます。たとえば、"Accounts"という語で検索すると、名前に **Accounts** が含まれるすべてのレコード (**Accounts Payable**、**Accounts Receivable** など)が表示されます。

特定のフィルタ機能を使用して特定の照合のリストにアクセスすることもできます。「検索」フィールドの隣にある「**フィルタ**」アイコンをクリックしてフィルタを設定します。
3. 削除するプロフィールを強調表示し、「**アクション**」から「**削除**」を選択します。

Account ID	Name	Valid	Format	Preparer
101-11502	ing USBNK Treasury Account	✓	Zero Balance Accounts	PrepT1
101-11503	ing USBNK2 Checking Account	✓	Zero Balance Accounts	PrepT1
101-12101	ints Receivable	✓	Accounts Receivable	ats User9
101-12102	ints Receivable (Low Risk)	✓	Accounts Receivable	AR Preparers
101-12103	ints Receivable (High Risk)	✓	Accounts Receivable	AR Preparers

- 警告メッセージが表示され、「選択したオブジェクトを削除しますか?」というメッセージに対して「OK」をクリックします
- 複数のプロファイルを削除する場合は、バッチ・ジョブの実行が開始され、バックグラウンドで実行されている処理のステータスを確認できます。

Delete Profiles

Close

Results

Selected 162

Deleted 162

Errors 0

Status Completed

Note: You can close this dialog before processing is complete since it runs in the background. To monitor progress go to the Jobs card under the Application cluster.

0% 100%

照合の削除

サービス管理者は1つ以上の照合を照合リストから削除できます。

照合を削除するには:

- 「ホーム」から「照合」を選択して、照合リストを表示します。
- 削除する照合を強調表示し、「アクション」から「削除」を選択します。

Account ID	Status	Start Date	End Date
101-13500	Open (with preparer)	Aug 14, 2021	Aug 25, 2021
101-12101	Open (with reviewer)	Aug 13, 2021	Aug 31, 2021

- 警告メッセージが表示され、「選択したオブジェクトを削除しますか?」というメッセージに対して「OK」をクリックします
- 複数の照合を削除する場合は、バッチ・ジョブの実行が開始され、バックグラウンドで実行されている処理のステータスを確認できます。

Deleting Reconciliations Close

Results

Selected 17

Deleted 17

Errors 0

Status Completed

Note: You can close this dialog before processing is complete since it runs in the background. To monitor progress go to the Jobs card under the Application cluster.

0% 100%

プロファイルの「アクション」パネルの使用

「アクション」パネルを使用して、プロファイルの属性およびワークフローのバッチ更新を実行します。すべてのプロファイルか、またはフィルタ処理されたプロファイルのサブセットを更新することができます。

たとえば、500 のプロファイルに John が策定者として割り当てられているとします。部署の責任が変更されたため、これらの勘定科目の策定者に Mary を割り当てる必要があります。John が策定者であるプロファイルのみを含めるようにプロファイル・リストをフィルタ処理し、「アクション」パネルを使用して Mary を策定者に設定します。

期間へのプロファイルのコピー

期間にプロファイルをコピーするには:

1. ホームで「アプリケーション」、「プロファイル」の順に選択します。
2. 「アクション」パネルで「照合の作成」をクリックします。
3. 希望の期間を選択し、「適用」をクリックします。
4. 期間にコピーするプロファイルを選択し、「適用」をクリックします。

プロファイルの複製

プロファイルは、コピーして貼り付けることで複製できます。

プロファイルをコピーするには:

1. ホームから「アプリケーション」をクリックし、「プロファイル」をクリックします。
2. プロファイルを選択します。
3. 「アクション」、「コピー」の順に選択します。
4. 「プロファイルのコピー」で、「保存して閉じる」または「取消し」をクリックします。

プロファイルを貼り付けるには:

1. ホームから「アプリケーション」をクリックし、「プロファイル」をクリックします。
2. プロファイルを選択して、「アクション」、「貼付け」の順に選択します。

8

グループ照合の操作

次も参照:

- [グループ照合の操作について](#)
- [グループ照合の管理者設定タスク](#)
グループ照合を操作するために管理者が実行する必要がある、1 回限りの設定タスクが複数あります。

グループ照合の操作について

多くの企業では、照合の実行レベルより下位のレベルで総勘定元帳および補助元帳の残高を追跡することが有用であると考えます。照合コンプライアンスにおいてグループ照合でサブセグメントを使用すると、策定者はあるレベルで照合し、下位レベルで詳細を理解できるようになります。これは、データをより徹底的に分析し、注意が必要な領域を識別するのに役立ちます。

次に例を示します:

勘定科目分析の場合、策定者は多くの総勘定元帳(GL)残高について単一グループ照合を実行できますが、どの説明付き残高トランザクションがどの詳細残高を意味していないかについてもアクセスできます。

残高の比較の場合、策定者は多くの総勘定元帳(GL)残高および補助元帳残高について単一グループ照合を実行し、どの詳細残高が一致しないかを容易に確認できます。

残高照会 - 照合の策定者、レビュー担当者または監査者は、特定の詳細残高がどのグループ照合に含まれるかを判別できます。

残高検証 - 管理者は、ロードを予定したすべての残高がロードされ、システムで有効であるかどうかを確認できます。

グループ照合でサブセグメントを使用する一般的な例としては、「エンティティ」、「勘定科目」および「コスト・センター」の 3 セグメント構成があります。これらのセグメントを潜在的なサブセグメントとして指定した場合、任意の組合せのセグメント全体におけるグループ照合を作成できます。たとえば、グループ照合#1 はエンティティ - 勘定科目レベルとし、すべてのコスト・センター全体をグループ化することで、コスト・センターがサブセグメントとなります。また、グループ照合#2 を作成して勘定科目レベルとし、すべてのエンティティおよびコスト・センター全体をグループ化することで、エンティティおよびコスト・センターがサブセグメントとなります。基本的に、全体をグループ化できるセグメントはサブセグメントとして指定するため、照合の構成時には必要に応じて柔軟にグループ化できます。

グループ照合のデータ・ロードについて

サブセグメント・レベルへのデータ・ロードは、「**データ管理**」内で実行する必要があります。「**勘定科目照合**」を使用して、残高を手動で編集したり、事前マップ済データをサブセグメント・レベルにロードすることはできません。事前マップ済残高のインポートは、常にプロファイル・セグメント・レベルで実行されます。

グループ照合の管理者設定タスク

グループ照合を操作するために管理者が実行する必要がある、1回限りの設定タスクが複数あります。

1. [サブセグメントの定義](#)
2. 新しいグループ照合設定用に[フォーマットの構成](#)を行い、次に、グループ照合となるプロファイルにこのフォーマットを適用します。
3. [グループ照合フォーマットをプロファイルに適用します](#)
4. 「[データ統合](#)」でターゲット・ディメンションにサブセグメントをマップします。[データ統合 - ターゲット・アプリケーション・ディメンション・マッピング](#)を参照してください。
5. [データ統合での統合の作成](#)
 - [データ統合でのディメンションのマッピング](#)
 - [データ統合でのメンバーのマッピング](#)

設定の後、[進行中のタスク - 「勘定科目照合」におけるデータ・ロードの作成と実行](#)を参照してください。

策定者の場合の相違点

管理者は、「[勘定科目照合](#)」および「[データ統合](#)」の両方でプロファイル・サブセグメントを設定および構成し、グループ照合のフォーマットを作成および適用してからフォーマットをプロファイルに適用したため、これが策定者にどのように表示されるかを説明します。グループ照合の策定者タスクを参照してください。

サブセグメントの定義

プロファイル・セグメントが「[勘定科目照合](#)」でサブセグメントとしてマークされている場合、このプロファイル・セグメントはデータ統合でターゲット・ディメンションにもマップされる必要があります。

サブセグメントがアクティブ化された後で1つ以上の期間にデータがロードされると、サブセグメントはロックされることに注意してください。



Note:

サブセグメント ID にハイフン(-)を含めることはできません。

最初に、「[勘定科目照合](#)」でサブセグメントを定義します:

1. 「[ホーム](#)」から、「[アプリケーション](#)」、「[構成](#)」、「[システム属性](#)」の順に選択します。
2. 「[プロファイル・セグメント](#)」で、「[サブセグメント](#)」チェックボックスを選択し、ドロップ・ダウン・リストから「[ターゲット・ディメンション](#)」を選択します。データ統合で定義されているディメンションを次に示します。

Name	Type	Sub-Segment	Target Dimension
Company	Text	<input checked="" type="checkbox"/>	UD3
Account	Text	<input checked="" type="checkbox"/>	UD2

Note:

Account Reconciliation 内の照合勘定科目 ID にマップする際には、空白のターゲット・セグメントに関する考慮事項があります。ターゲット照合で 2 つの移入済セグメント間に空白のセグメントがある場合、Account Reconciliation によって、照合勘定科目 ID 中にある空白および null のセグメント値はそれぞれ 3 つの空白文字として処理されます。また、Account Reconciliation によって、最後の移入済セグメントに続く NULL セグメントが切り捨てられます。

たとえば、グループ照合で照合 ID が "001-null-null-1925 XXX" の場合 (照合/プロファイルを表示すると、Account Reconciliation 内の "null" は存在しません (文字の無効化)。) Account Reconciliation の設計では、移入済セグメントの間の空白および null のセグメントごとに、データベース層の "null" が 3 つの空白文字に置き換えられます。データ統合内のターゲット・マップ済プロファイルでは、Account Reconciliation に合わせるために、"ACCOUNT ID 001- - -1925 XXX" となる必要があります。

フォーマットの構成

次のステップは、グループ照合のフォーマットの設定です。グループ照合のフォーマットを作成するには:

1. 「ホーム」から、「アプリケーション」、「構成」、「フォーマット」の順に選択します。
2. プラス記号(+)をクリックしてから必須フィールドに入力して、グループ照合の新規フォーマットを作成します。グループ照合について作成されたフォーマットの例を次に示します。次の点に注意してください。
 - 「グループ照合」チェックボックスを選択します。これを選択すると、照合アクション・ダイアログに「グループの詳細」リンクが表示されます。
 - その他のすべての設定は、個別照合と同様に動作します。

- グループ照合は、トランザクション照合または差異分析方法に適用されません。

Column	Label	Hide
Source System (Column)	Source System	<input type="checkbox"/>
Subsystem (Column)	3rd Party Subsystem	<input type="checkbox"/>
Adjustments to Source System (Tab)	Adjustments to Source System	<input type="checkbox"/>
Adjustments to Subsystem (Tab)	Adjustments to Subsystem	<input type="checkbox"/>
Group Detail (Tab)	Group Detail	—
Beginning Balance	Beginning Balance	<input checked="" type="checkbox"/>
Net Activity	Net Activity	<input checked="" type="checkbox"/>
Ending Balance	Ending Balance	<input type="checkbox"/>
Difference	Difference	<input type="checkbox"/>

グループ照合フォーマットをプロファイルに適用します

新規グループ照合のフォーマットを構成したら、グループ照合となるプロファイルにこのフォーマットを適用できます。これはプロファイルにフォーマットを適用する通常のプロセスに従います。プロファイルの操作を参照してください

データ統合 - ターゲット・アプリケーション・ディメンション・マッピング

データ統合では、「勘定科目照合」で追加した各サブセグメントを、データ統合の「ターゲット・アプリケーション」のディメンションとして、まったく同じサブセグメント名およびディメンション名を使用して追加する必要があります。

プロファイルは、「勘定科目照合」で構成されたプロファイルと一致する 1 つの連結値としてロードされます。各追加サブセグメントは、それ自体の"UD"フィールドに「参照」としてマップされます。これにより、UD マッピングが「勘定科目照合」の「プロファイル・セグメント」画面における"UD"の選択内容と一致します。

データ統合でサブセグメントをディメンションとして追加するには:

1. ホームから、「アプリケーション」、「データ交換」の順に選択します。データ統合ページが表示されます。

2. 「アクション」をクリックし、「アプリケーション」を選択します。「アプリケーション」ダイアログが表示されます。
3. 「照合コンプライアンス残高」を選択し、「アクション(省略記号)」をクリックし、「アプリケーション詳細」を選択します。
4. 「ディメンション」タブで、「追加」をクリックし、「勘定科目照合」で追加した各サブセグメントをデータ統合に追加し、正しくマップされるようにします。サブセグメントごとに次を追加します:
 - a. **ディメンション名 - 「勘定科目照合」**のプロファイル・セグメント名と完全に一致する必要があります。
 - b. **ターゲット・ディメンション・クラス - 「参照」**にする必要があります。
 - c. **データ表列名 - 「勘定科目照合」**で指定したターゲット・ディメンション名と一致する必要があります。

Application Details: Reconciliation Compliance Balances Save

Dimensions Options

+ 倉

Dimension Name	Dimension Classification	Data Table Column Name	Mapping Sequence
Account	LOOKUP	UD2	
Company	LOOKUP	UD3	
Currency Bucket	Scenario		
Period	Period		
Profile	Account	ACCOUNT	
Source Type	Generic	UD1	

データ統合での統合の作成

統合は、データをソース・システムから抽出して、ターゲット・システムにロードする方法を指定します。

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「データ交換」の順に選択します。データ統合ページで、「追加」アイコンをクリックして統合を作成します。

*Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理*のデータ統合の定義を参照してください。

2. サブセグメントをマッピングします。[データ統合でのディメンションのマッピング](#)を参照してください。
3. データ・ロード中に、データをソースからターゲットにマッピングします。[データ統合でのメンバーのマッピング](#)を参照してください。

データ統合でのディメンションのマッピング

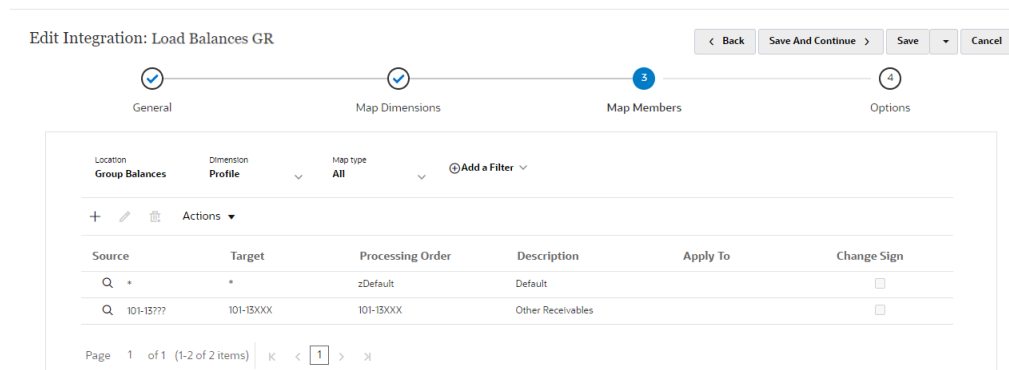
各サブセグメントが、**Account Reconciliation** にロードできるように、ディメンションのマッピング・ステップの一部として「フォーマットのインポート」でマップされていることを確認してください。

「データ統合」でのフォーマットのインポートの詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理*のディメンション・マップの作成を参照してください。

データ統合でのメンバーのマッピング

データ統合でデータ・ロード・マッピングを構成するには、データ統合の作成時にメンバーのマッピング・ステップを使用する必要があります。**Oracle Enterprise Performance Management Cloud** データ統合の管理のメンバーのマッピングを参照してください。

次のイメージは、データ管理でのグループ照合に対するメンバーのマッピング構成を示しています。ターゲット値 **101-13XXX** は、ターゲット・プロファイルを表します。**101-13???**のソース値は、**101-13000** から **101-13999** までのソース・プロファイルがすべてターゲット・プロファイル **101-13XXX** にマップされることを示します。**Oracle Enterprise Performance Management Cloud** データ統合の管理のマルチディメンショナル・マッピングでの特殊文字の使用を参照してください。



「データ統合」で統合を構成したら、グループ照合の設定タスクが完了します。進行中のタスクにより、「勘定科目照合」でデータ・ロードが作成および実行されます。

進行中のタスク - 「勘定科目照合」におけるデータ・ロードの作成と実行

新規データ・ロードを作成するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「構成」、「データのロード」の順に選択します。
2. 「データのロード」ページで、「追加」アイコンをクリックします。
3. 「新規データ・ロード」ダイアログで、「空白のセグメント値の許可」を選択します。サブセグメント値を持たない残高をロードできるように、これを選択する必要があります。

があります。

New Data Load [OK] [Cancel]

* Name

Description

Mode

Allow blank segment values

Execute data load rules in parallel

Translate balances to higher currency buckets

Location

- Data Source
- EBS Source
- EPM
- ESG Reporting
- File
 - GHG Ledger
 - Group Balances
 - Group SubSystem
 - JDE Source
 - PeopleSoft
 - SubLedger Invoices
 - Tax Balances

4. 「場所」で、残高のインポート元のソースのタイプ(「ファイル」など)を展開し、適切な場所を選択します。

Account Reconciliation で残高をインポートするには:

1. ホームから「アプリケーション」、「期間」の順に選択します。
2. リストから、データをインポートする対象の期間を選択し、「アクション」から「データのインポート」を選択します。

第 II 部

トランザクション照合の設定

次も参照:

- [トランザクション照合について学ぶ](#)
トランザクション照合モジュールでは、企業は複雑な照合の実行に費やす時間を節約しながら、品質を向上させ、リスクを軽減できます。
- [トランザクション照合の設定の概要](#)
トランザクション照合を設定する前に照合コンプライアンスを設定する必要があります。これが必要になるのは、トランザクション照合が照合コンプライアンスで設定された期間を使用し、フォーマットとプロファイルも使用して照合を作成するためです。
- [調整またはトランザクションの仕訳としてのエクスポート](#)
「トランザクション照合」では、データ・ソースから調整またはトランザクションを二面性を持つ仕訳としてエクスポートでき、その後、Oracle ERP システムにインポートできます。エクスポートされた仕訳は.csv ファイルで提供されます。

トランザクション照合について学ぶ

トランザクション照合モジュールでは、企業は複雑な照合の実行に費やす時間を節約しながら、品質を向上させ、リスクを軽減できます。

Related Topics

- [トランザクション照合の概要](#)
このトピックでは、トランザクション照合、そのメリットおよびビジネス・ケースの基本的な理解を提供します。
- [トランザクション照合のワークフロー](#)
- [トランザクション照合の用語](#)
トランザクション照合を使用する前に、主要な概念および用語を理解します。
- [トランザクション照合の照合方法](#)
- [トランザクション・ステータスについて](#)
- [トランザクション照合のタスクの設定](#)
- [トランザクション照合エンジンについて](#)
このトピックでは、トランザクション照合エンジンがトランザクションをどのように評価するかを説明します。

トランザクション照合の概要

このトピックでは、トランザクション照合、そのメリットおよびビジネス・ケースの基本的な理解を提供します。

Related Topics

- [トランザクション照合について](#)
- [トランザクション照合のメリット](#)
- [トランザクション照合がシナリオに適しているかどうかをどのようにして判別しますか。](#)
- [トランザクション照合のビジネス・ケース](#)
- [トランザクション照合のサンプル・アプリケーションについて](#)

トランザクション照合について

トランザクション照合により、組織では、大量で労力を要する複雑な照合の準備を自動化できます。これらの照合は、照合コンプライアンス内の追跡機能とシームレスに統合できます。

照合コンプライアンス・プロセスの一環として、組織には、残高の比較に加えて、残高を形成するトランザクションを照合することが望まれます。トランザクション照合は、照合コンプライアンス機能セットを完全に補完するものです。複雑な照合の準備を単純化するために必要な機能を提供し、期間終了の結果を照合コンプライアンスの期末の処理に統合します。

トランザクション照合の目標は、1つ以上のデータ・ソースからトランザクションをロードし、事前定義済ルールを使用してトランザクションを照合して、例外を特定し、例外を説明

することです。通常、照合コンプライアンスで照合を準備する頻度は、トランザクションをロードする頻度以下になります。たとえば、毎月残高を比較して照合を準備する場合、トランザクションは日次、週次または月次でロードできます。

また、異なるソース間での貸借対照表以外の照合(運用照合とも呼ばれる)にトランザクション照合を使用することもできます。例としては、システム間照合、株式決済、経費払戻などがあります。

 **Note:**

トランザクション照合機能は、Oracle Enterprise Performance Management Enterprise Cloud Service (EPM Enterprise Cloud Service)でのみ提供されません。

Account Reconciliation のビデオ・ツアー

ビデオを見るには、次のリンクをクリックしてください。



トランザクション照合のメリット

トランザクション照合を使用するメリットは、次のとおりです：

- 複雑な照合を手動で準備するために費やされる追加の時間と労力を節約します
- リスクを軽減し、照合プロセスの品質が向上します
- 照合の準備プロセスでの非効率性を除去します
- 人的エラーを削減し、照合プロセスを高速化します

トランザクション照合がシナリオに適しているかどうかをどのようにして判別しますか。

次の質問に回答し、トランザクション照合が照合に適しているかどうかを決定します：

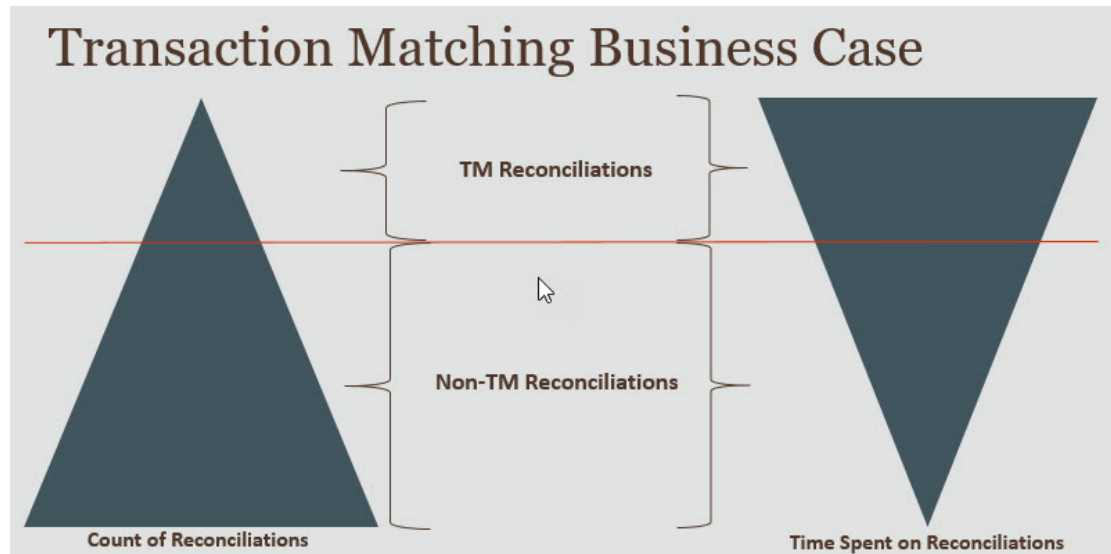
- この照合に費やした FTE (常勤換算)はどのくらいですか。
- この照合での 1 か月または 1 日当たりのトランザクション件数はどのくらいですか。
- 詳細データは両方のソースから入手できますか。

一方のソースのデータには詳細が含まれ、もう一方のソースのデータは要約されている場合があります。また、データ自体が完全に信頼できない場合もあります。たとえば、信頼性の低い手動の仕訳名または説明に基づいて照合ロジックを作成しようとする場合などです。

トランザクション照合のビジネス・ケース

照合の合計数を考慮すると、照合の数が少ない場合に最も多くの作業が発生することがわかります。これが、トランザクション照合機能が照合コンプライアンスを完全に

補完する理由です。これらの複雑な照合を単純化するツールを提供し、期間終了の結果を照合コンプライアンスの期末の処理に統合します。



トランザクション照合が有益なシナリオ

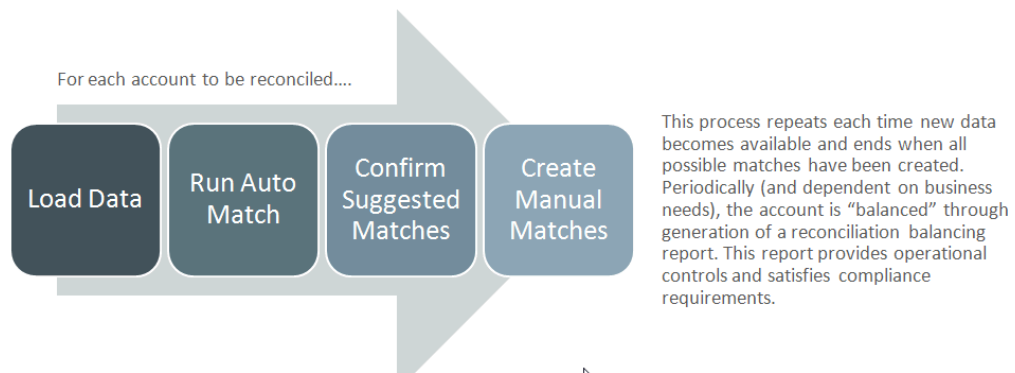
- 貸借対照表関連の照合
 - 仮勘定および決済勘定
 - 会社間
 - 現金
 - クレジット・カード売掛/未収金
 - 詳細補助元帳照合
- 運用(貸借対照表以外の)照合
 - システム間照合(通常、アカウントが相互に同期している必要のある2つのサードパーティが関与します)
 - 株式決済
 - 経費払戻

トランザクション照合のサンプル・アプリケーションについて

サービス管理者が **Account Reconciliation** についてさらに学習するのに役立つように、サービスを初めて起動するときにサンプル・アプリケーションを作成できます。アプリケーションの作成を参照してください。

トランザクション照合のワークフロー

トランザクション照合を使用するワークフローには、照合する勘定科目ごとに実行する必要がある複数のステップが含まれます。新しいデータが使用可能になるたびに、ステップを繰り返す必要があります。



トランザクションは任意のソースからインポートできます。インポート・プロセスは、オン・デマンドで実行するか、または自動的に実行するようにスケジュールできます。

自動照合プロセスは事前定義済ルールに従ってトランザクションを照合し、ユーザーは例外にのみ集中する必要があります。自動照合によって、確認済照合(アクションは不要です)、および照合候補(ユーザーは照合を確認または破棄できます)が作成されます。期間終了照合は、ビジネス要件に応じた頻度で実行されます。

トランザクション照合の用語

トランザクション照合を使用する前に、主要な概念および用語を理解します。

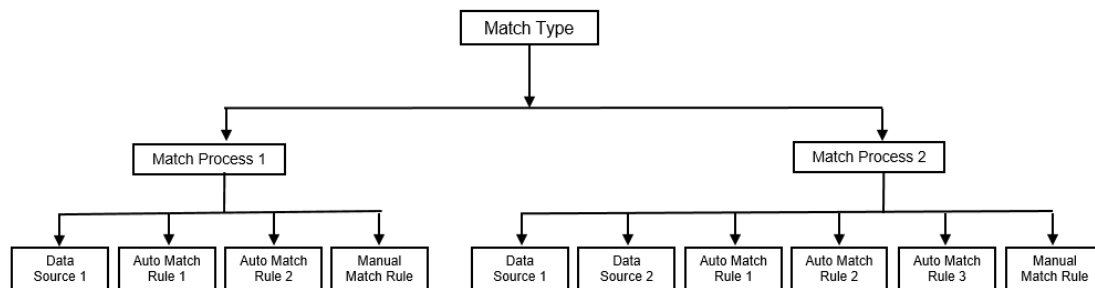
Related Topics

- [照合タイプ](#)
- [トランザクション照合のトランザクション](#)
- [データ・ソース](#)
- [照合ルール](#)

照合タイプ

照合タイプによって、トランザクション照合プロセスでこの照合タイプを使用する勘定科目がどのように処理されるかが決定されます。照合されるデータの構造、および照合に使用されるルールも決まります。

照合タイプはサービス管理者が作成します。照合タイプごとに、データ・ソースおよび照合プロセスを定義します。照合プロセスで、照合プロセスに含めるデータ・ソース、およびトランザクションの照合に使用する 1 つ以上の照合ルールを指定します。同じデータ・ソースおよび照合ルールの構成を共有するがぎり、同じ照合タイプを複数の照合に使用できます。



企業は、多くの異なる照合タイプを持つことができます。たとえば、会社間の勘定科目、銀行の勘定科目、売掛金、買掛金、様々な決済勘定などがあります。これらの様々な勘定科目ではデータ構造や照合ルールが異なる可能性があるため、企業では通常、勘定科目タイプごとに照合タイプを作成することになります。さらに、照合タイプを使用して、調整をテキスト・ファイルの仕訳として **Enterprise Resource Planning (ERP)** システムにエクスポートできます。

たとえば、単一のデータ・ソースがある決済勘定用の照合タイプ、2つのデータ・ソースがある会社間照合および照合用の照合タイプ、3つのデータ・ソース(GL、POS、銀行)がある現金口座用の照合タイプを作成できます。

トランザクション照合のトランザクション

トランザクションは1つ以上のソース・システムからロードされ、サブシステム内のトランザクションと照合されます。

タイミングと頻度

トランザクション照合では、次のような様々なワークフローの要件がサポートされます。

次のことが可能です:

- 毎日の照合および残高調整
- 毎日の照合および毎月の残高調整
- 毎月の照合および残高調整

データ・ソース

データ・ソースは、トランザクション照合へのトランザクションのロード元となるシステムです。これには、**Enterprise Resource Planning (ERP)** システム、オンプレミスまたはクラウドのデータベース、またはファイルが含まれます。

シナリオによっては、照合タイプ内に1つ以上のデータ・ソースを定義する必要がある場合があります。データ・ソースごとに、必要な属性(列)およびデータ・エンリッチメントに使用される計算属性を定義します。データ・ソースの例としては、総勘定元帳、補助元帳、銀行などがあります。

照合ルール

照合ルールによって照合がどのように行われるかが決まります。

ルールは、日付および金額の許容範囲について構成でき、差異がある場合は調整できます。

照合ルール・タイプ

次の照合ルール・タイプがサポートされています:

- 1対1
- 1対多
- 多対1
- 多対多
- 調整

許容差の限度

許容差の限度には、トランザクション照合で2つの値を照合するときに許容される差異を指定します。数値またはパーセンテージで表現できます。

たとえば、照合ルールで金額に-10から+10の許容差限度を指定したとします。次に、ソース・システムとサブシステムとの金額の差が10以下の場合、それらの金額は完全に一致していると思なされます。ソース・システムが26000で、サブシステムが25990であるとして、これらの値の差は10で、指定された許容差の10以下のため、これらの値は完全一致と思なされます。

詳細は、トランザクション照合エンジンについての「許容差の評価」を参照してください。

照合ルール条件

照合ルール条件は、どの属性を照合相手とするか、およびそれらが正確に一致する必要があるかどうか、または許容差を許可するかどうかを決定します。

照合ルール条件を使用すると、ソース・システムとサブシステムの属性間のデフォルトの関係を定義することで、複数ソースの照合プロセスの照合ルールを定義しやすくなります。

照合ルールの照合ステータス

自動照合プロセスの間、各照合ルールには照合ステータスが保持されます。

調整タイプ以外の照合ルールで考えられる照合ステータスは、次のとおりです:

- 候補
- 確認済
- 候補(不明なし)
- 確認済(不明なし)

調整タイプの場合、サポートされている照合ステータスは「候補」または「確認済」のみです。

トランザクション照合の照合方法

トランザクション照合のフォーマットは、次の照合方法のいずれかに基づきます:

- 残高の比較(トランザクション照合あり)

この方法は、残高を比較し、ソース・システムとサブシステムなど、2つの異なるソース間でトランザクションを照合する場合に使用されます。たとえば、販売時点管理システムと業者トランザクション・システムを使用したり、買掛金と総勘定元帳内の仕訳のトランザクションを照合できます。

- 勘定科目分析(トランザクション照合あり)

この方法は、単一のデータ・ソース内でトランザクションを照合する場合に使用されます。たとえば、借方と貸方の照合などです。最も一般的な使用例は、決済勘定などの勘定科目の正味残高を判別するために、単一のデータ・ソース内でトランザクションを相殺する場合です。

- トランザクション照合のみ

この方法は、主として、期間終了照合を実行せずに2つのシステム間でトランザクションを照合する場合に使用されます。

トランザクション・ステータスについて

すべてのトランザクションは、トランザクション照合にロードされたとき未照合です。その後、照合が実行されると、トランザクションにはステータスが割り当てられます。

トランザクションのステータスは、次のいずれかになります:

- 未照合

未照合トランザクションは、まだ対応するものがないトランザクションです。

- サポート

サポート済トランザクションは、対応するものがない正当な理由がある未照合トランザクションです。

策定者は、サポート詳細で理由を入力し、トランザクションに対応するものがない有効な理由を説明します。サポート詳細は、トランザクションが照合された後も **Account Reconciliation** に保持されます。

サポート済トランザクションを照合すると、ステータスは「確認済照合」に変わります。

[サポート済トランザクションの処理](#)を参照してください。

- 確認済照合

自動照合によって、トランザクションに完全一致があるか、または指定の許容差の限度内に一致があることが判断されると、トランザクションのステータスは「確認済照合」に設定されます。

手動照合を使用する場合:

- 照合候補が確認されると、照合候補内のトランザクションのステータスは「確認済照合」に変わります。
- 未照合トランザクションが照合されると、トランザクションのステータスは「確認済照合」に変わります。

- 照合候補

照合候補は、自動照合により可能な照合として識別される照合です。自動照合プロセスのみこのステータスを設定できます。

策定者が照合候補を確認すると、トランザクションのステータスは「確認済照合」に変わります。策定者が照合候補を破棄すると、トランザクションのステータスは「未照合」になります。

[照合候補の確認](#)を参照してください。

- 確認済調整

自動照合ルールによってトランザクションが片側調整としてクリアされると、トランザクションのステータスは「確認済調整」に設定されます。

手動照合を使用する場合:

- ステータスが「調整候補」のトランザクションが確認されると、そのステータスは「確認済調整」に変わります。
- 片側のみからのトランザクションが選択されて調整されると、それらのトランザクションのステータスは「確認済調整」に変わります。

[自動照合時に実行する片側調整の設定](#)を参照してください。

- 調整候補

自動照合ルールによって、片側調整としてクリアするのが可能なトランザクションが識別されると、それらのトランザクションに「調整候補」ステータスが割り当てられます。自動照合プロセスのみこのステータスを設定できます。

策定者は、調整候補を確認または破棄できます。候補が確認されると、トランザクションのステータスは「確認済調整」に変わります。候補が破棄されると、トランザクションのステータスは「未照合」に変わります。

[自動照合時に実行する片側調整の設定](#)を参照してください。

トランザクション照合のタスクの設定

サービス管理者は、トランザクション照合を設定するために特定のタスクを実行する必要があります:

1. 照合タイプを作成します。[照合タイプの作成](#)を参照してください。
 - a. データ・ソースの定義[データ・ソースの定義](#)を参照してください。
 - b. 照合プロセスの定義[照合プロセスの定義](#)を参照してください。
2. フォーマットの作成
[フォーマットの作成](#)を参照してください。
3. プロファイルの定義
[プロファイルの作成](#)を参照してください。

トランザクション照合エンジンについて

このトピックでは、トランザクション照合エンジンがトランザクションをどのように評価するかを説明します。

このトピックの例では、ソース・システムのデータ・ソースとサブシステムのデータ・ソースの次に示すトランザクションを想定しています。

Source System

Invoice	Date	Amount
1	September 15, 2016	\$100
1	September 16, 2016	\$200
1	September 17, 2016	\$200

Sub System

Invoice	Date	Amount
1	September 18, 2016	\$100
1	September 14, 2016	\$200
1	September 17, 2016	\$200

照合ルール

1. ソース・システムの請求書が、サブシステムの請求書と正確に一致する
2. ソース・システムが、-1 から+3 の許容差の範囲内でサブシステムの日付に一致する
3. ソース・システムの金額が、サブシステムの種類と正確に一致する

ソース・システムとサブシステムの種類属性は調整属性です。

評価の順序/最初に一致したものが優先

トランザクションは、データベースに存在する順序で照合に関して評価され、照合に関する評価を受けて、最初に条件を満たしたトランザクションが一致として選択されます。

評価の順序/トランザクション ID が最も小さく最初に一致したもの

トランザクションがロードされると、トランザクションにはトランザクション ID が順番に割り当てられます。そのため、トランザクション ID が最小の照合トランザクションは、最初にロードされ、最初に照合されることを意味します。

1 対 1 照合では、第 3 のトランザクションとの一致として適格である 2 つのトランザクションが存在するが、一致できるのは 1 つのみである場合、トランザクション ID が最も小さいトランザクションが一致として選択されます。

サブセット・ルールの場合、照合では、照合の作成時に金額とトランザクション ID の両方に基づいてトランザクションがソートされます。2 つのトランザクションの金額が同じ場合、トランザクション ID が最も小さいトランザクションが照合に使用されます。

不明なしを選択して同じルールを実行した場合、すべてのトランザクションが未照合のままとなります(予測どおり)。

許容差の評価

差異のあるトランザクションの照合を可能にする許容差レベルを設定するには、3 つの方法があります。次の設定が可能です。

- トランザクションに適用される許容差の差異値。たとえば、-1 から+3 までの差異の自動照合です。
- パーセンテージで表した許容差しきい値レベル。たとえば、金額の値の 0.5% までの自動照合です。
- パーセンテージで表した許容差しきい値レベルと差異の金額。たとえば、金額の値の 1.0% まで、最大金額は 100.00 までの自動照合です。

ノート:

パーセンテージ値は、高い方、低い方とも 100 以下である必要があり、**数値**または**整数**のデータ・ソース属性に使用できます。

値として設定された許容差の評価

設定された許容差値である許容差を評価する際、計算は、許容差の高い方の値や低い方の値のトランザクションへの適用方法に左右されます。たとえば、サンプル・トランザクションで日付値に許容差を適用する際、許可される許容差が-1 から+3 だとします。これらの値をソース・システム表の 1 つ目のレコードに適用した場合、9 月 18 日は 9 月 15 日の+3 日以内であるため、サブシステム表の 1 つ目のレコードが照合ルールを満たします。ただし、この許容差を(ソース・システムではなく)サブシステムのトランザクションに適用した場合、9 月 15 日は 9 月 18 日の-1 日以内ではないため、照合は失敗します。

ノート:

前述の例では日付の許容差が使用されていますが、同じ論理は日付、時間および整数データ型の許容差に当てはまります。

一貫した結果になるよう、許容差を評価する際には次のアプローチが使用されます。

1 対 1 ルール・タイプの評価

1 対 1 ルール・タイプでは、ソース・トランザクションは基本トランザクションまたはアンカー・トランザクションとして扱われます。次の例で、評価の行われ方を示します。この例では、日付の許容差が「開始」はゼロ(0)に設定され、「終了」は+3 に設定されたとします。

1. 1 つ目のソース・トランザクションから開始し、トランザクションの日付値に許容差の限度を加え、サブシステムの日付値の許容範囲を導出します。
2. 次に、一致している、サブシステムの 1 つ目のトランザクションが選択されます。この例では、ソースの 1 つ目のトランザクションの日付値は 9 月 15 日です。
3. 0 から+3 の許容差をサブシステム・トランザクションに加えると、日付値が 9 月 15 日以降で 9 月 18 日以前である、ソース・システムの 1 つ目のトランザクションが一致として選択されます。この一致は、緑で示してあります。

Source System		
Invoice	Date	Amount
1	September 15, 2020	\$100
1	September 16, 2020	\$200
1	September 17, 2020	\$200

Sub System		
Invoice	Date	Amount
1	September 18, 2020	\$100
1	September 14, 2020	\$200
1	September 17, 2020	\$200

4. ソースの 2 つ目のトランザクション(日付値は 9 月 16 日)に進むと、日付が 9 月 16 日以降で 9 月 19 日以前である、サブシステムの 1 つ目のトランザクションが検出されます。この一致の 9 月 17 日は範囲内となり、次に赤で示されています:

Source System		
Invoice	Date	Amount
1	September 15, 2020	\$100
1	September 16, 2020	\$200
1	September 17, 2020	\$200

Sub System		
Invoice	Date	Amount
1	September 18, 2020	\$100
1	September 14, 2020	\$200
1	September 17, 2020	\$200

5. ソース・システムの 3 つ目のトランザクション(日付値は 9 月 17 日)に進むと、日付が 9 月 16 日以降で 9 月 20 日以前である、ソース・システムの 1 つ目のトランザクションが検出される必要があります。ソース・システムには、この条件を満たすトランザクションがないため、一致は作成されません。

 **ノート:**

1つのソースの照合プロセスの場合、プラスのトランザクションがマイナスのトランザクションと一致します。

1 対多ルール・タイプの評価

1 対多ルール・タイプでは、ソース・システムのトランザクションが基本トランザクションです。

 **ノート:**

1 対多ルール・タイプでは、調整属性に加えて、完全一致または許容差の範囲内での一致となるルール条件を 1 つ定義する必要があります。

多対 1 ルール・タイプの評価

多対 1 ルール・タイプでは、サブシステムのトランザクションが基本トランザクションです。

 **ノート:**

多対 1 ルール・タイプでは、調整属性条件に加えて、完全一致または許容差の範囲内での一致となるルール条件を 1 つ定義する必要があります。

多対多ルール・タイプの評価

多対多ルール・タイプには、基本トランザクションはありません。かわりに、一連のルールを使用して条件が評価されます。

日付の許容差が指定されている多対多ルール・タイプの照合を評価するには、次のプロセスが使用されます。

1. ソース・システムから日付の最小値と日付の最大値を見つけます。
2. サブシステムから、次の式を使用して、照合を判別するときに許容される日付の最小値と日付の最大値を計算します:
 - サブシステムの最小の日付は、ソース・システムの最大の日付 + 日付の許容差範囲の開始値以降である必要があります
 - サブシステムの最大の日付は、ソース・システムの最小の日付 + 日付の許容差範囲の終了値以前である必要があります
3. 照合を決定する際、計算されたサブシステムの最小の日付とサブシステムの最大の日付の範囲内にあるすべてのサブシステム・トランザクションを考慮します

サブシステムの最小の日付は、サブシステムの最大の日付以前である必要があることに注意してください。

例: 日付許容差が指定されている多対多ルール・タイプ

この例では、照合に許容される日付許容差は-2 から+3 です。

店舗 ID 3738 の次のソース・システムのトランザクションについて考えます。

表 9-1 ソース・システムのトランザクション

店舗 ID	金額	日付
3738	\$715	23 年 2 月 7 日
3738	\$595	23 年 2 月 7 日
3738	\$960	23 年 2 月 4 日
3738	-\$138	23 年 2 月 4 日

ソース・システムのトランザクションでは、日付の最小値は 23 年 2 月 4 日で、日付の最大値は 23 年 2 月 7 日です。

店舗 ID 3738 の次のサブシステムのトランザクションについて考えます。

表 9-2 サブシステムのトランザクション

店舗 ID	金額	日付
3738	\$387	23 年 2 月 5 日
3738	\$211	23 年 2 月 5 日
3738	\$378	23 年 2 月 7 日
3738	\$342	23 年 2 月 5 日
3738	\$714	23 年 2 月 6 日
3738	\$100	23 年 2 月 7 日

ステップ 2 の式を使用して、照合の対象にする必要があるサブシステムのトランザクションの日付範囲を決定します。

- サブシステムの最小の日付は、23 年 2 月 5 日(23 年 2 月 7 日 - 2 日)以降である必要があります
- サブシステムの最大の日付は、23 年 2 月 7 日(23 年 2 月 4 日 + 3 日)以前である必要があります。

したがって、照合の作成時に 23 年 2 月 5 日から 23 年 2 月 7 日までのサブシステムのトランザクションがすべて考慮されます。この例では、サブシステムのすべてのトランザクションがこの範囲内にあります。

ソース・システムの金額の合計は 2132 です。サブシステムでは、計算された日付範囲内にあるトランザクションの金額の合計は 2132 です。したがって、ソース・システムとサブシステムのトランザクションは一致と見なされます。

照合が作成されない場合の例を理解するために、前述と同じソース・システムのトランザクションについて考えます。サブシステム・トランザクションの唯一の変更点は、最後のトランザクション(金額 = 100)の日付が 23 年 2 月 8 日であることです。照合を作成する際に考慮できるサブシステムの最大の日付は 23 年 2 月 7 日であるため、23 年 2 月 8 日のトランザクションは含まれません。ソース・システムの金額の合計は 2132 ですが、サブシステムの本金額の合計は 2032 です。したがって、これらのソース・システムとサブシステムのトランザクションのセットは一致しません。

 ノート:

多対多ルールの場合、完全一致条件を少なくとも 1 つ定義する必要があります。

調整属性の照合ルール条件の評価

調整属性の照合ルール条件を評価する方法は、その他の属性と多少異なります。サンプル・データを使用し、多対多ルール・タイプについて考えてみます。システムの評価方法は次のとおりです。

1. まず、請求書番号が一致するすべてのトランザクションが選択されます(ルール #1)。
2. 次に、ルール条件を満たしているかどうかを確認するために、日付属性が評価されます(ルール#2)。
3. 最後に、ソース・システムの金額がサブシステムの金額と正確に一致するかどうか評価されます(ルール#3)。

ソース・システムとサブシステムの複数のトランザクションが関わる多対多の照合であるため、まずデータ・ソースごとに金額の値を合計してから、総額同士を比較する必要があります。

この例では、ソース・システムのコストの合計が\$500 で、サブシステムの金額の合計も\$500 であるため、照合条件が満たされています。

Source System

Invoice	Date	Amount
1	September 15, 2016	\$100
1	September 16, 2016	\$200
1	September 17, 2016	\$200
Total:		\$500

Sub System

Invoice	Date	Amount
1	September 18, 2016	\$100
1	September 14, 2016	\$200
1	September 17, 2016	\$200
Total		\$500

 ノート:

1 対多の照合と多対 1 の照合にも同じプロセスが適用されます。1 つの照合に、同じデータ・ソースの複数のトランザクションが存在する場合は、比較する前に調整属性の値を合計しておく必要があります。

パーセンテージおよび差異限度として設定された許容差の評価

パーセンテージの許容差オプションは、**数値**および**整数型**のデータ・ソース属性(調整属性を含む)に使用でき、次のものに対して設定できます。

- 自動照合ルール
- 手動照合ルール
- デフォルトの属性マッピング

高い方の値と低い方の値がパーセンテージで表された許容差による照合の仕組みを見てみましょう。たとえば、次のような仮定だとします。

- 照合ルールには、高い方、低い方とも 1%の許容差があります
- 許容差の最大は.5 に設定されています

ソース・システム金額	サブ・システム金額	算出された許容差	差異(ソース - サブ・システム金額)	一致の計算	結果
99.6	100	99.6 の 1% = .99	99.6 - 100 = .4	.4 < .99 かつ < .5	はい。一致が見つかりました
99.1	100	99.1 の 1% = .99	99.1 - 100 = .9	.9 < .99 ただし > .5	許容差の最大差異を超えているため、一致は見つかりませんでした
100	99.6	100 の 1% = 1	100 - 99.6 = .4	.4 < 1 かつ < .5	はい。一致が見つかりました
100	99.1	100 の 1% = 1	100 - 99.1 = .9	.9 < 1 かつ > .5	許容差の最大差異を超えているため、一致は見つかりませんでした
50, 49.6	50, 50	99.6 の 1% = .99	99.6 - 100 = .4	.4 < .99 かつ < .5	はい。一致が見つかりました

1対1および1対多ルールの日付の許容差の評価

日付の許容差は、2つのデータ・ソース間でのトランザクションの照合に対して考慮する日数です。「**トランザクション照合**」では、トランザクションを照合する最も一般的な方法で日付の許容差が考慮され、銀行預入またはサブシステム・トランザクションの前に(GLなどの)ソースを使用可能として処理します。エンジンは、ソースにアンカーし、ルールに入力された許容差値に基づいて、そこから先の照合に対して考慮する日付値の範囲を計算します。

日付の許容差オプションは、「**日付**」タイプのデータ・ソース属性に使用でき、次のものに対して設定できます:

- 自動照合ルール
- 手動照合ルール
- デフォルトの属性マッピング

日付の許容差は柔軟性が非常に高く、次のものを使用して照合を指定するために使用できません:

- **日付の範囲**
ルールで日付の許容差を使用して、照合に対して考慮する日付の範囲を設定します。ルール作成では、これらのフィールドには範囲を示すために「**開始**」と「**終了**」というラベルが付けられています。エンジンでは、日付の許容差範囲を柔軟に操作できます。たとえば、今日と1日後との照合のトランザクションについて考えます。開始および終了の日付は、0から1になります。別の例では、トランザクションの照合をソース・トランザクションから2日で開始し、4日後に終了します。開始を-1、終了値を+1として入力することで、1日前(-1として開始)から1日先まで考慮されるようにすることもできます。
- **特定の日付**
日付の範囲ではなく別の特定の日付で1つのソースのトランザクションからサブシステムのトランザクションに照合できるため、日付の許容差の精度が増します。これは、「開始」および「終了」フィールドの日付の許容差値を、同じ値として使用することで行われます。たとえば、ソース・トランザクションを銀行トランザクションと2日後にのみ照合するとします。「開始」フィールドに2、「終了」フィールドに2を入力して、その日のみを照合で考慮できます。
- 休日および週末を照合で考慮しないように、通常のカレンダーではなく**ビジネス・カレンダー**。
デフォルトでは、「**勘定科目照合**」では日付範囲の日付を指定するために通常のカレンダーが使用されます。また、日付範囲を計算するときにビジネス・カレンダーを使用して、範囲の計算で会社の休日や週末をカウント対象から簡単に除外するオプションもあります。許容差を使用した日付タイプ属性ルール条件を作成する場合、および照合プロセスのデフォルトの属性マッピングにも、オプションとして「**ビジネス・カレンダーを使用**」チェック・ボックスを選択できます。ビジネス・カレンダーのオプションは、手動照合には使用できません。

 **ノート:**

ビジネス・カレンダーを使用するには、組織単位の勤務日および休日のリストを含む休日ルールを指定する必要があります。組織単位はプロファイルに割り当てられ、その後、関連するビジネス・カレンダーが照合の作成中に使用されます。*Account Reconciliation* の設定と構成ガイドの組織単位の定義を参照してください。

次に、日付の許容差が指定されたルールとビジネス・カレンダーのチェック・ボックスの例を示します。

Edit Rule Close

Calendar 3 to 4 days Forward

Rule Conditions Save

▲ Filters and Groups

Use Filtering to include the transactions that are needed for this matching rule. With no filter selected all unmatched will be considered for the matching rule.
Use Grouping to summarize transactions by the selected Grouped attribute(s) into a single transaction for matching. If you choose to group by certain attributes then only those attributes can be used in matching rules. If no grouping is selected then transactions will be matched as they are at their detail level.

Filters

Source System: 3-4D_Forward_Src
Sub System: 3-4D_Forward_Sub

Groups

Source System:
Sub System:

▲ Rule Conditions +

Source System - BA_SRC Matches Exactly	Source System: AD Source	Match Type: Matches with Tolerance	Sub System: AD Sub
Sub System - BA_SUB			
Source System - AD_SRC Matches with Tolerance	× Auto Reconciliation Tolerance Limits	Use: Custom Limits	
Sub System - AD_SUB		<input checked="" type="checkbox"/> Use business calendar	
Source System - TXT_SRC Matches Exactly	×	Start: 3	
Sub System - TXT_SUB		End: 4	
Source System - DT_SRC	×		

照合プロセスの定義時に日付の許容差を使用したルールを作成する方法の詳細は、ルールの作成による照合プロセスの定義を参照してください

トランザクション照合の設定の概要

トランザクション照合を設定する前に照合コンプライアンスを設定する必要があります。これが必要になるのは、トランザクション照合が照合コンプライアンスで設定された期間を使用し、フォーマットとプロファイルも使用して照合を作成するためです。

トランザクション照合の詳細

- トランザクション照合の構成ビデオを見るには、次のリンクをクリックしてください。



- トランザクション照合エンジンについてさらに学習するには、[トランザクション照合エンジンについて](#)を参照してください
- 複数のデータ・ソースおよび複数の照合プロセスの使用についてさらに学習するには、[複数のデータ・ソースおよび複数の照合プロセスの使用](#)参照してください

トランザクション照合を設定するステップ

トランザクション照合を照合とともに使用する前に、設定ステップを実行する必要があります。

トランザクション照合の設定での重要なステップは、次のとおりです:

- 照合タイプの作成時に使用するグループ属性を定義します。[グループ属性の作成](#)を参照してください。
- [照合タイプの作成](#)の説明に従って、照合タイプを作成します
照合タイプによってどのようにトランザクション照合を行うかが決まります。照合タイプごとに、データのソースおよび照合プロセスに使用するルールを定義します。同じデータ・ソースおよび照合ルールの構成を共有するかわり、同じ照合タイプを複数の照合に使用できます。
- トランザクション照合で使用できるフォーマット方法の1つを選択してフォーマットを作成し、照合タイプと関連付けます。

トランザクション照合のフォーマット方法:

- 残高の比較(トランザクション照合あり) - 照合コンプライアンスで使用される「残高の比較」フォーマットに似ています
- 勘定科目分析(トランザクション照合あり) - 照合コンプライアンスで使用される「勘定科目分析」フォーマットに似ています
- トランザクション照合のみ - 前と同じトランザクション照合を使用し、期末の照合を使用しない場合は、このフォーマットを選択します。また、少なくとも1つの期間を構成する必要があります。

[フォーマットの定義](#)を参照してください。

4. 定義したフォーマットに基づいた照合の作成に使用されるプロファイルを定義します。 [プロファイルの操作](#)を参照してください

いったんプロファイルが作成されると、管理者はトランザクション照合のために照合を作成することができ、ユーザーがトランザクション照合機能を実行できるようにデータをインポートできます。トランザクション照合での照合の作成およびデータ・ロードの理解を参照してください

 **Note:**

期間の設定方法の詳細またはロック期限のトランザクション照合のアクティビティへの影響については、 [期間の構成](#)および [期間のクローズ](#)および [ロック](#)を参照してください。

 **Note:**

「トランザクション照合のみ」のために **Oracle Account Reconciliation Cloud** を使用する予定で、残高調整レポートを作成する必要がある場合は、トランザクション照合設定の前提条件として少なくとも 1 つの期間を設定する必要があります。

グループ属性の定義

グループ属性では、単一エンティティに関連する依存属性のセットを簡単に管理するメカニズムが提供されます。

Related Topics

- [トランザクション照合でのグループ属性について](#)
グループ属性は、1 つ以上のメンバー属性で構成されるユーザー定義属性です。
- [グループ属性の作成](#)
照合コンプライアンスで、サービス管理者はグループ属性を作成できます。トランザクション照合で、「照合タイプ - 管理」アプリケーション役割を持つユーザーは、グループ属性を作成できます。
- [グループ属性メンバーの値のエクスポート](#)
グループ属性をエクスポートすると、メンバー属性値を別の環境で再利用できます。
- [グループ属性のインポート](#)
グループ属性をインポートすると、インポート.csv ファイルに含まれたグループ属性を自分の環境で使用できます。
- [グループ属性の編集](#)
サービス管理者は、メンバー属性のメンバーおよびグループ属性の値を変更できます。
- [グループ属性の削除](#)
サービス管理者は、グループ属性、メンバー属性、または特定の条件の対象であるメンバー属性値を削除できます。
- [照合コンプライアンスでのグループ属性について](#)
グループ属性は、1 つ以上のメンバー属性で構成されるユーザー定義属性です。

トランザクション照合でのグループ属性について

グループ属性は、1 つ以上のメンバー属性で構成されるユーザー定義属性です。

グループ属性は、メンバー属性のセットに対して複数の値を格納できます。グループ属性の 1 つのメンバー属性を、キー・メンバー属性として割り当てる必要があります。

グループ属性の例は、店舗 ID、店舗名、店舗の場所、電話番号、店舗マネージャおよび店舗電子メールのメンバー属性がある店舗です。複数の店舗の詳細は、このグループ属性に格納できます。各メンバー属性のデータは、値として参照されます。

グループ属性に格納されているデータは、次のようにすることができます：

Table 10-1 例: 店舗グループ属性

店舗 ID	店舗名	店舗の場所	電話番号	店舗マネージャ	店舗電子メール
100	店舗 1	Store1_Location	123-7645	Jane D	jane.d@company.com
200	店舗 2	Store2_Location	765-3467	Amar K	amar.k@company.com
300	店舗 3	Store3_Location	980-4821	Anita T	anita.t@company.com
400	店舗 4	Store4_Location	564-3563	Jack S	jack.s@company.com

Note:

照合コンプライアンスで定義されたグループ属性は、トランザクション照合で定義されたものとは異なります。トランザクション照合では、照合コンプライアンスのグループ属性を使用できず、その逆も同様です。

Note:

トランザクション照合で、「照合タイプ - 表示」アプリケーション役割を持つユーザーは、グループ属性のリストを表示する「グループ属性」タブを表示できません。

グループ属性を使用するメリット

- 一度定義して、複数のオブジェクト内で使用します
- 複数のオブジェクトで使用される属性の値の不一致を阻止します
 - いずれかのメンバーの値に変更がある場合、更新する必要があるのはグループ属性のその値のみです。この変更は、グループ属性のキー値を参照するアプリケーション内のすべてのオブジェクトで表示できます。
 - 照合またはトランザクションでグループ属性のキー・メンバーを選択すると、すべてのメンバー属性の値を自動的に取得します。
- アプリケーションでの複数の関連属性の設定に関係する労力が削減されます

通常、グループ属性メンバーのサブセットは、フォーマット、照合またはトランザクションに含まれます。そのため、照合で店舗 ID、店舗マネージャおよび店舗電子メールを使用し、トランザクションで店舗 ID、店舗の場所および電話番号を使用する場合があります。グループ属性が使用される場合、これらの属性のすべてを個別に設定する必要はありません。かわりに、店舗 ID (キー属性)を選択すると、他の属性メンバーの値は移入されます。

トランザクション照合グループ属性を使用できる場所

トランザクション照合に定義されたグループ属性は、次の場所で使用できます:

- 照合タイプ
 - データ・ソース属性
 - 調整属性
 - サポート属性
- ダッシュボード - 照合オブジェクト・タイプ用

グループ属性の作成

照合コンプライアンスで、サービス管理者はグループ属性を作成できます。トランザクション照合で、「照合タイプ - 管理」アプリケーション役割を持つユーザーは、グループ属性を作成できます。

照合コンプライアンスでグループ属性を作成するには:

1. **ホーム**から、「**アプリケーション**」、「**構成**」、「**属性**」の順に選択します。「属性」タブには、照合コンプライアンスで定義されたグループ属性を含むすべてのカスタム属性が表示されます。
2. 「**追加**」をクリックして「新規カスタム属性」ダイアログを表示します。
3. グループ属性プロパティを指定します。[グループ属性プロパティの指定](#)を参照してください。
4. グループ属性メンバーを定義します。[メンバー属性の定義](#)を参照してください。
5. グループ属性メンバーの値を指定します。[グループ・メンバー属性の値の指定](#)を参照してください。
6. 「**OK**」をクリックしてグループ属性を保存します。

トランザクション照合でグループ属性を作成するには:

1. **ホーム**から「**アプリケーション**」、「**照合タイプ**」の順に選択します。
2. 「**グループ属性**」タブを選択します。このタブには、トランザクション照合で定義されたすべてのグループ属性が表示されます。
3. 「**追加**」をクリックして「新規カスタム属性」ダイアログを表示します。
4. グループ属性プロパティを指定します。[グループ属性プロパティの指定](#)を参照してください。
5. グループ属性メンバーを定義します。[メンバー属性の定義](#)を参照してください。
6. グループ属性メンバーの値を指定します。[グループ・メンバー属性の値の指定](#)を参照してください。

7. 「OK」をクリックしてグループ属性を保存します。

グループ属性プロパティの指定

グループ属性プロパティには名前およびタイプがあります。

グループ属性プロパティを指定するには:

1. 「新規カスタム属性」ダイアログの「**プロパティ**」タブをクリックします。
2. 「**名前**」に、グループ属性の名前を入力します。名前は、アプリケーション内のすべてのカスタム属性全体で一意である必要があります。
3. 「**タイプ**」で「グループ」を選択します。

ノート: グループ属性の作成時は、「計算」オプションが無効になっています。

メンバー属性の定義

グループ属性の各メンバー属性に、名前およびタイプを指定する必要があります。

グループ属性のメンバー属性を定義するには:

1. 「新規カスタム属性」ダイアログの「**メンバー**」タブをクリックします。
2. 次のステップを使用して、1つ以上のメンバー属性を作成します:
 - a. 「**追加**」をクリックします。「新規属性メンバー」ダイアログが表示されます。
 - b. 「**名前**」に、メンバー属性の一意的名前を入力します。

名前は、アプリケーション内のすべてのカスタム属性およびシステム属性全体で一意的である必要があります。

- c. 「**タイプ**」でメンバー属性のタイプを選択します。[カスタム属性について](#)を参照してください。

「リスト」を選択した場合、このメンバー属性の値リストを指定する必要があります。メンバー属性のタイプとして「グループ」は選択できません。

Note:

照合コンプライアンスで、複数行のテキスト属性に添付を追加することはできません。

- d. これが計算属性の場合、「**計算**」を選択します。[計算済属性について](#)および[計算済属性の作成](#)を参照してください。

計算式の定義の指定時に、このグループ属性のメンバー属性のみを使用できます。

Note:

このオプションは、トランザクション照合で作成されたメンバー属性には無効です。

3. このグループ属性のキーとして使用する必要があるメンバー属性の「**キー**」を選択します。グループ属性には1つのキー属性が必要です。

グループ・メンバー属性の値の指定

グループ属性の各メンバー属性に複数の値を指定できます。

メンバー属性の値を入力するか、.CSV ファイルからインポートできます。[グループ属性のインポート](#)を参照してください。

グループ属性のメンバー属性の値を指定するには:

1. 「新規カスタム属性」ダイアログの「**値**」タブをクリックします。
「メンバー」タブで定義された各メンバー属性に対して、グリッドに 1 つの列が表示されます。
2. 定義されたメンバー属性に対して、1 つ以上の値のセットを作成します。
 - a. 「**追加**」をクリックして、新しい行を表示します。
 - b. 各メンバー属性に値を入力します。

Note:

キー属性の値は、グループ属性全体で一意である必要があります。

グループ属性メンバーの値のエクスポート

グループ属性をエクスポートすると、メンバー属性値を別の環境で再利用できます。

グループ属性をエクスポートするには:

1. 更新する必要があるグループ属性の「カスタム属性の編集」ダイアログを開きます。
 - 照合コンプライアンスで、ホーム・ページから、「**アプリケーション**」、「**構成**」、「**属性**」の順にクリックします。エクスポートする必要があるグループ属性の名前をクリックします。
 - トランザクション照合で、ホーム・ページから、「**アプリケーション**」、「**照合タイプ**」の順にクリックします。「**グループ属性**」タブを選択し、エクスポートする必要があるグループ属性の名前をクリックします。
2. 「**値**」タブをクリックし、「**エクスポート**」を選択します。

メンバー属性値が、メンバー属性名を列とした Members.csv という名前のファイルにエクスポートされます。この名前のファイルがすでに存在する場合、整数の接尾辞が使用され、ファイル名は Members (n).csv になります。

グループ属性のインポート

グループ属性をインポートすると、インポート.csv ファイルに含まれたグループ属性を自分の環境で使用できます。

インポート・ファイルに無効な値(つまり、グループ属性に存在しない値)が含まれている場合、その属性は空白のままになり、後で更新できます。

グループ属性をインポートするには:

1. 「新規カスタム属性」ダイアログまたは「カスタム属性の編集」ダイアログを開きます。
グループ属性の作成またはグループ属性の編集の最初のステップを参照してください。
2. 「値」タブをクリックし、「インポート」をクリックします。
「メンバーの値のインポート」タブが表示されます。
3. 「ファイルの選択」をクリックし、メンバーの値を含む.csv ファイルを選択します。
4. 「インポート・タイプ」で、1 つ以上のメンバーに既存の値がある場合に実行する処理を示すオプションを選択します。

次のいずれかのオプションを選択してください:

- **置換:** インポート・ファイルのすべての値が追加されるか、既存の属性値が置換されます。インポート・ファイルにない既存の属性値は変更されません。ただし、特定のキー値のすべての属性データが、ファイルのコンテンツで置換されるか、クリアされます。最新の変更をソース・システムから単に移動している場合、このインポート・タイプを使用します。たとえば、企業買収からの新規店舗データを追加する場合です。
- **すべて置換:** インポート・ファイルのすべての値によって既存の属性値が完全に置換されます。インポート・ファイルにない既存の属性値は削除されません。フル更新でソース・システムからの値をミラーリングしている場合、このインポート・タイプを使用します。たとえば、ERP システムからの店舗データと同期するための週次更新です。
- **更新:** キー属性を使用して比較し、メンバー属性値を、インポートしているファイル内のメンバー属性値で更新します。インポート・ファイルで指定されていないキー属性の値には影響がありません。インポート・ファイルのすべての値が追加されるか、既存の属性値が置換されます。インポート・ファイルにない既存の属性値は変更されません。特定のキー値の属性データのみが、ファイルのコンテンツで置換されます。ファイルにない属性の属性データは変更されません。属性にないキー値がインポート・ファイルにあると、エラーが発生します。
すべての属性値にわたる数個の属性のみを更新する場合、このインポート・タイプを使用します。たとえば、組織変更の後に、店舗マネージャを更新して残りの店舗データには影響を与えない場合です。

5. 「日付フォーマット」で、必要な日付フォーマットを選択します。
6. 「ファイル区切り文字」で、インポート.csv ファイルでファイル区切り文字として使用される文字を選択します。
7. 「インポート」をクリックします。

グループ属性の編集

サービス管理者は、メンバー属性のメンバーおよびグループ属性の値を変更できます。

グループ属性を編集するには:

1. 更新する必要があるグループ属性の「カスタム属性の編集」ダイアログを開きます。
 - 照合コンプライアンスで、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「構成」、「属性」の順にクリックします。更新する必要があるグループ属性の名前をクリックします。

- トランザクション照合で、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「照合タイプ」の順にクリックします。「グループ属性」タブを選択し、更新する必要があるグループ属性の名前をクリックします。
2. (オプション) 「名前」で、グループ属性の名前を変更します。
 3. メンバー属性を編集するには、「メンバー」タブをクリックします。

編集するメンバー属性を選択し、「編集」アイコンをクリックします。メンバー属性名およびリスト属性に指定された値リストを編集できます。新規メンバー属性を追加するには、「追加」アイコンをクリックします。

キー属性は変更できず、メンバー属性のタイプも変更できないことに注意してください。
 4. メンバー属性の値を編集するには、「値」タブをクリックします。

必要なセルをクリックし、値を変更します。変更を保存すると、このメンバー属性を使用するすべての照合またはトランザクションが、新しい値を使用するように更新されます。

「追加」アイコンをクリックして、新しい値を追加できます。キー属性の値は変更できないことに注意してください。

グループ属性の削除

サービス管理者は、グループ属性、メンバー属性、または特定の条件の対象であるメンバー属性値を削除できます。

Note:

照合コンプライアンスでグループ属性およびメンバー属性を削除できるのは、ロックされていない期間内にそれらがフォーマット、プロファイルまたは照合で使用されていない場合のみです。

グループ属性またはメンバー属性が削除されると、それらを使用する照合またはトランザクションは削除された情報を引き続き保持します。

グループ属性を削除するには:

1. 既存のグループ属性のリストにアクセスします。
 - 照合コンプライアンスで、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「構成」、「属性」の順にクリックします。
 - トランザクション照合で、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「照合タイプ」の順にクリックします。「グループ属性」タブを選択します。
2. 削除するグループ属性について、「アクション」メニューをクリックし、「削除」を選択します。
3. 「削除の確認」ダイアログで、「はい」をクリックします。

メンバー属性を削除するには:

1. 更新する必要があるグループ属性の「カスタム属性の編集」ダイアログを開きます。

- 照合コンプライアンスで、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「構成」、「属性」の順にクリックします。メンバー属性を削除する必要があるグループ属性の名前をクリックします。
 - トランザクション照合で、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「照合タイプ」の順にクリックします。「グループ属性」タブを選択し、メンバー属性を削除する必要があるグループ属性の名前をクリックします。
2. 「メンバー」タブをクリックします。
 3. 削除するメンバー属性を選択し、「削除」アイコンをクリックします。
 4. 「削除の確認」ダイアログで、「はい」をクリックします。

メンバー属性値を削除するには:

1. 更新する必要があるグループ属性の「カスタム属性の編集」ダイアログを開きます。
 - 照合コンプライアンスで、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「構成」、「属性」の順にクリックします。メンバー属性値を削除する必要があるグループ属性の名前をクリックします。
 - トランザクション照合で、ホーム・ページから、「アプリケーション」、「照合タイプ」の順にクリックします。「グループ属性」タブを選択し、メンバー属性値を削除する必要があるグループ属性の名前をクリックします。
2. 「値」タブをクリックします。
3. 行全体を削除するには、行を選択して「削除」アイコンをクリックします。
4. 特定の値を削除するには、そのセルをクリックして[Delete]キーを押します。
このメンバー属性の値は null になります。削除された値を使用するすべての照合も、このメンバー属性値に対して null を表示します。

照合タイプの作成

照合タイプによって、トランザクション照合プロセスでその照合タイプを使用する勘定科目がどのように処理されるかが決定されます。

次も参照:

- [データ・ソースの照合タイプ・ビューについて](#)
照合タイプ・ビューは、承認済の各照合タイプについて作成されます。このビューには、照合タイプ内のすべてのデータ・ソースにわたるすべてのトランザクションが含まれます。
- [照合タイプを作成するステップ](#)
照合タイプによって、データ・ソースから取得されるデータの構造(列およびデータ・タイプ)および照合に使用されるルールが決まります。サービス管理者および「照合タイプ-管理」アプリケーション役割を持つユーザーは、照合タイプを作成できます。
- [照合タイプのプロパティの定義](#)
- [データ・ソースの定義](#)
データ・ソースには、照合する必要があるトランザクションが含まれています。
- [トランザクション・タイプの操作](#)
トランザクション・タイプには調整タイプおよびサポート・タイプが含まれます。
- [ルールの作成による照合プロセスの定義](#)

データ・ソースの照合タイプ・ビューについて

照合タイプ・ビューは、承認済の各照合タイプについて作成されます。このビューには、照合タイプ内のすべてのデータ・ソースにわたるすべてのトランザクションが含まれます。

照合タイプ・ビューは、特定の照合タイプのすべてのトランザクションに対するレポートの作成を簡素化します。特定の照合タイプの照合タイプ・ビューには、その照合タイプ内のすべてのデータ・ソースの属性が含まれています。このビューの SQL 問合せを使用して、各データ・ソースの列名を取得します。次に、特定の照合タイプ内のすべてのデータ・ソースにわたるすべてのトランザクションが含まれるレポート問合せを作成できます。このレポート問合せに基づいてカスタム・レポートを実行すると、1つの照合タイプのすべてのトランザクションに関するデータを1つの場所でフィルタリングして表示できます。*Oracle Account Reconciliation* の管理のカスタム・レポートの生成を参照してください。

照合タイプ・ビューは、他の表と結合できます。照合タイプに基づくレポート問合せは移植可能です。2つのアプリケーションで照合タイプ構成が同じ場合は、アプリケーションが完全なクローンでなくても、両方のアプリケーションで同じレポート問合せが機能します。

照合タイプ・ビューは、照合タイプが承認されると作成または更新されます。

データ・ソースの照合タイプ・ビューの構造

照合タイプ・ビューの名前は、照合タイプ ID に接頭辞「TM_」が付いたものになります。たとえば、ID が P0toInv の照合タイプの照合タイプ・ビュー名は TM_P0toInv です。ビュー名の最大長は 30 バイトです。

照合タイプ・ビューでサポートされる列の最大数は 300 です。

照合タイプ・ビューには、その照合タイプ内のすべてのデータ・ソースからの固定のシステム定義属性とデータ・ソース属性が含まれています。列名は 30 バイトを超えないようにする必要があります。データ・ソース属性の列名は、データ・ソース属性 ID にアンダースコアと列のデータ型を表す文字が接尾辞として付加されたものになります。照合タイプ・ビューの列に関する詳細は、*Account Reconciliation* の表およびビューの *TM_<MATCH_TYPE_ID>* を参照してください。

Note:

照合タイプ ID またはデータ・ソース属性 ID にピリオド(.)または中カッコ({または})が含まれている場合、この文字は照合タイプ・ビューではアンダースコアに置換されます。たとえば、照合タイプ ID が InterCompany1.2 の場合、照合タイプ・ビューの名前は TM_InterCompany1_2 になります。

例: 照合タイプの照合済トランザクションをレポートするための問合せ

例 1: 特定のデータ・ソースのすべてのトランザクションの選択

次のいずれかのレポート問合せを使用して、データ・ソースが'Bank'の照合タイプ TM_GL_POS_BANK のすべてのトランザクションを取得します。

```
SELECT * FROM "TM_GL POS Bank" TM_GL_POS_BANK WHERE TM_GL_POS_BANK.SOURCE = 'Bank';
```

```
SELECT * FROM "TM_GL POS Bank" TM_GL_POS_BANK WHERE TM_GL_POS_BANK.SOURCE = 'Bank' and
TM_GL_POS_BANK.RECON_ID IN
(SELECT recon.recon_id FROM tm_recon recon, tm_recon_type recon_type,
TM_DATA_SOURCE data_source
WHERE recon.recon_type_id = recon_type.recon_type_id AND
recon.recon_type_id = data_source.recon_type_id
AND data_source.recon_type_id = recon_type.recon_type_id AND
data_source.DATA_SOURCE_ID = 2009);
```

例 2: 照合タイプの未照合トランザクションの選択

次のレポート問合せでは、すべてのデータ・ソースについて照合タイプ TM_GL_POS_BANK の未照合トランザクションがすべて返されます。

```
select * FROM "TM_GL POS Bank" TM_GL_POS_BANK where
TM_GL_POS_BANK.match_status_enum is null or TM_GL_POS_BANK.match_status_enum
= 6
```

例 3: 指定された 2 つの日付間のすべての照合済トランザクションの選択

次のレポート問合せでは、日付の範囲内に作成された照合タイプ TM_GL_POS_BANK の照合済トランザクションがすべて返されます。この結果には、照合タイプのすべてのデータ・ソースのトランザクションが含まれます。

```
SELECT * FROM "TM_GL POS Bank" TM_GL_POS_BANK LEFT OUTER JOIN TM_MATCH
MATCH ON
(TM_GL_POS_BANK.RECON_ID = MATCH.RECON_ID AND MATCH.MATCH_ID =
TM_GL_POS_BANK.MATCH_ID)
WHERE MATCH.CREATE_DATE > ~MATCH_DATE_LOW~ and MATCH.CREATE_DATE <=
~MATCH_DATE_HIGH~
```

照合タイプを作成するステップ

照合タイプによって、データ・ソースから取得されるデータの構造(列およびデータ・タイプ)および照合に使用されるルールが決まります。サービス管理者および「照合タイプ - 管理」アプリケーション役割を持つユーザーは、照合タイプを作成できます。

企業には、会社間の勘定科目、銀行の勘定科目、売掛金、買掛金、各種決済勘定など多数の照合タイプがある場合があります。データ構造およびルールは、これらの勘定科目それぞれで異なる可能性があるため、企業では各勘定科目に対して照合タイプが作成されます。照合タイプは照合に割り当てられ、複数の照合で同じ照合タイプを使用できます。

 **Note:**

アプリケーションで作成できる照合タイプの最大数は 300 です。

照合タイプを作成するには:

1. 照合タイプのプロパティの定義。これには、照合タイプ ID、名前、およびこの照合タイプを使用する際のユーザー向け指示が含まれます。
[照合タイプのプロパティの定義](#)を参照してください。
2. 1 つ以上のデータ・ソースの定義。
[データ・ソースの定義](#)を参照してください。
3. 照合プロセスの定義。照合トランザクションで使用する必要があるルールの作成を含みます。
[照合プロセスの定義](#)を参照してください。
4. トランザクション・タイプの定義。調整タイプおよびサポート・タイプを含みます。
[トランザクション・タイプの定義](#)を参照してください。

 **Note:**

環境間で照合タイプをエクスポートおよびインポートすることもできます。
[環境間での照合タイプのエクスポートおよびインポート](#)を参照してください

照合タイプの作成のビデオを見る

ビデオを見るには、次のリンクをクリックしてください。



照合タイプのプロパティの定義

新規照合タイプの定義は、「プロパティ」タブで始めます。名前、この照合タイプを使用する際のユーザーへの指示または説明、およびこのタイプを使用した照合について残高調整が行われる頻度を決定するカレンダーを入力します。

照合タイプのプロパティを定義するには:

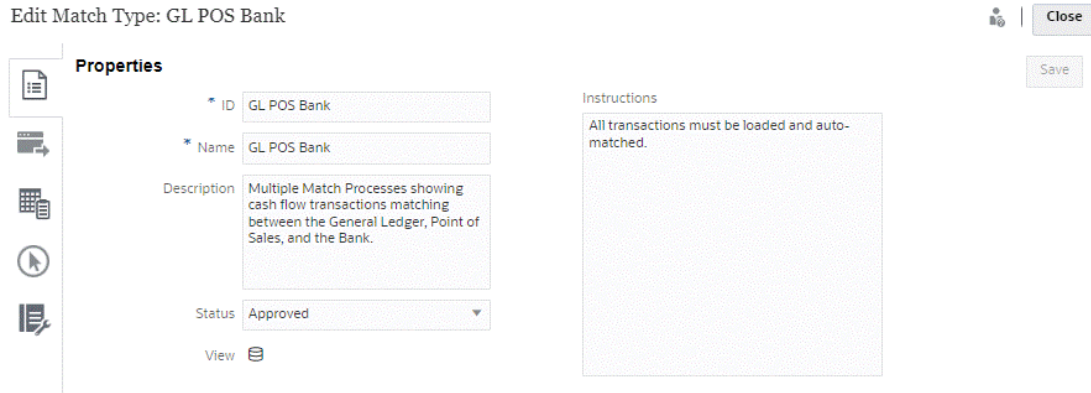
1. ホームから「アプリケーション」、「照合タイプ」の順に選択します。
2. 「照合タイプ」から「新規」をクリックします。「新規照合タイプ」ダイアログの「プロパティ」タブが表示されます。
3. 照合タイプ間で一意の ID 値、名前、およびオプションで説明を入力します。ID は、28 バイト以下の英数値である必要があります。使用できる特殊文字は、ピリオド(.)、アンダースコア(_)およびハイフン(-)です。

 **Note:**

- ステータスは、「**保留中**」または「**承認済**」のいずれかです。新規照合タイプのデフォルトは、「**保留中**」ステータスです。ユーザーがこの照合タイプを使用する準備ができたなら、「**承認済**」に変更します。タイプが「**承認済**」ステータスの場合、フィルタの編集以外の編集は行えません。
- 「照合タイプ」画面に警告アイコンが表示される場合:
 - 日常的な操作に影響を与えずに、照合タイプを使用し続けることができます。ただし、この照合タイプの SQL ビューを参照する既存のレポートに影響する場合があります。[データ・ソースの照合タイプ・ビューについて](#)を参照してください。
 - 警告を修正するには、ステータスを「保留中」に戻して、照合タイプを承認できます。

4. 「**保存**」をクリックします。

照合タイプのステータスを「**承認済**」に設定して定義を保存すると、この照合タイプの照合タイプ・ビューが作成されます。このビューには、この照合タイプのすべてのデータ・ソースにわたるすべてのトランザクションが含まれます。「ビュー」フィールドのデータベース・アイコンをクリックして、カスタム・レポート内でビューを使用するための SQL 問合せを表示します。*Oracle Account Reconciliation* の管理のカスタム・レポートの生成を参照してください。



Edit Match Type: GL POS Bank

Properties

- ID: GL POS Bank
- Name: GL POS Bank
- Description: Multiple Match Processes showing cash flow transactions matching between the General Ledger, Point of Sales, and the Bank.
- Status: Approved

Instructions

All transactions must be loaded and auto-matched.

Buttons: Close, Save

「ビュー」フィールドにデータベース・アイコンではなく感嘆符が表示される場合は、ビューの作成時にエラーが発生していたことを示します。照合タイプのステータスを「**保留中**」に設定し、ステータスを「**承認済**」に設定し直して変更を保存することにより、再試行できます。問題が解決しない場合は、照合タイプ ID およびデータ・ソース ID を確認してください。このトピックのステップ 3 および [データ・ソースの定義](#) を参照してください。

データ・ソースの定義

データ・ソースには、照合する必要があるトランザクションが含まれています。

次も参照:

- [データ・ソースの定義について](#)
- [データ・ソース属性について](#)
- [計算済属性について](#)
- [データ・ソースを定義する手順](#)

データ・ソースの定義について

追加するデータ・ソースの数に制限はありませんが、ほとんどの照合に 2 つのデータ・ソースが含まれ、ソース・システムのトランザクションがサブ・システムのトランザクションと照合されます。

特定のタイプの照合(決済勘定、仮勘定、大量の経過勘定など)では、1 つのデータ・ソース内での借方/貸方の照合が必要です。どちらの場合も目標は照合を生成することで、フォーマットは複数のソース・プロセスか 1 つのソース・プロセスかで異なります。

 **Note:**

- アプリケーションで作成できるデータ・ソースの最大数は 750 です。
- 照合タイプ内のデータ・ソースの最大数は 20 です。

データ・ソースを定義する際、ソースの属性を定義します。これがインポートするデータの列です。これは、計算属性を使用して、照合の準備を整えるためにデータのエンリッチ化および正規化を行う場所でもあります。たとえば、あるテキスト・フィールドの中央からテキスト文字列を抽出し、このテキスト文字列を別の属性と照合する必要がある場合があります。あるいは、照合が可能なように様々なテキスト値を正規化された値に変換する必要がある場合があります。計算属性のライブラリは、データのエンリッチメントおよび正規化に使用され、これによって自動照合エンジンを使用して最多数の照合を達成できます。

 **Note:**

各データ・ソースに対して、最低 2 つ(「**金額**」および「**日付**」)のフィールドを設定する必要があります。「**金額**」属性は、ソースまたはサブシステムのトランザクション額を表すために必要で、データ・ソース定義で調整金額として定義されます。「**金額**」は常に「**数値**」タイプとして設定する必要があります。「**日付**」属性は、トランザクションが反映される会計期間を決定する会計日付を表すために必要です。金額および日付の属性は期末の計算の実行に使用されるため、各トランザクションに移入される必要があります。

管理者は、特定のデータ・ソースに対するトランザクションの削除をユーザーに許可することもできます。これは、「**トランザクションの削除を許可**」チェックボックスを有効に行います。この機能は、トランザクションがすでにロードされているかどうかに関係なく、特定のデータ・ソースに対して有効にすることができる点に注意し

てください。トランザクションの削除の詳細は、トランザクションの削除を参照してください。

管理者は、データ・ソース属性ごとにトランザクションの編集機能を有効にして、この機能の実行をユーザーに許可することもできます。トランザクションの編集の詳細は、トランザクションの編集を参照してください。

例: 2つのデータ・ソースがある照合タイプ

買掛金と売掛金という 2 個のデータ・ソースがあり、買掛金データ・ソースにデータ・ソース属性があることを示した照合タイプの例を次に示します。AP_DDATE という、必須の日付属性が作成されていることに注意してください。また、AP_AMT という調整属性も作成されています。

The screenshot shows the 'Edit Match Type' window. On the left, there are two data sources: 'AP Accounts Payable' and 'AR Account Receivable'. The main area shows the configuration for the 'AP' data source, including its ID, Name, and options for 'Use in Balance Report as' (Source System selected), 'Allow Transactions to be deleted', and 'Allow Transactions to be split'. Below this is a table of 'Data Source Attributes'.

ID	Name	Type	Key	Required	Calculation	Accounting Date	Balancing Attribute	Allow Edit	Actions
AP_INV	AP Invoice	Text	x	x	x	x	x	x	...
AP_AMT	AP Amount	Number	x	✓	x	x	✓	x	...
AP_DDATE	AP Doc Date	Date	x	✓	x	✓	x	x	...

データ・ソース属性について

データ・ソースで属性を定義するときは、特定の詳細を指定する必要があります。次の表に、詳細を示します。

Note:

1 つのデータ・ソースの最大属性数は 200 です。

Table 10-2 属性詳細

フィールド	説明
ID	データ・ソース属性の ID
名前	データ・ソース属性の名前

Table 10-2 (Cont.) 属性詳細



フィールド	説明
タイプ	<ul style="list-style-type: none"> テキスト - 長いコメントや説明などに使用し、最大 300 文字を使用できます。 <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> Note:</p> <p>テキスト文字列内にカンマがあり、そのテキスト内の値の先頭と末尾にすでに二重引用符が付いている場合は、さらに二重引用符で囲みます。例: "GM LLC - GMNA, formerly ""NAO"" ADMIN STAFF"</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 日付 - トランザクションをロードする際のフォーマットは DD-MMM-YYYY または DD-MMM-YY である必要があります。 <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> Note:</p> <p>日付属性は複数使用できますが、1 つは必須に指定し、トランザクションが反映される会計期間を表す会計日付として機能させる必要があります。各トランザクションに割り当てられるこの日付は、期末のすべての計算の実行に使用されます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 数値: 総桁数が 15 桁までで小数点以下の桁数が 12 桁までの金額フィールドに使用されます。差異の計算の場合、数値は小数点以下 2 桁に丸められます。総桁数が 15 桁までの数値が精度を損なうことなく、サポートされます。 たとえば、次の例はすべて有効です。 <ul style="list-style-type: none"> - 1234567890123.45 - 12345678901234.5 - 123456789012.345 - 1234.56789012345 整数: 最大 18 桁の非小数値に使用され、正または負にできます。 リスト: 値リストの構成に使用され、インポート時に大文字と小文字は区別されません。 はい/いいえ: ブール値フィールドに使用され、空白のまま、はい (1、Yes、YES、Y、y、T、t、True、TRUE、True) または いいえ (0、No、NO、N、n、F、f、False、FALSE、False) にすることができます。 グループ: グループ属性に使用されます。照合コンプライアンスでのグループ属性についてを参照してください。
小数点以下の桁数	「タイプ」が 数値 に設定されている属性には、属性に使用する必要がある小数点以下の桁数を入力します。
デフォルト値	(オプション)この属性のデフォルト値を入力します。

Table 10-2 (Cont.) 属性詳細

フィールド	説明
キー	重複トランザクション・チェック・プロセスをアクティブ化する場合に選択します。「 キー 」の設定は、データベース内のレコードを一意に識別する方法です。1 つ以上の属性を重複チェックの「 キー 」として選択できます。トランザクションのインポートでは、すでにロード済のキーと一致する 1 つ以上のトランザクションがファイルに含まれる場合、このファイルはロードされません。
必須	この属性を必須にする場合は選択します。
会計日付	属性を会計日付として設定する場合に選択します。会計日付は、トランザクションが反映される会計期間を表します。各トランザクションに割り当てられるこの日付は、期末のすべての計算の実行に使用されます。会計日付として設定できる属性は 1 つのみです。
調整属性	属性を調整属性として設定する場合に選択します。調整属性として設定できる属性は 1 つのみです。 調整属性の精度は、プロファイルで有効になっている最下位の通貨バケットのデフォルト通貨の通貨コードから継承されます。
計算	(オプション)属性データを計算する場合、このボックスを選択します。このオプションを選択すると、「計算式の定義」セクションが表示されます。
計算タイプ	計算をスクリプトに基づかせるか、条件を満たす場合にするか、値をリストに割り当てるかを選択します <ul style="list-style-type: none"> • 値をリストに割り当て - リストに値を割り当てる場合 • 条件 - 特定の条件が満たされたときに計算を実行する場合 • スクリプト - スクリプトに基づいて計算する場合。スクリプトは、テキスト、日付、数値または整数タイプの属性に使用できます
計算式の定義	計算スクリプトをこの領域に入力します。
属性の追加	リストから選択し、計算スクリプトに既存の属性を追加します。
関数の追加	関数のライブラリから選択し、スクリプトの作成に役立てます。 <ul style="list-style-type: none"> • 日付差異 • テキストの抽出 • If Then Else • 小文字 • 最大 • 最小 • 丸め処理 • テキストの場所 • 大文字

属性の例

一般的な属性の例を次に示します。

テキスト

Attribute Details

* ID Invoice

* Name Invoice

* Type Text

Default Value

Key

Required

Calculation

「スクリプト」計算タイプの例

Calculation Type Scripted

Calculation Definition

Add Attribute AR Amount

Add Function

- Date Difference
- Extract Text
- If Then Else
- Lowercase
- Maximum
- Minimum
- Round
- Text Location
- Uppercase

「条件」計算タイプの例

Calculation Type

Calculation Definition

Condition	Value If Conditions Met
If	
Else	

Conditions

Filter Definition

Condition
 Conjunction |
 Attribute |
 Operand |
 Value

Value

Value Type

計算済属性について

計算済属性は読取り専用です。管理者は「アクション」ダイアログ・ボックスの属性セクションに属性を追加でき、ワークフロー・ユーザーはその属性をアクション・ダイアログ・ボックスとトランザクションに表示できます。管理者は、アクセス権を「表示しない」に設定することで、特定の役割に対してアクセス権を制限できます。たとえば、管理者が計算済属性 XYZ に対して「参照者: 表示しない」アクセス権を追加すると、XYZ は参照者に表示されません。

どのユーザー役割でも、計算済属性を列としてビューおよびポートレットに追加できます。「フィルタ・パネル」にフィルタ可能な属性として追加することもできます。

Note:

循環依存関係が生じる計算済属性は作成できません。たとえば、A と B が相互に依存する次の計算済属性は許可されません: $A = \{B\} * (-1)$ および $B = \{A\} + 100$ 。許可されていない循環依存関係が生じ、エラーが発生するためです。

計算タイプについて

- **値をリストに割当て** - 値をリスト・タイプの属性に割り当てます

- **リストを値に割当て** - リストの値を異なる属性の値に割り当てます。タイプ・リストの属性にのみ使用できます
- **条件** - 条件付き計算(If – Then – Else)
- **スクリプト** - 自由形式のスクリプト計算。スクリプトは、テキスト、数値または整数タイプの属性に使用できます

次の表は、「計算」オプションが選択された場合に、属性タイプごとに使用可能な計算タイプを示しています。

Table 10-3 「計算」オプションが選択された場合に、属性タイプごとに使用可能な計算タイプ

属性タイプ	値をリストに割当て	条件	スクリプト	リストを値に割当て
日付			X	
整数	X	X	X	
リスト				
数値	X	X	X	
テキスト	X	X	X	
はい/いいえ		X		

スクリプト関数の例

その他のスクリプト関数の例:

- **日付差異:** 2 つの日付の差を日、時間、分または秒で戻します。たとえば、Date1 と Date 2 には、それぞれ現在の日付(時間コンポーネントなし)と日時を表す TODAY および NOW の値を使用できます。
DATE_DIFF(<Date1>, <Date2>, <Type>)
例: DATE_DIFF('TODAY', {Preparer End Date}, 'DAYS')または
DATE_DIFF({Preparer End Date}, 'NOW', 'HOURS')
- **テキストの抽出:** 値内の指定した位置からの部分文字列を戻します。
SUBSTRING(<Value>, <Location>, <Length>)
例: SUBSTRING({Name} , 5, 10)
- **If Then Else:** 条件付きの計算をスクリプト計算に挿入できるようになります。
IF_THEN_ELSE 計算式は、ネストして ELSE IF タイプの計算式に対応することもできます。
IF_THEN_ELSE(<Condition>, <Value1>, <Value2>)
例:

```
IF_THEN_ELSE( {Risk Rating} = 'Low', 'Good',
IF_THEN_ELSE( {Risk Rating} = 'Medium', 'Better',
IF_THEN_ELSE({Risk Rating} = 'High', 'Best', 'Bad'))
```
- **長さ** テキスト値をパラメータとして受け取り、テキスト内の文字数である整数を戻します。
LENGTH('Value')では 5 が返され、LENGTH({Name})ではオブジェクトの名前の文字数が返されます。値が空/null の場合は、計算で 0 が返されます。
SUBSTRING を含む計算を使用して、テキスト値の最後の 4 文字を抽出します。

例: SUBSTRING({MyString}, LENGTH ({MyString}) - 4

- **小文字** 値を小文字で戻します
LOWERCASE(<Value>)
例: LOWERCASE({Description})
- **最大:** 属性リストの最大値を戻します。任意の数のパラメータを含めることができます。
MAX(<Value1>, <Value2>, <ValueN>)
例: MAX({Account1}, {Account2}, {Account3})
- **最小:** 属性リストの最小値を戻します。任意の数のパラメータを含めることができます。
MIN(<Value1>, <Value2>, <ValueN>)
例: MIN({Account1}, {Account2}, {Account3})
- **丸め処理:** 指定された小数点以下の桁数で丸めた値を戻します。
ROUND(<Value>, <Decimal Places>)
例: ROUND(({Scripted Translate} / 7), 4)
- **テキストの場所:** 値内の部分文字列の索引(1 が最初の位置)を戻します。
INSTRING(<Value>, <Value To Search>)
例: INSTRING(UPPERCASE({Name}), 'TAX')
- **大文字:** 値を大文字で戻します。
UPPERCASE(<Value>)
例: UPPERCASE({Name})

データ・ソースを定義する手順

データ・ソースを定義するには:

1. 「ホーム」 から 「アプリケーション」 を選択します。
2. 「照合タイプ」 タブで、作成する照合タイプを選択します。
3. 「データ・ソース」 タブで、「新規」 を選択します。
4. データ・ソースのプロパティを定義します。 [データ・ソース・プロパティの定義](#)を参照してください。
5. (オプション)フィルタを作成します。 [データ・ソースの定義時のフィルタの作成](#)を参照してください。

[データ・ソースの定義について](#)を参照してください。

データ・ソース・プロパティの定義

次の手順を使用して、データ・ソースのプロパティを定義します。

1. データ・ソースの ID と、わかりやすい名前を入力します。
ID は、27 バイト以下の英数値である必要があります。使用できる特殊文字は、ピリオド(.)、アンダースコア(_)およびハイフン(-)です。

 **Note:**

照合 ID という名前は予約 ID であるため、ID として使用することはできません。

2. データ・ソースが「**ソース・システム**」データ・ソースか、「**サブシステム**」データ・ソースかを指定します。
3. このデータ・ソースに対するトランザクションのユーザーによる削除を許可するかどうかを決定します。トランザクションの削除の詳細は、トランザクションの削除を参照してください。
4. このデータ・ソースに対するトランザクションのユーザーによる分割を許可するかどうかを決定します。次に「**保存**」をクリックします。トランザクションの分割の詳細は、未照合トランザクションの分割を参照してください。
5. 「**データ・ソース属性**」で、「**+**」(新規属性)をクリックして、この列のデータの表示方法を説明する属性の追加を開始します。これは、トランザクション照合の照合エンジンを使用する前に強力な計算属性機能を使用してデータを正規化およびエンリッチ化する方法であることに注意してください。

データ・ソース属性を作成する際に指定する必要がある情報の詳細は、[データ・ソース属性について](#)を参照してください。

「**タイプ**」の下のグループを選択する際、「**グループ名**」の使用可能なグループ属性のリストから必要なグループ属性を選択します。リストには、トランザクション照合の「**グループ属性**」タブで定義されたグループ属性のみが含まれることに注意してください。「**ID**」および「**名前**」フィールドは無効になっており、それらの値は選択に基づいて自動的に更新されます。

 **Note:**

会計日付を表すために必要な**日付**タイプ属性を作成する必要があります。

6. (計算された属性のみ)計算された属性を作成するには、「**計算**」を選択します。計算された属性の詳細は、[計算済属性について](#)を参照してください。
 - 「**計算タイプ**」で、次のオプションのいずれかを選択します:「**値をリストに割当**」、「**リストを値に割当**」、「**条件**」または「**スクリプト**」。
リストされるオプションは、属性に選択されたデータ型によって異なります。参照してください。
 - 「**スクリプト**」計算タイプを選択する場合、自由形式の計算式を入力するには、「**属性の追加**」および「**関数の追加**」を使用します。
 - **属性の追加** - 属性を選択して「**追加**」をクリックすると、「**計算式の定義**」ボックスのカーソルの位置に属性が挿入されます。カーソルが単語または属性上にある場合は、定義内でその単語/属性が置き換えられます。追加される属性は、スクリプトの形式に従って、名前が大カッコ{}で囲まれます。
 - **関数の追加** - 関数を選択して「**追加**」をクリックすると、「**計算式の定義**」に関数が追加されます。関数は各パラメータのプレースホルダとともに追加されます。

7. 「保存」をクリックして、次の属性の追加を続けます。

データ・ソースの定義時のフィルタの作成

データ・ソースを定義してデータ・ソースの属性を設定したら、リストに含めるレコードを制限するためのフィルタを設定できます。情報の表示方法に応じて、様々なフィルタを多数作成できます。

データ・ソースの定義時にフィルタを作成するには:

1. 「データ・ソース」タブから「フィルタ」タブをクリックします。
2. フィルタを追加する「+」(プラス記号)をクリックして「フィルタ定義」ダイアログを表示します。
3. フィルタの「名前」を入力します。
4. フィルタ条件を入力します。
 - a. 「条件の作成」をクリックします。
 - b. フィルタ定義の式を作成するために使用する条件を入力します(組合せ、属性、演算子、値)。

経過期間を使用したデータ・ソース・フィルタの例

データ・ソース・フィルタが役立つ例として、現在の日付から会計日付を引いたものとして計算される経過期間を使用して、180日以上経過したすべての未照合トランザクションを識別してそれらを償却する方法があります。そのフィルタを作成したら、調整の照合ルールに適用して、すべての古い未照合トランザクションが自動的にクリアされるか、調整として照合されるようにします。作成された他の調整と同様に、これらを GL への仕訳として抽出できます。

Note:

各ユーザーが最後に使用したフィルタは、照合タイプ、照合プロセス、データ・ソース別に永続化(保存)されます。つまり、ログアウトして再度ログインし、同じ照合タイプの別の照合を開くと、同じフィルタが表示されます。

ステータス属性を使用したデータ・ソース・フィルタの例

データ・ソース・フィルタが役立つ別の例として、「ステータス」属性を使用してフィルタする方法があります。可能なステータスは、「未照合」、「サポート」、「確認済調整」、「確認済照合」、「調整候補」または「照合候補」です。

トランザクション・タイプの操作

トランザクション・タイプには調整タイプおよびサポート・タイプが含まれます。

次も参照:

- [Account Reconciliation でのトランザクション・タイプについて](#)
トランザクション・タイプを使用すると、照合要件に合わせて一意の調整およびサポート・タイプを必要なだけ作成できます。
- [新規調整トランザクション・タイプの作成](#)
- [新規サポート・トランザクション・タイプの作成](#)

Account Reconciliation でのトランザクション・タイプについて

トランザクション・タイプを使用すると、照合要件に合わせて一意の調整およびサポート・タイプを必要なだけ作成できます。

サービス管理者は、トランザクション照合の設定時にトランザクション・タイプを設定します。提供されているデフォルトのトランザクション・タイプは 2 つあります。

- 調整タイプ
- サポート・タイプ

各トランザクション・タイプを構成すると、調整を作成しているユーザーは、この照合に使用可能な調整をリストから選択でき、その照合からの仕訳の転記に必要なすべての情報が表示されます。策定者は、コメントと添付を追加することでアドホック情報を入力することもできます。たとえば、照合の各費用勘定科目についてその照合の「調整」タイプを構成することが必要な場合があります。

 **Note:**

管理者は、自動照合に使用される特定の調整タイプを設定し、それらの調整タイプが手動照合で選択されないように他のユーザーに対して非表示にできます。調整タイプの非表示化は、調整タイプの作成または編集時に**手動照合ルールに対する調整タイプの許可**チェック・ボックスを使用して選択を解除できます。デフォルトでは、チェック・ボックスは選択されています。調整タイプが1つ以上の照合ルール候補で使用されている場合は、調整タイプを非表示にできないことに注意してください。調整タイプを非表示にする前に作成された照合候補は、トランザクション検索の非表示の調整タイプを表示できますが、確認することはできません

構成可能な**サポート・タイプ**は、調整タイプ・プロセスと非常によく似ており、策定者がその照合に使用可能なサポート・タイプのリストから選択できるため、未照合のトランザクションを、その照合に適したサポート・カテゴリに簡単にマークできます。

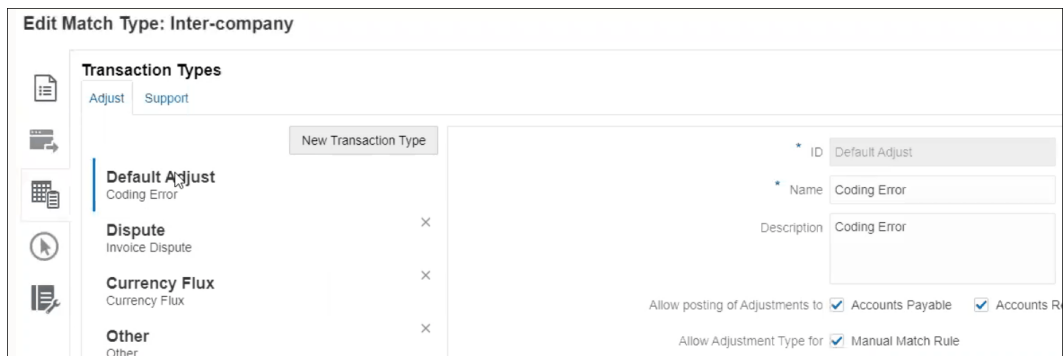
調整タイプまたはサポート・タイプでは、属性はグローバル属性です。つまり、属性を作成すると、他のユーザーがその属性を再利用でき、ドロップ・ダウン・リストに表示されます。

新規調整トランザクション・タイプの作成

1. 「アプリケーション」から「照合タイプ」を選択し、編集する照合タイプを選択します。「アクション」で「編集」を選択します。
2. 「トランザクション・タイプ」タブを選択し、「調整」を選択します。

 **Note:**

照合タイプのステータスは「保留中」である必要があります。



トランザクション・タイプのリストが左に表示されます。

3. デフォルト調整 ID に関連付けられている名前と説明は変更できます。
4. 新規調整タイプを作成するには、**新規トランザクション・タイプ**をクリックします。
5. ID (このトランザクション・タイプを識別する最大 25 文字)、名前(最大 50 文字)およびオプションで説明(最大 250 文字)を入力します。

6. 「追加」をクリックし、「新規」を選択して、新規属性を追加できます。属性はグローバル属性であるため、他のユーザーが使用できるようにドロップ・ダウン・リストに表示されます。グローバルな調整属性およびサポート属性の作成を参照してください。
- グループ属性を含む既存のカスタム属性を追加するには、「追加」をクリックし、「既存」を選択します。「属性詳細」ダイアログで、必要なカスタム属性を選択します。

 **Note:**

ドロップ・ダウン・リストに含まれる既存のグローバル属性を使用することもできます。

各属性について、次のいずれかのデータ型を選択します:

- **テキスト** - 長いコメントや説明などに使用し、最大 255 文字を使用できます

 **Note:**

カンマ(,)を含む文字列値をインポートするには、その文字列値を二重引用符で囲む必要があります。文字列が二重引用符で囲まれている場合は、その文字列の中にあるその他すべての二重引用符を、別の二重引用符で囲む必要があります。次の表に例を示します。

文字列値	インポート・ステータス
"GM LLC - GMNA, formerly ""NAO"" ADMIN STAFF"	成功(文字列値全体に二重引用符が付き、NAO が別の引用符のセットで囲まれている)
"GM LLC - GMNA, formerly "NAO" ADMIN STAFF"	インポート・エラー(NAO が別の二重引用符のセットで囲まれていない)
"GM LLC - GMNA, formerly NAO ADMIN STAFF"	成功(文字列値が二重引用符で囲まれている)
GM LLC - GMNA, formerly NAO ADMIN STAFF	エラー(文字列値が二重引用符で囲まれていない)

- **日付** - 日付値に使用します
トランザクションをロードする際のフォーマットは DD-MMM-YYYY または DD-MMM-YY である必要があります。
- **数値** - 最大 18 桁(12 桁と小数点以下 6 桁まで)の金額フィールドに使用されます。
正または負の値にできます。負の数値は、マイナス記号を使用してインポート時に指定できます。たとえば、インポート時には-1,000.00 でも、ユーザー・インタフェースでは(1000.00)と表示されます
「**小数点以下の桁数**」に、属性の精度を 0 から 12 の範囲で入力します。
- **整数** - 最大 18 桁の非小数値に使用されます
値は正または負にすることができます。

- **リスト** - 値リストの構成に使用され、インポート時に大文字と小文字は区別されません
 - **はいいいえ** - ブール・フィールドに使用されます
値は、**空白**のまま、**はい**(1、Yes、YES、Y、y、T、t、True、TRUE、True)または**いいえ**(0、No、NO、N、n、F、f、False、FALSE、False)にできます。
7. 手動照合時にユーザーが調整タイプを使用しないように非表示にするには、**手動照合ルールに対する調整タイプの許可**チェック・ボックスの選択を解除します。デフォルトでは、チェック・ボックスは選択されています。調整タイプが 1 つ以上の照合ルール候補で使用されている場合は、調整タイプを非表示にできないことに注意してください。

トランザクション・タイプは次の作業を行うときに表示されます。

- 照合ルールの編集
- 一致候補の操作
- 調整を含む自動照合

新規サポート・トランザクション・タイプの作成

1. 「アプリケーション」から「照合タイプ」を選択し、編集する照合タイプを選択します。「アクション」で「編集」を選択します。

Note:

照合タイプのステータスは「保留中」である必要があります。

2. 「トランザクション・タイプ」タブを選択し、「サポート」を選択します。トランザクション・タイプのリストが左に表示されます。これは、デフォルト・サポート・タイプを表示している例です。

Transaction Type Attributes		
Name	Type	Actions
ID	Text	⚙️
Name	Text	⚙️
Description	Text	⚙️

3. デフォルト・サポート ID に関連付けられている名前と説明は変更できます。
4. 新規サポート・タイプを作成するには、**新規トランザクション・タイプ**をクリックします。
5. ID (このトランザクション・タイプを識別する最大 25 文字)、名前(最大 50 文字)およびオプションで説明(最大 250 文字)を入力します。
6. 「追加」をクリックし、「新規」を選択して、新規属性を追加できます。

グループ属性を含む既存のカスタム属性を追加するには、「追加」をクリックし、「既存」を選択します。「属性詳細」ダイアログで、必要なカスタム属性を選択します。

- **テキスト** - 長いコメントや説明などに使用されます。

値の長さは最大 255 文字です。

 **Note:**

テキスト文字列の値を文字列の先頭と末尾で二重引用符で囲む場合で間にカンマがある場合、二重引用符を使用します。例: "GM LLC - GMNA, formerly ""NAO"" ADMIN STAFF"

- **日付** - 日付値に使用します

トランザクションをロードする際のフォーマットは、DD-MMM-YYYY または DD-MMM-YY である必要があります。

- **数値** - 最大 18 桁(12 桁と小数点以下 6 桁まで)の金額フィールドに使用されます。

正または負にできます。負の数値は、マイナス記号を使用してインポート時に指定できます。たとえば、インポート時には-1,000.00 でも、ユーザー・インタフェースでは(1000.00)と表示されます

「**小数点以下の桁数**」に、属性の精度を 0 から 12 の範囲で入力します。

- **整数** - 最大 18 桁の非小数値に使用され、正または負にできます
- **リスト** - 値リストの構成に使用され、インポート時に大文字と小文字は区別されません
- **はいいいえ** - ブール・フィールドに使用されます

空白のまま、**はい**(1、Yes、YES、Y、y、T、t、True、TRUE、True)または**いいえ**(0、No、NO、N、n、F、f、False、FALSE、False)にできます。

ルールの作成による照合プロセスの定義

データ・ソースを定義したら、次のステップはトランザクションの照合に使用するルールを定義することです。照合ルールによって照合がどのように行われるかが決まります。自動照合ルールおよび手動照合ルールを使用して、照合プロセスを作成できます。

ベスト・プラクティスとして、まず最も精度の高いルール、つまり最多数の質の高い照合を作成する可能性のあるルールの定義から始め、結果がより不確実なルールの定義へと移っていきます。

 **ノート:**

照合タイプ内の照合プロセスの最大数は 20 です。

サポートされているルール・タイプは、次のとおりです。

- 1 対 1
- 1 対多
- 多対 1
- 多対多
- 調整

 ノート:

手動照合のみを実行しようとする場合は、自動照合ルールなしで照合プロセスを作成できます。

「調整」以外のルールで指定可能な照合ステータスは、次のとおりです:

- 候補
- 確認済
- 候補(不明なし)
不明な結果(ルール条件を満たす複数のトランザクション).を許可しない、照合候補が指定されたルールを追加します
- 確認済(不明なし)
不明な結果(ルール条件を満たす複数のトランザクション)を許可しない、確認済照合が指定されたルールを追加します。
- 候補(不明)*
- 確認済(不明)*

*1 対 1 の自動照合ルールの場合、不明の照合が多数あるときは、照合ステータス「候補(不明)」および「確認済(不明)」を使用できます。これらのオプションによって、自動照合の実行時に、潜在的なすべての照合が検出されます。ただし、照合パフォーマンスに影響する場合があります。

 ノート:

ルール・タイプが「調整」の場合、「候補」または「確認済」のみが表示されます。

ルールは、作成時にデフォルトで「アクティブ」に設定されます。

照合プロセスの定義 - プロパティの指定

新しい照合プロセスのプロパティを指定するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「照合タイプ」の順に選択します。
2. 「照合タイプ」タブで、作業を行う照合タイプを選択します。「照合タイプの編集」タブが表示されます。
3. 「照合プロセス」タブを選択すると、「プロパティ」タブが表示されます。
4. 照合プロセスの ID および名前を入力します。

5. 「データ・ソースの数」を選択します。
6. 「ソース・システム」のデータ・ソースと「サブシステム」のデータ・ソースを選択します。
7. デフォルトで、「調整会計日付の選択」に「照合日付」が選択されています。この「調整会計日付の選択」の設定は、「照合グループの最新会計日付」に変更できません。
8. 「保存」をクリックします。
9. 「デフォルトの属性マッピング」に、定義済のデータ・ソースの属性が表示され、ソース・システムとサブシステムのデータ・ソースの属性間の関係が表示されます。

属性マッピング

照合プロセスのプロパティの入力内容と、デフォルトの属性マッピングを確認するために、Bank to GL (総勘定元帳)の例を示します。「デフォルトの属性マッピング」には、データ・ソースにあらかじめ定義されている調整属性が自動的に表示されます。

General Ledger	Bank	Used for Balancing	Default Tolerance Limit	Actions
Amount	Amount	Yes	From -0 To +0	
Date	Date	No	From -0 To +0	
Merchant ID	Merchant ID	No	From -0 To +0	

新しい属性マッピングを追加するには、「デフォルトの属性マッピング」の+ (プラス記号)を使用します。「新規属性マップ」ダイアログを使用して、ソース・システムの属性をサブシステムの属性にマップし、許容差の限度を宣言できます。

New Attribute Map

* AP AP_AMT

* AR AR_AMT

Default Tolerance Limit

Use percentage tolerance

From - % Up to maximum amount

To + % Up to maximum amount

許容差の仕組みの詳細は、[トランザクション照合エンジンについて](#)を参照してください。

照合プロセスの定義 - ルールとルール条件について

ルール条件を設定することで、どの属性を照合相手とするか、正確に一致する必要があるかどうか、許容差を許可するかどうかを決定します。ルール条件を使用すると、ソース・システムとサブシステムの属性間のデフォルトの関係を定義することにより、複数ソースの照合プロセスの照合ルールを定義しやすくなります。

ノート:

各照合プロセスの最大ルール数は **500** です。これには、自動照合ルールおよび手動照合ルールが含まれます。

ID と名前で様々な場所にある照合プロセスを識別できるため、特定の照合セットの作成に、どの照合ルールのセットが使用されたかがわかります。ID は、照合タイプ内で常に一意であることが必要です。データ・ソースの数で、特定の照合プロセスに含まれるデータ・ソースの数を判断できます。

たとえば、3 つのデータ・ソースが定義されていて、照合プロセス 1 で 2 つのソースを、照合プロセス 2 で 1 つのソースを使用する場合は、ソース・システムおよびサブシステムに割り当てるデータ・ソースの名前を選択します。次に、フォーマットを選択しますが、使用可能なフォーマットのリストは、照合プロセスに割り当てられているデータ・ソースの数によって異なります。

たとえば、ソース・システムの金額とサブシステムのトランザクション額を照合する必要がある複数の照合ルールを構成する場合、この関係をこの表で一度定義すれば、ソース・システムのコличествоを参照する照合ルールを構成するときは、サブシステムのトランザクション額が、照合する属性として常にデフォルトで設定されます。これは、ルールの構成時にオーバーライドできます。

調整属性は、照合残高調整レポートの生成に使用される属性です。たとえば、会社間を照合する場合は、**金額**の値になります。

ルールは、表内の順序で処理されます。ドラッグ・アンド・ドロップでルールの順序を変更できます。

ルール・タイプのリストは、フォーマットによって異なります。次に例を示します。

- **残高の比較(照合あり)**は、2 つのソースの照合に対応し、1 対 1、1 対多、多対 1、多対多を使用できます。
 - 1 対 1 は、ソース・システムの 1 つのトランザクションが、サブシステムの 1 つのトランザクションと照合されることを意味します。
 - 1 対多は、ソース・システムの 1 つのトランザクションが、サブシステムのルール条件を満たすすべてのトランザクションと照合されることを意味します。
- **勘定科目分析**は、1 つのソースの照合に対応し、1 対 1、1 対多、多対 1、多対多を使用できます。
 - 1+対 1-は、1 つのプラスのトランザクションが、1 つのマイナスのトランザクションと照合されることを意味します。
 - 1+対多-は、1 つのプラスのトランザクションが、ルール条件を満たすすべてのマイナスのトランザクションと照合されることを意味します。

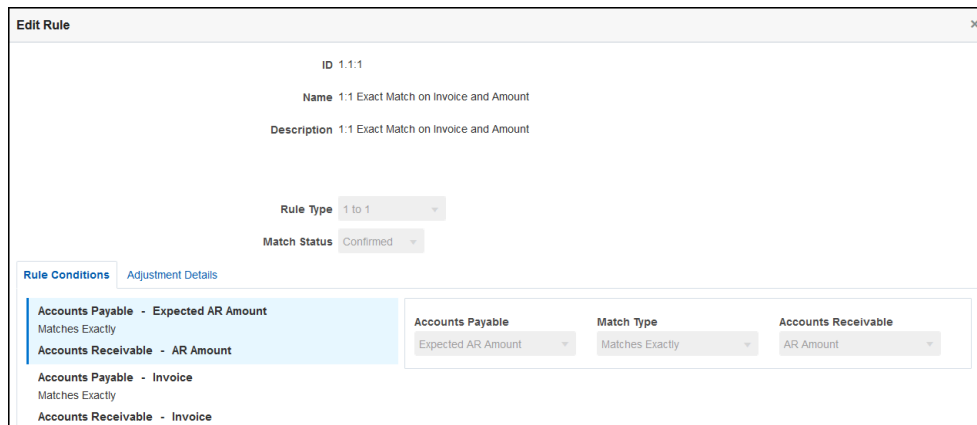
ルールを作成するには:

1. 一意の **ID** および**名前**をルールに割り当てます。説明はオプションです。

 **ノート:**

「**ID**」フィールドには、英数字を最大 25 文字入力でき、ピリオド(.)、ダッシュ(-)、アンダースコア(_)以外の特殊文字は使用できません。「**名前**」フィールドには、英数字を最大 50 文字入力でき、ピリオド(.)、ダッシュ(-)、アンダースコア(_)以外の特殊文字は使用できません。

2. ルール・タイプを指定します。これによって、照合の各側に選択されるトランザクションの数が決まります。この例では、会社間買掛金から 1 つのトランザクションが選択され、会社間売掛金の 1 つのトランザクションと照合されます。
3. ルールを満たすために満たす必要のある条件を指定します。このルールの場合、請求書の完全一致と金額の完全一致が必要です。このルールによって生成された照合は、ステータスが確認済となり、照合が行われた後にユーザー・アクションが必要ないことを表します。



Accounts Payable	Match Type	Accounts Receivable
Accounts Payable - Expected AR Amount Matches Exactly	Expected AR Amount	AR Amount
Accounts Receivable - AR Amount Matches Exactly	Matches Exactly	
Accounts Payable - Invoice Matches Exactly		
Accounts Receivable - Invoice Matches Exactly		

ルールが不要になったが、ルールを使用して照合された既存の照合がある場合、ルールを削除するのではなく、非アクティブ化することをお勧めします。ルールに対する照合をパージした後で、そのルールを削除できます。

次のルールの例では、請求書は完全一致が必要ですが、金額は\$100 まで差異が許容されます。このルールによって生成される照合には、\$100 の差異の調整が含まれます。このルールは一致候補が作成されるよう構成されました。これによって、適切なレベルのセキュリティ権限を持つユーザーが照合とこれに関連付けられている調整を確認し、照合を受け入れるか却下するかを決定できます。

ID 1.M.2
Rule Type 1 to Many

Name 1+Many- Exact Match on Invoice , Varia

Description 1+Many- Exact Match on Invoice , Exact Match on Amount

Match Status Suggested

Active

Accounts Payable - Expected AR Amount

Matches Exactly

Accounts Payable

Expected AR Amount

Match Type

Matches Exactly

Accounts Receivable

AR Amount

Accounts Payable - Invoice

Matches Exactly

Accounts Receivable - Invoice

ノート:

1 対多および多対 1 ルール・タイプでは、調整属性条件に加えて、完全一致または許容差の範囲内での一致となるルール条件を 1 つ定義する必要があります。多対多ルール・タイプの場合、完全一致条件を定義する必要があります。

自動照合ルールの例

自動照合ルールは、自動照合プロセスで使用されます。照合を行うために満たす必要のあるルールまたは条件を定義します。会社間タイプの自動照合プロセス用に指定された「ルール」タブの例を次に示します。「アクティブ」列には、自動照合時に実行されるルールが表示されます。「x」は、ルールが実行されず、非アクティブであることを示します。「ルールの編集」ダイアログを使用して、ルールを非アクティブに設定できます。

Match Process

New

INTERCOMP

Intercompany Account MP

Properties

Rules

Manual Match Rule

[Configure](#)

Auto Match Rules

Name	Active	Actions
Exact Match on Invoice and Amount	✓	...
1 to 1 Confirmed		
Exact Match on Invoice Variance on Amount	✓	...
1 to 1 Suggested		
Exact Match on Invoice and Doc Date	✓	...
1 to Many Confirmed		
Exact Match on Invoice Variance on Doc Date	✓	...
Many to 1 Suggested		
Exact Match on Invoice Variance on Amount	✓	...
Many to Many Suggested		

許容差レベルの設定

差異のあるトランザクションの照合を可能にする許容差レベルを設定するには、3つの方法があります。次の設定が可能です。

- トランザクションに適用される許容差の差異値。たとえば、-1 から+3 までの差異の自動照合です。
- パーセンテージで表した許容差しきい値レベル。たとえば、金額の値の 0.5% までの自動照合です。
- パーセンテージで表した許容差しきい値レベルと差異の金額。たとえば、金額の値の 1.0% まで、最大金額は 100.00 までの自動照合です。

ノート:

パーセンテージの値は、高い方、低い方の許容差とも 100 以下である必要があります。パーセンテージで表す許容差レベルは、**数値および整数**型のデータ・ソース属性にのみ使用できます。パーセントで表すオプションは、**日付**などの他の型には表示されません。

許容差パーセンテージ・チェックボックス 許容差の限度を設定する際、「**パーセンテージ許容差を使用**」チェック・ボックスがあり、許容差レベルをパーセントで表すことができます。また、最大差異値を設定することもできます。

例 1.自動照合ルール - 許容差の限度

Accounts Payable AP Amount	Match Type Matches with Tolerance	Accounts Receivable AR Amount
Auto Reconciliation Tolerance Limits		
Use Custom Limits		
<input checked="" type="checkbox"/> Use percentage tolerance		
From -	10 %	Up to maximum amount 5
To +	10 %	Up to maximum amount 5

調整ルール・タイプの場合、下限および上限の値が空白のときは「調整制限」は無制限です。

例 2.手動照合ルール - 策定者の許容差の限度

Accounts Payable AP Amount	Match Type Matches with Tolerance	Accounts Receivable AR Amount
Preparer Tolerance Limits		
Use	Custom Limits	
	<input checked="" type="checkbox"/> Use percentage tolerance	
From -	1.0 %	Up to maximum amount 0.5
To +	1.0 %	Up to maximum amount 0.5

1 対 1 および 1 対多ルールでの日付許容差の設定

日付の許容差は、2 つのデータ・ソース間でのトランザクションの照合に対して考慮する日数です。「**トランザクション照合**」では、トランザクションを照合する最も一般的な方法で日付の許容差が考慮され、銀行預入またはサブシステム・トランザクションの前に(GL などの)ソースを使用可能として処理します。エンジンは、ソースにアンカーし、ルールに入力された許容差値に基づいて、そこから先の照合に対して考慮する日付値の範囲を計算します。

日付の許容差オプションは、「**日付**」タイプのデータ・ソース属性に使用でき、次のものに対して設定できます:

- 自動照合ルール
- 手動照合ルール
- デフォルトの属性マッピング

日付の許容差は柔軟性が非常に高く、次のものを使用して照合を指定するために使用できません:

- **日付の範囲**
ルールで日付の許容差を使用して、照合に対して考慮する日付の範囲を設定します。ルール作成では、これらのフィールドには範囲を示すために「**開始**」と「**終了**」というラベルが付けられています。エンジンでは、日付の許容差範囲を柔軟に操作できます。たとえば、今日と 1 日後との照合のトランザクションについて考えます。開始および終了の日付は、0 から 1 になります。別の例では、トランザクションの照合をソース・トランザクションから 2 日で開始し、4 日後に終了します。開始を-1、終了値を+1 として入力することで、1 日前(-1 として開始)から 1 日先まで考慮されるようにすることもできます。
- **特定の日付**
日付の範囲ではなく別の特定の日付で 1 つのソースのトランザクションからサブシステムのトランザクションに照合できるため、日付の許容差の精度が増します。これは、「開始」および「終了」フィールドの日付の許容差値を、同じ値として使用することで行われます。たとえば、ソース・トランザクションを銀行トランザクションと 2 日後にのみ照合するとします。「開始」フィールドに 2、「終了」フィールドに 2 を入力して、その日のみを照合で考慮できます。
- 休日および週末を照合で考慮しないように、通常のカレンダーではなく**ビジネス・カレンダー**。
デフォルトでは、「**勘定科目照合**」では日付範囲の日付を指定するために通常のカレンダーが使用されます。また、日付範囲を計算するときにビジネス・カレンダーを使用して、照合範囲の計算で会社の休日や週末をカウント対象から除外するオプションもあります。許

容差を使用した日付タイプ属性ルール条件を作成する場合、および照合プロセスのデフォルトの属性マッピングにも、オプションとして「**ビジネス・カレンダーを使用**」チェック・ボックスを選択できます。ビジネス・カレンダーのオプションは、多対多を除くすべてのルールで使用でき、手動照合では使用できません。

ビジネス・カレンダーを使用するには、組織単位の労働日数と、その組織単位の休日のリストを含む休日ルールを指定する必要があります。組織単位はプロファイルに割り当てられ、その後、関連するビジネス・カレンダーが照合の作成中に使用されます。*Account Reconciliation* の設定と構成ガイドの**組織単位の定義**を参照してください。

ノート:

特定の営業日についてオフセット営業日が計算されます。営業日はアンカー・データ・ソースからの一意の日付です。ビジネス・カレンダーを使用している場合は、一意の日付ごとにサブ・システムの計算済オフセット日が計算されます。1対1、1対多(ソース・システム・アンカー)および多対1(サブ・システム・アンカー)の場合、アンカー日は単一の一意の日付であり、その一意の日付にビジネス・カレンダーを適用してオフセット日が計算されます。多対多の照合では、グループ内に複数の日付がある可能性があり(ソース・システム・アンカー)、オフセット日を計算するための一意の日付がないことを意味します。

日付許容差およびビジネス・カレンダーの使用を表す例を次に示します:

- 例 1 - 「ビジネス・カレンダーを使用」オプションを指定した日付タイプ・ルール条件を示しています。このルールは、「開始」がソース・システム・トランザクションから 3 日で、範囲の「終了」日が 4 日であることを指定しています。

- 例 2 - 属性マッピングの日付の許容差の限度およびビジネス・カレンダー・オプションの使用を示しています。このルールは、「開始」がソース・システム・トランザクションから 0 日で、範囲の「終了」日が 2 日であることを指定しています。日付許容値を入力し、ビジネス・カレンダーの使用を選択するには:

1. 「照合タイプの編集」から、「プロパティ」タブを選択します。

2. 「デフォルトの属性マッピング」で「+」(新規)をクリックすると、「新規属性マップ」ダイアログが表示されます。
 - a. 「デフォルトの許容差」で、「開始」と「終了」に日付の許容差の限度を入力します。
 - b. オプションで、通常のカレンダーのかわりにビジネス・カレンダーを使用するには、「ビジネス・カレンダーを使用」チェック・ボックスを選択します。

Edit Attribute Map Save Cancel

* AP AP Amount ▼

* AR AR Amount ▼

Default Tolerance Limit

Use business calendar

Start 0

End 0

- **例 3** - ビジネス・カレンダーが感謝祭の休日の週末をまたぐ日付とどのように照合されるかを示しています。
この例は、「開始」には 3 日、「終了」には 4 日を指定したが、感謝祭の休日とそれに続く週末をまたぐルールの場合です。システムでその組織のビジネス・カレンダーが使用されることにより、感謝祭の休日とそれに続く週末にわたる日付は自動的に照合対象から除外されます。照合は 11 月 25 日から 12 月 3 日までの 8 日間ですが、11 月 26 日から 29 日までの休日が適切に除外されました。

Match Close

Match ID - 1007

Source System

Transaction ID	Support ID	BA Source	AD Source	TXT Source	DT SRC
	1007		15.00 11/25/2020	1ToM_3-4D_Forward	11/25/2020
	Total		15.00		
	Variance		0.00		

Sub System

Transaction ID	Support ID	BA Sub	AD Sub	TXT Sub	DT SUB
	1007		12.00 12/3/2020	1ToM_3-4D_Forward	12/3/2020
	1008		3.00 12/3/2020	1ToM_3-4D_Forward	12/3/2020
	Total		15.00		
	Variance		0.00		

ルールの非アクティブ化

自動照合時に特定のルールを実行しないようにする場合は、「**ルールの編集**」ダイアログで「**アクティブ**」チェック・ボックスの選択を解除することで、ルールのデフォルトの「**アクティブ**」ステータスを非アクティブに変更できます。新しいルールはすべて自動的に「**アクティブ**」に設定されることに注意してください。

Edit Rule

ID: R1
 Name: 1to1 Exact Match on Invoice and Amou
 Description: 1:1 Exact Match on Invoice and Amount

Rule Type: 1 to 1
 Match Status: Confirmed
 Active:

Rule Conditions

Filters and Groups

Use Filtering to include the transactions that are needed for this matching rule. With no filter selected all unmatched will be considered for the matching. Use Grouping to summarize transactions by the selected Grouped attribute(s) into a single transaction for matching. If you choose to group by certain attribute is selected then transactions will be matched as they are at their detail level.

Filters: Accounts Receivable, Accounts Payable
 Groups: Accounts Receivable, Accounts Payable

不要になった照合ルールを使用して照合された既存の照合がある場合、最初にこのルールを非アクティブ化できます。照合がパージされた後、照合ルールを削除できます。

自動照合ルールのバッチ・サイズおよび照合繰返し回数の変更

「トランザクション照合」では、自動照合ルールの照合プロセスでの繰返し回数のデフォルト値を変更できます。自動照合ルールのデフォルトの最大繰返し回数の変更を参照してください。

1 対多および多対 1 ルールの作成中におけるサブセット・ルールの使用

1 対多または多対 1 ルール・タイプを使用して作業している際、正確に照合するために、すべてのトランザクションのサブセットと金額との照合が必要になる場合があります。これが必要な場合、1 対多または多対 1 ルールに「サブセットあり」チェックボックスを使用できます。

Rule Type: 1 to Many
 With Subset:
 Match Status: Suggested

次のソース・システムおよびサブシステムのトランザクションについて考えます。定義されたルール条件では、金額、日付および GL 値が正確に一致する必要があります。

表 10-4 ソース・システムのトランザクション

金額	日付	GL 値
111	10-13-2023	Shop-1
233	10-13-2023	Shop-1

表 10-5 サブシステムのトランザクション

金額	日付	GL 値
100	10-13-2023	Shop-1
10	10-13-2023	Shop-1
1	10-13-2023	Shop-1
200	10-13-2023	Shop-1
30	10-13-2023	Shop-1
3	10-13-2023	Shop-1

サブセット照合機能を使用する場合、ソース・システムの金額 111 は、サブシステムのトランザクションのグループの金額(100 + 10 + 1)と照合する必要があります。同様に、金額 233 は、グループの金額(200 + 30 + 3)と照合する必要があります。

サブセットの照合機能を使用しない場合、金額と日付、GL 文字列が正確に一致するというルール条件では、サブシステムの日付と GL 文字列(10-13-2023、Shop-1)が、ソース・システムの日付と GL 文字列と等しいため、サブシステムの 6 つのトランザクションすべての金額の合計が返されます。そのため、結果は、ソース・システムの金額 111 とサブシステムの合計 (100+10+1+200+30+3) = 344 となり、正確な照合にはなりません。同様に、ソース・システムの金額 233 は、サブシステムの金額 344 と一致しません。

多対多ルールの作成中におけるサブセットの使用

多対多照合タイプのサブセット・ルールによって、データ・ソース内の 1 つ以上のトランザクションを別のデータ・ソース内のトランザクションのすべてのサブセットと照合できます。指定された許容差の限度が両方のデータ・ソースに適用されます。

多対多(サブセットあり)ルールの例

POS がソース・システムで Bank がサブシステムの、2 つのデータ・ソースを含む照合タイプについて考えます。次の表は、この例の目的に必要な限られたトランザクションを示しています。

Table 10-6 ソース・システムのトランザクション

トランザクション ID	店舗 ID	トランザクション日	金額
10001	7959	15-JUL-2021	983
20001	7959	14-JUL-2021	637
30001	7959	11-JUL-2021	288
40001	7959	10-JUL-2021	500
50001	7959	09-JUL-2021	818

Table 10-7 サブシステムのトランザクション

トランザクション ID	店舗 ID	トランザクション日	金額
19999	7959	14-JUL-2021	-475
29999	7959	16-JUL-2021	2095
39999	7959	15-JUL-2021	-725

日付は完全一致ではありませんが、ソース・システムのトランザクション ID 10001 および 20001 のトランザクションを合計すると、金額は 1620 になります。サブシステムのトランザクション ID 19999 および 29999 のトランザクションを合計すると、同じ金額の 1620 になります。

金額および店舗 ID と厳密に照合し、日付をアンカーし、指定された許容差の限度を日付に適用するというルール条件を考えます。指定された許容差をプラスまたはマイナス 1 日とします。この例で、日付が 15-JUL-2021 の、ソース・システムの最初のトランザクションについて考えます。多対多ルール(サブセットなし)を使用する場合、ルール条件と一致するソース・システムのトランザクションはトランザクション ID 10001 および 20001 であり、その金額は合計 1620 です。サブシステムでは、すべてのトランザクションがルール条件と一致し、その金額は合計 895 です。これは完全一致になりません。一方、多対多(サブセットあり)ルールを使用すると、サブシステムのトランザクションの考えられるすべてのサブセットが、指定された照合ルールに基づいて作成されます。その結果、サブシステムのトランザクション ID 19999 および 29999 のサブセットが、ソース・システムのトランザクション ID 10001 および 20001 と一致します。

多対多(サブセットあり)ルールの指定

多対多(サブセットあり)ルールを作成するには、次のことが必要です:

- 「サブセットあり」でデータ・ソースを選択します
- 少なくとも 1 つの属性を「グループ」に含めます

サブセット・ルールをソース・システムまたはサブシステムに適用できます。「新規ルール」ダイアログで、「サブセットあり」を使用して、サブセット・ルールを適用する必要があるデータ・ソースを選択します。その他のデータ・ソースは、指定された許容差の限度を適用するためのアンカーとして使用されます。たとえば、照合タイプに2つのデータ・ソース(Bank および POS)があります。Bank を「サブセットあり」で選択した場合、サブセット・ルールが Bank に適用され、Bank のトランザクションのサブセットが POS の1つ以上のトランザクションと照合されます。POS はアンカーとして使用され、指定された許容差の限度が POS と Bank の両方で適用されます。

「ルール条件」タブの「グループ」セクションで、アンカーされるデータ用の少なくとも1つのグループ、または少なくとも1つの完全一致ルール条件を定義します。グループを定義するには、「グループ」セクションで、アンカーされるデータ・ソースから少なくとも1つの属性を選択します。グループ化は、「サブセットあり」で選択したデータ・ソースについては無効です。

ノート: 「サブセットあり」でデータ・ソースを選択しない場合、動作は多対多ルール・タイプ(サブセットなし)と同じです。

複数のデータ・ソースおよび複数の照合プロセスの使用

トランザクション照合には3方向(またはそれ以上)の照合シナリオがあるため、トランザクションは、残高調整ソース A から残高調整ソース B に自動的に照合されます。複数の照合プロセスの使用例を見てみましょう。

3方向照合は、GL から POS、さらに POS から Bank です。3方向照合に加え、POS ソースに反映されていない GL または Bank に関わるトランザクションもあるため、GL から直接 Bank に照合するための別の照合プロセスを設定できます。たとえば、銀行取引明細には銀行手数料があり、GL には転記されますが、通常、POS のソース・アクティビティには含まれません。

- GL から POS (逆)

- POS (通常)から BANK
- GL から BANK

ロードされた 2 つの販売時点(POS)ファイル(POS (逆)と POS (通常))は、ソース・システム内で差し引きゼロになるため、正味ゼロです。POS (逆)は、金額フィールドが反対の記号に置き換えられていることを除き、Bank と照合される POS (通常)と同じファイルであるため、残高調整ソースは GL と Bank のみです。

例 - 複数データ・ソースの設定

この例では、次の 3 つのデータ・ソースを使用して、照合タイプを作成したものと仮定しています: 総勘定元帳(GL)用の GL というデータ・ソースと、販売時点(POS)というデータ・ソース。また、銀行取引明細を表す Bank データ・ソースもあります。

Edit Match Type Close

Data Sources

- GL**
GL
4 Attributes
- POS**
POS
3 Attributes
- BANK**
BANK
3 Attributes

* ID GL

* Name GL

Use in Balance Report as Source System Sub System

Data Source Attributes

ID	Name	Type	Key	Required	Calculation	Accounting Date	Balancing Attribute	Actions
Amount	Amount	Number	×	✓	×	×	✓	⚙
Date	Date	Date	×	✓	×	✓	×	⚙
RefID	RefID	Text	×	×	×	×	×	⚙
CAmount	CAmount	Number	×	×	✓	×	×	⚙

📝 ノート:

調整属性は、照合プロセスでデフォルトの属性マッピングを作成するために、システムによって使用されます。トランザクションがまだインポートされていない場合は、チェック・ボックスを使用して会計日付や調整属性を変更できます。

例 - 複数照合プロセス・シナリオの設定

複数のデータ・ソースを定義したら、照合プロセスを設定できます。定義されている 3 つの照合プロセスを示す次の例を見てみましょう。

- **GL-IPOS** は、販売時点ソースにマイナス(逆)の金額がある総勘定元帳(GL)間の単一ソースの照合プロセスです。

📝 ノート:

トランザクション照合では、同じソースの無効な(またはマイナスの)トランザクションに、自動的にトランザクションを照合できるため、それらを手動で照合する必要はありません。

GL	Used for Balancing	Default Tolerance Limit	Actions
Amount	Yes	From -0 To +0	

GL データ・ソースを作成した際に選択した調整属性である **Amount** に基づいて、デフォルトの属性マッピングが作成されているのがわかります。プラス記号(+)を選択すると、調整属性以外の属性の新しい属性マッピングを作成できます。

- **POS-BANK** は、プラスの販売時点(POS)アクティビティと **Bank** ソース間の、ソースが 2 つある照合プロセスです。

POS	BANK	Used for Balancing	Default Tolerance Limit	Actions
Amount	Amount	Yes	From -0 To +0	

- **GL-BANK** は、総勘定元帳(GL)と **Bank** ソース間の、ソースが 2 つある照合プロセスです。

自動照合プロセスの実行順序

自動照合プロセスは、「照合プロセス」ダイアログの照合プロセスの順序に従います。これらのプロセスの順序は、「上へ移動」および「下へ移動」インジケータを使用して変更できます。自動照合では、リストされている順序とルールで、各照合プロセスが順番に実行されます。

個々のトランザクションは一度一致すると、他の照合プロセスの対象になりません。

自動照合ルールでのトランザクションのフィルタ処理およびグループ化

トランザクション照合での自動照合ルールは、ルールでのトランザクションのグループ化およびフィルタ処理をサポートします。このルールはトランザクションを照合するための照合エンジンで使用されます。1つのデータ・ソースまたは2つのデータ・ソースに対して、「**ルールの編集**」ダイアログに**フィルタおよびグループ**というタブが表示されます。

自動照合ルールでのトランザクションのフィルタ処理

自動照合では、ルールの実行中に、フィルタによって指定されたトランザクションのみが含まれます。その他のトランザクションは照合で除外されます。

トランザクションのフィルタ処理について次の点に注意してください。

- 各ルールに対するフィルタ処理の定義はオプションです。
- フィルタは各データ・ソースに対して定義します。
- 各ルールでは、データ・ソースごとにフィルタを1つのみ選択できます。

様々なタイプのすべてのルールでフィルタ処理を使用できます。

2つのソースの照合プロセス - 2つのソースの照合プロセスでは、ソース・システムに対して1つ、サブシステムに対して1つのフィルタを選択できます。

単一ソースの照合プロセス - 単一ソースの照合プロセスでは、サブシステムに対して選択するフィルタを、ソース・システムに対して選択したフィルタと同じにできます。

自動照合でのトランザクションのグループ化

- ルールに対するフィルタ処理のグループ化の定義はオプションです。
- グループ化のための属性を1つ以上選択できます。
- グループ化は、「多」タイプのルール(1対多、多対1、多対多)でサブセットが使用されていない場合のみ可能です。

1対多

グループ化はサブ・システムのデータ・ソースに対してのみ可能です。

- 2つのソースの照合プロセスでは、サブ・システムのデータ・ソースとその属性のみが表示されます。
- 1つのソースの照合プロセスでは、データ・ソースとその属性のみが表示されます。

多対1

グループ化はソース・システムのデータ・ソースに対してのみ可能です。

- 2つのソースの照合プロセスでは、ソース・システムのデータ・ソースとその属性のみが表示されます。
- 1つのソースの照合プロセスでは、データ・ソースとその属性のみが表示されます。

多対多

グループ化はソース・システムとサブ・システムの両方のデータ・ソースに対して可能です。

- 2つのソースの照合プロセスでは、ソース・システムのデータ・ソースとその属性、およびサブ・システムのデータ・ソースとその属性の両方が表示されます。
- 1つのソースの照合プロセスでは、データ・ソースとその属性が表示されます。

属性

グループ化属性には次の条件が適用されます。

- グループ化のための属性を1つ以上選択できます。
- グループ化属性はどのような順序でも指定できます。
- グループ化属性には計算済属性を含めることができます。
- 調整属性はグループ化属性として指定できません。
- 多対多のルールでは、ルール条件で定義されるすべての属性は、調整属性を除き、グループ化基準問合せの一部である必要があります。

ルール条件

「多」タイプのルールに対してグループ化が使用可能になっている場合、ルール作成の際には、グループ化用を選択された属性のみが考慮されます。ルール条件では属性がフィルタされ、グループ化用を選択した属性のみがドロップ・ダウンに表示されます。これらの属性を使用したルール条件の作成はオプションです。

ノート:

サブセット・ルールを使用する場合、トランザクションのグループ化は1対多および多対1ルールには使用できません。

グループを使用した自動照合の実行方法

グループ化されたトランザクションは1つのトランザクションとして動作します。グループ化は「多」側에만適用されます。「1対多」または「多対1」のルールで「多」側にグループ化を適用すると、ルールは、「多」側でも「1対1」のルールとして動作します。そのため、グループ化されたトランザクションは1つのトランザクションとして考慮されます。

「多対多」のルールでは、グループ化を両側または片側のみに適用できます。グループ化を両側に適用した場合は、グループ化されたトランザクションが1つのトランザクションとして動作する、「1対1」のルールとして動作します。ただし、グループ化を片側のみに適用した場合は、グループ化が適用されたソースに応じて、「1対多」または「多対1」のルールとして動作します。

例

次に示す銀行トランザクションと GL トランザクションの例を使用して、照合の仕組みを説明します。

次の「1対多」のルールの例では、GL トランザクションは、トランザクション日、支払タイプ(PymtType)およびバッチ ID でグループ化されています。属性の順序は照合に影響しません。

ルール条件: GL の「金額」が銀行の「金額」と完全一致

調整属性: BANK の「金額」および GL の「金額」

表 10-8 GL トランザクションの例

数値	トランザクシ ョン日	PymtType	バッチ ID	金額
1	9月18日	銀行為替手形	CS18091802	200
2	9月18日	銀行為替手形	CS18091802	200
3	9月18日	銀行為替手形	CS18091802	600
4	9月20日	銀行為替手形	CS18091802	200
5	9月20日	銀行為替手形	CS18091802	200

表 10-9 銀行トランザクションの例

数値	基準日	銀行 ID	口座番号	金額
1	9月19日	121000248	4129965265	1000
2	9月22日	121000248	4129965265	400

このルールでは 2 つの照合が作成されます。

表 10-10 照合 1 - 銀行トランザクションの照合の例

数値	基準日	銀行 ID	口座番号	金額	照合セット番号
1	9月19日	121000248	4129965265	1000	1

表 10-11 照合 1 - GL トランザクションの照合の例

数値	トランザクシ ョン日	PymtType	バッチ ID	金額	照合セット番 号
1	9月18日	銀行為替手形	CS18091802	200	1
2	9月18日	銀行為替手形	CS18091802	200	1
3	9月18日	銀行為替手形	CS18091802	600	1

表 10-12 照合 2 - 銀行トランザクションの照合の例

数値	基準日	銀行 ID	口座番号	金額	照合セット番号
1	9月22日	121000248	4129965265	400	2

表 10-13 照合 2 - GL トランザクションの照合の例

数値	トランザクシ ョン日	PymtType	バッチ ID	金額	照合セット番号
4	9月20日	銀行為替手形	CS18091802	200	2
5	9月20日	銀行為替手形	CS18091802	200	2

前述のルールで、「**基準日**」と「**トランザクション日**」が「**完全一致**」というルール条件を追加した場合、照合は作成されません。

自動照合時に実行する片側調整の設定

銀行の手数料や銀行口座からの振替送出のように、GL 側の照合先がない場合は、自己照合のための片側調整を使用することが必要になります。これは、トランザクションをロードしてソースに対して照合する場合に、一方の側のトランザクションを相殺するトランザクションが他方がないことで頻繁に発生します。自動照合時に実行される、このようなタイプの調整を処理するための、「**調整**」という事前定義済みのルール・タイプがあります。

自動照合時に調整ルールを実行することで、これらのトランザクションを調整によってクリア・オフします。その後、この調整を転記するための仕訳の転記プロセスを使用できます。この例では、仕訳から作成された GL トランザクションは、すでに銀行側からトランザクションを照合済/クリア済であるため、GL フィールドのトランザクション照合に戻されません。仕訳のロードの詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理の Account Reconciliation* を使用するお客様を参照してください。

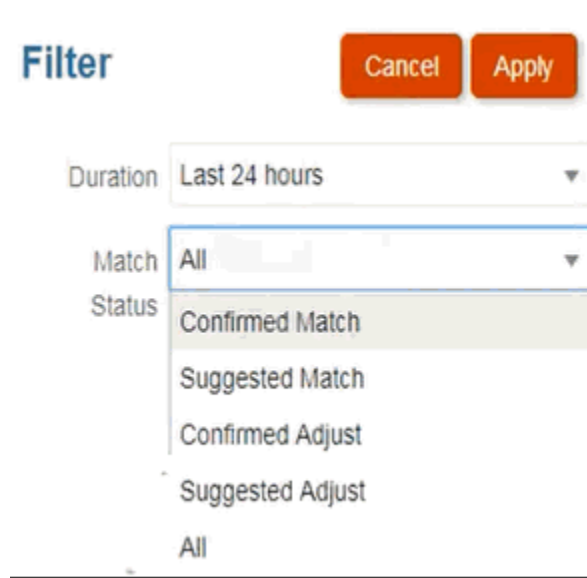
事前定義済調整ルールの処理

- 調整ルールでは、データ・ソースのルールに従って、(1 つ以上の)トランザクションが選択されます。このソースは、調整ルール・タイプの「調整対象のソース」と呼ばれます。
- このルール・タイプではフィルタおよびグループ機能を使用できます。ルールでグループを使用した場合は、グループごとに 1 つの調整が作成されます。
- グループがない場合は、使用可能なトランザクションごとに 1 つの調整が作成されます。

調整ルールの用語

自動照合の実行後には、次のステータスが表示されます。これらのステータスの例を次に示します。

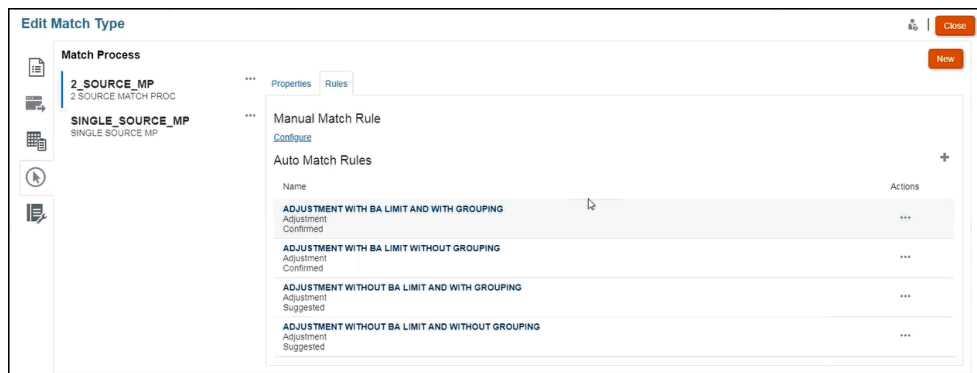
- 照合候補
- 確認済照合
- 調整候補
- 確認済調整



調整ルール・タイプの設定

調整ルール・タイプを設定するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「照合タイプ」の順に選択します。
2. 「照合タイプ」タブで、作業を行う照合タイプを選択します。「照合タイプの編集」タブが表示されます。
3. 「照合プロセス」タブを選択します。使用する照合プロセスを選択し、「ルール」タブをクリックします。次に例を示します。



4. プラス記号(「+」)をクリックして、新しいルールを作成します。「新規ルール」ダイアログが表示されます。
 - a. 「ID」、「名前」および「説明」を入力します。
 - b. 「ルール・タイプ」で、ドロップダウンから「調整」ルール・タイプを選択します。次に例を示します:

ノート:

この 1 つのダイアログから、フィルタおよびグループを使用できるようになりました。また、ここでルール条件の設定も行います。

- c. 「照合ステータス」で、「候補」または「確認済」を選択できます。
- d. 「保存」をクリックしてルールを保存すると、「調整対象のソース」フィールドが表示されます。
- e. ドロップダウンからソースを選択し、ルールを「保存」します。

ノート:

「調整」ルール・タイプで作業する場合は、「調整詳細」タブが表示されません。

- f. 必要に応じて、フィルタおよびグループを使用します。
 - g. 「保存」をクリックします
5. ルール条件を入力します。「調整」ルール・タイプは、他のルールと異なり、あるソースを別のソースと比較するものではないため、ルール条件は 1 つのみ存在します。そのため、別のルール条件を作成することはできません。

必要に応じて、自動照合を特定の範囲に制限する場合は、**調整制限**を追加できます。たとえば、-2000 から+2000 の値です。下限と「上限」の値が空白の場合、制限はありません。

照合での調整ルールの効果

調整ルールを使用して自動照合を実行した後の「照合」ダイアログを次に示します。

- 調整候補および確認済調整のリストが表示された「照合」ダイアログの例。

Match ID	Match Status	Rule Type	Rule Name	Created By	Match Date	Updated By	Updated Date	Action
7048	Suggested Adjust	Adjustment	ADJUSTMENT WITHOUT BA LIMIT AND WITHOUT GROUPING	Auto Match	May 20, 2019 6:58 PM			...
7047	Suggested Adjust	Adjustment	ADJUSTMENT WITHOUT BA LIMIT AND WITHOUT GROUPING	Auto Match	May 20, 2019 6:58 PM			...
7046	Suggested Adjust	Adjustment	ADJUSTMENT WITHOUT BA LIMIT AND WITH GROUPING	Auto Match	May 20, 2019 6:58 PM			...
7045	Suggested Adjust	Adjustment	ADJUSTMENT WITHOUT BA LIMIT AND WITH GROUPING	Auto Match	May 20, 2019 6:58 PM			...
7044	Confirmed Adjust	Adjustment	ADJUSTMENT WITH BA LIMIT WITHOUT GROUPING	Auto Match	May 20, 2019 6:58 PM			...
7043	Confirmed Adjust	Adjustment	ADJUSTMENT WITH BA LIMIT WITHOUT GROUPING	Auto Match	May 20, 2019 6:58 PM			...
7042	Confirmed Adjust	Adjustment	ADJUSTMENT WITH BA LIMIT AND WITH GROUPING	Auto Match	May 20, 2019 6:58 PM			...
7041	Confirmed Adjust	Adjustment	ADJUSTMENT WITH BA LIMIT AND WITH GROUPING	Auto Match	May 20, 2019 6:58 PM			...

- 「照合候補」の表示例 - これは、自動照合実行後の「照合候補」ダイアログの片側調整の表示例です。

Transaction ID	SOURCE SYSTEM BALANCING ATTRIBUTE	SOURCE SYSTEM ACCOUNTING DATE	SOURCE SYSTEM TEXT FIELD
1056	(30.00)	3/6/2019	2S_ADJUSTMENT3
1057	(30.00)	3/6/2019	2S_ADJUSTMENT3
Total	(60.00)		
Variance	60.00		

デフォルト調整とサポート値の設定

照合中に、差異を説明するための調整およびサポート・トランザクションを追加する必要があります。管理者がルールの作成を介して照合プロセスを定義し、そのルール

に許容差が存在する場合は、管理者がデフォルトの調整とサポート属性の値を設定しておくことで、ユーザーがそれらの値を手動で繰り返し入力する必要がなくなります。これによって照合時のユーザー入力の時間を短縮できます。

手動照合時に「未照合のトランザクション」ダイアログから手動で入力する必要がある「調整タイプ」の値の例を次に示します。「調整タイプ」の下に入力フィールドがあります。

Unmatched Transactions

Selected Transactions Match with Adjustment ✕

Point of Sale

Transaction ID	Import Job ID	Match_id	Match_Amount	Age	Status	Edit
8258	100000002436016	06/02/20218218DKK	359.00	450		
Total Variance			359.00			

Cash and Credit Cards

Transaction ID	Import Job ID	Match_id	Match_Amount	Age	Status	Edit
5032	100000002436016	06/02/20218218DKK	370.00	450		
Total Variance			370.00 (11.00)			

Adjustment

Adjustment to: Point of Sale

Variance: 11.00

Match_Amount | Match_Amount

Accounting Date: Aug 26, 2022

Adjustment Type

Type: Other

ID: 730

Name: 1

Description:

Comments

管理者が前もってデフォルトの調整とサポートの値を入力していた場合、ユーザーには手動照合時に次のように表示されます。

Adjustment Type

Type: Coding Error

ID: 9000230000000

Name: KD522631:06/01/2021

Description:

Category: Manual Coding Error

LedgerID: 101

自動照合でのデフォルト調整またはサポート属性値の設定

デフォルトの調整またはサポート属性の値を設定するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「照合タイプ」の順に選択します。
2. 「照合タイプ」タブで、作業を行う照合タイプを選択します。「照合タイプの編集」タブが表示されます。
3. 「照合プロセス」タブを選択し、作業対象の「照合プロセス」を選択します。
4. 「ルール」タブを選択します。
5. デフォルト値を入力する自動照合ルールを選択し、「アクション」で、「編集」を選択してルールを編集します。

The screenshot shows the 'Edit Rule' window with the following details:

- Description:** 1-1 Exact match on Location and Date, Variance on Amount
- Rule Conditions:** A tab labeled 'Adjustment Details' is highlighted with a red box and a mouse cursor.
- Filters and Groups:** A section with a plus sign for adding more conditions.
- Rule Conditions:**
 - GL - Amount:** Matches with Tolerance. GL: Amount, Match Type: Matches with Tolerance, POS Sub: Amount.
 - POS Sub - Amount:** (Linked to GL - Amount)
 - GL - Location:** Matches Exactly. (Linked to GL - Amount)
 - POS Sub - Location:** (Linked to GL - Location)
 - GL - Date:** Matches Exactly. (Linked to GL - Amount)
 - POS Sub - Date:** (Linked to GL - Date)
- Auto Reconciliation Adjustment Limits:**
 - Use: Custom Limits
 - Use percentage tolerance:
 - From: 50
 - To: 50

ルールに許容差の限度が設定されているため、「調整詳細」タブが表示されます。

6. 「トランザクション・タイプ」を選択し、そのトランザクション・タイプの属性のデフォルト値を入力します。

Rule Conditions Adjustment Details

* Source To Adjust Clear Account

* Transaction Type Coding Error

Save

Attribute	Default Attribute Type	Default Value
ID	Explicit	▼
Name	Explicit	▼
Description	Explicit	▼
Category	Explicit	▼
LedgerID	Explicit	▼
Adjusting Debit Account	Explicit	▼
Adjusting Credit Account	Explicit	▼
Journal Source	Explicit	▼
Entity	Explicit	▼
Currency Code	Explicit	▼

タイプが数値の調整属性の場合、表示される値は、属性の定義時に設定された精度に基づいています。デフォルト値が設定されると、調整が含まれる照合を実行する際に、「未照合のトランザクション」ダイアログにデフォルト値が表示されます。

手動照合ルールでのデフォルト調整およびサポート属性値の設定

手動照合ルールでデフォルト調整またはサポート属性値を設定するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「照合タイプ」の順に選択します。
2. 「照合タイプ」タブで、作業を行う照合タイプを選択します。「照合タイプの編集」タブが表示されます。
3. 「照合プロセス」タブを選択し、作業対象の「照合プロセス」を選択します。次に、「ルール」タブを選択します。
4. 「手動照合ルール」の下の「構成」をクリックします。

ルールに許容差の限度が設定されているため、「調整詳細」タブが表示されます。

Edit Rule

Close

Rule Conditions Adjustment Details

New Save

GL - Amount	GL	Match Type	Bank
Matches Exactly	Amount	Matches Exactly	Amount
Bank - Amount			

5. 「調整詳細」で、ドロップダウン・リストから「調整」または「サポート」のいずれかを選択します。
6. 「トランザクション・タイプ」を選択し、そのトランザクション・タイプの属性のデフォルト値を入力します。

Edit Rule Close

Rule Conditions Adjustment Details

Adjustment ▼ Save

* Transaction Type Over short ▼

Attribute	Default Attribute Type	Default Value
ID	Explicit ▼	
Name	Explicit ▼	
Description	Explicit ▼	

タイプが数値の調整属性またはサポート属性の場合、表示される値は、属性の定義時に設定された精度に基づいています。デフォルト値が設定されると、調整が含まれる照合を実行する際に、「未照合のトランザクション」ダイアログにデフォルト値が表示されます。

オプション構成: レビューなしの手動照合での調整詳細の設定

通常は 1 つの調整タイプのみを使用する手動調整が大量にある場合、管理者は、「**ルールの編集**」ダイアログにあるオプションの「**調整を含む照合ではレビューをスキップ**」チェック・ボックスを使用して、手動照合でデフォルトの調整タイプを使用すると、調整プロセスを迅速化できます。これにより、デフォルトの調整タイプの情報を使用して調整が即時に作成されるため、レビューを要求したり、ユーザーが調整の属性のデータを入力または調整する必要がなくなります。

このオプション構成を使用するには:

1. 「**照合タイプの編集**」から、照合プロセスを選択して「**ルール**」タブを選択します。
2. 「**手動照合ルール**」で、「**構成**」をクリックします
3. 「**ルールの編集**」で「**調整詳細**」タブを選択し、次に「**調整**」を選択します。
4. 「**調整を含む照合ではレビューをスキップ**」チェック・ボックスを選択します。「**調整対象のソース**」および「**デフォルト・トランザクション・タイプ**」の 2 つの追加フィールドが表示されます。

Edit Rule Close

Rule Conditions Adjustment Details

Adjustment ▼ Save

Skip Review for Match with Adjustment

* Source To Adjust GL ▼

* Default Transaction Type GL POS Adjust ▼

* Transaction Type Default Adjust ▼

Attribute	Default Attribute Type	Default Value
ID	Explicit ▼	Def1
Name	Explicit ▼	Def2
Description	Explicit ▼	Def3

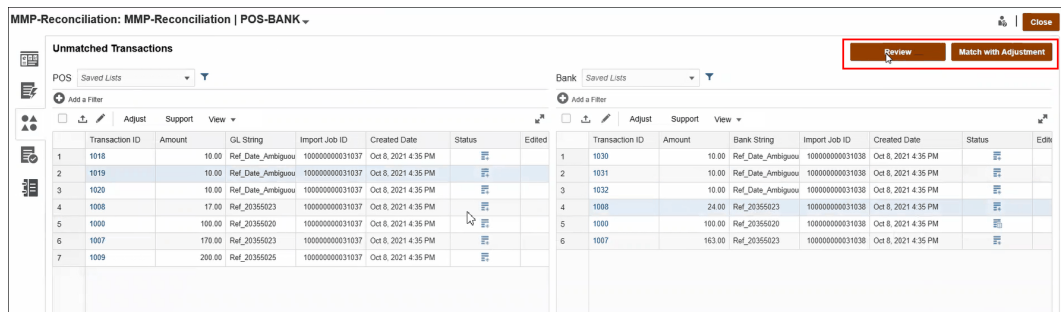
5. 「**調整対象のソース**」ドロップダウンで、照合プロセスで使用可能なデータ・ソースのリストからデータ・ソースを選択します。
6. 「**デフォルト・トランザクション・タイプ**」ドロップダウンで、「**調整対象のソース**」として選択したデータ・ソースで使用可能なトランザクション・タイプのリス

トから選択します。ドロップダウンには、手動照合ルールに対する調整タイプの許可セクションで選択されたトランザクション・タイプのみがリストされます。

7. 「保存」をクリックします。

8. 「ルールの編集」でこれらのステップを実行すると、ユーザーに対して「未照合のトランザクション」に次の 2 つのボタンが表示されます:

- **レビュー** - (オプション)ユーザーは、「調整を含む照合」に進む前に照合詳細をレビューできます
- **調整を含む照合** - ユーザーは、それ以上のレビューなしで照合を作成できます。照合は、手動照合ルール条件に従って検証されます。調整を転記するときは、調整詳細に対して「調整対象のソース」および「デフォルト・トランザクション・タイプ」の選択内容が使用されます。



ノート:

このオプション構成が設定されなかった場合、「レビュー」および「調整を含む照合」ボタンは「未照合のトランザクション」に表示されません。

トランザクション照合で調整詳細を評価する方法

データ・ソース属性からマップされた調整属性の場合:

- 手動照合: 調整の値は、選択された最初のトランザクションからコピーされます
- 自動照合: 調整の値は、トランザクション ID が最下位のトランザクションからコピーされます

自動照合ルールのデフォルトの最大繰返し回数の変更

トランザクション照合で特定の自動照合ルールを作成する際、「繰返し」フィールドがデフォルト値で表示される場合があります。ほとんどの場合、これらのデフォルト値を変更する必要はありません。このトピックの手順は、なんらかの理由で変更を加える必要がある場合にのみ適用されます。

1 対多サブセット、多対 1 サブセットおよび多対多サブセットの自動照合ルールでの最大繰返し回数の設定

トランザクション照合では、1 対多サブセット、多対 1 サブセットおよび多対多サブセット自動照合でのパフォーマンスと一致率のバランスをとるために、「ルールの編集」ダイアログで繰返し回数を調整できます。サブセット照合が使用されている場合、トランザクション照合

では、「多」側で一致する可能性のあるトランザクションの様々な組合せの評価が試みられます。フィルタ処理およびグループ化の条件が適用された後、各トランザクションは、「多」側のトランザクションの可能性のあるすべての組合せに対して照合が試みられます。

一致の検出を試みる際にトランザクション照合で試行する組合せの数を調整することで、パフォーマンスを調整できます。多くの場合、トランザクションが一致せずに、「多」側に大量のトランザクションがあると、組合せがなくなるまで一致の検出が試みられます。このプロセスには時間がかかる可能性があります。

トランザクションの特性がわかっている場合は、繰返し回数をより高い値に増やして、より高い一致率を達成できます。ただし、パフォーマンスのコストが伴います。逆に、一致率に影響する可能性のある繰返し回数を減らすことで、パフォーマンスを向上できます。したがって、この最大繰返し回数の設定を使用して、パフォーマンスと一致率のバランスを整えることができます。

1 対多(サブセットあり)、多対 1 (サブセットあり)および多対多(サブセットあり)ルールの場合、「繰返し」の範囲は 10,000,000 から 100,000,000 です。デフォルト値は 10,000,000 です。

最大繰返し設定を変更するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「照合タイプ」の順に選択します。
2. 「照合タイプ」タブで、作業を行う照合タイプを選択します。「照合タイプの編集」タブが表示されます。
3. 「照合プロセス」タブを選択すると、「プロパティ」タブが表示されます。
4. 「ルール」タブを選択し、編集するルールを選択します。「ルールの編集」ダイアログが表示されます。
5. 「ルールの編集」ダイアログに、デフォルトの「繰返し」回数が表示されます。1 対多(サブセットあり)、多対 1 (サブセットあり)および多対多(サブセットあり)ルールの場合、上(上限 1 億)または下(下限 1000 万)に調整できます。デフォルト値は 1000 万です。
6. 「保存」をクリックします。

照合タイプの編集

サービス管理者および「照合タイプ - 管理」アプリケーション役割を持つユーザーは、照合タイプを編集できます。

「アクション」メニューを使用して、照合タイプを編集します。

照合タイプの定義を編集するには:

1. 「アプリケーション」、「照合タイプ」の順にクリックします
2. 編集する照合タイプの横にある「アクション」メニューから、「編集」を選択します。
「照合タイプの編集」ダイアログが表示されます。
3. 次の 1 つ以上のカードで情報を変更します: 「プロパティ」、「データ・ソース」、「トランザクション・タイプ」、「照合プロセス」および「仕訳属性マッピング」。

照合タイプのステータスを「承認済」に設定すると、変更を保存した後に照合タイプ・ビューが作成されます。この照合タイプ・ビューの作成に使用された SQL 問合せを表示するには、「ビュー」アイコンをクリックします。

「承認済」照合タイプを変更した場合、照合タイプのステータスが「承認済」に設定されて変更が保存されると、関連する照合タイプ・ビューが再作成されます。照合タイプ・ビューの作成後に照合タイプ ID が変更されると、更新された照合タイプ ID を使用してビューが再作成されます。このビューに基づく既存のすべてのレポート問合せは、手動で更新する必要があります。このことに注意してください。照合タイプ・ビューの詳細は、[データ・ソースの照合タイプ・ビューについて](#)を参照してください。

照合タイプの削除

サービス管理者および「照合タイプ - 管理」アプリケーション役割を持つユーザーは、照合タイプを削除できます。

照合タイプを削除するには:

1. 「アプリケーション」、「照合タイプ」の順にクリックします。
2. 削除する照合タイプについて、「アクション」、「削除」の順に選択します。
3. 確認ダイアログで「はい」をクリックして削除を確認します。

削除される照合タイプに関連付けられている照合タイプ・ビューは自動的に削除されます。

環境間での照合タイプのエクスポートおよびインポート

システム管理者は照合タイプ構成をエクスポートし、それを Account Reconciliation 環境にインポートできます。

エクスポートされた照合タイプ構成は、次のいずれかのオプションを使用してインポートできます:

- 前回と同じ環境
- 別の Account Reconciliation 環境

たとえば、システム管理者は Account Reconciliation Cloud テスト環境で照合タイプを構成してテストし、その準備が完了したら、テストからエクスポートして本番環境にインポートすることができます。

ノート:

- 照合タイプのインポートおよび更新を実行する前に、環境の最新のバックアップを常に作成しておいてください。
- 既存の照合タイプと同じ名前の照合タイプをインポートすると、インポート・プロセスによって、既存の照合タイプの構成がインポート中の照合タイプで上書きされます。
 - 照合タイプ内のオブジェクトが、インポートされている照合タイプ zip ファイル内およびシステム内に存在する場合、照合タイプ zip ファイルからのオブジェクトによってシステム内のオブジェクトは上書きされます。
 - 照合タイプ内のオブジェクトが、インポートされている照合タイプ zip ファイル内に存在するが、システム内には存在しない場合、新しいオブジェクトがシステム内に作成されます。
 - 照合タイプ内のオブジェクトが、インポートされている照合タイプ zip ファイル内に存在しないが、システム内には存在する場合、そのオブジェクトは、インポートされている照合タイプ zip ファイルと同期するように、システムから削除されます。

ノート:

照合タイプ内のオブジェクトは、データソース、データソース属性、照合プロセス、ルールまたはルール条件のいずれかです。

- 既存の照合タイプを更新しない場合は、インポートの前に既存の照合タイプの名前を変更できます。

照合タイプのエクスポート

エクスポートしている照合タイプに 1 つ以上のグループ属性が含まれている場合、これらのグループ属性の定義および値が照合タイプとともにエクスポートされます。


テスト環境から本番環境に移行する際、グループ属性を最新にしておくことをお勧めします。

照合タイプをエクスポートするには:

1. ホーム・ページから、「**アプリケーション**」、「**照合タイプ**」の順にクリックします。
2. 「**照合タイプ**」タブで、照合タイプを選択します。
3. **オプション**: 照合タイプの名前を変更する場合:
 - 照合タイプを選択して、「**編集**」をクリックします。
 - 「照合タイプの編集」画面で、「**プロパティ**」タブをクリックします。
 - 照合タイプの新しい「**ID**」および「**名前**」を入力して、「**保存**」をクリックします。

 **Note:**

ベスト・プラクティスとして、詳細や元の照合タイプに加えた変更を「説明」に入力します。

4. 「アクション」  で「エクスポート」を選択します。ダイアログ・ボックスで、「ファイルの保存」を選択し、必要な場所にナビゲートしてから「OK」をクリックします。エクスポートは zip ファイルとして作成されます。1 つの zip ファイルが各照合タイプについて作成されます。

照合タイプのインポート

インポートしている照合タイプに 1 つ以上のグループ属性が含まれている場合:

- アプリケーションにインポート・ファイルのものと同名前のグループ属性が含まれていない場合は、グループ属性(値を含む)がインポートされます。
- アプリケーションにインポート・ファイルのものと同名前のグループ属性が含まれており、このグループ属性が他の照合タイプで使用されていない場合は、メンバーおよび値がインポート・ファイル内のそれらと置換されます。

 **Note:**

テスト環境から本番環境に移行する際、グループ属性を最新にしておくことをお勧めします。

照合タイプをインポートするには:

1. ホーム・ページから、「アプリケーション」、「照合タイプ」の順にクリックします。
2. 「インポート」をクリックします。
3. 「照合タイプ」ダイアログ・ボックスで、「<ファイルを選択してください>」をクリックします。

 **Note:**

インポート中の照合タイプの名前が既存の照合タイプの名前に一致する場合、既存の照合タイプを更新するか、新しい名前でインポートするかを選択できます。

4. 「インポート」ダイアログ・ボックスで、エクスポートされた zip ファイルにナビゲートして、「インポート」をクリックします。照合タイプが正常にインポートされたことを示すメッセージが表示されます。
5. 「照合タイプ」画面で、「リフレッシュ」をクリックします。
6. インポートが完了すると、「照合タイプ」画面のステータスが、「承認済」に設定されます。

トランザクション照合のためのフォーマットとプロファイルの定義

「トランザクション照合」で「照合タイプ」を作成したら、フォーマットの定義、フォーマットと「照合タイプ」の関連付け、プロファイルの作成といったタスクを実行する必要があります。

- フォーマットの定義と照合タイプの関連付け - [フォーマットの定義](#)を参照
- プロファイルの定義 - [プロファイルの操作](#)を参照

「トランザクション照合」の設定が完了したら、管理者は照合を作成してデータをロードできます。*Oracle Account Reconciliation* の管理の照合の作成およびデータのインポートを参照してください。

調整またはトランザクションの仕訳としての エクスポート

「トランザクション照合」では、データ・ソースから調整またはトランザクションを二面性を持つ仕訳としてエクスポートでき、その後、Oracle ERP システムにインポートできます。エクスポートされた仕訳は.csv ファイルで提供されます。

次も参照:

- **プロセス・フロー: 調整またはトランザクションの仕訳としてのエクスポート**
通常の操作中に、ユーザーは調整を作成し、トランザクション照合にトランザクションをロードします。これらの調整またはトランザクションは、「仕訳のエクスポート」ジョブを使用して仕訳としてエクスポートできます。
- **単一調整とエクスポート用に作成される仕訳の例**
単一調整の詳細と、その情報から生成される二面性のある仕訳の例を次に示します。
- **グローバルな調整属性およびサポート属性の作成**
「照合タイプ」では、調整タイプ、サポート・タイプ、照合タイプに対してグローバルに使用できる属性を作成できます。
- **仕訳列の定義**
サービス管理者および「照合タイプ - 管理」アプリケーション役割を持つユーザーは、仕訳列を定義できます。
- **属性の仕訳属性へのマッピング**
必要な仕訳列を作成した後、「照合タイプの編集」の「仕訳属性マッピング」オプションを使用して、属性を仕訳属性にマッピングする必要があります。
- **データ・ソース内のトランザクションへのフィルタの適用**
所定のデータ・ソース内のトランザクションに対してフィルタを作成して、希望するトランザクションのみをエクスポートできます。
- **「仕訳のエクスポート」ジョブを使用した調整およびトランザクションのエクスポート**
調整またはトランザクションを仕訳としてテキスト・ファイルにエクスポートすると、ユーザーがこれらのエンTRIESを Oracle ERP にロードできます。エクスポートした仕訳は、再オープンおよび再エクスポートできます。

プロセス・フロー: 調整またはトランザクションの仕 訳としてのエクスポート

通常の操作中に、ユーザーは調整を作成し、トランザクション照合にトランザクションをロードします。これらの調整またはトランザクションは、「仕訳のエクスポート」ジョブを使用して仕訳としてエクスポートできます。

トランザクション照合での調整またはトランザクションのエクスポートのプロセス・フローには、次のタスクが含まれます:

1. 調整タイプとサポート・タイプのグローバル属性の作成
[グローバルな調整属性およびサポート属性の作成](#)を参照してください。

2. 仕訳列の定義
仕訳列の定義を参照してください。
3. トランザクションまたは調整の属性の仕訳属性へのマッピング
属性の仕訳属性へのマッピングを参照してください。
4. (オプション)トランザクションに対するフィルタの使用
データ・ソース内のトランザクションへのフィルタの適用を参照してください。
5. テキスト・ファイルへの仕訳のエクスポート
調整の仕訳としてのエクスポートまたはトランザクションの仕訳としてのエクスポートを参照してください。

エクスポートされた仕訳のロードの詳細な手順は、次のトピックを参照してください:

- Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ管理の管理のエクスポートされた仕訳のロードに関する項
- Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理の Account Reconciliation を使用するお客様

単一調整とエクスポート用に作成される仕訳の例

単一調整の詳細と、その情報から生成される二面性のある仕訳の例を次に示します。

Table 11-1 調整詳細

勘定科目 ID	トランザクション日付	金額	CCY	概略	調整タイプ
100-1150	6/15/2018	10.00	USD	銀行預金不足	現金過不足

Table 11-2 調整から作成される仕訳転記

会社コード	GL 勘定科目	利益センター	日付	金額	CCY	テキスト
100	1150		6/15/2018	-10	USD	銀行預金不足
100	567345	1100	6/15/2018	10	USD	銀行預金不足

この表の最初の行は、現在の残高が高すぎる金額 10.00 の照合勘定科目 1150 を示す仕訳の一面です。

この表の 2 行目は、オフセット勘定科目 567345 を示す仕訳の一面です。"不足の"現金が精算されているため、これは経費勘定です。

 **Note:**

これはデータ・ソースに基づいた 1 つのトランザクションにも対応し、2 つの行が 1 つの仕訳に対して作成されます。たとえば、銀行の手数料の場合です。

グローバルな調整属性およびサポート属性の作成

「照合タイプ」では、調整タイプ、サポート・タイプ、照合タイプに対してグローバルに使用できる属性を作成できます。

他のユーザーは、属性の作成時に有効になるグローバルな調整属性およびサポート属性を再利用できます。たとえば、名前、説明、ID などの属性を作成できますが、これらの属性は再利用でき、一般的に使用されます。サービス管理者および「照合タイプ - 管理」アプリケーション役割を持つユーザーは、グローバルな調整属性およびサポート属性を作成できます。

新たにグローバルな調整属性およびサポート属性を作成するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「照合タイプ」の順に選択します。
2. 「調整およびサポート属性」タブをクリックします。
3. 「新規」をクリックします。
4. 必要な名前を入力します。
5. 属性の「タイプ」に、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **日付** - 日付値に使用します
トランザクションをロードする際のフォーマットは DD-MMM-YYYY または DD-MMM-YY である必要があります。
 - **整数** - 最大 18 桁の非小数値に使用され、正または負にできます
 - **リスト** - 値リストの構成に使用され、インポート時に大文字と小文字は区別されません。
 - **数値** - 最大 18 桁(12 桁と小数点以下 6 桁まで)の金額フィールドに使用されます。正または負にできます。負の数値は、マイナス記号を使用してインポート時に指定できます。たとえば、インポート時には-1,000.00 でも、ユーザー・インタフェースでは(1000.00)と表示されます
「小数点以下の桁数」に、属性の精度を 0 から 12 の範囲で入力します。
 - **テキスト** - 長いコメントや説明などに使用し、最大 255 文字を使用できます。

ノート:

カンマ(,)を含む文字列値をインポートするには、その文字列値を二重引用符で囲む必要があります。文字列が二重引用符で囲まれている場合は、その文字列の中にあるその他すべての二重引用符を、別の二重引用符で囲む必要があります。次の表に例を示します。

文字列値	インポート・ステータス
"GM LLC - GMNA, formerly "NAO" ADMIN STAFF"	成功(文字列値全体に二重引用符が付き、NAO が別の引用符のセットで囲まれている)
"GM LLC - GMNA, formerly "NAO" ADMIN STAFF"	インポート・エラー(NAO が別の二重引用符の セットで囲まれていない)
"GM LLC - GMNA, formerly NAO ADMIN STAFF"	成功(文字列値が二重引用符で囲まれている)

文字列値	インポート・ステータス
GM LLC - GMNA, formerly NAO ADMIN STAFF	エラー(文字列値が二重引用符で囲まれていない)

- **はいいいえ** - ブール・フィールドに使用され、**空白**のまま、**はい**(1、Yes、YES、Y、y、T、t、True、TRUE、True)または**いいえ**(0、No、NO、N、n、F、f、False、FALSE、False)にできます

仕訳列の定義

サービス管理者および「照合タイプ - 管理」アプリケーション役割を持つユーザーは、仕訳列を定義できます。

Oracle ERP システムに仕訳をインポートするために、その Oracle ERP システムで必要となる必須列の例を次に示します。「トランザクション照合」でこれらの列を作成します。

Journals Import											
* Required											
*Status Code	*Ledger ID	*Effective Date of Transaction	*Journal of Source	*Journal Category	*Currency Code	*Journal Entry Creation Date	*Actual Flag	Segment1	Segment2	Segment3	Segment4

「トランザクション照合」で仕訳列を作成するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「照合タイプ」の順に選択します。
2. 「仕訳」タブをクリックします。
3. 「新規」をクリックすると、新しい仕訳列が作成されます。
4. 「名前」に入力し、「保存」をクリックします。

ノート:

この情報は、「アクション」をクリックして「編集」を選択して編集することもできます。

属性の仕訳属性へのマッピング

必要な仕訳列を作成した後、「照合タイプの編集」の「仕訳属性マッピング」オプションを使用して、属性を仕訳属性にマッピングする必要があります

調整の場合は、照合タイプごとに操作し、仕訳列を「照合勘定科目」と「オフセット勘定科目」にマッピングします。

トランザクションの場合は、データ・ソースごとに操作し、データ・ソース属性を仕訳属性にマッピングします。

調整の属性を仕訳属性にマッピングするには:

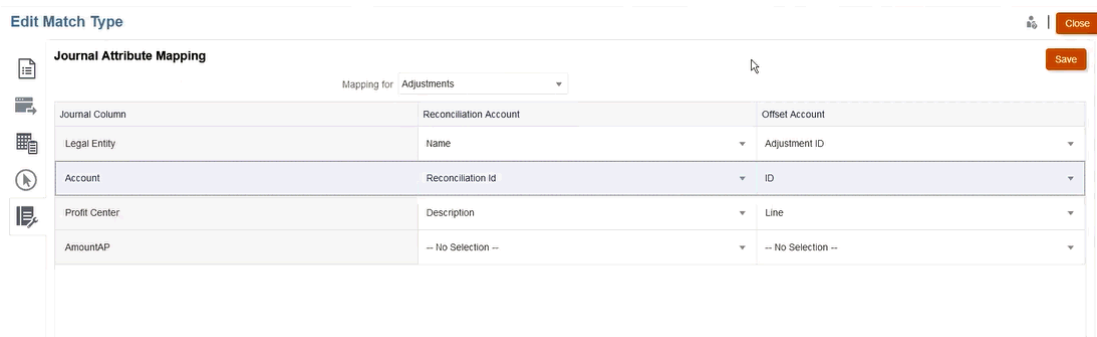
1. ホームから「アプリケーション」、「照合タイプ」の順に選択します。
2. 対象の照合タイプの「アクション」メニューから、「編集」を選択します。
3. 「照合タイプの編集」ダイアログで、「仕訳属性マッピング」を選択します。
4. 「マッピング先」の下で、「調整」またはドロップダウンに表示されるいずれかのデータ・ソースを選択します。
5. 各「仕訳列」で、「照合勘定科目」と「オフセット勘定科目」についてドロップ・ダウン・リストから属性を選択します。
6. すべての選択を行ったら、「保存」をクリックします。

 ノート:

「調整」のマッピングを保存した後で、各データ・ソースのマッピングの保存を続ける必要があります。

例 1. 「調整」の仕訳属性マッピング

「調整」の属性マッピングの例を次に示します。



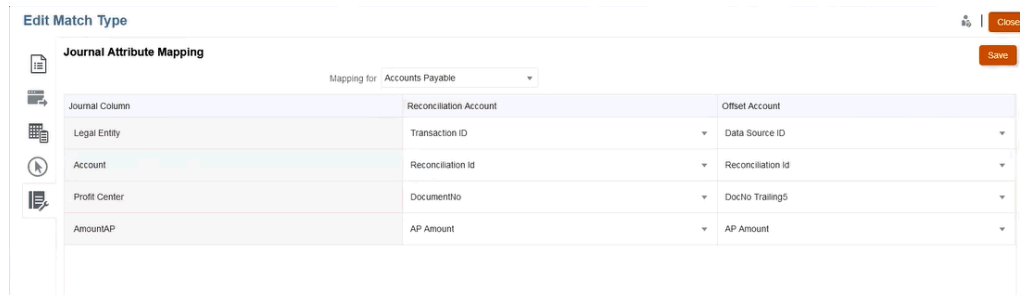
The screenshot shows the 'Edit Match Type' dialog box with the 'Journal Attribute Mapping' section. The 'Mapping for' dropdown is set to 'Adjustments'. The table below shows the mapping of journal columns to reconciliation and offset accounts.

Journal Column	Reconciliation Account	Offset Account
Legal Entity	Name	Adjustment ID
Account	Reconciliation Id	ID
Profit Center	Description	Line
AmountAP	-- No Selection --	-- No Selection --

マップ可能属性には、「照合 ID」および「戻し処理ステータス」があります。「戻し処理ステータス」属性は通常の調整の場合は空であり、戻し処理調整の場合は「戻し処理調整」です。サービス管理者は、「戻し処理ステータス」属性を「照合」および「オフセット勘定科目」の片側または両側にマッピングすることで、調整と戻し処理調整を区別できます。「照合 ID」属性を仕訳調整にマッピングすることで、元の調整の照合 ID までトレースできます。「戻し処理ステータス」属性は、調整にのみ適用可能で、トランザクションには適用できないことに注意してください。

例 2. データ・ソース「買掛金」の仕訳属性マッピング

データ・ソース「買掛金」の属性マッピングの例を次に示します。



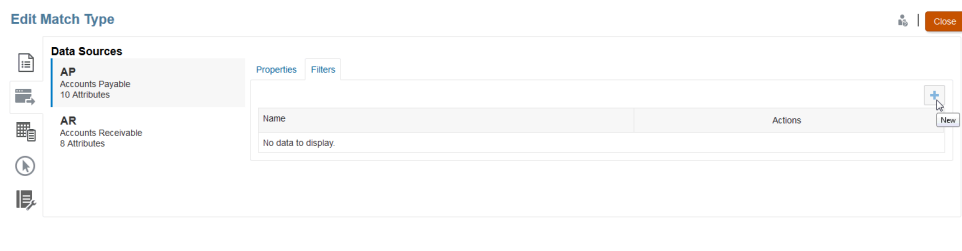
データ・ソース内のトランザクションへのフィルタの適用

所定のデータ・ソース内のトランザクションに対してフィルタを作成して、希望するトランザクションのみをエクスポートできます。

最初に「照合タイプの編集」ダイアログの「データ・ソース」タブでフィルタを作成します。次に、仕訳としてのエクスポート中に、そのフィルタをリストから選択できます。

エクスポートのためにトランザクションを制限するフィルタを作成するには:

1. ホームから「アプリケーション」、「照合タイプ」の順に選択します。
2. 必要な照合タイプを選択し、「アクション」の「編集」を選択します。
3. 「データ・ソース」を選択してから、フィルタするデータ・ソースを選択します。
4. 「フィルタ」タブを選択してから、「新規」をクリックします。「買掛金」データ・ソースに対して新しいフィルタを作成する例を示します。



5. 「名前」フィールドにフィルタの名前を入力します。
6. 「フィルタ定義」では、組み込まれるために満たす必要がある条件を作成できます。その後、「適用」をクリックします。たとえば、金額が 100 を超える買掛金のフィルタを作成します。

7. 「条件の作成」をクリックします。
8. 「属性」で買掛金額を選択します。
9. 「演算子」で、「次より大きい」を選択します。
10. 「値」で「100」を選択してから、「適用」をクリックします。

Name	Actions
AP_Filter_1	...

このフィルタは、トランザクションを仕訳としてエキスポートする際に使用できます。

Note:

エキスポートすると、正常にエキスポートされたトランザクションは状態が「オープン」から「クローズ済」に変わります。エキスポート・プロセスには、「クローズ済」状態のトランザクションは含まれません。これにより、同じトランザクションが誤って複数回エキスポートされることはありません。以前にクローズした仕訳の再オープンまたは以前にエキスポートした仕訳の再エキスポートの方法の詳細は、[仕訳の再エキスポートまたは再オープン](#)を参照してください

「仕訳のエキスポート」ジョブを使用した調整およびトランザクションのエキスポート

調整またはトランザクションを仕訳としてテキスト・ファイルにエキスポートすると、ユーザーがこれらのエントリを Oracle ERP にロードできます。エキスポートした仕訳は、再オープンおよび再エキスポートできます。

次も参照:

- **調整の仕訳としてのエクスポート**
トランザクション照合で「仕訳のエクスポート」ジョブを使用すると、調整を仕訳としてエクスポートできます。エクスポートされた仕訳は、Oracle ERP bなどのターゲット・システムにインポートできます。
- **トランザクションの仕訳としてのエクスポート**
トランザクション照合で「仕訳のエクスポート」ジョブを使用すると、トランザクションを仕訳としてエクスポートできます。エクスポートされた仕訳は、Oracle ERP bなどのターゲット・システムにインポートできます。
- **仕訳の再エクスポートまたは再オープン**
ジョブ履歴ページを使用して、仕訳を再エクスポートまたは再オープンします。

調整の仕訳としてのエクスポート

トランザクション照合で「仕訳のエクスポート」ジョブを使用すると、調整を仕訳としてエクスポートできます。エクスポートされた仕訳は、Oracle ERP bなどのターゲット・システムにインポートできます。

エクスポート・プロセスでは、戻し処理調整を含む、「オープン」ステータスのすべての調整がエクスポートされます。照合タイプで使用可能なトランザクション・タイプを1つ以上選択できます。トランザクション日に基づいて調整をフィルタ処理することもできます。1つのアクションでエクスポートできる照合ごとの調整の数は1,000,000です。1,000,000を超えてエクスポートするには、残りの調整について別のエクスポートを実行する必要があります。

調整を仕訳としてエクスポートするには:

1. 「ホーム」から「アプリケーション」、「ジョブ」の順に選択します。
2. 「トランザクション照合」タブを選択します。
3. 「アクション」から、「仕訳のエクスポート」を選択します。

4. 「タイプ」で「調整」を選択します。
5. 「照合タイプ」を選択します。

6. (オプション) 「調整タイプ」に、前のステップで選択した照合タイプで利用できる調整タイプが表示されます。表示されている値の 1 つ以上を選択します。値を選択しない場合、使用されるデフォルトは「すべて」です。
7. (オプション) 「会計日付」を指定します。
フィルタ処理に利用できる演算子は、「次と等しい」、「次より前」、「次の間」および「次より後」です。日付の比較に必要な演算子を選択し、日付ピッカーを使用して日付を選択します。何も指定しない場合、使用されるデフォルトは「すべて」(すべての日付)です。
8. 「OK」をクリックします。

このジョブは「ジョブ履歴」に表示されます。正常に終了すると、作成された.csv ファイルを開いたり保存したりできます。

エクスポートされた仕訳を含む.csv ファイルをダウンロードして保存することをお勧めします。このファイルは一時ディレクトリに保存されるため、一時スペースの再利用が必要になった場合に上書きされる可能性があります。後日このファイルをダウンロードしようとしたときにこのファイルが元の場所になかった場合、ファイルが存在しないことを示すエラー・メッセージが表示されます。仕訳を再エクスポートした後、そのファイルをダウンロードできます。

Note:

エクスポートすると、正常にエクスポートされた調整は状態が「オープン」から「クローズ済」に変わります。エクスポート・プロセスには、「クローズ済」状態の調整は含まれません。これにより、同じ調整が誤って複数回エクスポートされることはありません。以前にクローズした調整の再オープンまたは以前にエクスポートした調整の再エクスポートの方法の詳細は、[仕訳の再エクスポートまたは再オープン](#)を参照してください。

トランザクションの仕訳としてのエクスポート

トランザクション照合で「仕訳のエクスポート」ジョブを使用すると、トランザクションを仕訳としてエクスポートできます。エクスポートされた仕訳は、Oracle ERP bなどのターゲット・システムにインポートできます。

トランザクションの仕訳としてのエクスポート

エクスポート・プロセスでは、ステータスが「オープン」で、適用されるフィルタ基準と一致するすべての調整とトランザクションがエクスポートされます。フィルタ処理は、トランザクションの数を制限するために使用できます。

トランザクションを仕訳としてエクスポートするには:

1. 「ホーム」から「アプリケーション」、「ジョブ」の順に選択します。
2. 「トランザクション照合」タブを選択します。
3. 「アクション」から、「仕訳のエクスポート」を選択します。
4. 「タイプ」で「トランザクション」を選択します。

5. 「**照合タイプ**」で、照合タイプを選択します。
6. 「**データ・ソース**」で、データ・ソースを選択します。
7. フィルタをトランザクションに適用する場合は、フィルタを選択します。
8. 「**OK**」をクリックします。

ジョブが「ジョブ履歴」に表示されます。正常に終了すると、作成された csv ファイルを開いたり保存したりできます。

エクスポートされた仕訳を含む.csv ファイルをダウンロードして保存することをお勧めします。このファイルは一時ディレクトリに保存されるため、一時スペースの再利用が必要になった場合に上書きされる可能性があります。後日このファイルをダウンロードしようとしたときにこのファイルが元の場所になかった場合、ファイルが存在しないことを示すエラー・メッセージが表示されます。仕訳を再エクスポートした後、そのファイルをダウンロードできます。

仕訳の再エクスポートまたは再オープン

ジョブ履歴ページを使用して、仕訳を再エクスポートまたは再オープンします。

エクスポートを実行した後で、「**アクション**」メニューに**再エクスポート**と「**再オープン**」という 2 つのオプションが表示されます。

「**再エクスポート**」は「**ジョブ履歴**」から実行できます。エクスポートを行ったときに格納されたのと同じ「**ジョブ ID**」を使用します。この「**再エクスポート**」では、最初のエクスポートと同じ結果が得られます。

調整またはトランザクションの仕訳を再び見る必要がある場合に、「**再オープン**」オプションを使用できます。Oracle ERP システムにインポートされる前に部分的なエラーが発生した場合や、フィルタ処理されたトランザクションのリストに変更を加えたい場合に役立ちます。このオプションを使用すると、エクスポートされた仕訳の状態が「**クローズ済**」から「**オープン**」に変わります。

A

付録: 照合リストの列の選択の定義

この項では、アプリケーション内のリスト全体にわたって参照される、次のデータセット・タイプの照合リストの列の選択の定義を示します:

- プロファイル
- 照合
- 残高
- トランザクション

プロフィール・データセット・タイプ

この項では、プロフィール・データセットの列の選択の定義について説明します。

Select Columns [OK] [Cancel]

Profile | Reconciliation

Available:

- Account
- Account Type
- Active
- Auto Reconciliation Method
- Balance Range (High)
- Balance Range (Low)
- Company
- Created By
- Created On
- Currency Bucket Default Currency (Entered)
- Currency Bucket Default Currency (Functional)
- Currency Bucket Default Currency (Reporting)
- Currency Bucket Enabled (Entered)
- Currency Bucket Enabled (Functional)
- Currency Bucket Enabled (Reporting)
- Description
- Enabled Buckets

Selected:

Attribute	Source
<input type="checkbox"/> Account ID	Profile
<input type="checkbox"/> Name	Profile
<input type="checkbox"/> Valid	Profile
<input type="checkbox"/> Format	Profile
<input type="checkbox"/> Preparer	Profile

次の表に、プロフィール・データセット・タイプの列の説明を示します。

表 A-1 プロファイル・データセットの列の選択

列属性	定義
--プロフィール・セグメント名 1-n	多数のセグメントを利用できます
--カスタム・プロフィール属性	多数のプロファイル属性を追加できます
勘定科目 ID	プロフィールを一意にするプロフィール・セグメントの組合せ
勘定科目タイプ	勘定科目タイプは、ユーザーが構成した値リストです

表 A-1 (続き) プロファイル・データセットの列の選択

列属性	定義
アクティブ	アクティブ/非アクティブの設定
自動照合方法	設定される自動照合方法
残高範囲(高)	設定される高い残高値
残高範囲(低)	設定される低い残高値
作成者	プロファイルを作成したユーザーの名前
作成日	プロファイル作成の日時
通貨バケット - デフォルト通貨(入力済、機能、レポート)	デフォルトの通貨
通貨バケット - 使用可能(入力済、機能、レポート)	使用可能な通貨バケット(はい/いいえ)
終了日までの日数	現在の日付から終了日までの日数
説明	説明
使用可能なバケット	使用可能な通貨バケットの数
終了オフセット	すべての役割にわたる開始オフセットと期間の合計
ソース・システム残高の入力	手動残高入力の許可(はい/いいえ)
サブシステム残高の入力	手動残高入力の許可(はい/いいえ)
グループ・プロファイル	グループ・プロファイルの設定(はい/いいえ)
履歴レート	履歴レートの設定(はい/いいえ)
最終更新者	プロファイルを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	プロファイルが最後に更新された日時
残高一致のしきい値(数)	残高比較一致しきい値(数)
残高一致のしきい値(パーセント)	残高比較一致しきい値(%)
照合タイプ	フォーマットがリンクされている照合タイプ
最大経過期間の調整	経過期間違反設定 - 調整
最大経過期間の説明	経過期間違反設定 - 説明
方法	フォーマットがリンクされている方法
名前	プロファイルの名前
通常の高	通常の高の貸方/借方設定
組織単位	割り当てられた組織単位
策定者	割り当てられた策定者名
策定者(実際)	照合を送信した策定者名
策定者(バックアップ)	策定者(バックアップ)名
策定者(請求済)	チームの請求した策定者

表 A-1 (続き) プロファイル・データセットの列の選択

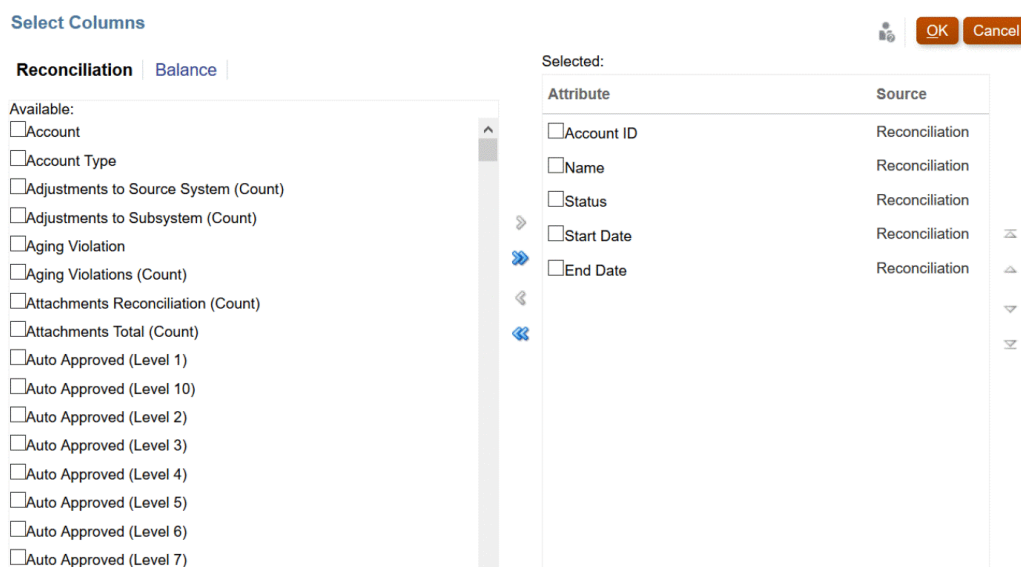
列属性	定義
策定者(プライマリ)	現在、照合の策定者として割り当てられているチームのプライマリ策定者。次の場合があります: <ul style="list-style-type: none"> 策定者として割り当てられたユーザー だれも請求していない場合、策定者として割り当てられたチーム 照合を請求した、策定者として割り当てられているチームのユーザー メインの策定者が不在の場合、バックアップ策定者。
策定者期間	設定される期間
策定者終了日	設定される終了日
策定者終了日(実際)	役割が完了した終了日
策定者頻度	設定される頻度
プロセス	設定されるプロセス値
レート・タイプ	設定される外国為替レート・タイプ
参照(件数)	添付される参照ファイルの数
アクションが必要なユーザー (策定者)	「任意」または「すべて」として設定されるチーム
アクションが必要なユーザー (レビュー担当者 1-10)	「任意」または「すべて」として設定されるチーム
レビュー担当者 1-10	割り当てられたレビュー担当者
レビュー担当者 1-10 (バックアップ)	割り当てられたレビュー担当者(バックアップ)
レビュー担当者 1-10 (プライマリ)	チームのプライマリ・レビュー担当者
レビュー担当者 1-10 の期間	各役割に対して設定される期間
レビュー担当者 1-10 の終了日	各役割に対して設定される終了日
レビュー担当者 1-10 の終了日(実際)	役割が完了した終了日
レビュー担当者 1-10 の頻度	設定される頻度
レビュー担当者 1-10 の欠如	割り当てられたレビューの欠如(はい/いいえ)
レビュー担当者 1-10 の開始日	設定されるオフセット/期間に基づく開始日
レビュー担当者(人数)	割り当てられたレビュー担当者の合計数
リスク評価	割り当てられたリスク評価
ルール(件数)	プロファイル上に直接存在するルールの合計数
スケジュール開始	クローズ日または期間終了日からのスケジュール
開始オフセット	設定される開始オフセット
ソース・システムの照合候補トランザクション(件数)	ソースの照合候補の合計数
サブシステムの照合候補トランザクション(件数)	サブシステムの照合候補の合計数
サマリー・プロファイル	プロファイルはサマリーです(はい/いいえ)
合計期間	照合を完了するために設定される日数
ソース・システムの未照合の新規トランザクション(件数)	ソースの新規トランザクションの合計数

表 A-1 (続き) プロファイル・データセットの列の選択

列属性	定義
サブシステムの未照合の新規トランザクション(件数)	サブシステムの新規トランザクションの合計数
ソース・システムの未照合のサポート済トランザクション(件数)	未照合のサポート済ソース・トランザクションの合計数
サブシステムの未照合のサポート済トランザクション(件数)	未照合のサポート済サブシステム・トランザクションの合計数
ソース・システムの未照合のトランザクション(件数)	未照合のソース・トランザクションの合計数
サブシステムの未照合のトランザクション(件数)	未照合のサブシステム・トランザクションの合計数
有効	照合の作成が有効なプロファイル(はい/いいえ)
有効(詳細)	プロファイルの無効の詳細な理由

照合データセット・タイプ

この項では、照合データセットの列の選択の定義について説明します。



次の表に、照合データセット・タイプの列の説明を示します。

表 A-2 照合データセットの列の選択

列属性	定義
勘定科目	プロファイルの名前
勘定科目 ID	プロファイルを一意にするプロファイル・セグメントの組合せ
勘定科目タイプ	勘定科目タイプは、ユーザーが構成した値リストです

表 A-2 (続き) 照合データセットの列の選択

列属性	定義
ソース・システムに対する調整(件数)	ソース調整の合計数
サブシステムに対する調整(件数)	サブシステム調整の合計数
経過期間違反	経過期間違反に該当(はい/いいえ)
経過期間違反(件数)	経過期間違反があるトランザクションの合計数
添付照合(件数)	照合に対する添付の合計数
添付合計(件数)	照合およびトランザクションに対する添付の合計数
自動承認済(レベル 1-10)	照合はルールによって自動承認されました(はい/いいえ)
自動照合済	照合は自動照合によって自動照合されました(はい/いいえ)
自動照合方法	設定される自動照合方法
自動送信済	照合はルールによって自動的に準備されました(はい/いいえ)
残高の説明(件数)	残高が説明されたトランザクションの合計数
残高の説明の経過期間違反	残高が説明されたトランザクションでの経過期間違反に該当(はい/いいえ)
残高の説明の経過期間違反(件数)	経過期間違反がある残高が説明されたトランザクションの合計数
残高範囲(高)	設定される高い残高値
残高範囲(低)	設定される低い残高値
コメント(件数)	コメントの合計数
作成者	プロファイルを作成したユーザーの名前
作成日	プロファイル作成の日時
通貨バケット - デフォルト通貨(入力済、機能、レポート)	デフォルトの通貨
通貨バケット - 使用可能(入力済、機能、レポート)	使用可能な通貨バケット(はい/いいえ)
現在の期限日	アクティブな役割の期限日
現在のレビュー担当者レベル	アクティブな役割のレビュー担当者レベル
遅滞日数	現在の日付から全体の終了日を差し引きます(遅滞ではない場合は空白)
終了日	照合で最後の役割に対して設定された終了日
終了日(実際)	最後の役割が照合を完了した終了日
ソース・システム残高の入力	手動残高入力の許可(はい/いいえ)
サブシステム残高の入力	手動残高入力の許可(はい/いいえ)
これまでの遅延	これまでに遅れたことがある役割があります(はい/いいえ) 策定者が遅延した場合、またはいずれかのレビュー担当者が遅延した場合、「これまでの遅延」は「はい」に設定されます。

表 A-2 (続き) 照合データセットの列の選択

列属性	定義
これまでの遅延(策定者)	<p>これまでに遅れたことがある策定者役割があります(はい/いいえ)</p> <p>たとえば、元の送信で策定者が予定どおりだったとします。しかし、レビュー担当者が照合を却下し、策定者に再割当されました。レビュー担当者が遅延した場合、「これまでの遅延(策定者)」は「はい」に設定されます。</p>
これまでの遅延(レビュー担当者 1-10)	<p>これまでに遅れたことがある各レビュー担当者役割があります(はい/いいえ)</p> <p>たとえば、レビュー担当者 1 が遅延したとします。しかし、他のすべてのレビュー担当者が予定どおりに完了し、終了日までに照合が承認されました。レビュー担当者 1 が遅延したため、「これまでの遅延(レビュー担当者 1)」は「はい」に設定されます。ただし、他のすべてのレビュー担当者が終了日までに完了したため、「遅延」は「いいえ」に設定されます。</p>
フォーマット	設定されるフォーマット名
グループ・プロファイル	グループ・プロファイルの設定(はい/いいえ)
履歴レート	履歴レートの設定(はい/いいえ)
最終更新者	照合を最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	照合が最後に更新された日時
遅延	現在の日付が照合の「期限日」より後の場合は遅延です
遅延(策定者)	<p>次のいずれかが TRUE の場合、策定者は遅延しています:</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の日付が策定者の期限日より後です 策定者の期限日の後、照合が策定者に対して再び開かれました <p>策定者が照合を送信すると、「遅延」は「いいえ」に設定されます。</p> <p>策定者の送信終了日の後、照合が策定者に対して再び開かれた場合、この属性は「はい」に設定されます。策定者が照合を送信すると、「遅延」は「いいえ」に設定されます。</p>
遅延(レビュー担当者 1-10)	<p>現在の日付がレビュー担当者の「期限日」より後の場合、レビュー担当者は遅延しています。</p> <p>レビュー担当者の終了日の後、照合がレビュー担当者に対して再び開かれた場合、この属性は「はい」に設定されます。レビュー担当者が承認すると、レビュー担当者の「遅延」は「いいえ」に設定されます。</p> <p>例:</p> <p>レビュー担当者 1 が終了日より後に照合を承認し、照合がレビュー担当者 2 に割り当てられているとします。レビュー担当者 1 が遅延したため、「遅延」および「遅延 - レビュー担当者 1」の両方が「はい」に設定されます。レビュー担当者 1 が照合を承認すると、「遅延」および「遅延 - レビュー担当者 1」は「いいえ」に設定されます。ただし、「これまでの遅延」およびこれまでの遅延 - レビュー担当者 1 は「はい」に設定され、レビュー担当者 1 が照合を承認した後も「はい」に設定されたままです。</p>
残高一致のしきい値(数)	残高比較一致しきい値(数)
残高一致のしきい値(パーセント)	残高比較一致しきい値(%)

表 A-2 (続き) 照合データセットの列の選択

列属性	定義
最大経過期間の調整	経過期間違反設定 - 調整
最大経過期間の説明	経過期間違反設定 - 説明
方法	フォーマットがリンクされている方法
個人用終了日	照合での自分の役割の終了日
役割	照合での自分の役割
名前	プロファイルの名前
通常の高	通常の高の貸方/借方設定
通常の高違反	ロードされた実際の残高が、通常の高の貸方/借方設定と競合します(はい/いいえ)
予定どおり	アクティブな役割の終了日(実際)が、終了日以前です(はい/いいえ)
組織単位	割り当てられた組織単位
期間	オブジェクトに関連付けられた期間の名前
期間のクローズ日	選択した期間のクローズ日
期間の終了日	選択した期間の終了日
期間の開始日	選択した期間の開始日
策定者	割り当てられた策定者名
策定者(実際)	照合を送信した策定者名
策定者(バックアップ)	策定者(バックアップ)名
策定者(請求済)	チームの請求した策定者
策定者(プライマリ)	現在、照合の策定者として割り当てられているチームのプライマリ策定者。次の場合があります: <ul style="list-style-type: none"> 策定者として割り当てられたユーザー だれも請求していない場合、策定者として割り当てられたチーム 照合を請求した、策定者として割り当てられているチームのユーザー メインの策定者が不在の場合、バックアップ策定者。
策定者期間	設定される期間
策定者終了日	設定される終了日
策定者終了日(実際)	役割が完了した終了日
策定者頻度	設定される頻度
プロセス	設定されるプロセス値
レート・タイプ	設定される外国為替レート・タイプ
再割当要求済	再割当要求がアクティブ(はい/いいえ)
却下(件数)	すべてのレビュー担当者での却下の合計数
アクションが必要なユーザー (策定者)	「任意」または「すべて」として設定されるチーム
アクションが必要なユーザー (レビュー担当者 1-10)	「任意」または「すべて」として設定されるチーム
責任	照合に対してアクティブなユーザーの名前

表 A-2 (続き) 照合データセットの列の選択

列属性	定義
レビュー担当者 1-10	割り当てられたレビュー担当者
レビュー担当者 1-10 (実際)	照合を承認したレビュー担当者
レビュー担当者 1-10 (バックアップ)	割り当てられたレビュー担当者(バックアップ)
レビュー担当者 1-10 (プライマリ)	チームのプライマリ・レビュー担当者
レビュー担当者 1-10 請求済	チームの請求したレビュー担当者
レビュー担当者 1-10 の期間	各役割に対して設定される期間
レビュー担当者 1-10 の終了日	各役割に対して設定される終了日
レビュー担当者 1-10 の終了日(実際)	役割が完了した終了日
レビュー担当者 1-10 の頻度	設定される頻度
レビュー担当者 1-10 の欠如	割り当てられたレビューの欠如(はい/いいえ)
レビュー担当者 1-10 却下(件数)	役割別の却下の合計数
レビュー担当者 1-10 の開始日	設定されるオフセット/期間に基づく開始日
レビュー担当者(人数)	割り当てられたレビュー担当者の合計数
リスク評価	割り当てられたリスク評価
ルール(件数)	プロファイル上に直接存在するルールの合計数
ソース・システムの経過期間違反	ソースの経過期間違反に該当(はい/いいえ)
ソース・システムの経過期間違反(件数)	ソースで経過期間違反があるトランザクションの合計数
開始日	開始日
ステータス	現在のステータス
ステータス(詳細)	詳細な現在のステータス
ステータス(アイコン)	現在のステータスのアイコン表示
サブシステムの経過期間違反	サブシステムの経過期間違反に該当(はい/いいえ)
サブシステムの経過期間違反(件数)	サブシステムで経過期間違反があるトランザクションの合計数
サマリー・プロファイル	プロファイルはサマリーです(はい/いいえ)
合計期間	照合を完了するために設定される日数
トランザクション(件数)	トランザクションの合計数
差異の説明(件数)	差異の説明の合計数
差異の期間	現在の期間の比較対象となる前期間

残高データセット・タイプ

この項では、残高データセットの列の選択の定義について説明します。

Select Columns OK Cancel

Reconciliation | **Balance**

Available:

- Adjusted Source System (Entered)
- Adjusted Source System (Functional)
- Adjusted Source System (Reporting)
- Adjusted Subsystem (Entered)
- Adjusted Subsystem (Functional)
- Adjusted Subsystem (Reporting)
- Adjustments to Source System (Entered)
- Adjustments to Source System (Functional)
- Adjustments to Source System (Reporting)
- Adjustments to Subsystem (Entered)
- Adjustments to Subsystem (Functional)
- Adjustments to Subsystem (Reporting)
- Balance Exists
- Balance Exists (Source System)
- Balance Exists (Subsystem)
- Balance Explanations (Entered)

Selected:

Attribute	Source
<input type="checkbox"/> Account ID	Reconciliation
<input type="checkbox"/> Name	Reconciliation
<input type="checkbox"/> Status	Reconciliation
<input type="checkbox"/> Start Date	Reconciliation
<input type="checkbox"/> End Date	Reconciliation

次の表に、残高データセット・タイプの列の説明を示します。

表 A-3 残高データセットの列の選択

列属性	定義
調整済のソース・システム(入力済、機能、レポート)	期末残高 - 調整 = 調整済残高
調整済のサブシステム(入力済、機能、レポート)	期末残高 - 調整 = 調整済残高
ソース・システムに対する調整(入力済、機能、レポート)	ソースに対する調整の合計金額
サブシステムに対する調整(入力済、機能、レポート)	サブシステムに対する調整の合計金額
残高あり	ソースまたはサブシステムの残高がバケットにロードされました
残高あり(ソース・システム)	ソースの残高がバケットにロードされました
残高あり(サブシステム)	サブシステムの残高がバケットにロードされました
残高の説明(入力済、機能、レポート)	残高の説明トランザクションの合計金額
差異(入力済、機能、レポート)	ソースおよびサブシステムの期末残高の差異
最終残高ロード	最終残高がロードされた日時
最終残高ロード実行者	残高を最後にロードしたユーザーの名前
期間アクティビティ(入力済、機能、レポート)	以前の期間の期末残高 - 現在の期間の期末残高
前期間残高(入力済、機能、レポート)	期間構成の前期間の設定に従った前期間からの期末残高
ソース・システム残高(入力済、機能、レポート)	ロードされたソース残高
ソース・システム残高(デフォルト通貨) - 入力済、機能、レポート	通貨バケット内のすべての通貨に対するソースシステムの単一の数値残高。

表 A-3 (続き) 残高データセットの列の選択

列属性	定義
ソース・システム通貨数(入力済、機能、レポート)	ソース・システムにロードされた一意の通貨数
ソース・システム - 減算: 照合済未達(入力済、機能、レポート)	合計照合済未達
ソース・システム - 減算: 未照合(入力済、機能、レポート)	減算: 合計未照合
ソース・システム - 減算: サポート済未照合(入力済、機能、レポート)	減算: 合計未照合のサポート済
サブシステム残高(入力済、機能、レポート)	ロードされたサブシステム残高
サブシステム残高(デフォルト通貨) - 入力済、機能、レポート	通貨バケット内のすべての通貨に対するサブシステムの単一の数値残高。
サブシステム通貨数(入力済、機能、レポート)	サブシステムにロードされた一意の通貨数
説明なし差異(入力済、機能、レポート)	説明なし差異の金額
差異の説明(入力済、機能、レポート)	差異の説明の合計金額
差異の期間残高(入力済、機能、レポート)	ロードされた差異の期間残高

トランザクション・データセット・タイプ

この項では、トランザクション・データセットの列の選択の定義について説明します。

The screenshot shows the 'Select Columns' dialog with the 'Transaction' tab active. The 'Available' list on the left includes items like 'Action Plan', 'Amortization Method', and 'Transaction Date'. The 'Selected' list on the right shows 'Account ID', 'Name', 'Short Description', 'Flag', 'Aging Violation', 'Type', 'Transaction Date', 'Amount (Entered)', 'Amount (Functional)', 'Amount (Reporting)', 'Age', 'Comments (Count)', 'Attachments (Count)', and 'Amortization'. The 'Source' column for the selected items is 'Reconciliation' for 'Account ID' and 'Name', and 'Transaction' for all others.

次の表に、トランザクション・データセット・タイプの列の説明を示します。

表 A-4 トランザクション・データセットの列の選択

列属性	定義
アクション・プラン	設定されるアクション・プランの値
アクション・プラン添付(件数)	アクション・プラン添付の合計数
アクション・プラン・クローズ日	設定されるアクション・プラン・クローズ日
アクション・プラン・クローズ済	アクション・プラン・クローズ済(はい/いいえ)
アクション・プラン・コメント(件数)	アクション・プラン・コメントの合計数
経過期間	トランザクション日から期間終了日までの日数「アクション・プラン」が有効になっている場合、「経過期間」はトランザクション日からアクション・プラン・クローズ日までの日数です。
償却	トランザクションは償却中です(はい/いいえ)
償却終了日	償却スケジュールの終了日
償却方法	設定される償却方法
償却開始日	償却スケジュールの開始日
償却開始期間	償却スケジュールの開始期間
償却/増価金額(入力済、機能、レポート)	選択した期間に対して償却された金額
金額(入力済、機能、レポート)	選択した期間の残存償却金額
オーバーライドされる金額(機能、レポート)	トランザクション外国為替計算のオーバーライド(はい/いいえ)
添付(件数)	トランザクションの添付の合計数
繰越し済	トランザクションは以前の照合からコピー繰越しされました(はい/いいえ)
子勘定科目	トランザクションに関連付けられた子勘定科目
クローズ日	トランザクションのクローズ日
コメント(件数)	コメントの合計数
フラグ	設定されるレビュー担当者フラグ(要注意/OK)
半月簡便法	設定される償却半月簡便法
仕訳 ID	エンタープライズ仕訳の一意の ID
仕訳名	エンタープライズ仕訳の名前
仕訳ワークフロー・ステータス	エンタープライズ仕訳内の仕訳のワークフロー・ステータス
仕訳の転記ステータス	エンタープライズ仕訳の転記ステータス(「転記済」または「未転記」)
仕訳の転記メッセージ	転記後に ERP から返されるメッセージ
最終更新者	トランザクション属性「概略」、「長い説明」、「トランザクション日」、「クローズ日」の 1 つ以上を最後に更新したユーザーの名前。
最終更新日	トランザクション属性「概略」、「長い説明」、「トランザクション日」、「クローズ日」の 1 つ以上についてトランザクションが最後に更新された日時。
長い説明	長い説明の値
期間数	償却スケジュール内の期間の数

表 A-4 (続き) トランザクション・データセットの列の選択

列属性	定義
元の金額(入力済、機能、レポート)	償却トランザクションの元の金額
使用レート	トランザクション換算に使用される為替レート
残存期間	スケジュール上の償却トランザクションの残存期間
概略	概略の値
サブセグメント	トランザクションに関連付けられたサブセグメント ID
トランザクション日	トランザクションの日付
タイプ	トランザクション・タイプ(ソース・システムに対する調整、サブシステムに対する調整、残高の説明、差異)